

# 川島町環境基本調査報告書

平成26年3月

## 目 次

第1章	計画の基本的事項	1
1-1	計画策定の背景	
1-2	計画策定の目的	
1-3	計画の位置づけ	
1-4	計画の役割	
第2章	川島町をとりまく社会環境・自然環境の現況	3
2-1	社会環境	
1)	位置	
2)	地勢	
3)	気候	
4)	人口・世帯数	
5)	産業構造	
6)	地域経済	
7)	広域交通・広域連携	
8)	土地利用	
9)	交通体系	
2-2	自然環境	
1)	農地・自然環境	
2)	河川・水辺	
3)	自然とのふれあい	
4)	動植物・生態系	
第3章	川島町をとりまく生活環境・快適環境の現況	13
3-1	生活環境	
1)	大気環境調査	
2)	水環境	
3)	土壌・地盤環境	
4)	騒音・振動	
5)	有害化学物質	
6)	廃棄物・リサイクル	
7)	資源・エネルギー	

- 8) 空き地、空き家の状況
- 9) 不耕作田
- 10) 自動車や自転車の放置箇所の特定
- 11) 自動車等たい積保管場所の状況
- 12) 不法投棄、ポイ捨て箇所の特定

### 3-2 快適環境

- 1) 公園・緑地
- 2) 歴史・文化的環境
- 3) まち美化

## 第4章 川島町をとりまく地球環境の現況・・・・・・・・・・・・・・・・・・27

### 4-1 地球温暖化

### 4-2 その他の地球環境問題

## 第5章 環境保全に取り組むための基盤づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・28

### 5-1 環境教育・環境学習

### 5-2 各主体の環境保全活動

## 第1章 計画の基本的事項

### 1-1 計画策定の背景

川島町のまちづくりを取り巻く環境は、人口減少、少子高齢化の進行、高度情報通信社会の発展、地球規模での環境保全問題、新興国の台頭による産業の空洞化など、社会情勢は大きな変革の時を迎えています。さらに、国と地方自治体の対等な関係を目指した地域主権の推進や定住自立圏構想をはじめとする制度改革など、行政を取り巻く環境も大きく変わろうとしています。

こうした状況を踏まえ、これまで行ってきた取り組みを活かしながらこれからの時代の流れに的確に対応していくため、平成23年度からの10年間の将来像及びまちづくりの指針を示すべく、第5次川島町総合振興計画を策定しました。

四方を川で囲まれた本町は、この恵まれた環境を活かした水田風景や親水空間が形成されています。都会に一番近い農村として、これらの自然や田園風景を保全することは本町の責務であり、また、世界的に持続可能な社会を目指すことが求められる昨今においては、自然との共生がいつそう重要な課題となることから、自然が織り成す景観を保全するとともに、その魅力を引き出すまちづくりに取り組むためにも、生活環境や自然環境の適正な保全についての基本理念を定め、総合的かつ計画的に推進する必要があります。

### 1-2 計画策定の目的

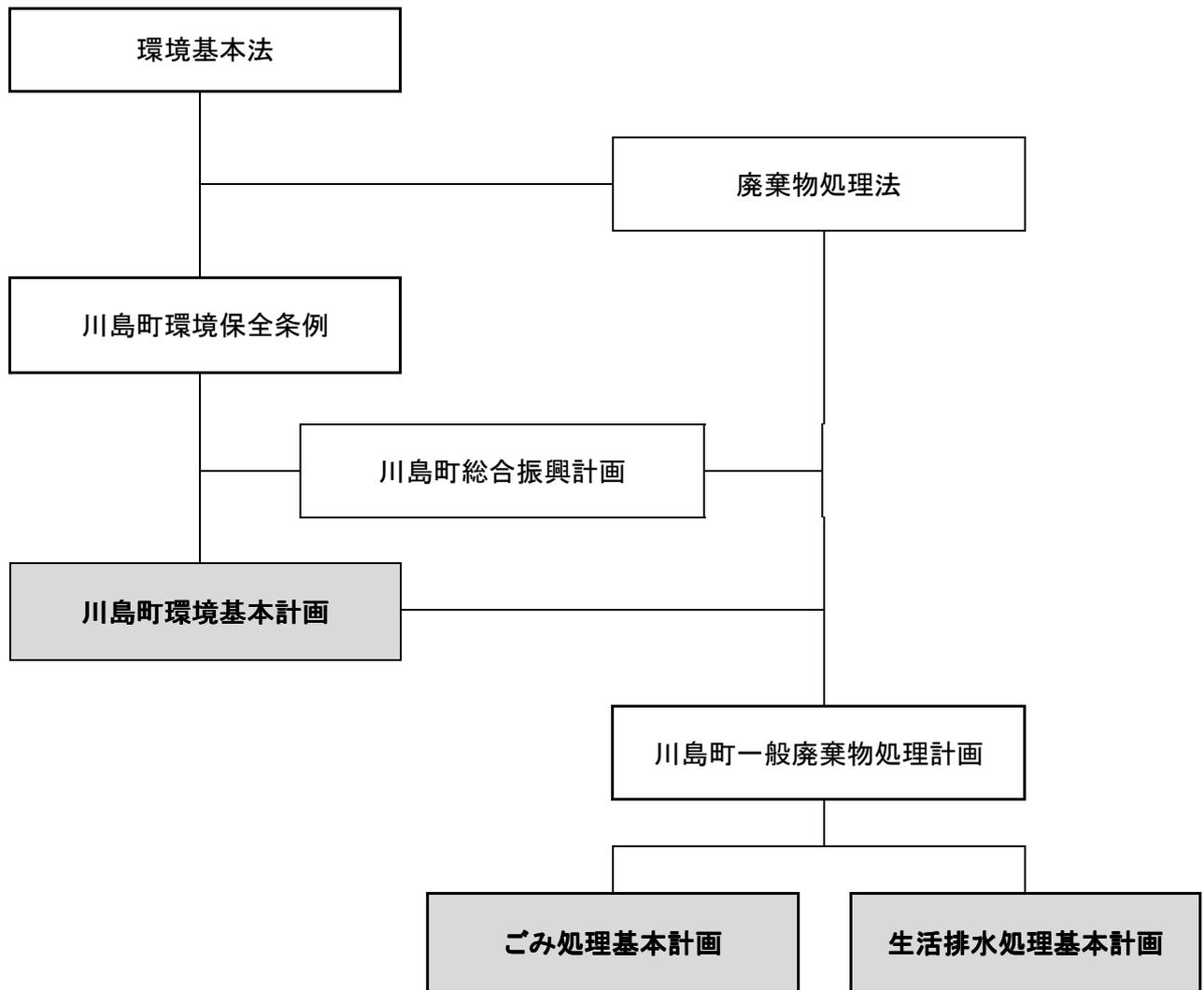
川島町では、平成25年4月から川島町環境保全条例を施行し、町民の皆様が安全で快適な生活を営めるよう、生活環境や自然環境の適正な保全についての基本理念を定め、総合的かつ計画的に推進するため、環境基本計画を策定することになりました。

策定にあたり、平成25年度広く町民の皆様や事業所を対象に、環境保全や地球温暖化などに関するアンケート調査をさせていただきました。アンケートでは、皆様が川島町の現在の環境をどう思い、また将来どのような環境を望んでいるか等を伺っています。これに加え、環境に関する基本的事項を再整理し、これからの環境行政を進める上での基本データとすることを目的とします。

### 1-3 計画の位置づけ

本町における本計画の位置づけは、主に以下に示すとおりです。

- 環境面において本町の最も基本となる計画であり、「振興計画」を環境面から具現化していくための指針になるものです。
- 平成26年度に施行予定の「川島町環境基本計画」に掲げる基本理念を具体化するものであり、環境の保全に関する目標及び施策の基本的な方向性を示すとともに、これに基づき、町の各部門における施策を立案・実施する指針となるものです。



### 1-4 計画の役割

本計画は、主に以下のような役割を担っています。

課題の提起	町の環境の特徴や課題を把握し、認識を深めるものです。
環境目標	町民・事業者・滞在者及び町が一体となり取り組むための目標を共有するものです。
施策の方向	町の環境施策を中・長期的視点から総合的に推進するための方向性を示すものです。
重点的取組	めざす環境像の実現に向け、町が特に重点的に取り組む事業を掲げるものです。
行動の指針	町民や事業者、滞在者等の各主体の自発的行動を促す指針となるものです。
推進・進行管理	計画の着実な推進を図るため、推進体制や進行管理方策等を示すものです。

## 第2章 川島町の自然環境・社会環境の現況

### 2-1 自然的・社会的特性

#### 1) 位置

川島町は、埼玉県のほぼ中央にあり、東京都心から約45km圏内に位置し、町域は東西方向約10km、南北方向約8kmに及び、面積は41.72km<sup>2</sup>を有しており、東西方向の勾配が1000分の1と緩やかな地形です。

町の周囲を越辺川、入間川、荒川、市野川などの河川に囲まれ、川越市、上尾市、桶川市、北本市、東松山市、坂戸市、吉見町の6市1町に接しています。埼玉県長期ビジョンでは、川島町は西部複合都市圏に含まれ、第2次埼玉県川越都市圏まちづくり基本構想・基本計画では、インターチェンジ周辺の開発、拠点機能の強化、広域交通体系の整備などが位置づけられています。

#### 2) 地勢

現在の川島町の地域に集落を形成して生活を営むようになったのは奈良時代の少し前ごろからとみられており、町内にはそのころの様子がうかがえる「塚」や「塚の跡」が残っています。江戸時代になると川越藩の支配の中で農業生産が高まりましたが、反面、荒川の流れを現在の場所に変えたことで、たびたび水害に悩まされるようになりました。その後、時代が進むにつれ、河川改修や堤防の築造によって徐々に水害を克服してきました。

昭和29年、川島領と呼ばれる中山・伊草・三保谷・出丸・八ツ保・小見野の6か村が合併し、川島村が誕生。以後は中学校の統合や上水道の敷設など、積極的な村づくりを進め、昭和47年11月に町制を施行しました。

現在、首都圏中央連絡自動車道川島インターチェンジの開通に伴い、インター周辺開発が進み、町は変革のときを迎えています。

#### 3) 気候

気候は、気温の日較差、年較差がやや大きいものの、温暖な内陸的気候を示す典型的な表日本式気候です。また、内陸に位置するため、夏の高温と冬の乾燥が厳しいことも特色です。平均気温は15℃前後で、夏期の雷雨は他の地域を通り抜けることが多く、降水量は全国的には少ない地域に属します。

なお、農家集落に見られる屋敷林は、冬の空っ風と土ぼこりを防ぐために植えられたもので、本町の特色ある気候風土景観となっています。

#### 4) 人口

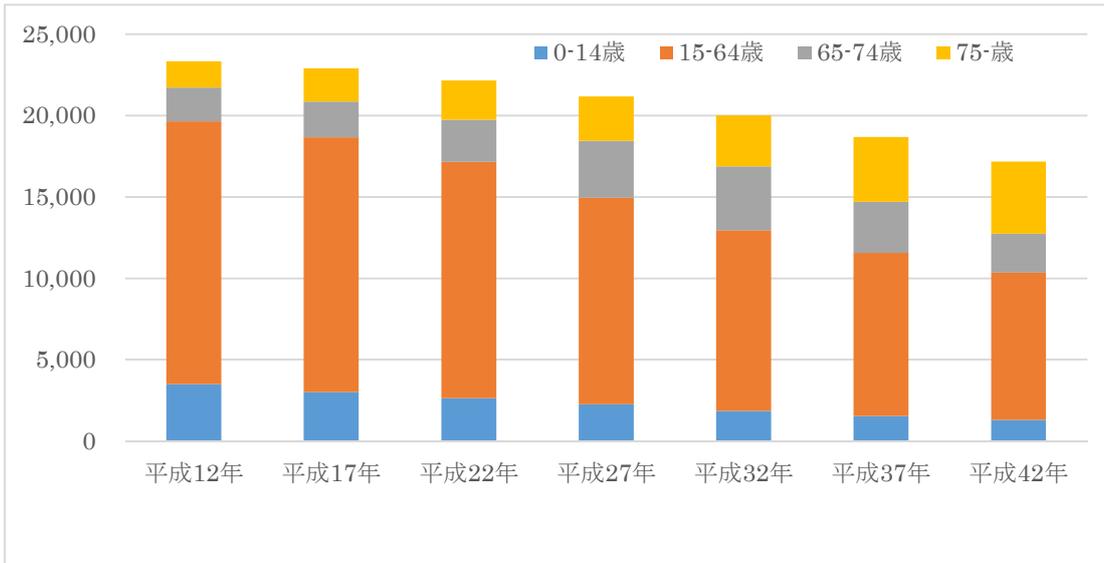
本町の総人口は、平成12年をピーク(23,732人、10月1日現在)に減少し続けています。少子高齢化の進展を背景とした人口減少は、全国的な傾向として、本町としても避けられない時代の流れであるといえます。

こうした状況の中、これまでの傾向をもとにした平成42年の推計人口は17,179人と予測されます。

表 人口の見通し

	平成 12年	平成 17年	平成 22年	平成 27年	平成 32年	平成 37年	平成 42年
推計人口 (人)	23,322	22,906	22,147	21,178	20,024	18,681	17,179

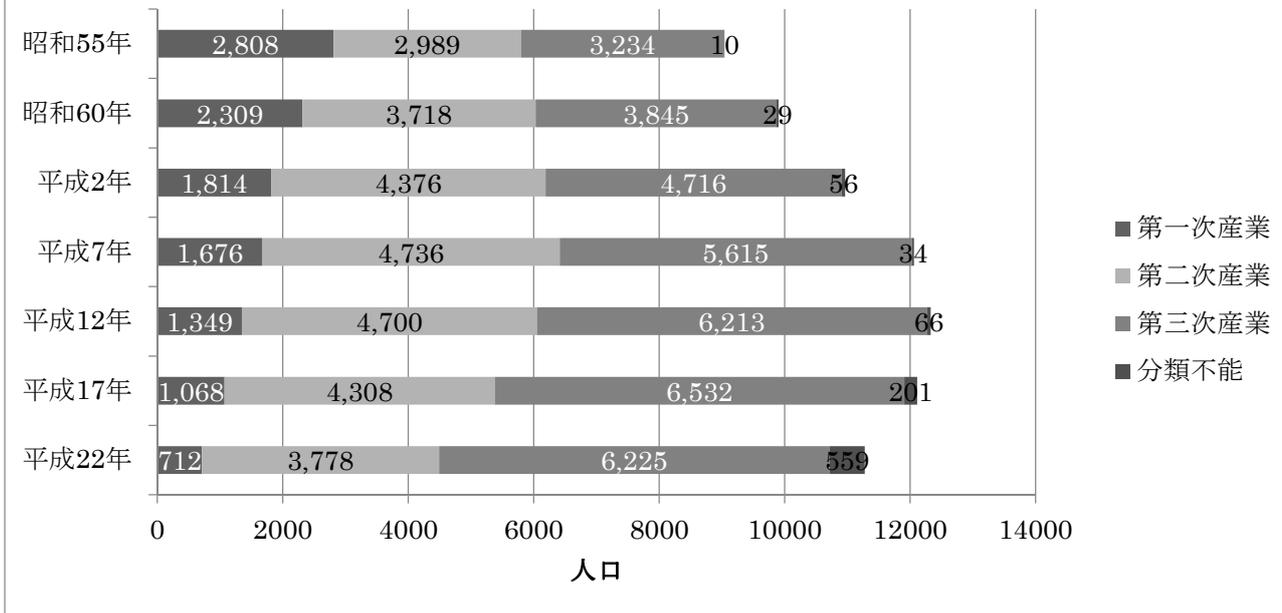
資料：平成 12, 17, 22 年は国勢調査のデータを使用、平成 27, 32, 37, 42 年のデータは県の将来人口推計ツールより算出。



### 5)産業構造

町の労働人口は 11,274 人（平成 22 年）で、前回（平成 17 年）と比較して 835 人減少した。産業別に見ると、第 1 次産業が 712 人、第 2 次産業が 3,778 人、第 3 次産業が 6,225 人で、第 3 次産業が占める割合は増加傾向（55%）であるのに対し、第 1 次産業は減少（6%）を続けている。

## 産業別就業人口の推移



資料：15歳以上男女労働力人口の推移（統計かわじま）

注：「分類不能の産業」の統計上の規定は、「おもに調査票の記入が不備であって、いずれの項目に分類すべきか不明の場合、または記入不詳で分類しえないもの」としている。

### 6) 地域経済

地域経済活動の目安として町内純生産額を見ると、平成20年までは年々増加傾向にありましたが、平成21年、第2次産業が大きく減少し、それを受けて純生産が減少しました。地域活力の低下、地域経済力の停滞や衰退が懸念される状態にあるといえます。



資料：埼玉の市町村民経済計算から抜粋

## 7) 広域交通・広域連携

本町の主要な道路としては、国道254号と旧254号(現町道1-20、1-21、1-22号線)、また県道では川越・栗橋線、鴻巣・川島線、日高・川島線、平沼・中老袋線などがあります。

町道は2,771路線(うち、幹線1・2級が55路線)があり、全体の舗装率は約75%ですが、幹線町道(1・2級)では約96%の舗装率となっています。

また、平成20年3月29日に圏央道鶴ヶ島ジャンクションから川島インターチェンジ間が開通し、新たな町の玄関口ができました。

バス路線については、現在、川越～桶川間、川越～鴻巣間、川越～東松山間、八幡～若葉間の4路線が通っています。



資料：施設マップ(川島町ホームページ)に主要町道を加筆

## 8) 土地利用

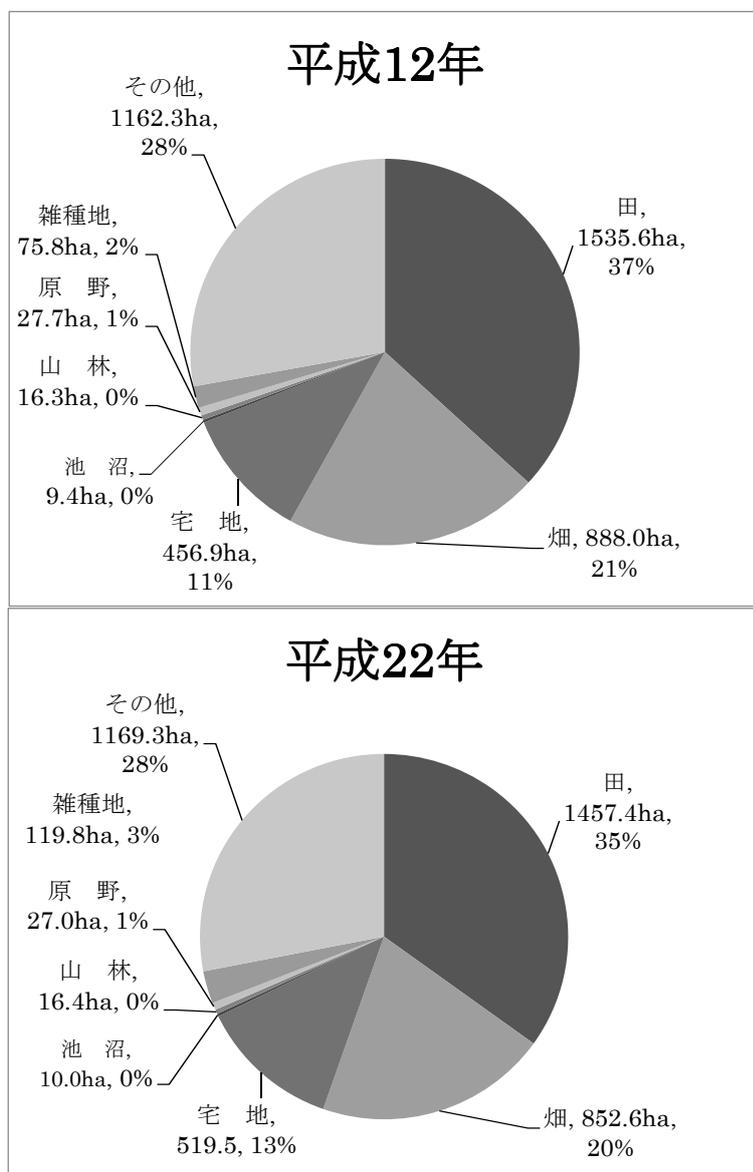
本町では、開発などによる農地から他の用途へ転用がある場合には、総合振興計画、都市計画マスタープランや農業振興地域整備計画等の関連計画に基づき、計画的な土地利用を進めています。しかし、一部地域では住宅と工場が混在する状況であることから、その解消を進めるとともに未利用地の有効活用が求められています。

また、快適な住宅街を形成するため、町民参加による地区計画などの導入を図るとともに、定住の受け入れを見据えた快適な宅地を整備する必要があります。さらに、市街化調整区域においては地域コミュニティ維持のため、住宅の計画的な整備が必要です。

また、川島インターチェンジ周辺の土地を新市街地として有効活用することが求められています。また、既成市街地では、未利用地の宅地化について、計画的な整備が課題となっています。

工業専用地域における既存工業団地は、概ね周辺住宅との間に農用地を有しており、隔絶されているといえますが、一部地域では工業専用地域と住居系地域が隣接、また、準工業地域では混在の状況が見られるため、計画的な土地利用の整序を進める必要があります。

公共空間については、無秩序な開発や景観を損なう開発を防止するため、建築や広告物などを整備・設置する際に一定の規制をかけるよう、指導や誘導に取り組む必要があります。



資料：統計かわじま

## 9) 交通体系

川島インターチェンジの開通に伴い、関越自動車道や中央自動車道へのアクセスが容易になった

ことや、首都圏中央連絡自動車道の側道が整備されたことにより、地域の発展や町民の利便性の向上に貢献しています。今後は、長期的かつ計画的な道路整備を進めるための方針を定めるとともに、川島インターチェンジの利便性の向上を図るため、川島インターチェンジへのアクセス<sup>\*</sup>道路を整備することが求められています。

また、県道や側道の整備は順調に進められていますが、生活道路については、一部未改良の路線があり、地元との協議を通じて逐次改良及び舗装の整備を行うとともに、維持管理の徹底を図る必要があります。

川島インターチェンジの開通や企業進出により交通量の増加が予想されるため、歩行者の安全を確保することが求められます。そのため、幹線道路や生活道路に歩行者が安心して通行できるスペースを確保するとともに、交通安全施設の整備を充実させることが必要です。

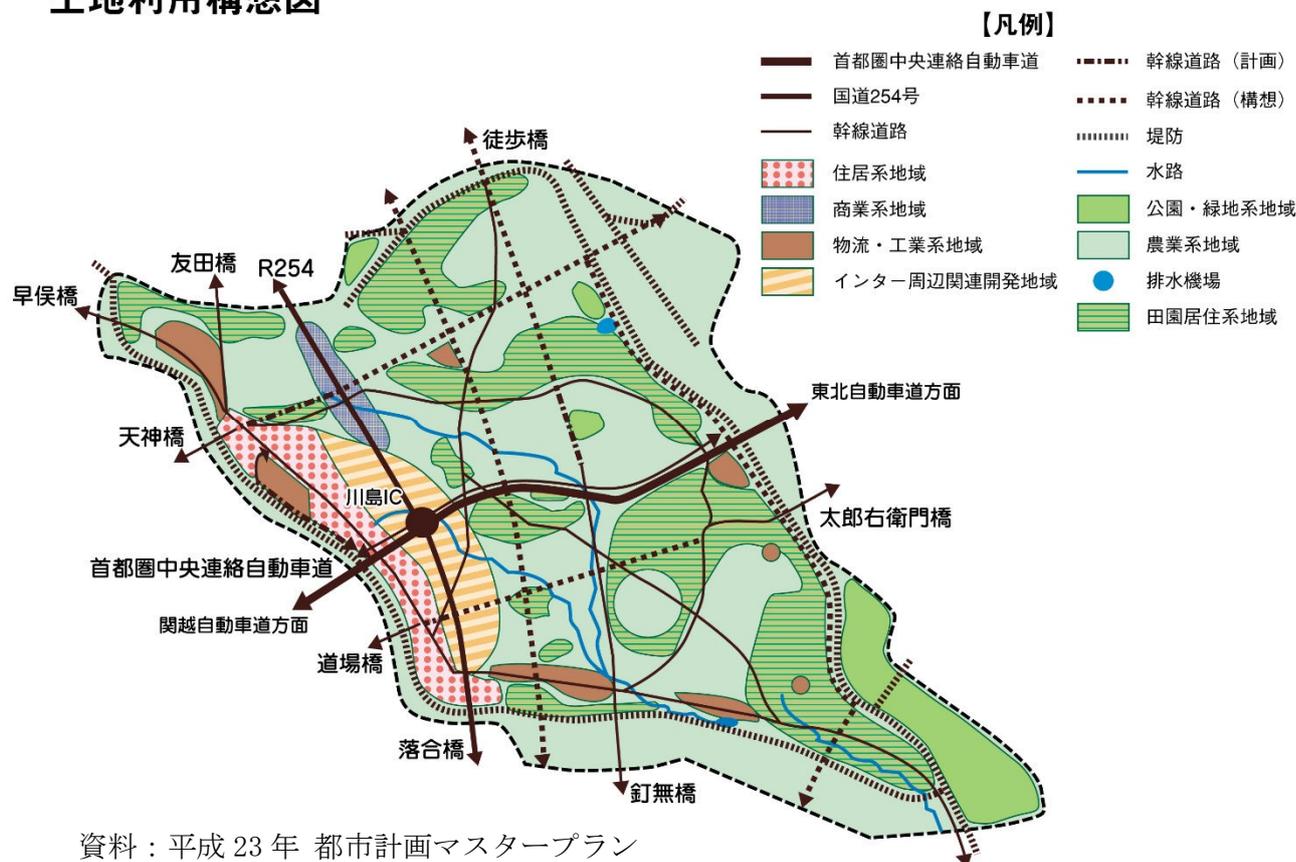
道路環境の整備については、道路沿いの緑化を進めるために、花植えをするボランティアが設立されましたが、継続的な活動を行うため、アダプトシステム<sup>\*</sup>やロードサポートサービス<sup>\*</sup>の活用を図ります。

アクセス…接近という意味。本文中では、目的地への連絡や接続の手段の意味

アダプトシステム…「アダプト」は「養子縁組する」という意味で、一定範囲の道路をその地域の住民が里親となり清掃などに取り組むこと

ロードサポートサービス…地域住民、企業や児童生徒などが道路沿いの清掃活動や花植えなど、道路の愛護活動に取り組むこと

## 土地利用構想図



## 2-2 自然環境

### 1) 農地・自然景観

#### (農地)

本町の土地利用の55%を田畑が占めています。本町の主要産業である農業についても、農家人口の減少や農業従事者の高齢化により、遊休農地、耕作放棄地の増加、農地の自然性の低下などが懸念されています。

#### (自然景観)

農村地域として発展してきた本町は、豊かな田園景観を維持していましたが、宅地開発等の進行により、それらが崩れつつあります。このため、生け垣がブロック塀に変わるなど緑が減少しており、宅地内の緑化や生け垣の整備を促進するなど、緑化を推進する必要があります。また、伊草神社の叢(もり)(境内林)など、地域のシンボルとなる景観の保全を図る必要があります。

田園景観については、それを構成する農地や屋敷林、生け垣、小河川の保全を一体的に図る必要があります。さらに、四方を囲む河川については、自然環境を保持している河川空間の保全と有効活用を図ることが必要とされています。

### 2) 河川・水辺

本町は、徒歩圏における子どもの遊び場として、水と緑を利用した身近な公園の計画的な整備が求められています。

芝生広場や花の庭園、水遊び場などのある「平成の森公園」は、町を代表する憩いの場です。季節を問わず子どもたちの歓声が響き、町を挙げてのイベントの会場にもなります。

また、沼や川では釣り人たちが朝早くから釣り糸を垂れ、町を囲む堤防はサイクリングやウォーキングの名所となっています。貴重な水生植物や湿性植物、小動物が棲息する「三ツ又沼ビオトープ」など、川の町ならではの豊かな自然がたくさんのお楽しみを与えてくれます。

河川空間については、レクリエーションなどに活用するため、河川を活かした親水空間、散策路としての緑地整備を計画的に行うとともに、自然再生事業や国有地化された堤外地の有効な活用や保全を図りつつ、地域振興との連携を図る必要があります。

堤内の小河川については、市街化区域においては公共下水道の整備により水質の改善がみられます。また、市街化調整区域においては、生活排水による河川等の公共用水域の水質汚濁を防止するため住宅に合併処理浄化槽の設置を推進しています。

降雨時の浸水対策としては、排水路整備などの一層の充実を図るとともに、貯留施設や浸透施設などを設置し、流出係数を抑制するまちづくりを推進する必要があります。

### 3) 自然とのふれあい

四方を川に囲まれた川島町。季節によって、時刻によってさまざまに表情を変える川辺、見渡す限りの田園の広がる川島の風景はいつまでも大切にしたいふるさとの魅力です。

### 4) 動植物・生態系

山地や丘陵地にみられるような森林は分布しておらず、水田雑草群落が多くを占めています。こ

うした田園地帯を代表する風土景観植生として、農地に点在したり自然堤防上に立地する集落に沿って連続的に分布する屋敷林があります。屋敷林は、ケヤキなどの落葉樹やカシなどの常緑樹を主体に構成されています。

このほか、河川沿いにナラやハンノキなどの樹林が分布しています。地区別の特徴は以下の通りです。

#### 中山地区・伊草地区

首都圏中央連絡自動車道川島インターチェンジの開通に伴い、インター周辺地域を抱えており、開発が進んでいる地域であり、商業・工業地帯がある。越辺川沿いにはヨシクラス（ヨシなど）が植生しており、休耕田畑地雑草群落が見られる。また、長楽用水にはヤリタナゴが生育している。

#### 三保谷地区

水田雑草群落が中心である。

#### 出丸地区

水田雑草群落が中心であり、休耕畑地雑草群落も多くみられる。荒川周辺には休耕田雑草が見られる。入間川周辺は国有地化されており、今後の活用が検討されている。

#### 八ツ保地区

水田雑草群落が中心であり、荒川周辺は麦作団地や野菜の作付けが行われている。

#### 小見野地区

水田雑草群落に加え畑地雑草群落が多い。荒川及び市野川周辺は麦作団地が見られる。

#### （長楽用水路の環境）

川島町は四方を川に囲まれ自然環境に恵まれているが、これらの自然を基調とした景観を十分に活用できていなかった。その中であって、長楽用水路は都幾川を水源とし、きれいな水が流れ込み、多くの水生生物が生息しています。また、沿線には「埼玉こども動物自然公園」へとつながる自転車道があるが、水辺で親しめる空間が整備されていませんでした。そこで、都会に一番近い農村として自然や田園風景を保全し、その魅力を引き出すまち。親水空間やビオトープなどが人々の憩いの場となり、自然にやさしい水と緑のネットワークのあるまちを創出することを目標に、川島町では埼玉県の水辺再生事業を活用し平成22年から平成23年の2年間で護岸や遊歩道の整備等のハード事業を行い、豊かな自然と田園環境を活かしたまちづくりを進めています。また、水質保全のため合併浄化槽の推進や環境学習、農地・水により地元組織への財政的な支援を進めています。

#### （ヤリタナゴ、二枚貝）

2012年の長楽用水路の調査では7科22属25種の淡水魚の生育が確認された。このうち、5種が埼玉県や全国で絶滅危惧種に指定されている希少種でした。このことから、長楽用水路は特

定外来生物の少ない、希少種の貴重な生息地であるということがいえます。

(ホタル)

「ホタルの里づくり」は、平成23年度から始めた事業活動です。荒川の中流域である川島町は、昔から稲作地帯のため、灌漑用水路が整備されてきました。川島町の農業用水路の歴史は古く、埼玉県史、川島町史等によると、応安元年（1368）の記録があります。昭和20年代では、夏になると、どこでも手にとるようにゲンジボタルやヘイケボタルがいっぱい飛んでいたものです。しかし、数十年程前に絶滅してしまいました。この原因は、河川や用水路の水環境の悪化が主原因であったと思われる。23年度は、ヘイケボタルの再生を目指して、先ず冬期の農業用水路の水質調査から始めました。川島町の地形は、西北に高く、南東に低い地形となっています。主な灌漑用水の取水口は、都幾川、越辺川等から取水していますが、下流の出丸地区で入間川、荒川に排水されています。標高差（堤内の中山長楽樋管～出丸白山太神社北）では凡そ7.8mで緩やかで、全体的に水循環は良く、ヘイケボタルの餌となるタニシも生息しています。ホタルが最後まで生き延びた場所が、最上流側の長楽用水路であると言われていています。

(荒川中流域)

荒川中流域において、平成15年7月に自然再生推進法に基づく自然再生協議会を設立し、地域住民、学識経験者、行政が一体となった自然再生の取り組みが行われています。

#### ①再生内容

##### ・湿地環境の保全再生

乾燥化が進む旧流路において湿地環境の保全・再生に取り組む。

##### ・過去に確認された生物が住める環境の再生

過去に確認された当該区域の固有かつ多様な生き物が住めるような環境の再生を目指す。

##### ・蛇行河川の復元

蛇行河川を復元することにより、多様な水域・水際環境を形成する。

##### ・荒川エコロジカル・ネットワークの形成

周辺地域とのエコロジカル・ネットワークの核となるよう、自然環境の質的向上を目指す。

##### ・治水力の向上

将来にわたり治水の面からもプラスとなるような自然再生事業とする。

#### ②自然再生全体構想

平成16年3月に作成し、平成18年5月に改訂され、その内容は以下の通りである。

##### ・自然再生の対象区域

荒川中流域においてかつて存在していた旧流路を中心とした湿地環境が現在も一部残っている太郎右衛門橋下流約4km区間。

##### ・自然再生の目標

昭和初期までの荒川の流路であった旧流路において、太郎右衛門自然再生地固有の豊かな生態系を育む湿地環境の再生を目指す。

i)湿地環境の保全・再生、 ii) 過去に確認された生物が住める環境の再生、 iii) 蛇行河川の復元、 iv) 荒川エコロジカル・ネットワーク、 v)治水面からもプラスの5つの目標を設定。

### ③自然再生事業実施計画

・荒川太郎右衛門地区自然再生事業実施計画は、平成 23 年 1 月作成、実施者：国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所により作成され、公有地化した地域を活用し、次のとおり取り組んでいくものであるとしており、現在、湿地及び止水環境の整備を実施されています。

i)旧流路の保全・再生、 ii)湿地及び止水環境の拡大、 iii)河畔林の保全・再生等、 iv)維持管理・モニタリング・環境学習等。

#### (コウノトリ・トキの生息環境づくり)

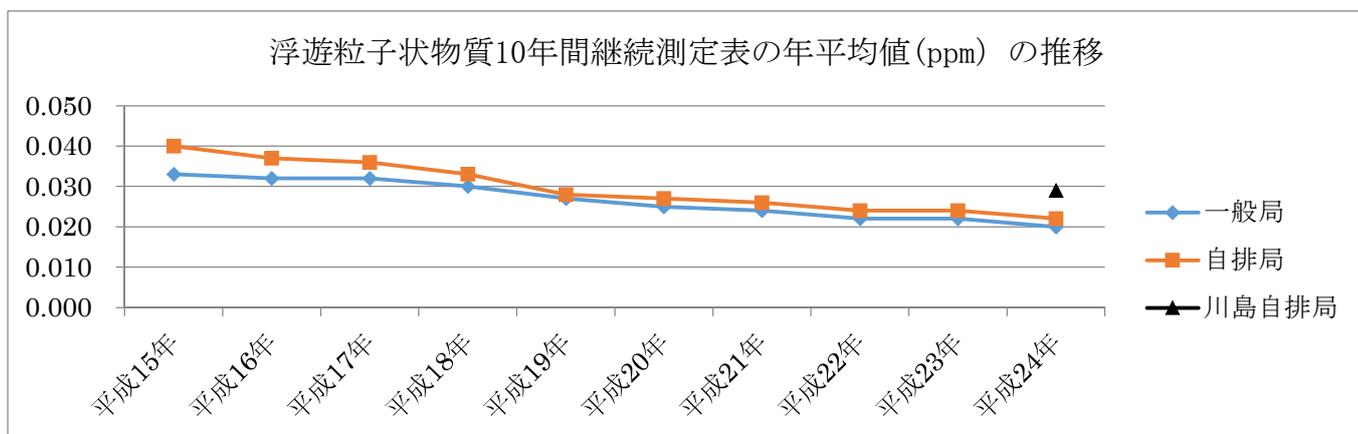
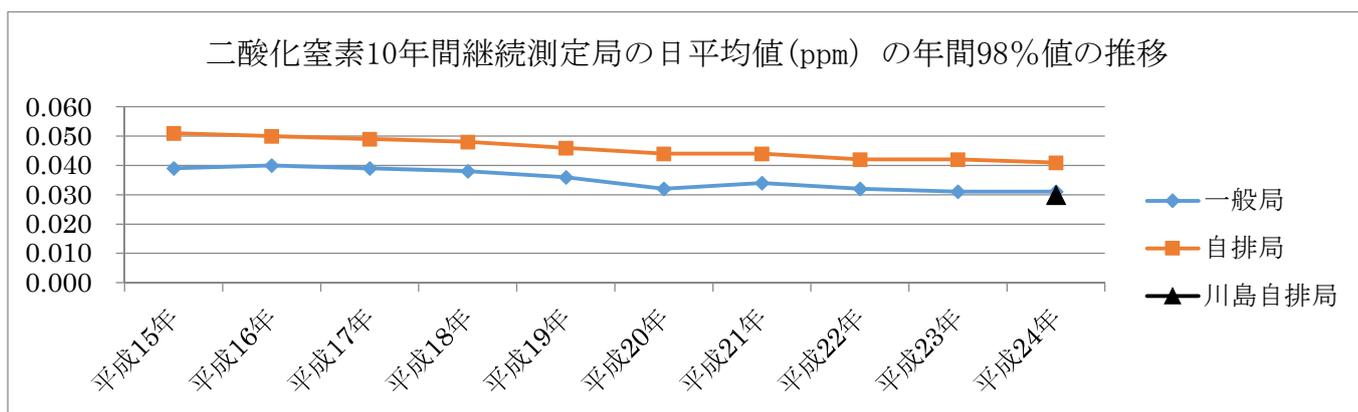
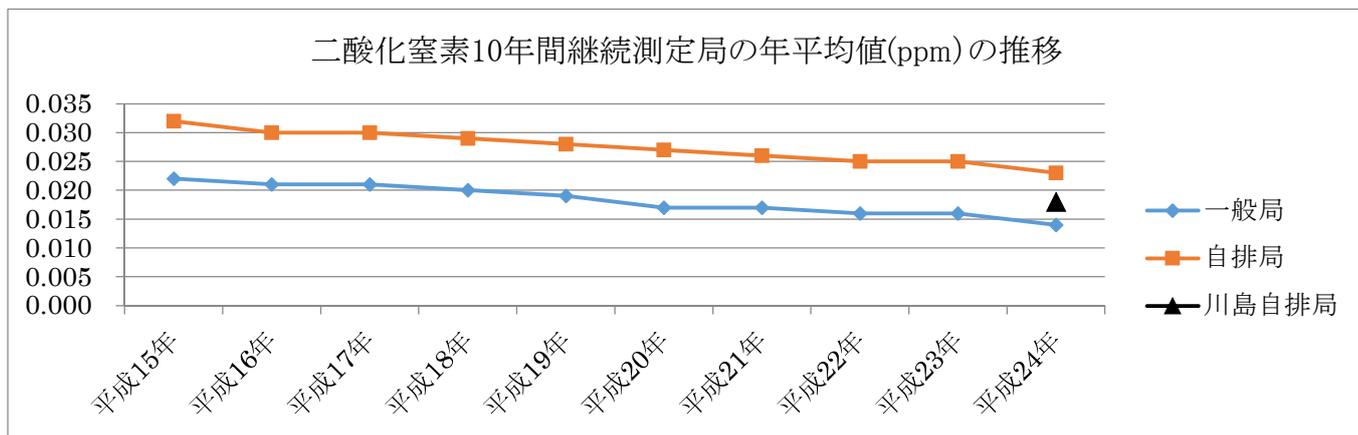
コウノトリ・トキはいずれも大型の鳥類であり、その生息を支えるために必要となる採餌・営巣環境は広範にわたる。本町では、国土交通省・各県・モデル市町が単独あるいは連携した整備済みまたは整備中の河川環境整備事業、自然再生事業および多自然型川づくり等の情報を対象とし、コウノトリ・トキの生息環境づくりに関連する既存の整備事業地として情報収集・整理を行い、太郎衛門自然再生地を核としたエコロジカルネットワーク構想をコウノトリ・トキの生息環境の再生・創出との連携が期待されている。

### 第3章 川島町の生活環境の現況

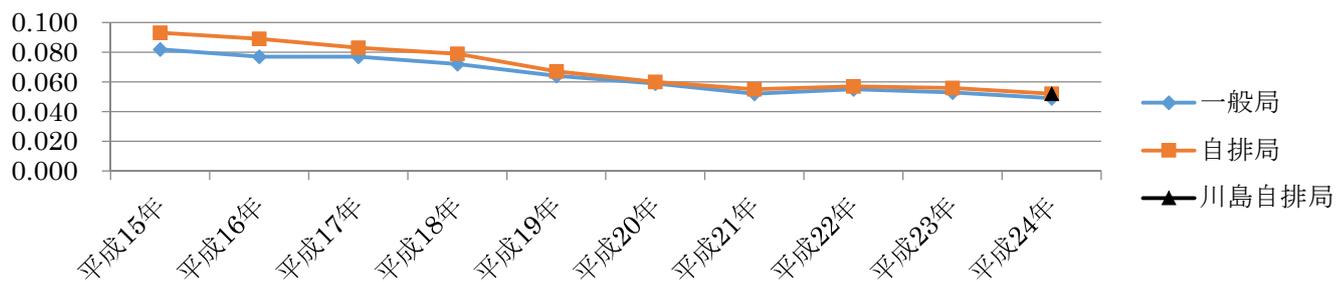
#### 3-1 生活環境

##### 1) 大気環境調査

埼玉県環境部大気環境課による県下の一般局、自排局の二酸化窒素測定値の年平均値、日平均値の年間98%値、浮遊粒子状物質の年平均値、日平均値の2%除外値につき川島自排局（平成24年度設置）との比較は以下の通りです。川島自排局での測定値は各基準値の範囲にある。

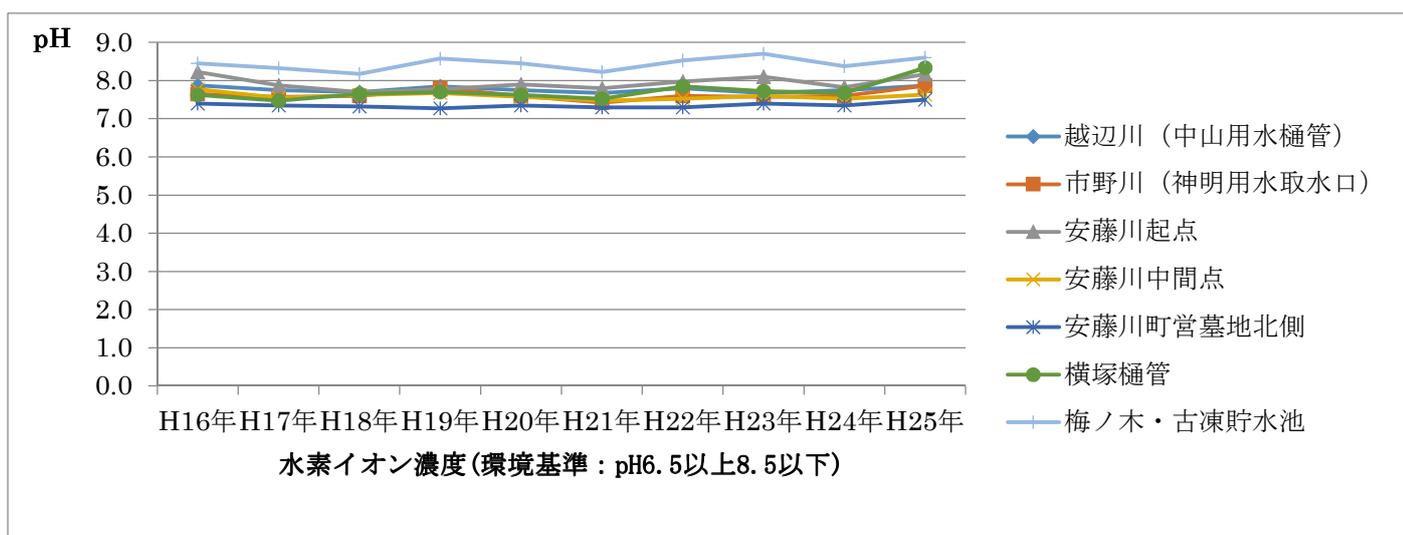
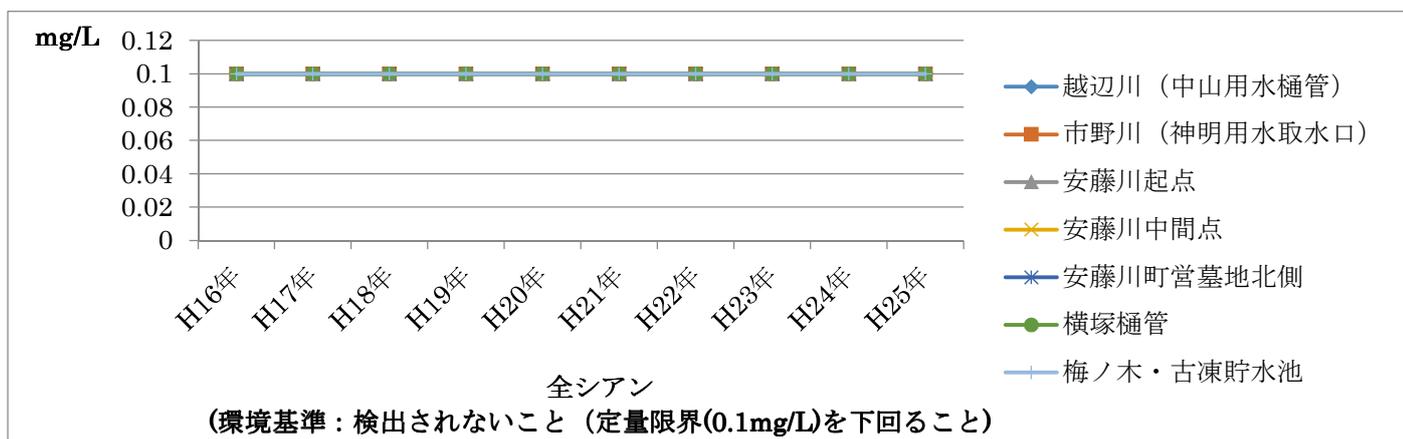
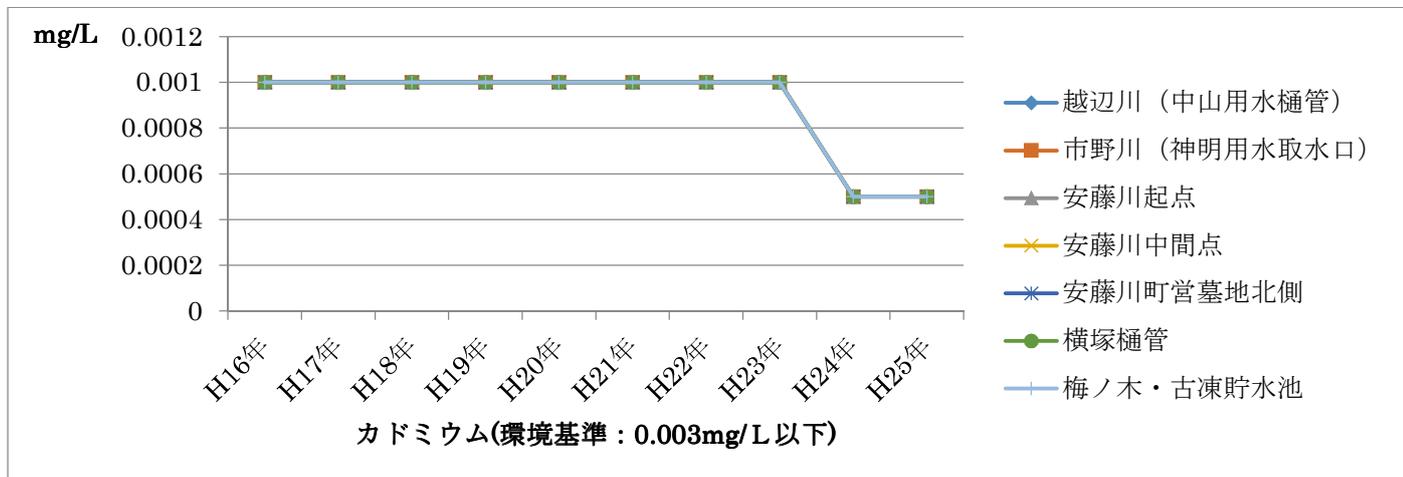


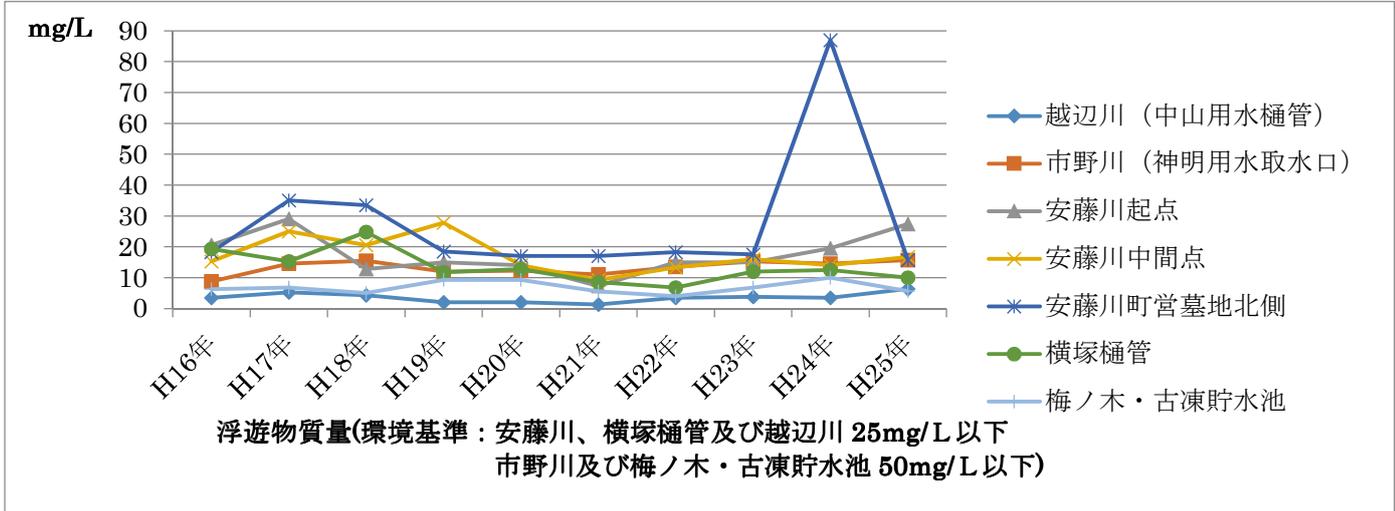
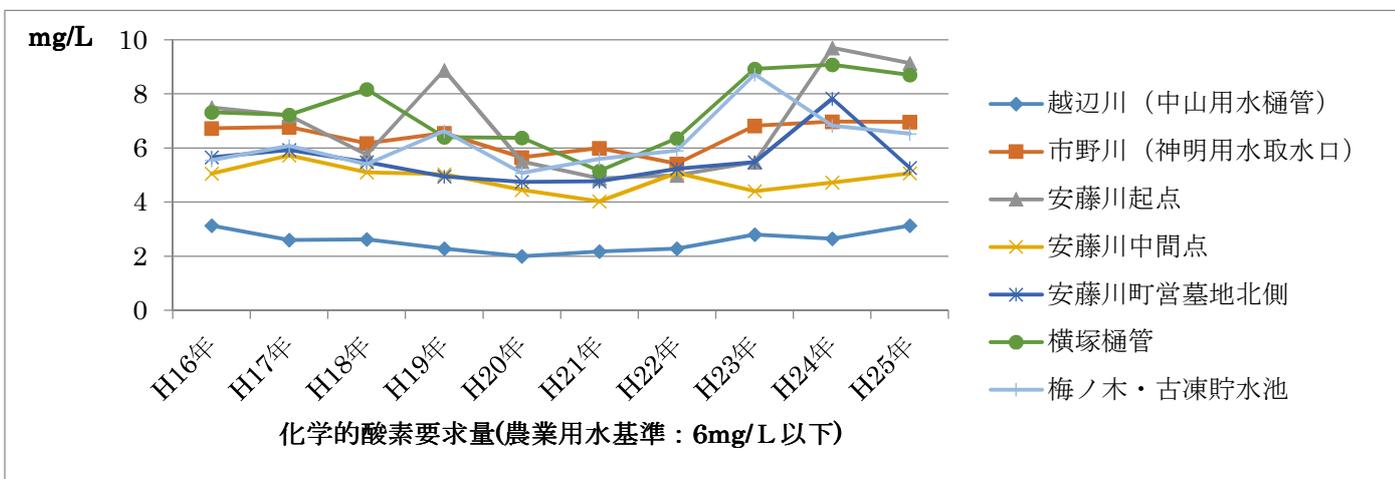
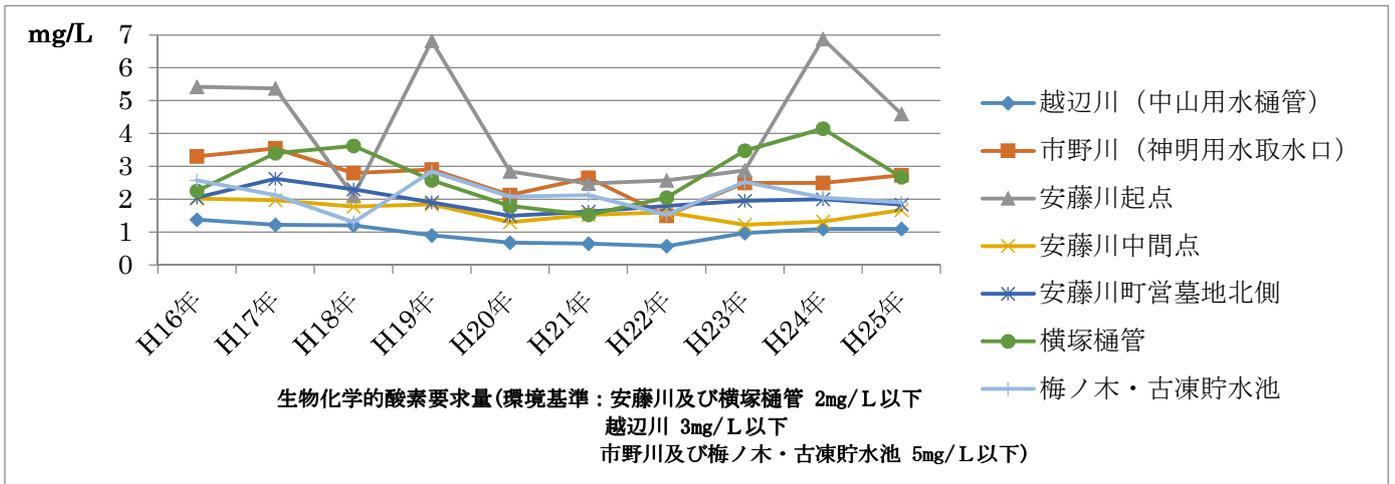
浮遊粒子状物質10年間継続測定局の日平均値(ppm)の2%除外値の推移



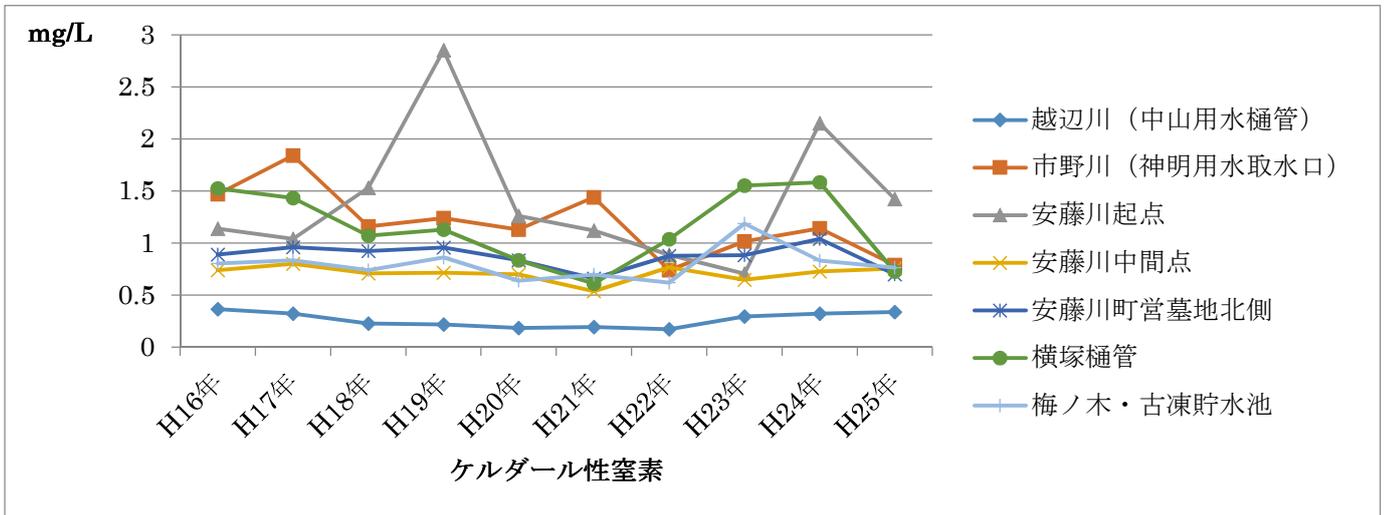
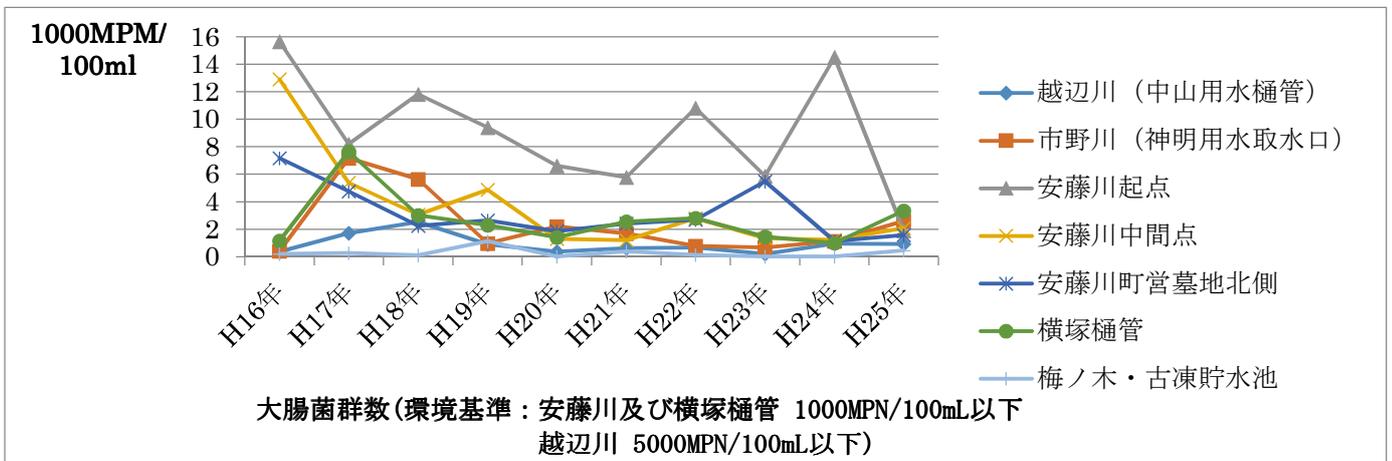
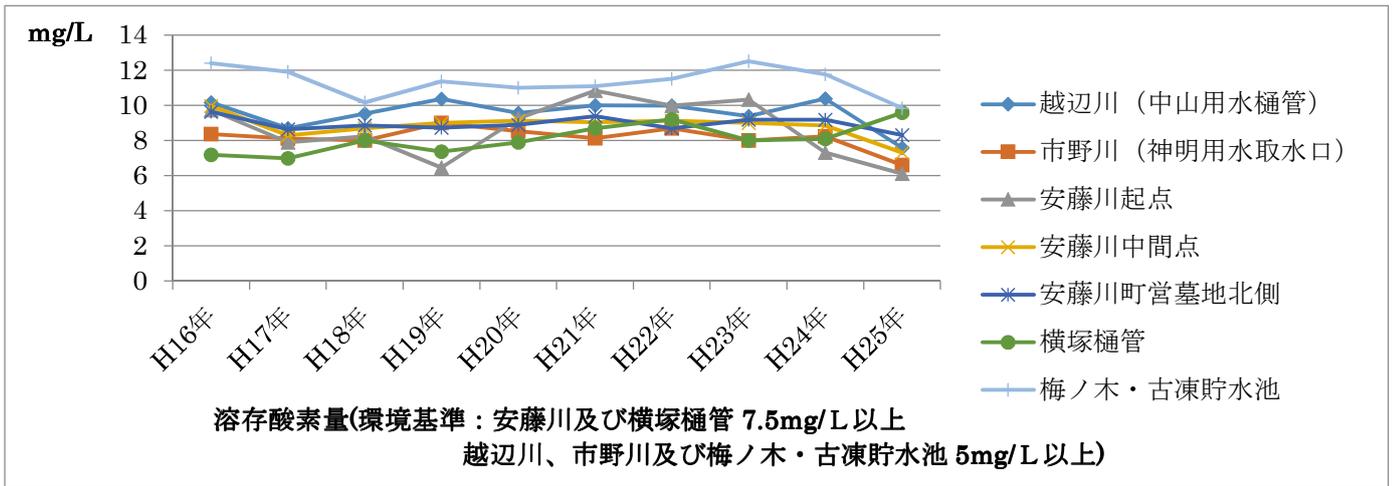
## 2) 水環境

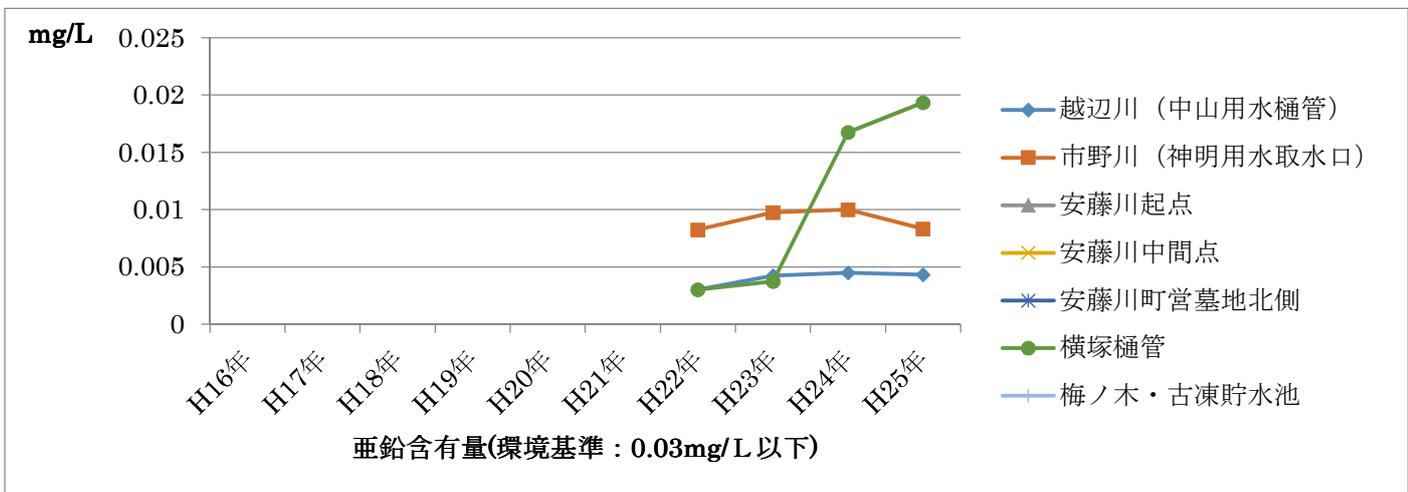
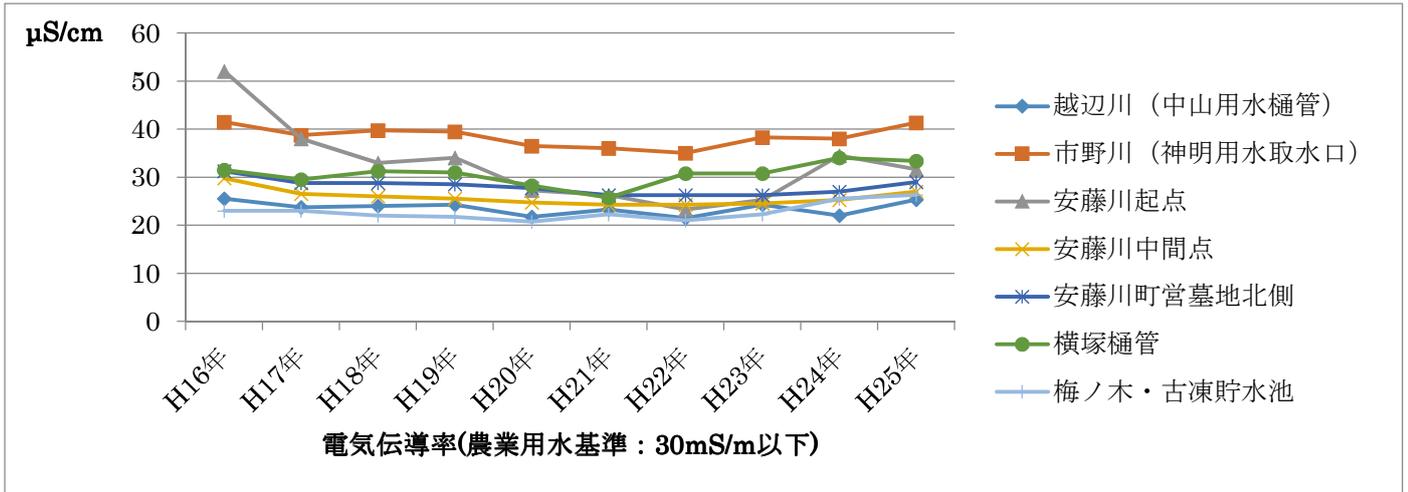
環境基本法第16条による公共用水域の水質汚濁に係る環境上の条件につき、人の健康を保護及び生活環境を保全するうえで維持することが望ましい基準と照合するため、越辺川、市野川、安藤川、横塚樋管、梅ノ木・古凍貯水池において水環境の調査をおこなっています。測定値は以下の通りです。





※越辺川 H24 の 87mg/L は工事の影響です。





■ 公共下水道の整備状況

本町の下水道は、昭和 46 年に発足した荒川右岸流域下水道に昭和 50 年度に加入し、昭和 51 年 3 月に流域関連公共下水道として事業認可を取得し事業に着手しました。幹線および面整備事業を行い、昭和 63 年 3 月に共用が開始されました。現在、処理人口は 10,599 人、整備面積は、319ha、普及率、整備率共に 100%です。

3) 土壌・地盤環境

「200 万分の 1 日本列島活断層図」に記載されている活断層、推定活断層は見られません。

4) 騒音・振動

騒音や振動は悪臭と並び感覚公害と呼ばれています。直接的に人間の感覚を刺激し、人体に対して、心理的影響を与えることが多く、生活環境を保全する上で重要な問題となっています。

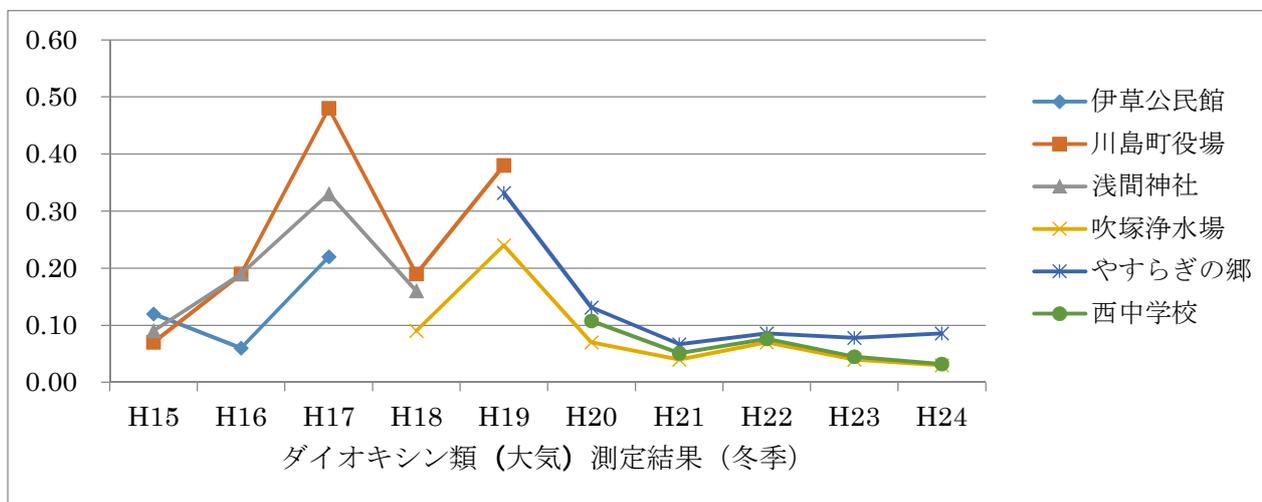
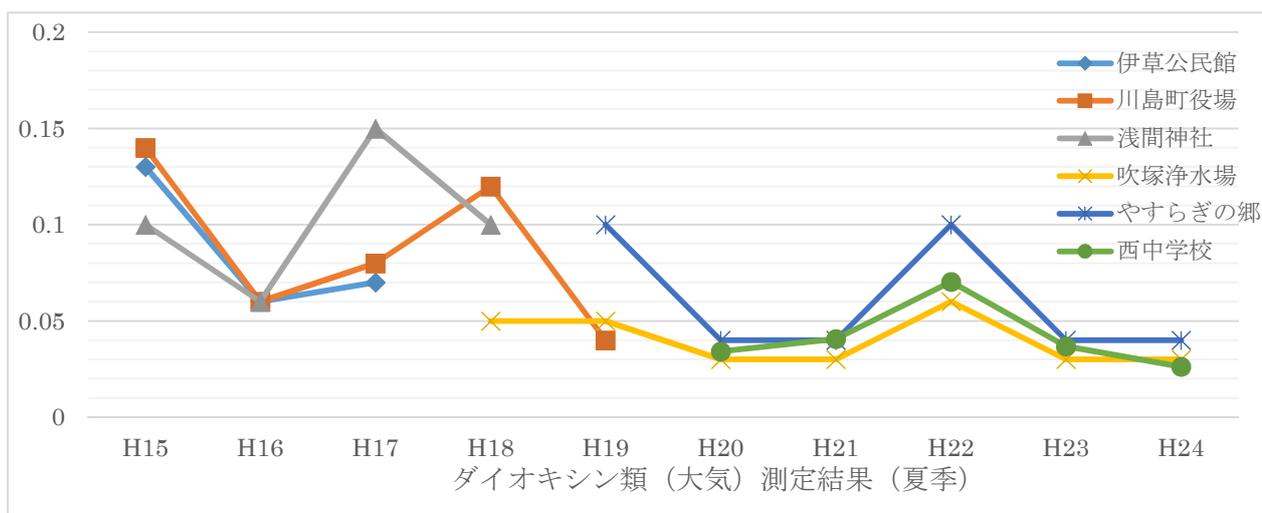
こうした騒音や振動の防止対策として、本町では発生源となり得る工場・事業所の監視等を行うとともに、騒音規制法や振動規制法等の各種法規制に基づく届出の徹底や基準値の順守、防止対策の指導等を行っています。

なお、本町は騒音規制法・振動規制法に基づく指定地域、埼玉県生活環境保全条例に基づく騒音規制区域に指定されており、良好な住環境を保全するため、用途地域ごとに規制基準が定められています。

今後も引き続き各種法規制に基づく届出や防止対策の徹底を図っていくとともに、最近はこうした規制に馴染まない日常生活における近隣騒音が問題になることもあることから、近隣に配慮した暮らし方に関する啓発も必要です。

### 5) 有害化学物質

町内の大気中・土壌のダイオキシン測定結果は以下の通りであり、大気環境適合基準値(0.6pg-TEQ/L)、土壌環境適合基準値(1,000pg-TEQ/g)を上回る測定場所はありません。



ダイオキシン類(土壌)

調査地点	調査年度	測定結果 (pg-TEQ/L)	環境適合基準適否 (土壌: 1,000pg- TEQ/g)
川島中学校	H15	0.41	○
西中学校	H15	1.68	○
中山小学校	H15	0.38	○
芝沼 (松永橋下流側)	H16	8.93	○
出丸下郷 (赤城神社下流側)	H16	7.48	○
角泉 (十一面観世音上流側)	H16	5.99	○
長楽 (都幾川左岸早俣橋下流側)	H17	6.99	○
下小見野 (市野川右岸市野川大橋下流側)	H17	12.8	○
出丸中郷 (荒川右岸白山池脇)	H17	5.19	○
伊草小学校	H18	2.26	○
出丸小学校	H18	0.99	○
図書館裏 (サッカーグラウンド)	H18	0.87	○
小見野小学校	H19	1.38	○

6) 廃棄物・リサイクル

し尿等の処理状況

平成 25 年 4 月 1 日現在の数字です。

- ・ 下水道人口 10,599 人
  - ・ 合併浄化槽人口 9,362 人
  - ・ 単独浄化槽人口 1,521 人
  - ・ 汲み取り人口 199 人
- 合計 21,681 人 (町人口)

■ごみ排出の状況

(ごみの分別区分)

ごみの分別区分は、次の表の通りです。

ごみの資源化・有効利用の一環として、各家庭で生ごみ処理容器による堆肥化を行っています。また、紙類、びん類・布類は、各種団体・小中学校等による集団回収が実施されています。

区 分	出 し 方	収集回数	
可燃ごみ	45ℓ以下の透明又は半透明袋 (レジ袋可)	2回/週	
容器・包装	プラスチック製	45ℓ以下の透明袋又はレジ袋	1回/週
	紙製	45ℓ以下の透明袋又は紙袋	1回/週
びん・かん・ペットボトル	びん	45ℓ以下の透明袋	2回/月
	かん	45ℓ以下の透明袋	2回/月
	ペットボトル	45ℓ以下の透明袋	2回/月
紙類・布類	新聞紙	十文字にしばって出す	2回/月
	雑誌・雑紙	十文字にしばって出す	2回/月
	ダンボール	十文字にしばって出す	2回/月
	紙パック	十文字にしばって出す	2回/月
	布類	45ℓ以下の透明袋	2回/月
不燃ごみ・有害・危険	不燃	45ℓ以下の透明又は紐でしぼる	2回/月
	有害(蛍光管等)	45ℓ以下の透明又は紐でしぼる	2回/月
	危険(スプレー缶等)	45ℓ以下の透明袋	2回/月

(収集方法)

本町では、ステーション方式を採用しています。

(収集・運搬の実施主体)

家庭系ごみの収集・運搬は、町の委託業者により行っています。自己搬入ごみも受け入れています。事業系一般廃棄物は、家庭系ごみと同様の分別区分で許可業者搬入と自己搬入について受け入れています。

#### ■ 集団資源回収事業報奨金

集団回収を実施している団体に対して集団資源回収事業報奨金を交付しています(報奨金：3円/kg)。平成24年度は27件の申請があり、約580tの廃品回収が行われ、約174万円を奨励金として交付しています。

#### 7) 資源・エネルギー

都市化の進展や生活様式の変化に伴い、資源やエネルギーの大量に消費し、温室効果ガスの排出や不法投棄、最終処分場ひっ迫等の問題が顕在化、悪化しています。また、生活に欠かせない石油や天然ガス等のエネルギー資源は基本的に埋蔵量に限界があり、近い将来にこうした資源が枯渇することが懸念されています。現在のまま推移した場合、石油は2050年頃までには枯渇するといわれています。このような将来起こりうる危機的な状況を回避し、環境負荷の少ない循環を基調とする地域社会を構築していかなければなりません。

さらに、東日本大震災にともなう、原子力発電の停止により、非常に厳しい需給状況にあります。原子力発電量の減少を火力発電で代替することにより、発電電力量に占める火力発電の割合は2010年度の約49%から、2011年12月には約72%まで上昇しております。震災を契機に、わが国のエネルギー・ミックスについて利用者側には大量消費・大量廃棄といったこれまでの生活様式や事業スタイルを改め、省資源及び資源の有効利用、省エネルギー、エネルギーの合理的利用などをこれまで以上に促進していくことが必要です。

本町では、少エネルギー対策として防犯灯をLED化する事業を実施し、平成26年度で完了します。

#### 8) 空き地、空き家の状況

町内の空き家戸数は中山地区、伊草地区に多く分布しています。空き地や空き家を放っておくと、ポイ捨てなどの恰好の場所となります。また、雑草の中から害虫が発生し近所に迷惑となることもあります。きれいに管理することで、こうした被害を防ぐことがねらいで環境保全条例にも制定しています。所有者の方には、定期的に除草するなど、適正に管理することをお願いしています。

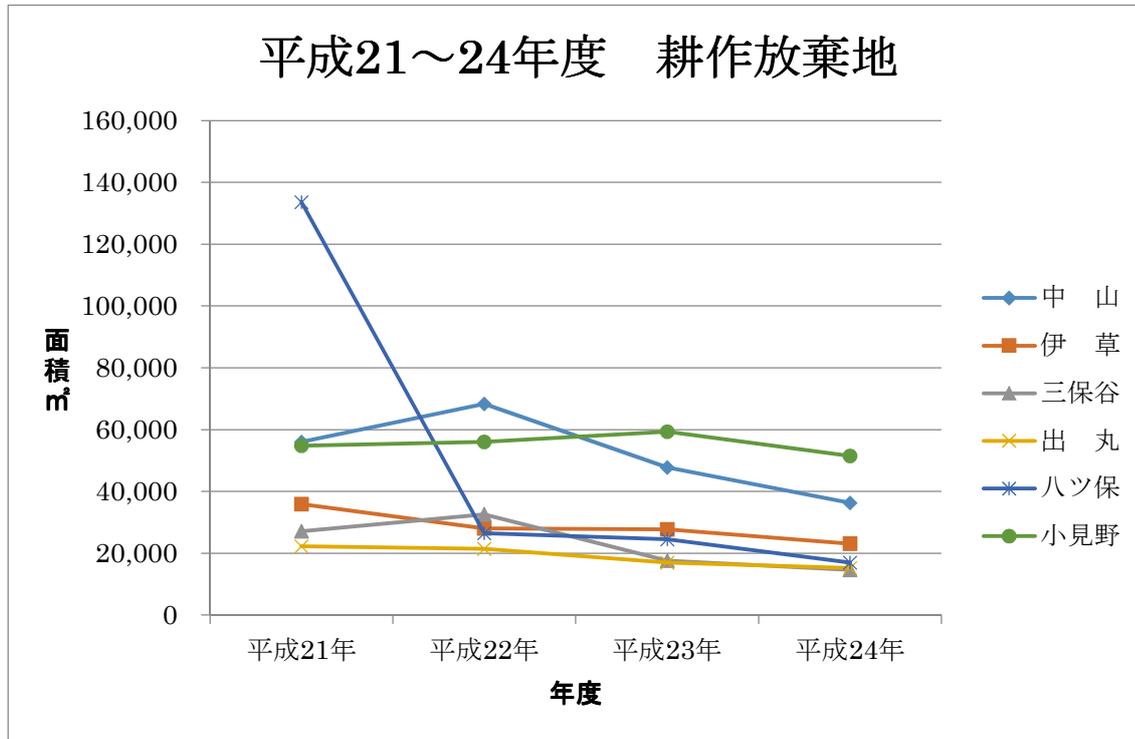
表 大字別空き家戸数（平成26年2月調査）

	住 所	空き家戸数	備考
中山	川島町大字中山	26	
	川島町かわじま	0	
	川島町大字南園部	3	
	川島町大字吹塚	11	
	川島町大字北園部	0	
	川島町大字正直	3	
	川島町大字戸守	9	
	川島町大字長楽	3	
	川島町八幡	30	
	<b>中山合計</b>	<b>85</b>	
伊草	川島町大字上伊草	34	
	川島町大字伊草	14	
	川島町大字下伊草	15	
	川島町大字角泉	3	
	川島町大字飯島	1	
	川島町大字安塚	0	
	<b>伊草合計</b>	<b>67</b>	
三保谷	川島町大字平沼	4	
	川島町大字白井沼	3	
	川島町大字紫竹	0	
	川島町大字宮前	3	
	川島町大字上貉	1	

	川島町大字下貉	3	
	川島町大字釘無	4	
	川島町大字吉原	2	
	川島町大字新堀	1	
	川島町大字表	1	
	<b>三保谷合計</b>	<b>22</b>	
出丸	川島町大字出丸下郷	2	
	川島町大字西谷	0	
	川島町大字曲師	0	
	川島町大字出丸本	1	
	川島町大字下大屋敷	0	
	川島町大字上大屋敷	7	
	川島町大字出丸中郷	5	
	<b>出丸合計</b>	<b>15</b>	
八ツ保	川島町大字上八ツ林	4	
	川島町大字下八ツ林	3	
	川島町大字畑中	4	
	川島町大字三保谷宿	1	
	川島町大字牛ヶ谷戸	2	
	川島町大字山ヶ谷戸	5	
	川島町大字東大塚	1	
	<b>八ツ保合計</b>	<b>20</b>	
小見野	川島町大字虫塚	6	
	川島町大字上小見野	3	
	川島町大字下小見野	8	
	川島町大字加胡	3	
	川島町大字松永	1	
	川島町大字梅ノ木	2	
	川島町大字谷中	3	
	川島町大字一本木	2	
	川島町大字鳥羽井	2	
	川島町大字鳥羽井新田	2	
	川島町大字芝沼	1	
	<b>小見野合計</b>	<b>33</b>	
	<b>全地区合計</b>	<b>242</b>	

9) 不耕作田

農業は町にとって重要な基幹産業であります。平成21年から平成22年にかけて耕作放棄地は増加しましたが、その後解消面積が増え、横ばいか減少傾向にあります。とりわけ平成22年、耕作放棄地再生利用緊急対策交付金事業により、川島町地域耕作放棄地対策協議会と埼玉県東松山農林振興センターで、山ヶ谷戸堤外地、荒川河川敷の大規模な耕作放棄地を優良農地に再生させることができました。今後も耕作放棄地の解消と活用を進めています。



資料：川島町平成21-24年遊休農地実態調査集計表

注) 八ッ保地区山ヶ谷戸堤外地において耕作放棄地再生利用緊急対策交付金事業により、耕作放棄地面積が減少しました。

10) 自動車や自転車の放置箇所の特定

町内には自動車放置箇所はなく、年間の放置自転車台数は、次の表のとおり少ない状況です。

	平成 24 年度 年間放置自転車 台数(台)	平成 25 年度 年間放置自転車 台数(台)
中山	7	11
伊草	16	7
三保谷	3	2
出丸	2	0
八ッ保	1	1
小見野	2	3
合計	31	24

出典：川島町町民生活課資料

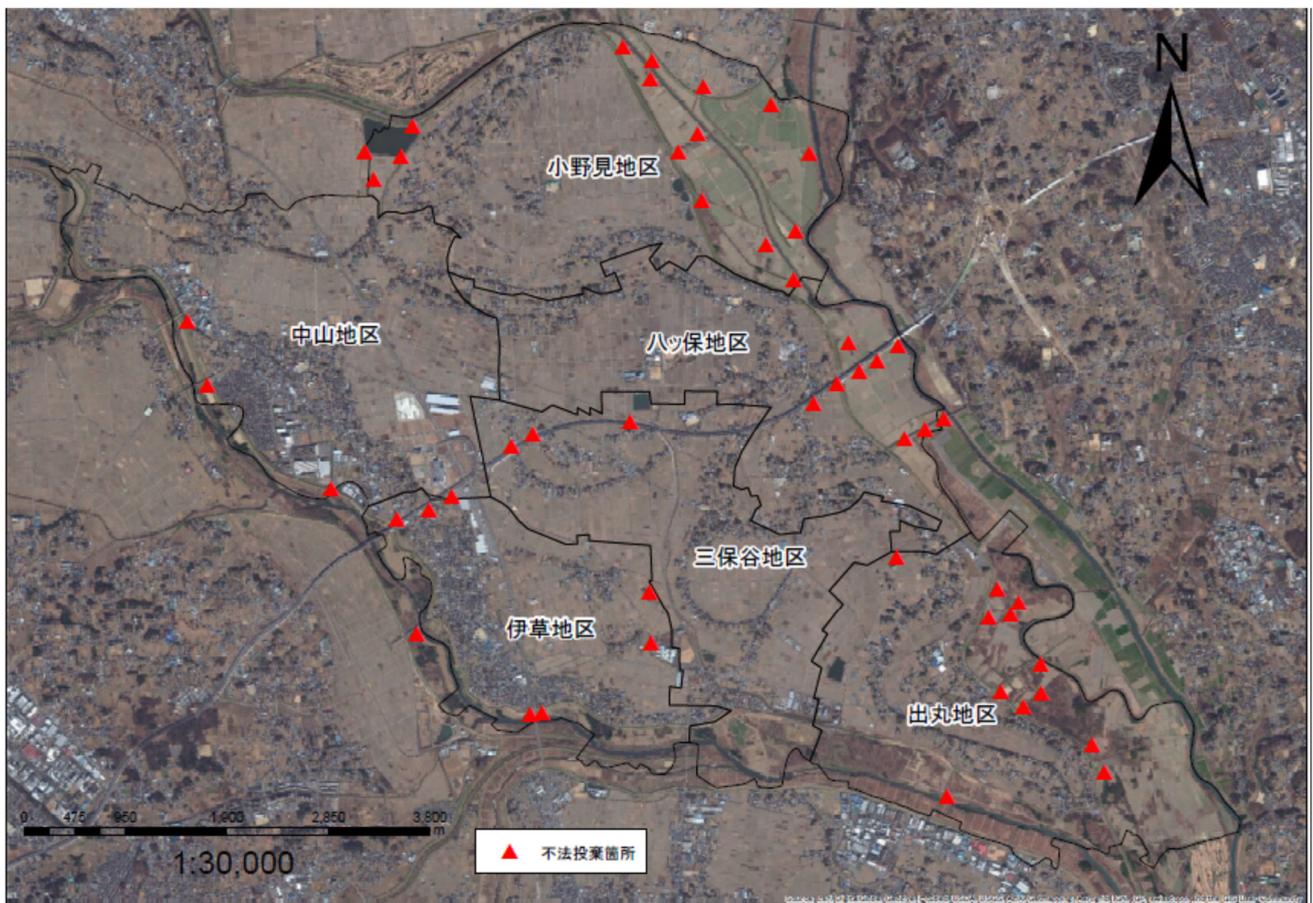
### 11) 自動車等たい積保管場所の状況

町内には自動車等たい積保管場所はない。

自動車を積み重ねて保管するときは、保管する場所ごとに、町長の許可が必要になります。たい積保管する場合は、みだりに人が立ち入れないような囲いをするとともに、崩れたりして危険のないような措置が必要です。また、オイルなどの流失や、蚊やハエの発生しないような措置も必要です。

### 12) 不法投棄、ポイ捨て箇所の特定

堤外地や圏央道の側道沿いに多く見られます。ごみの不法投棄は、大勢の方の迷惑になります。また、衛生面からも良くありません。不法投棄が発見された場合、その状況を調査し、調査した結果を警察署長へ通報します。また不法投棄をした者に、原状に戻すよう命じ、命令に違反した場合には罰則の適用があります。



## 3-2 快適環境

### 1) 公園・緑地

本町は、徒歩圏における子どもの遊び場として、児童公園が 28 箇所整備されています。

特色ある公園として、平成の森公園を開設しており、町の中央部に位置していることから、幅広く利用されるよう積極的な公園利用対策を推進しています。平成の森公園をはじめとした都市公園が 8 か所 (16ha) あり、特色ある公園の整備が行われている。

河川空間については、レクリエーションなどに活用するため、河川を活かした親水空間、散策路として

の緑地整備を計画的に行われています。荒川河川敷を活用したビオトープの整備は、貴重な自然環境を保全するとともに、広域的な利用を想定して民間飛行場との連携を図っています。また、三ツ又ビオトープなどによる緑地の保全では、自然再生事業や国有地化された堤外地の有効な活用や保全を図りつつ、実践的な環境教育の場として利用され地域振興との連携を図っています。

また、伊草神社の叢(もり)(境内林)など、市街地にあつて良好な景観を保持し、町民の生活にうるおいを与えている環境については、その保全が求められています。

桜つつみの適正な維持管理を図るとともに、特色ある地域景観づくりとして継続が求められています。

農用地及び集落によって形成される良好な田園環境や、四方を取り囲む河川と良好な水辺環境は、町民の原風景となっており、総合的な保全対策が必要とされています。

## 2) 歴史・文化的環境

はるか縄文時代から人々が暮らしを営んでいた川島町。中世には、美尾屋(三保谷)十郎廣徳など有力武士が活躍しました。国指定重要文化財の廣徳寺大御堂は北条政子が廣徳の菩提を弔うため、美尾屋氏の館跡に建立したものと伝えられています。

江戸時代になると川越藩の支配の中で農業生産が高まりましたが、反面、荒川の流れを現在の場所に変えたことで、たびたび水害に悩まされるようになりました。浸水対策として作られた水塚(みづか)は平成7年には町内に200か所に残されおり、古いものは、ペリー来航の前年である1982年に建立されて水塚もあるようです。現在は必要がなくなっているのでその数は確実に減っています。とりわけ荒川と入間川が合流していた現在の三ツ又沼ビオトープの位置する場所の出丸地区は訳目され、郡代伊那備前守が実際に改修工事を指揮したとされている。村全体を囲む大囲堤や水塚の中の棟木には築造時の銘文があるなど、水害を克服してきた先人の治水に対する歴史的な遺産が残されています。

## 3) まち美化

環境保全と自然保護につきましては、住民が安心して暮らせる地域環境を保全するため、次の事業を重点的に取り組んでいます。

まず、安全で快適な環境のまちづくりを進めるため、ごみの分別やリサイクルによる環境にやさしいごみ処理の推進を図るとともに、河川の水質浄化を目的に合併処理浄化槽設置補助事業を積極的に推進しています。

また、町内を疎水のように流れる水路には、様々な水生動物が生息しておりますが、環境保全と自然保護の観点から、長楽用水路に水生動物捕獲禁止看板を増設し、一層の保全に努めています。

また、流域沿線住民による安藤川の清掃活動や、国土交通省荒川上流河川事務所及び県環境部、町内企業、町職員により、荒川のそれぞれの堤外河川敷で美化清掃活動を毎年実施しています。

## 第4章 川島町をとりまく地球環境

### 4-1 地球温暖化

近年の産業や文明の発展は、私たちの生活をより快適なものにしてきました。しかしながら、石油や石炭などのエネルギー利用により、二酸化炭素やメタンなどの温室効果ガスの排出量が急激に増え大気中の濃度が増加し、地球温暖化が世界的な問題となっています。このままのペースで温暖化が進めば、21世紀末には気温が2℃上昇し、海面の上昇、農林業への影響など計り知れない悪影響が及ぶことが懸念されています。

平成9年12月に地球規模での温暖化問題に取り組むため「地球温暖化防止京都会議」が開催され、温室効果ガス排出量の削減目標やその達成のための方法、仕組みなどに合意して、京都議定書が採択され、日本は、平成20年から平成24年までの期間中に、温室効果ガス排出量を平成2年の時点に比べて6%削減することが義務付けられました。

このような様々な環境問題に対して、現在及び将来の世代の町民が健全で豊かな環境の恵みを楽しめると共に、人類の存続の基盤である環境が将来にわたって維持されるように、個人、事業所ともに環境問題に取り組んでいく必要があります。現在多くの事業所で、積極的に環境への取組が実施されています。

また、川島町役場では、エコアップを積極的に推進し、エコオフィスの実現を目指しています。

### 4-2 その他の地球環境問題

川島町では、地球温暖化防止対策や新エネルギー確保の一環として、町内に住宅用太陽光発電システムを設置する方に補助金を交付しています。

## 第5章 環境保全に取り組むための基盤づくり

### 5-1 環境教育・環境学習

NPO 法人川島ネイチャークラブや川島子供エコクラブにより、以下のような活動を通じた環境教育・環境学習が進められています。

- ・川島こどもエコクラブ活動

みんなのエコロジカルアクション

- ・「川島町の水辺の貴重な生き物学習会」

- ・伊草農園活動

会員向けに、越辺川左岸河川敷の農地約 100 m<sup>2</sup>の畑を借用して、アブラナ、サツマイモ等の野菜づくりを楽しんでいます。

- ・3R活動（発生抑制 Reduce 再使用 Reuse 再生利用 Recycle）

「ハイ！ECO石けんの作り方」、「アクリルたわしの編み方」などのテーマで実施している。

### 5-2 各主体の環境保全活動

NPO 法人川島ネイチャークラブや川島子供エコクラブにより、以下のような活動を通じた環境教育・環境学習が進められています。

- ・ビオトープの保全活動

三ツ又沼ビオトープの竹林管理等に参加しています（ハチク林拡大抑制作業活動、ハンノキプロジェクト参加活動）

- ・ホテルの里づくり活動

川島町正直のホテル田んぼ試験池でホテル放流会が開催されています

- ・県民参加生き物モニタリング調査活動

- ・農業用水路の生き物調査活動

- ・河川や農業用水路の水質調査活動

- ・越辺川クリーンアップ・荒川クリーン協議会による河川清掃活動

- ・荒川太郎右衛門地区自然再生協議会活動

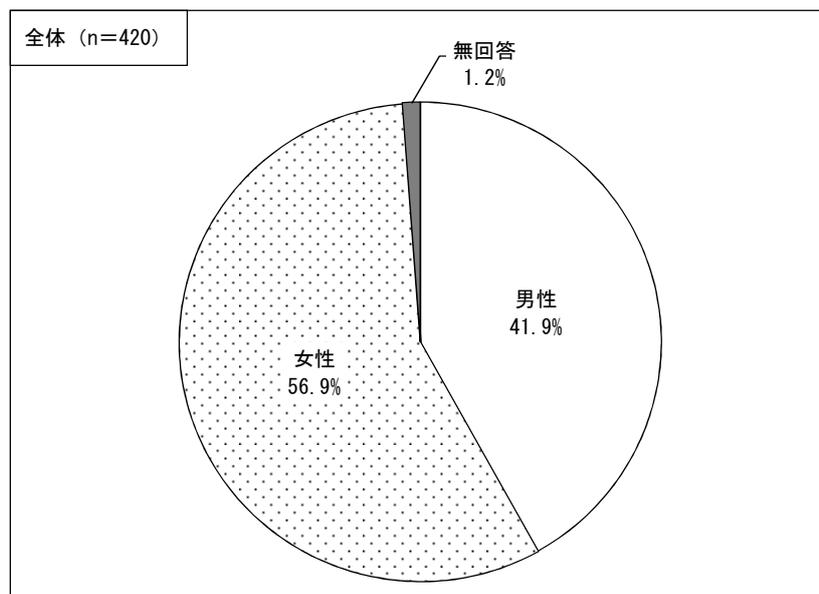
## 町民アンケート 調査結果

※ アンケートの集計結果における「無回答」には、無効な回答も含めています。



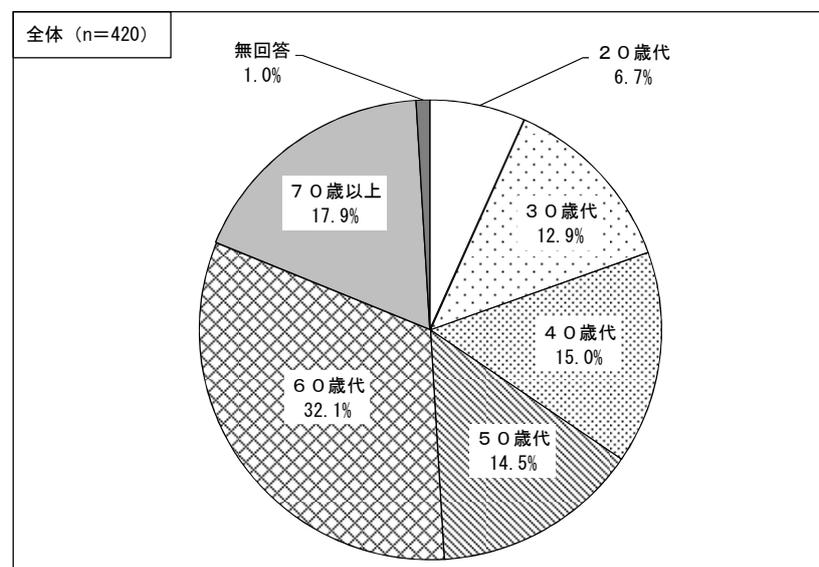
# 1. あなたやあなたのご家族について

## 問 1-1



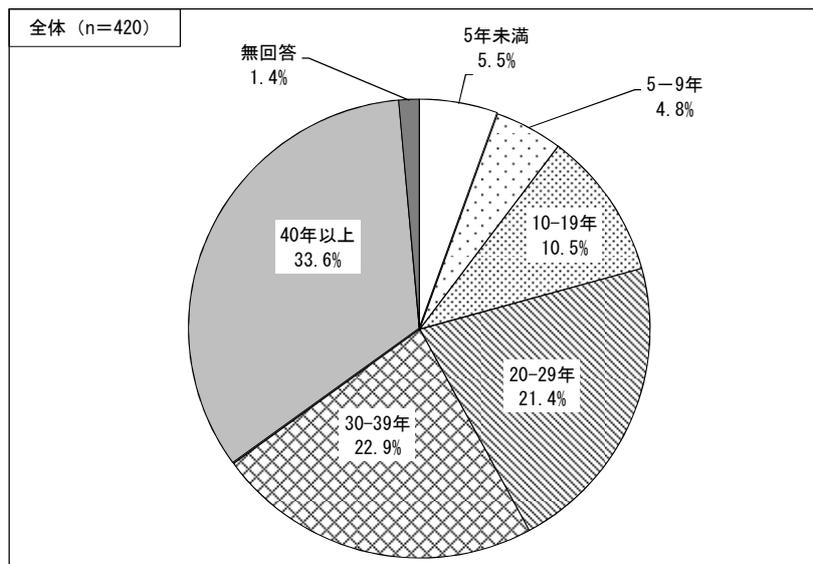
「男性」が41.9%、「女性」が56.9%と、女性の割合が多くなっています。

## 問 1-2



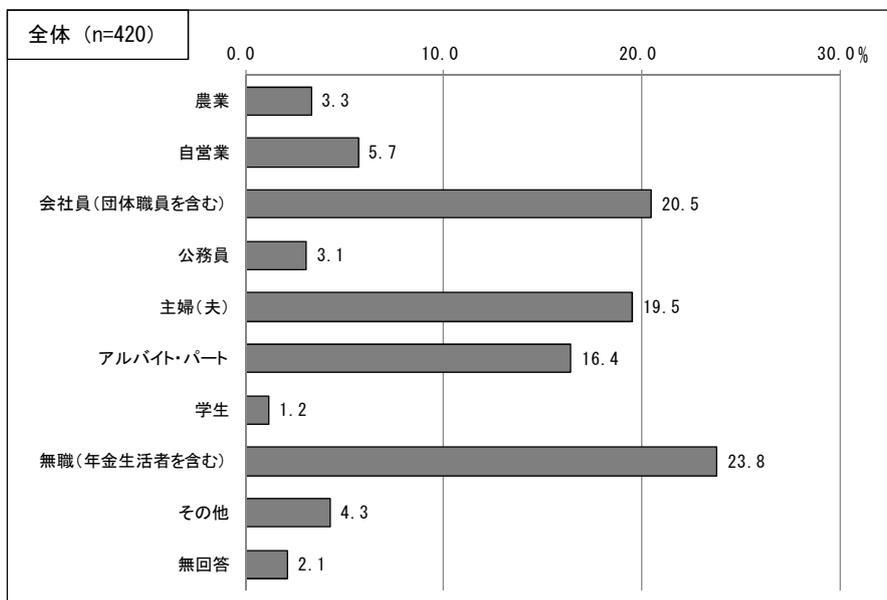
割合が高いのは「60歳代」が32.1%と最も多く、次いで「70歳以上」(17.9%)、「40歳代」(15.0%)の順となっており、60歳代以上の回答者が特に多くなっています。

問 1-3



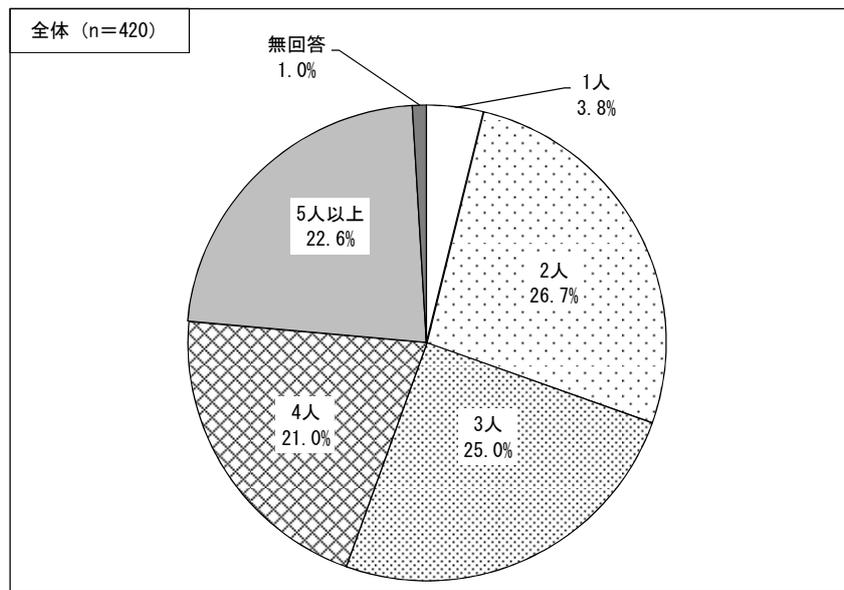
居住年数については、「40年以上」が33.6%と最も多く、次いで「30年-39年」(22.9%)、「20年-29年」(21.4%)の順となっています。8割近くの回答者が20年以上、川島町に居住されていることになります。

問 1-4



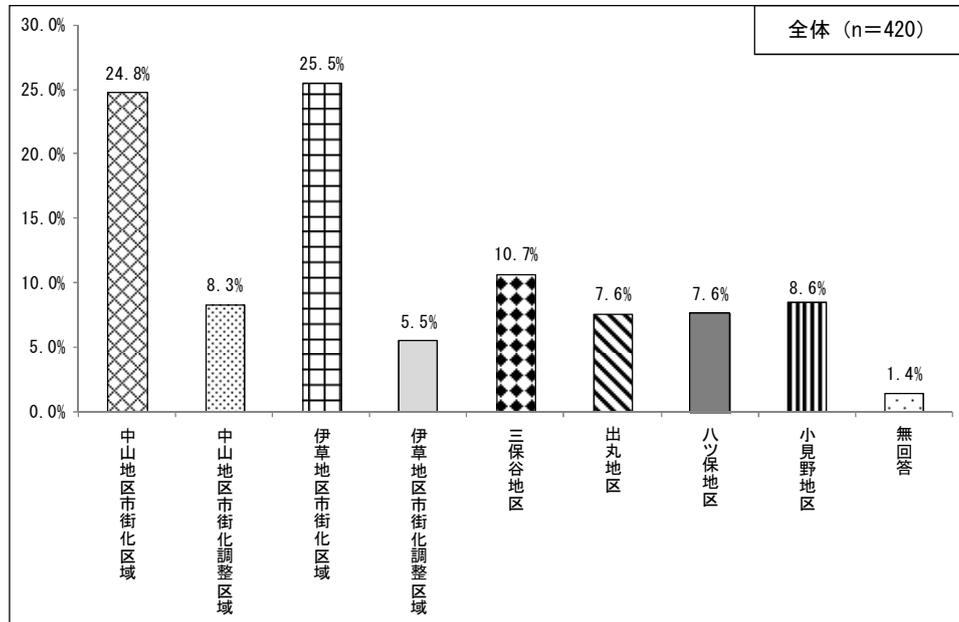
職業については、「無職(年金生活者を含む)」(23.8%)、「会社員(団体職員を含む)」(20.5%)、「主婦(夫)」(19.5%)の順となっています。

問 1-5



家族の人数については、「2人」(26.7%)、「3人」(25.0%)、「5人以上」(22.6%)の順となっています。

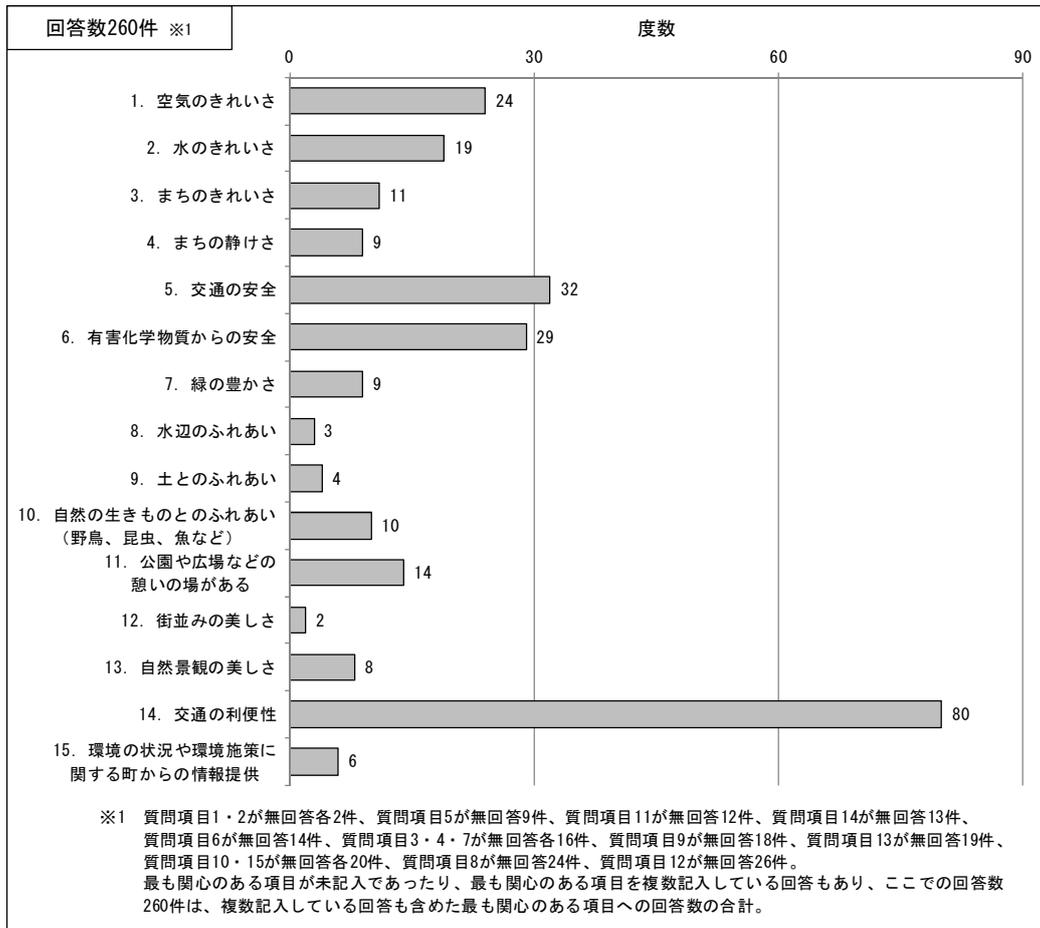
問 1-6



居住地については、「伊草地区市街化区域」が25.5%と最も多く、次いで「中山地区市街化区域」(24.8%)、「三保谷地区」(10.7%)の順となっています。

## 2. あなたの身近な環境に対する意識について

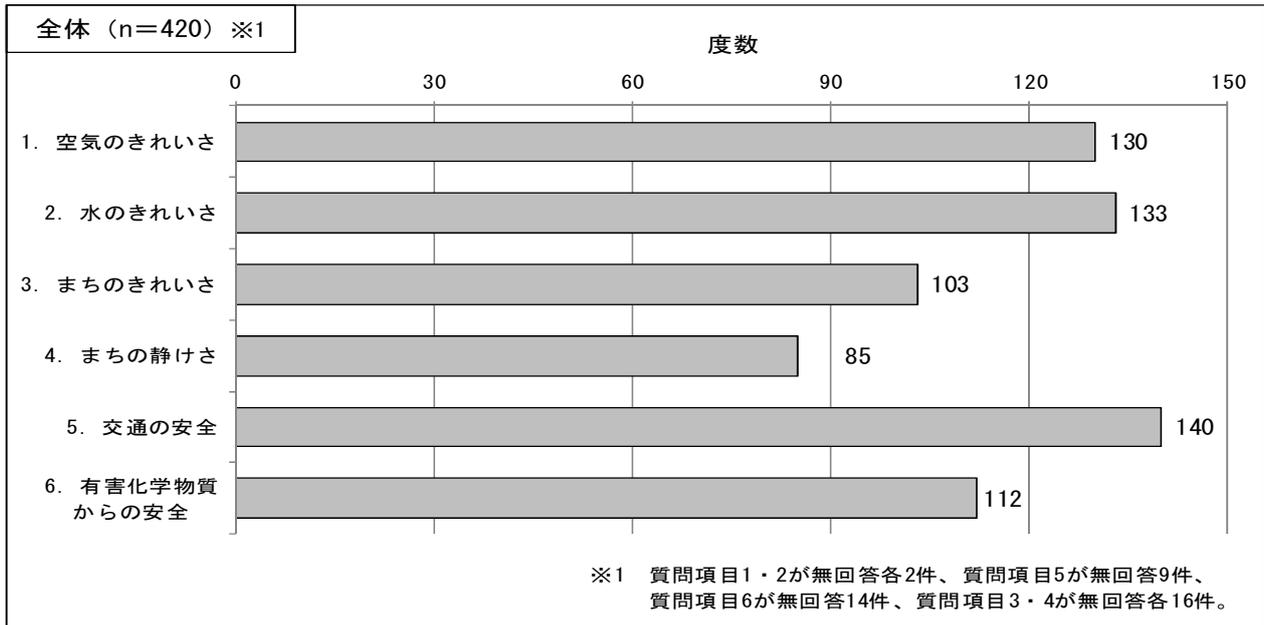
- 最も関心のある環境



すべての項目の中で最も関心のあるものとして、「交通の利便性」が80件と最も多くなっており、その次に多い項目が「交通の安全」(32件)であることから、交通環境に対する関心が特に高くなっていることがわかります。

(1) 生活環境について

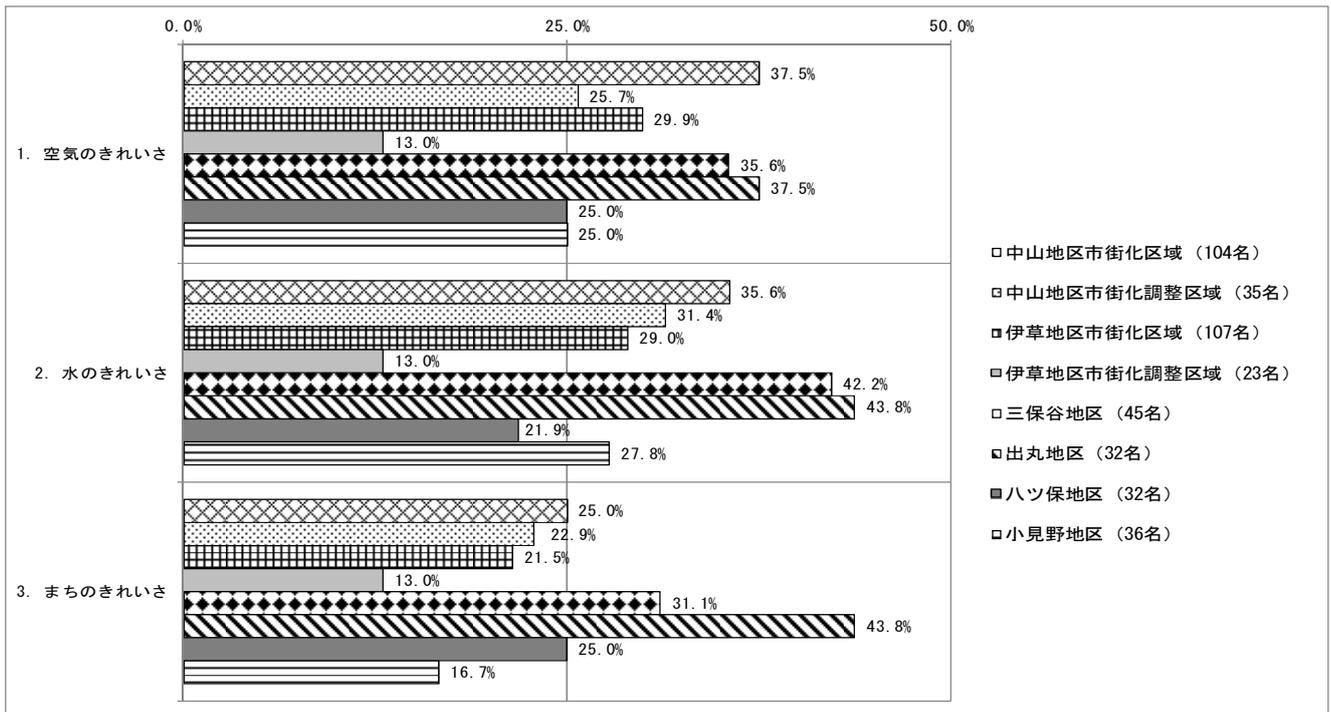
■ 関心度



生活環境の関心度については、「交通の安全」（140件）、「水のきれいさ」（133件）、「空気のきれいさ」（130件）の順に関心度が高くなっています。「まちの静けさ」を除く項目で、関心度が100件を超えています。

生活環境の関心度について、回答者の居住地区別の相違を以下に示します（各居住地区の回答者数に占める関心を持っている人の割合）。

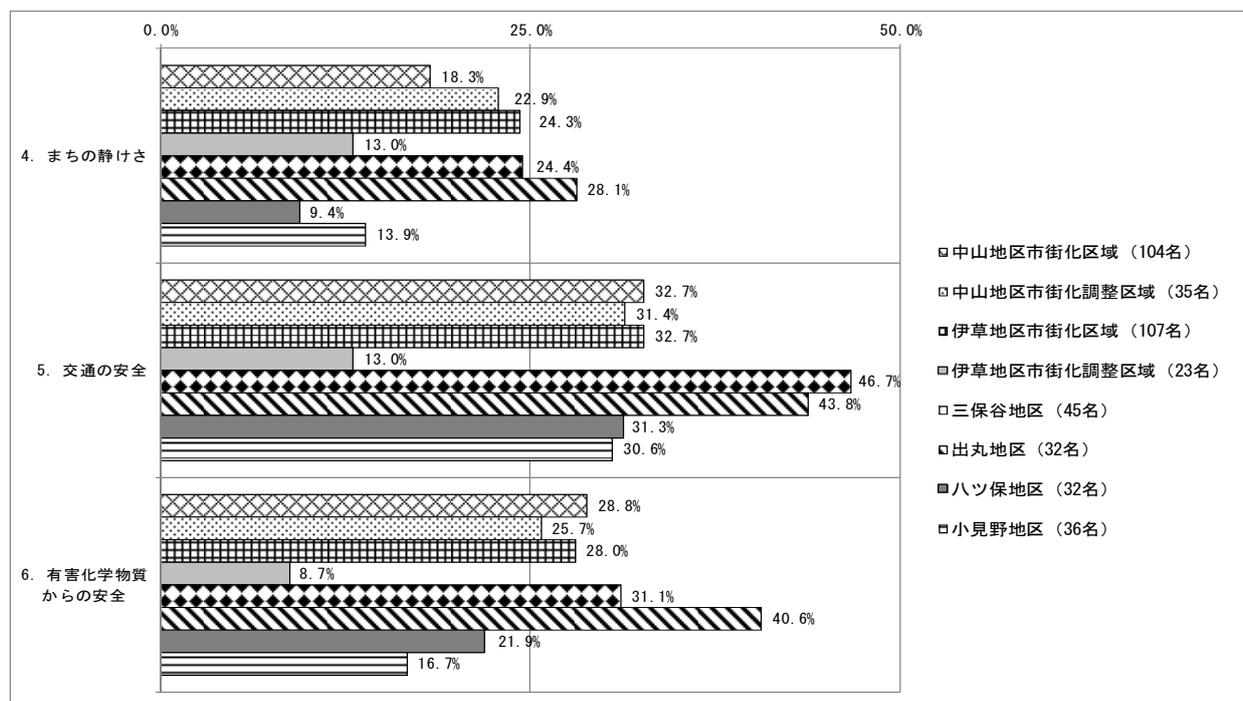
下図は、きれいさ（質問項目1～3）に関する居住地区別の関心度の違いを示した図です。



「空気のきれいさ」と「水のきれいさ」については、中山地区市街化区域、三保谷地区、出丸地区において、3分の1を超える回答者が関心を持っています。

「まちのきれいさ」については、関心を持っている回答者の割合が最も高いのは出丸地区（43.8%）であり、次いで三保谷地区（31.1%）、中山地区市街化区域・八ツ保地区（25.0%）の順となっています。

下図は、静けさ・安全（質問項目4～6）に関する居住地区別の関心度の違いを示した図です。

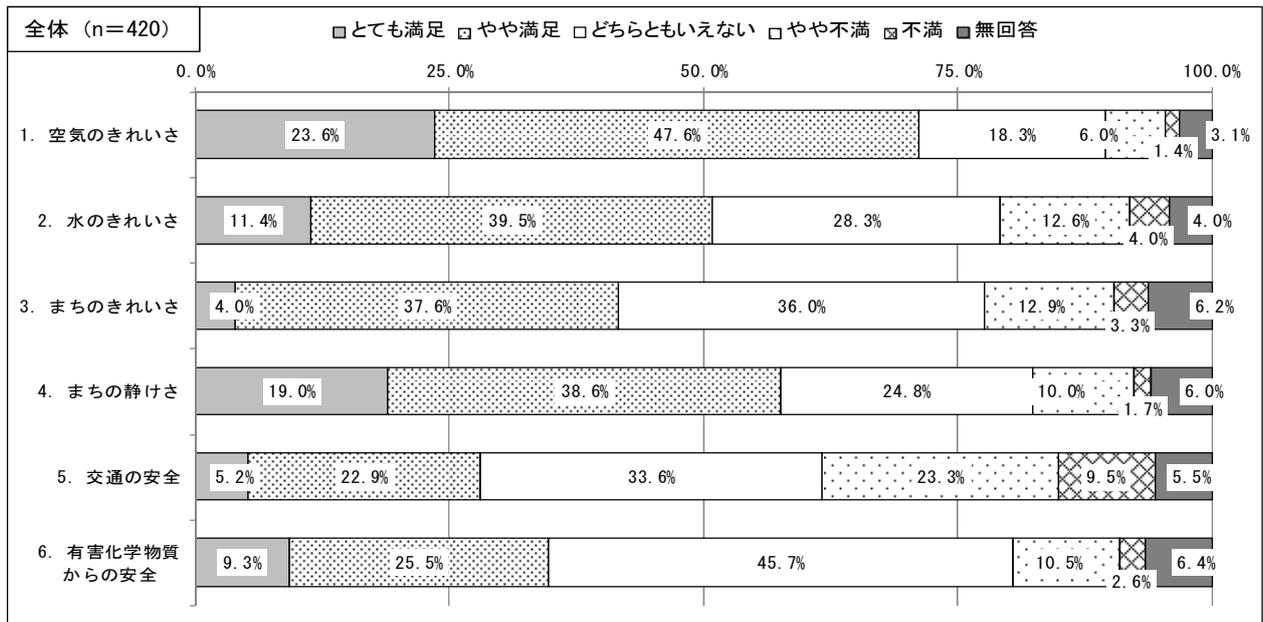


「まちの静けさ」については、すべての地区で関心を持っている回答者の割合が30%より低くなっています。

「交通の安全」については、伊草地区市街化調整区域を除く地区で30%を超える回答者が関心を持っていますが、その中で三保谷地区（46.7%）と出丸地区（43.8%）の割合が他地域よりも高くなっています。

「有害化学物質からの安全」については、出丸地区（40.6%）が関心を持っている回答者の割合が最も高くなっています。

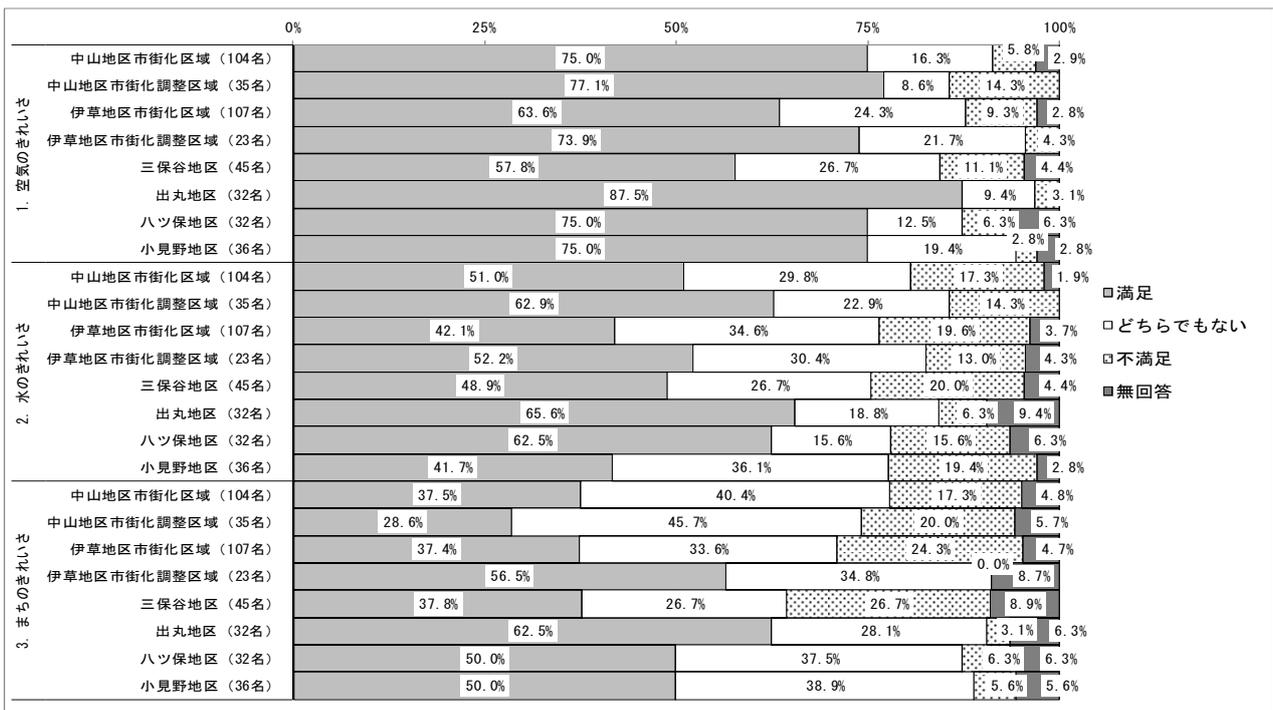
■ 満足度



生活環境の満足度に関しては、「とても満足」と「やや満足」の合計が、「空気のきれいさ」(71.2%)、「まちの静けさ」(57.6%)、「水のきれいさ」(50.9%)の順で高くなっており、自然やまちの静けさに対する満足度が高くなっています。一方、関心度が高かった「交通の安全」については、「とても満足」と「やや満足」の合計が28.1%と最も低くなっています。

生活環境の満足度について、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める満足度（「とても満足」と「やや満足」の合計）の割合と不満足度（「不満」と「やや不満」の合計）の割合の相違を以下に示します。

下図は、きれいさ（質問項目1～3）に関する居住地区別の満足度の違いを示した図です。

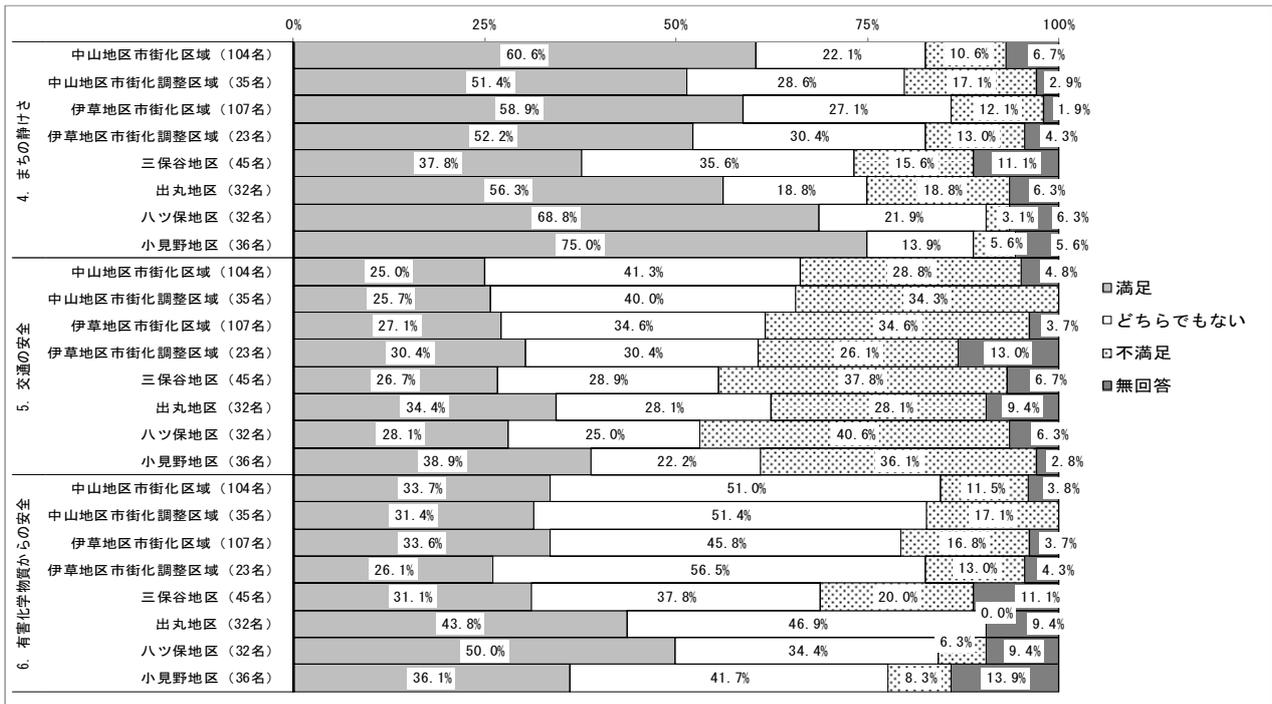


「空気のきれいさ」については、すべての地区で「満足」の割合が50%を超えています。出丸地区において「満足」が87.5%と特に高くなっています。

「水のきれいさ」については、出丸地区が65.5%と最も満足度が高く、次いで中山地区市街化調整区域(62.9%)、八ツ保地区(62.6%)の順となっています。

「まちなかのきれいさ」についても、出丸地区(62.5%)の満足度が最も高くなっており、出丸地区におけるきれいさに関する生活環境の満足度が高いことが見てとれます。

下図は、静けさ・安全(質問項目4~6)に関する居住地区別の満足度の違いを示した図です。

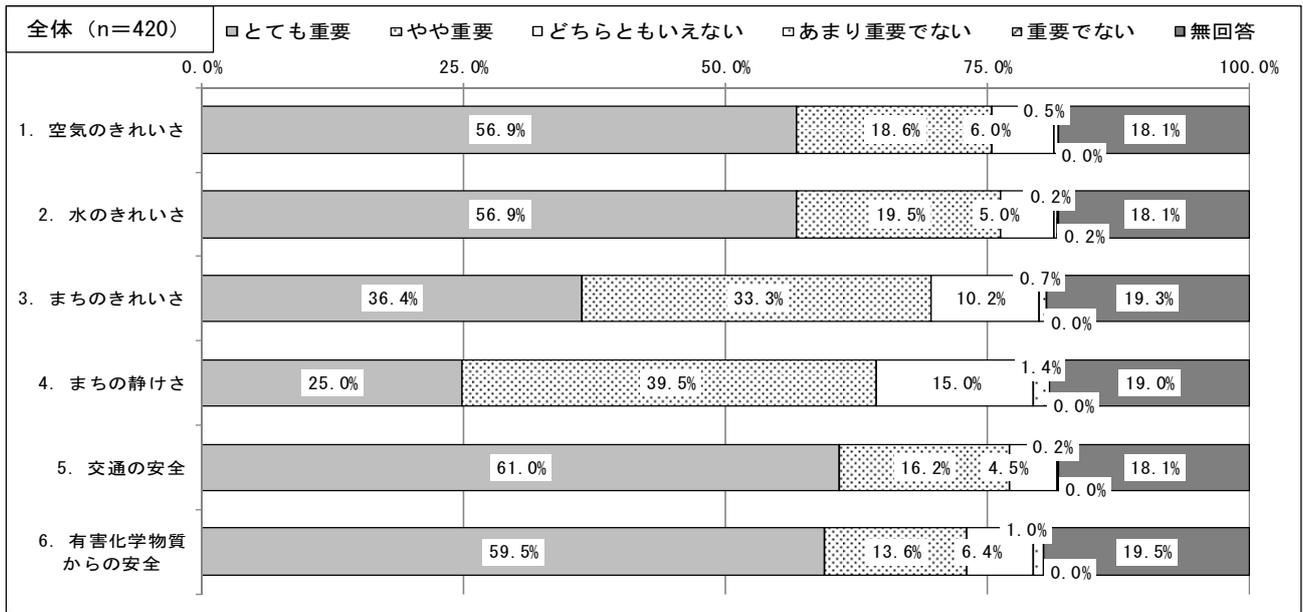


「まちなかの静けさ」については、「満足」に関しては小見野地区が75.0%と最も高く、三保谷地区が37.8%と最も低くなっています。「不満足」に関しては、出丸地区(18.8%)と中山地区市街化調整区域(17.1%)が他の地区と比べて高くなっています。

「交通の安全」については、生活環境の他の質問項目と比較して、「不満足」の割合が高くなっています。「不満足」に関しては、八ツ保地区が40.6%と最も高く、次いで三保谷地区(37.8%)、小見野地区(36.1%)の順で高くなっています。

「有害化学物質からの安全」については、「満足」に関して八ツ保地区が50.0%と最も高く、次いで出丸地区(43.8%)、小見野地区(36.1%)の順となっています。

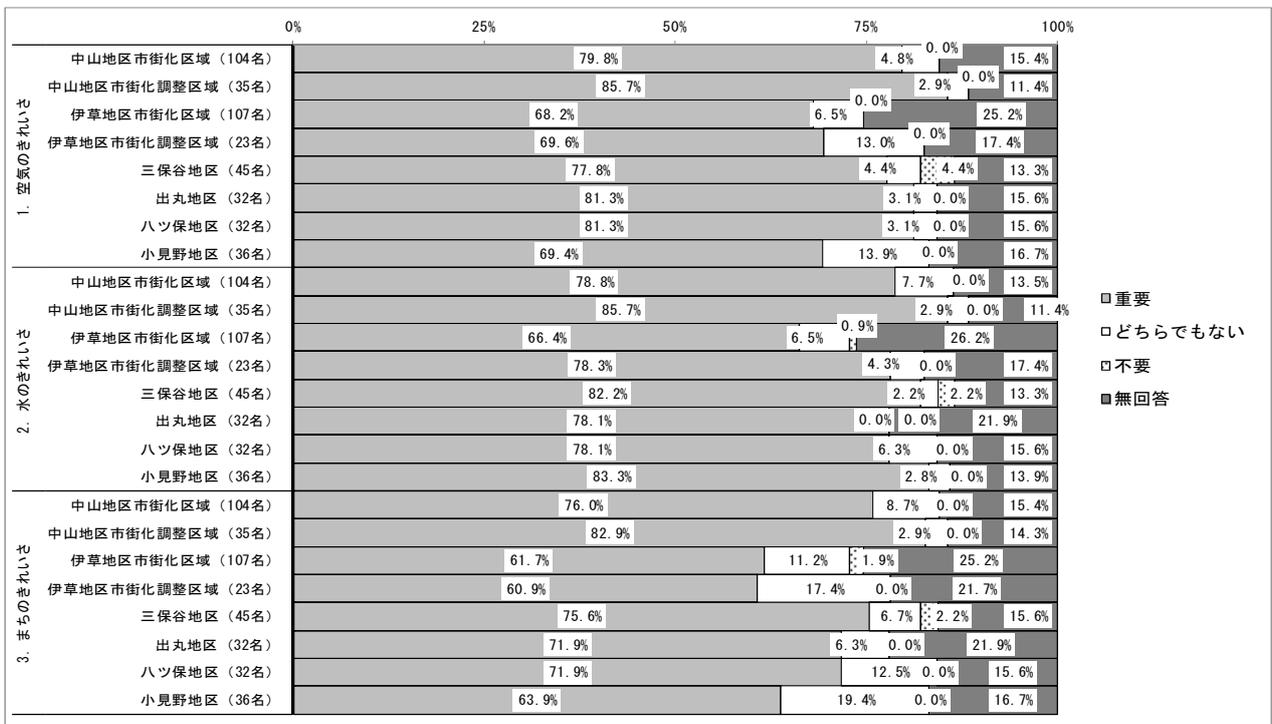
■ 重要度



生活環境の重要度に関しては、「とても重要」と「やや重要」の合計が「交通の安全」が77.1%と最も高く、次いで「水のきれいさ」(76.4%)、「空気のきれいさ」(75.5%)の順となっています。

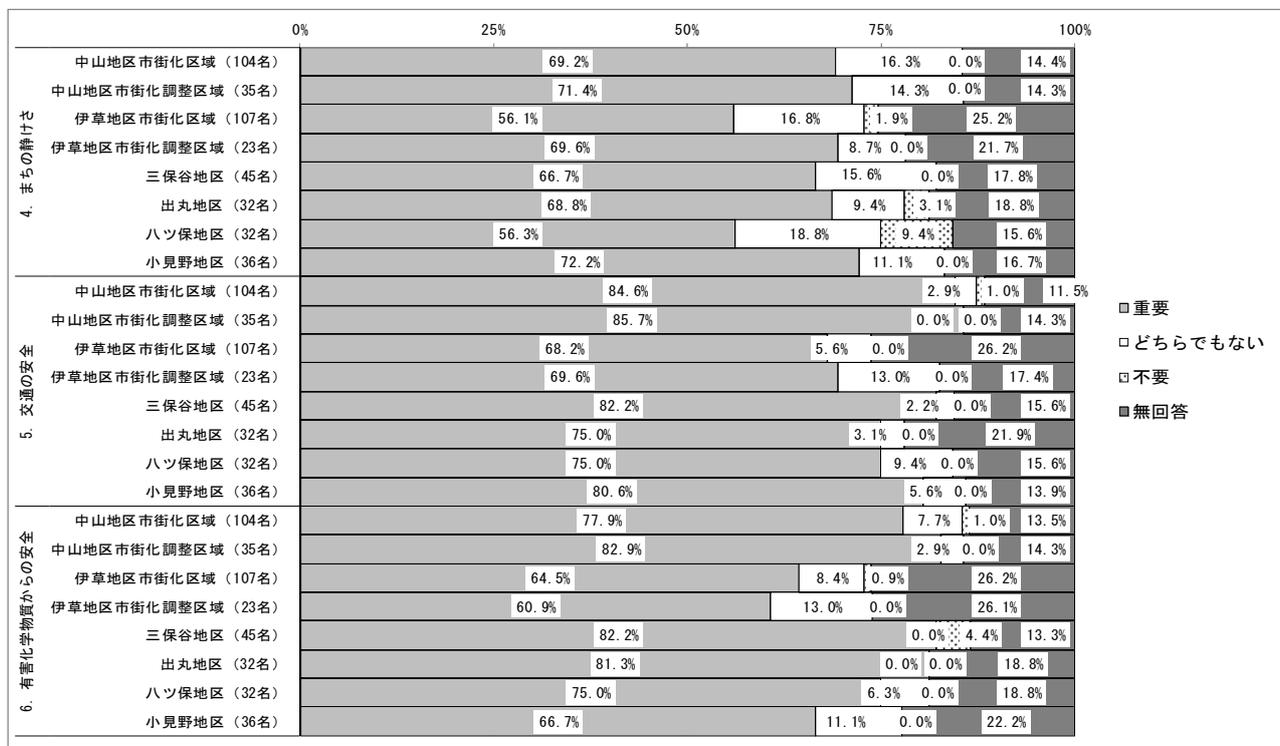
生活環境の重要度について、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める重要度（「とても重要」と「やや重要」の合計）の割合と不要度（「重要ではない」と「あまり重要でない」の合計）の割合の相違を以下に示します。

下図は、きれいさ（質問項目1～3）に関する居住地区別の重要度の違いを示した図です。



「空気のきれいさ」、「水のきれいさ」、「まちのきれいさ」について、重要であるとの回答の割合はすべての地区で60%以上であり、地区によらず「重要」と考える回答者が大半であることがわかります。

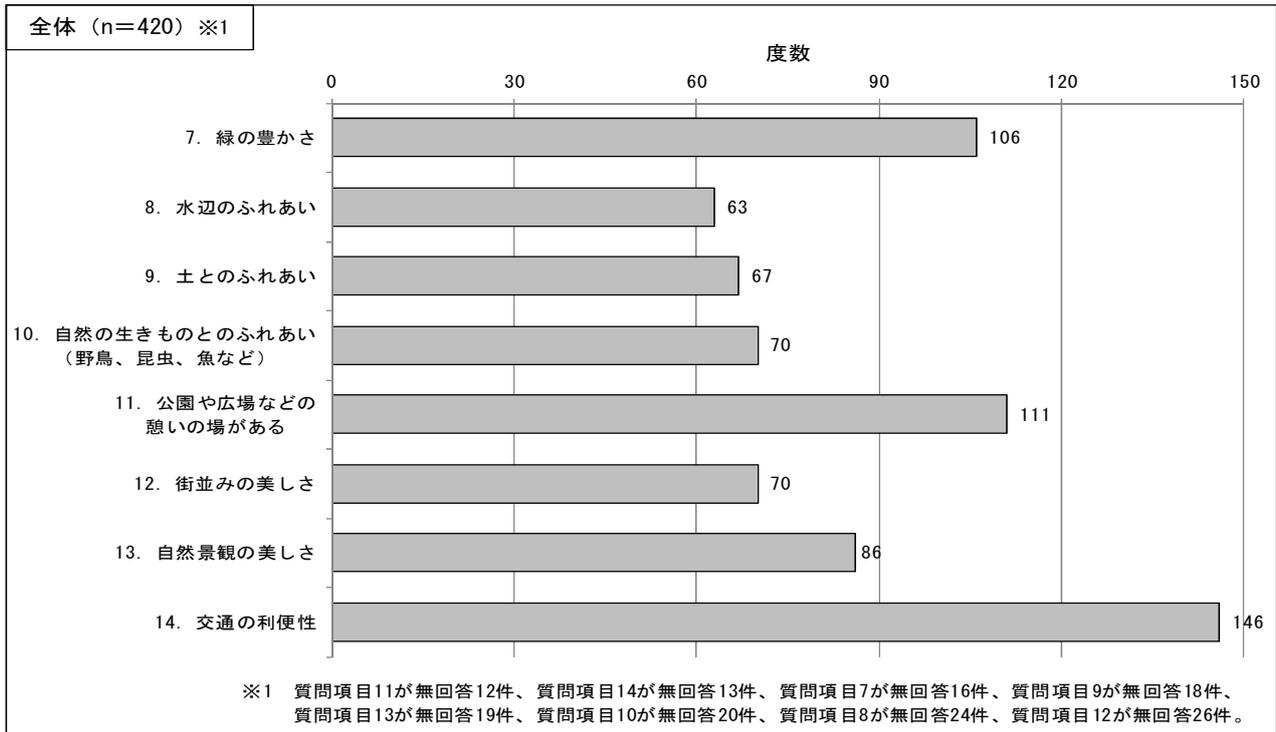
下図は、静けさ・安全（質問項目4～6）に関する居住地区別の重要度の違いを示した図です。



「まちの静けさ」、「交通の安全」、「有害化学物質からの安全」についても、ほとんどの地域で「重要」が60%を超えています。生活環境に関するすべての質問項目に関して、地域に関係なく重要であると考えている回答者が多いことがわかります。

(2) 自然環境や快適環境について

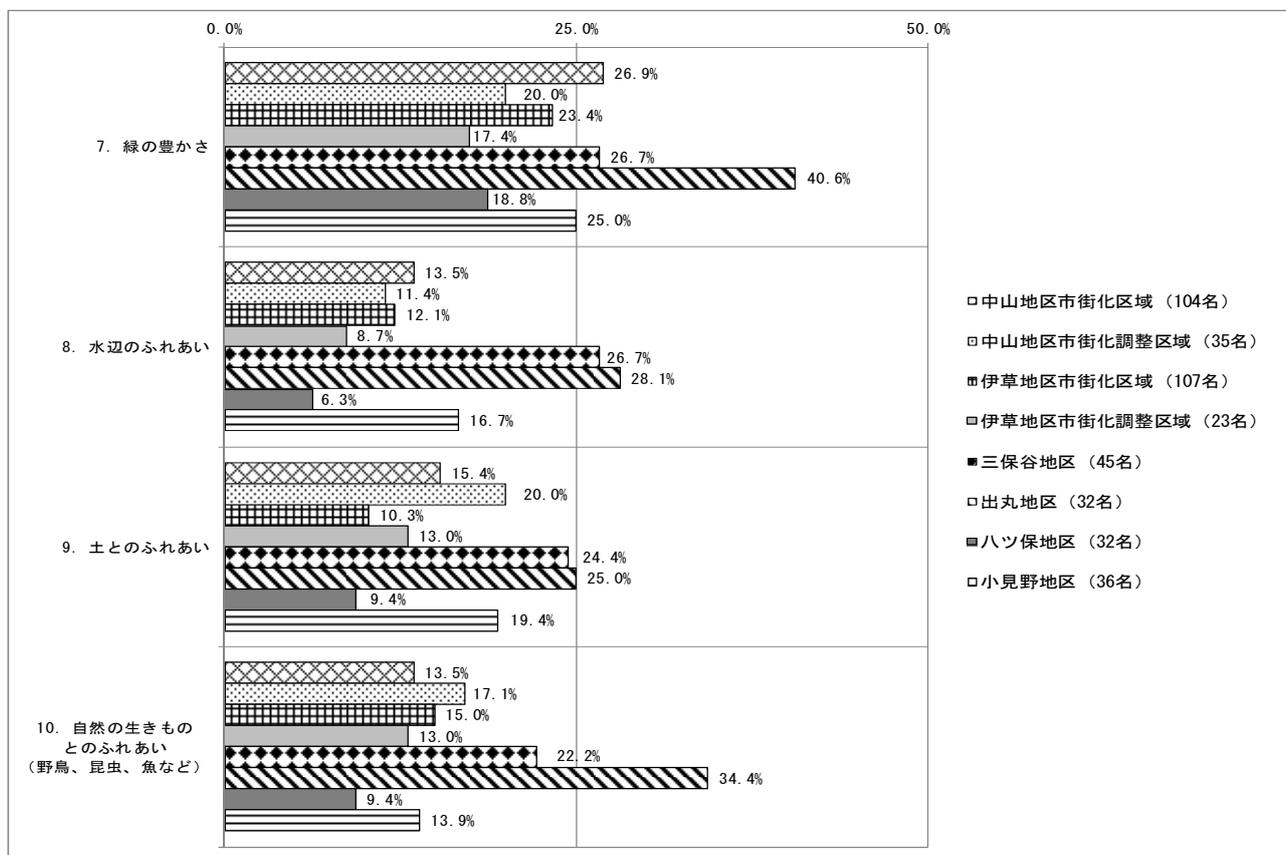
■ 関心度



自然環境や快適環境の関心度については、「交通の利便性」が146件と最も関心度が高くなっています。また、町民の憩いの場（「公園や広場などの憩いの場がある」(111件)）や、自然環境の良さ（「緑の豊かさ」(106件)、「自然景観の美しさ」(86件)）に対する関心度も高くなっています。

自然環境や快適環境の関心度について、回答者の居住地区別の相違を以下に示します（各居住地区の回答者数に占める関心を持っている人の割合）。

下図は、自然の豊かさ・ふれあい（質問項目 7～10）に関する居住地区別の関心度の違いを示した図です。

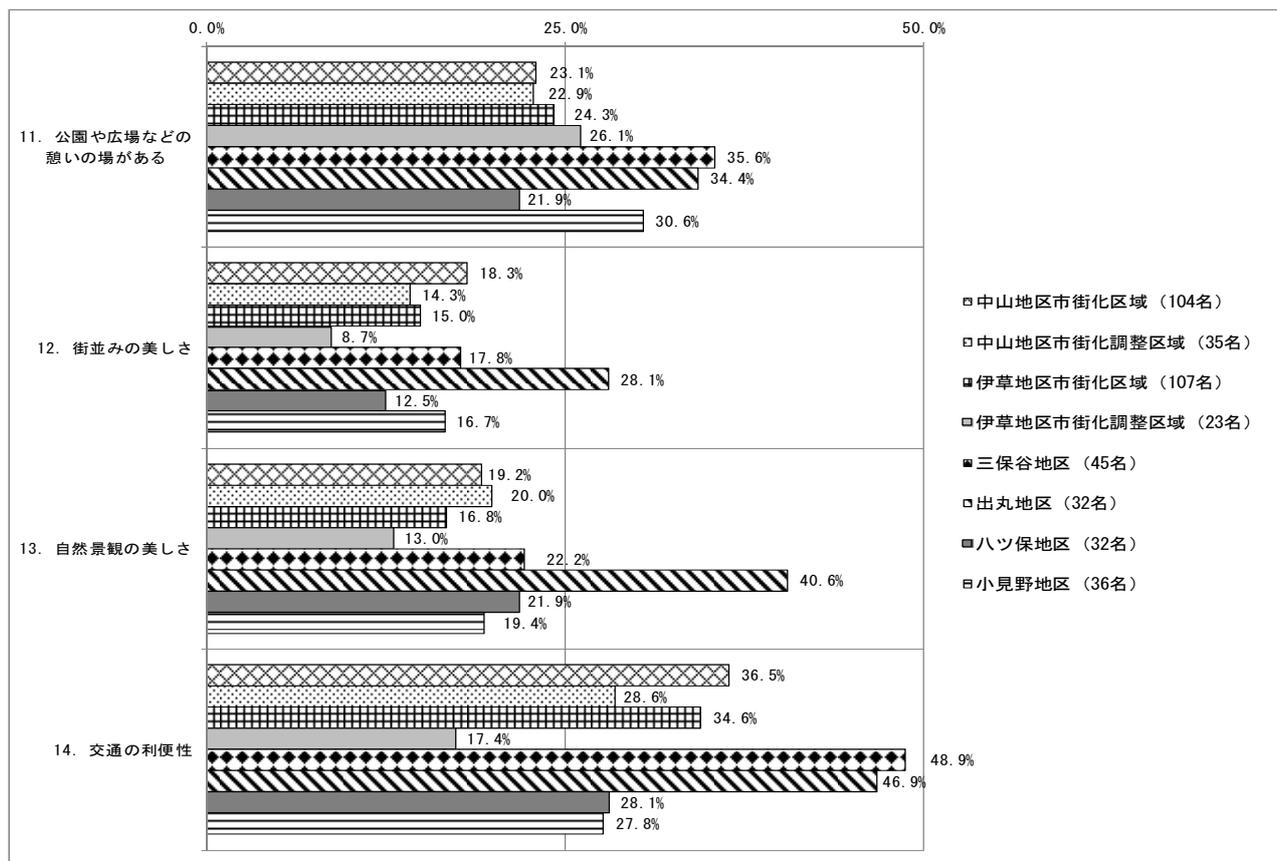


「緑の豊かさ」については、関心を持っている回答者の割合が、出丸地区において 40.6%と他の地区と比較して特に高くなっています。

「水辺のふれあい」と「土とのふれあい」については、出丸地区と八ツ保地区において、関心を持っている回答者の割合が他地区よりも高くなっていますが、30%を超える地区はなく、全体的に関心の度合いは低いといえます。

「自然の生きものとのふれあい（野鳥、昆虫、魚など）」については、全体的に関心をもっている回答者の割合が低い中で、出丸地区は 34.4%と他地区よりも高くなっています。

下図は、快適さ（質問項目 11～14）に関する居住地区別の関心度の違いを示した図です。



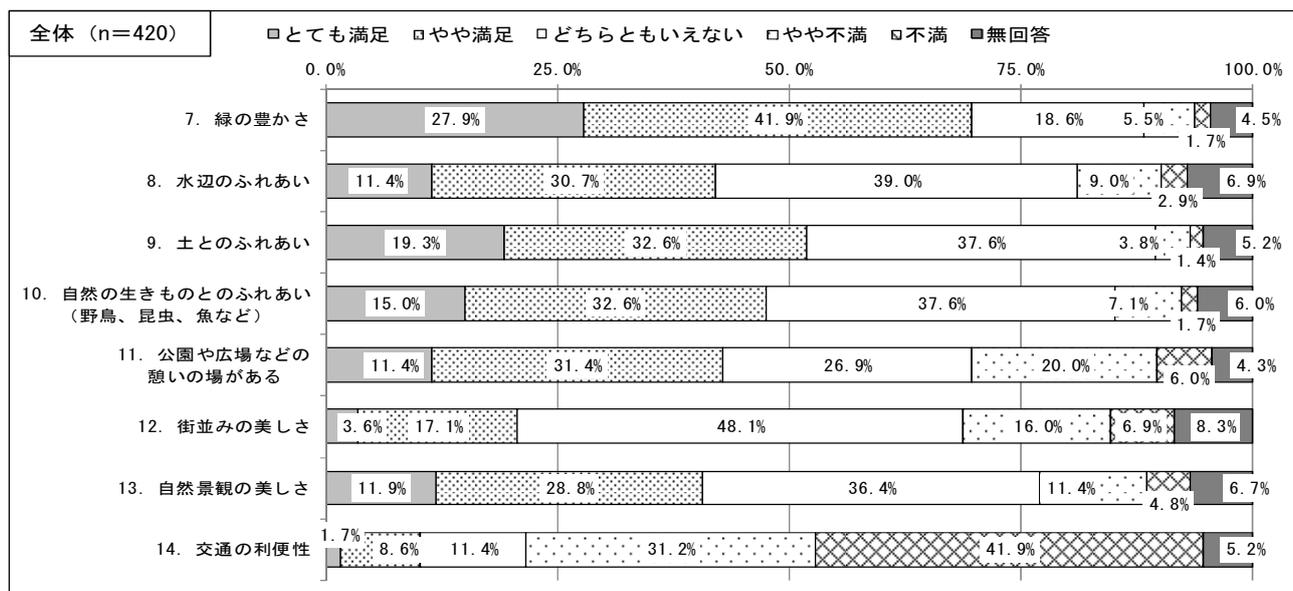
「公園や広場などの憩いの場がある」については、三保谷地区（35.6%）において関心を持っている回答者の割合が最も高く、次いで出丸地区（34.4%）、小見野地区（30.6%）の順となっています。

「街並みの美しさ」については、出丸地区（28.1%）において関心を持っている回答者の割合が最も高く、他の地区の割合は20%より低くなっています。

「自然景観の美しさ」については、全体的に関心を持っている回答者の割合が10%強～20%強である中で、出丸地区は40.6%と特に高くなっています。

「交通の利便性」については、三保谷地区（48.9%）と出丸地区（46.9%）において関心を持っている回答者の割合が50%近くとなっています。他の質問項目と比較すると、関心を持っている回答者の割合が高い傾向がありますが、伊草地区市街化調整区域は17.4%と他の地区と比較すると関心度が低くなっています。

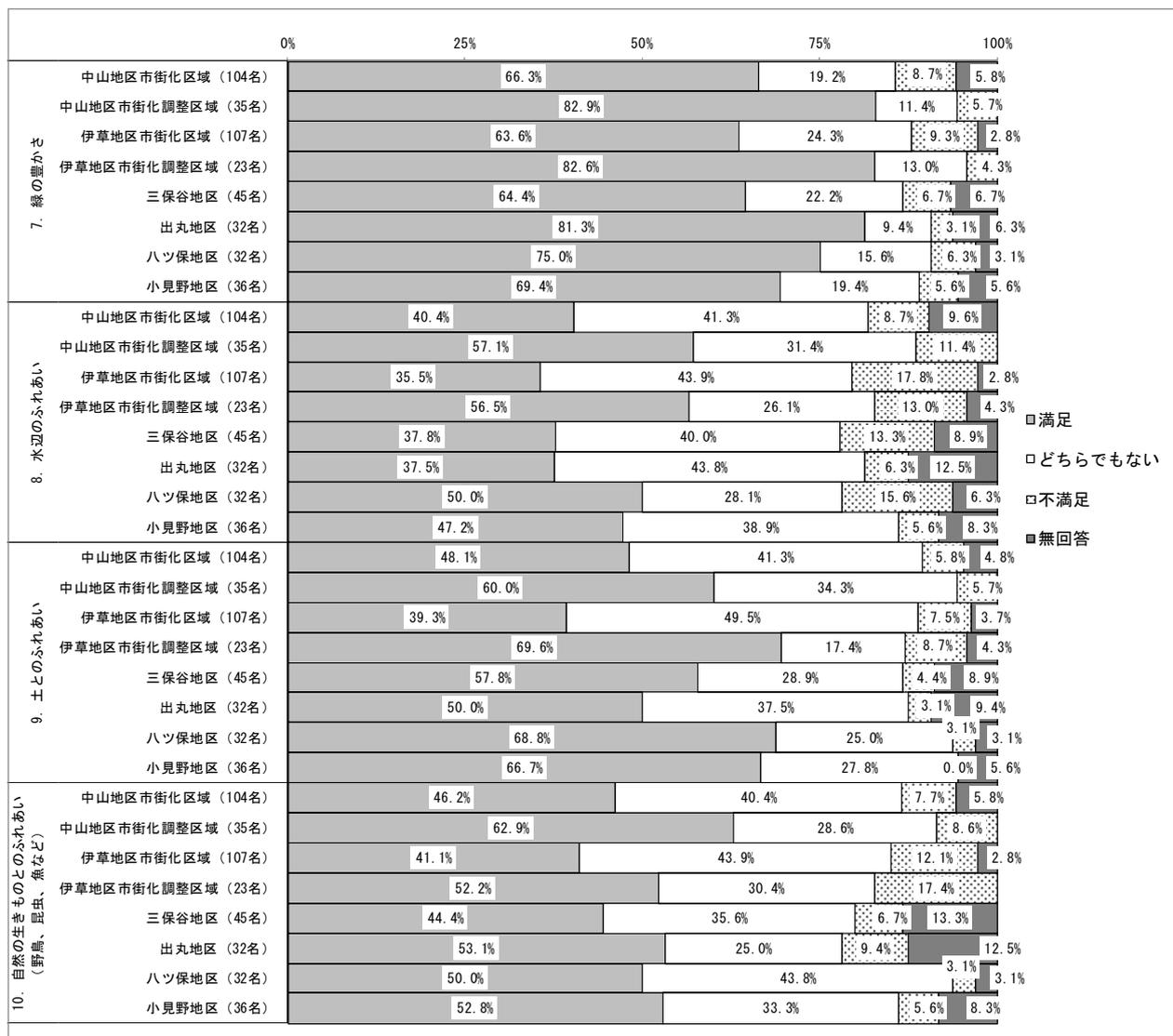
## ■ 満足度



自然環境や快適環境の満足度に関しては、「とても満足」と「やや満足」の合計が「緑の豊かさ」(69.8%)が最も高く、次いで「土とのふれあい」(51.9%)、「自然の生きものとのふれあい(野鳥、昆虫、魚など)」(47.6%)の順となっています。関心度が高かった「交通の利便性」については、「とても満足」と「やや満足」の合計が10.3%にすぎず、逆に「不満」と「やや不満」の合計が73.1%となっています。このことより、交通の利便性の満足度の低さから関心度が高くなったものと考えられます。

自然環境や快適環境の満足度について、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める満足度(「とても満足」と「やや満足」の合計)の割合と不満足度(「不満」と「やや不満」の合計)の割合の相違を以下に示します。

下図は、自然の豊かさ・ふれあい（質問項目 7～10）に関する居住地区別の満足度の違いを示した図です。



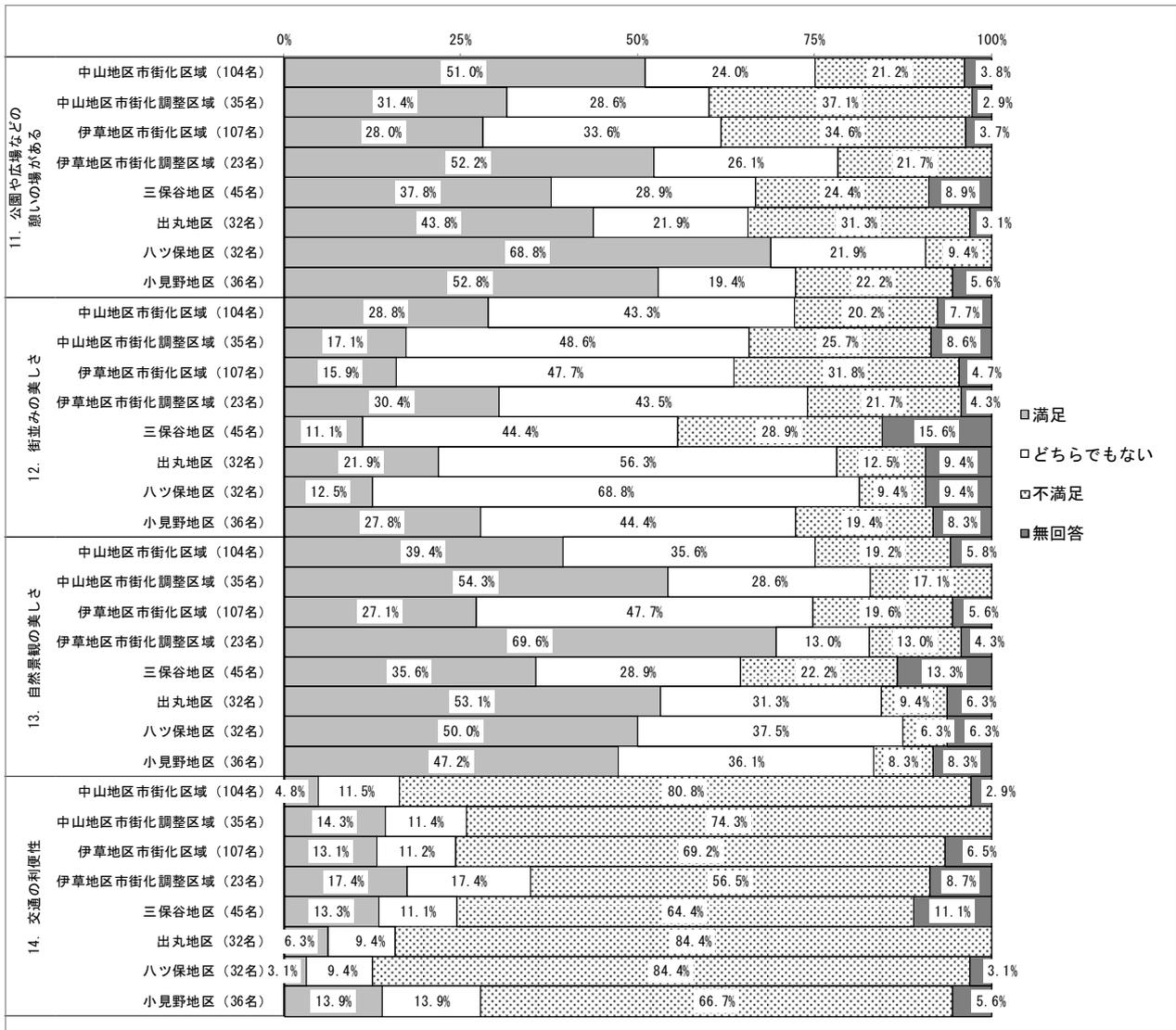
「緑の豊かさ」については、すべての地区で 60%以上の回答者が「満足」と感じており、特に中山地区市街化調整区域 (82.9%)、伊草地区市街化調整区域 (82.6%)、出丸地区 (81.3%) において「満足」の割合が 80%を超えています。

「水辺のふれあい」については、中山地区市街化調整区域 (57.1%) において「満足」の割合が最も高く、次いで伊草地区市街化調整区域 (56.5%)、八ツ保地区 (50.0%) の順となっています。

「土とのふれあい」については、「水辺のふれあい」において「満足」の割合が高かった 3 地域に加え、小見野地区においても「満足」の割合が 60%を超えています。

「自然の生きものとのふれあい」については、中山地区市街化調整区域 (62.9%) において「満足」の割合が最も高く、次いで出丸地区 (53.1%)、小見野地区 (52.8%) の順となっています。

下図は、快適さ（質問項目 11～14）に関する居住地区別の満足度の違いを示した図です。



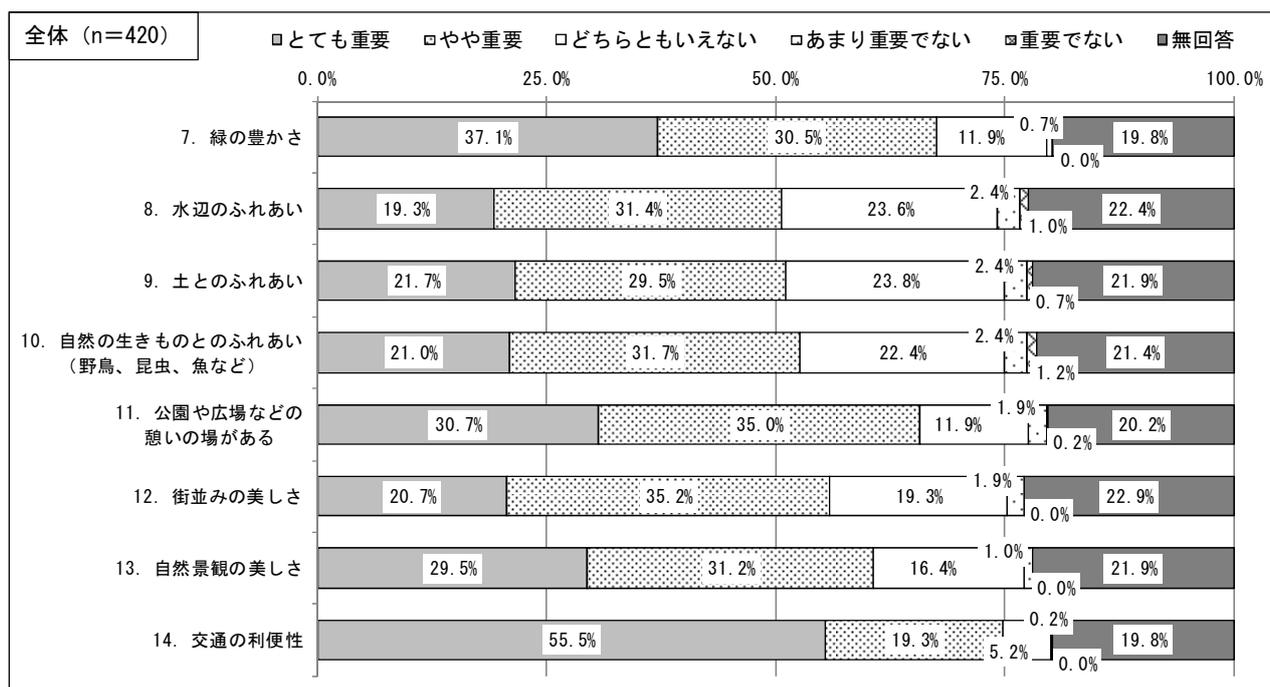
「公園や広場などの憩いの場がある」については、八ツ保地区を除いて「不満足」の割合が 20%を超えており、自然の豊かさ・ふれあい（質問項目 7～10）と比較すると高くなっています。

「街並みの美しさ」については、全体的に「どちらでもない」の割合が高くなっていますが、中山地区市街化調整区域、伊草地区市街化区域、三保谷地区において、「満足」よりも「不満足」の割合が高くなっています。

「自然景観の美しさ」については、伊草地区市街化調整区域において「満足」の割合が 69.6%と最も高く、次いで中山地区市街化調整区域（54.3%）、出丸地区（53.1%）の順となっています。

「交通の利便性」については、すべての地区で半数以上の回答者が「不満足」と感じており、「満足」よりも「不満足」の割合がかなり高くなっています。

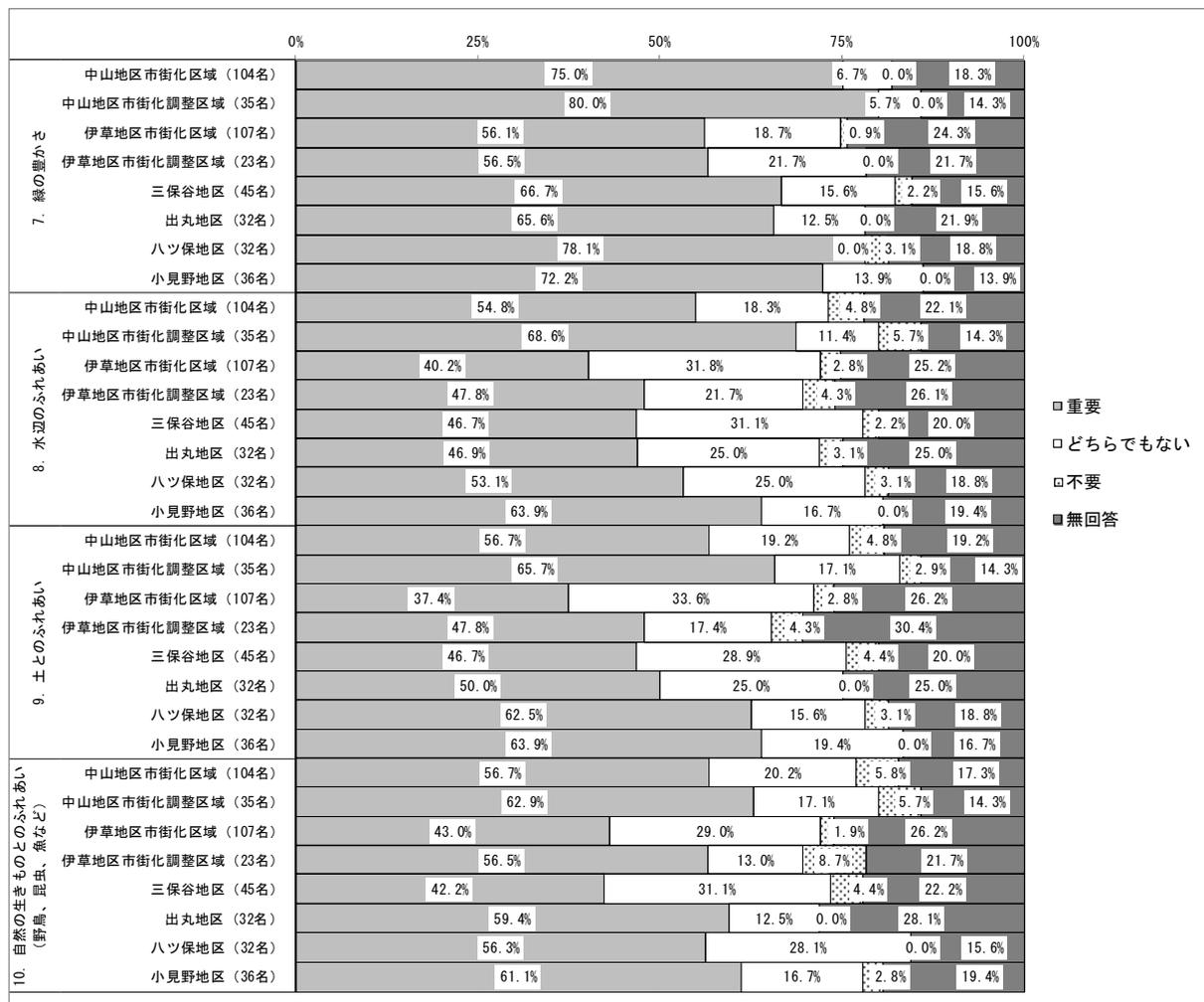
■ 重要度



自然環境や快適環境の重要度に関しては、「とても重要」と「やや重要」の合計が「交通の利便性」(74.8%)、「緑の豊かさ」(67.6%)、「公園や広場などの憩いの場がある」(65.7%)の順で高くなっています。満足度が低かった「交通の利便性」については、「とても重要」との回答が50%を超えており、改善が望まれている環境であることがうかがえます。

自然環境や快適環境の重要度について、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める重要度（「とても重要」と「やや重要」の合計）の割合と不要度（「重要ではない」と「あまり重要でない」の合計）の割合の相違を以下に示します。

下図は、自然の豊かさ・ふれあい（質問項目7～10）に関する居住地区別の重要度の違いを示した図です。

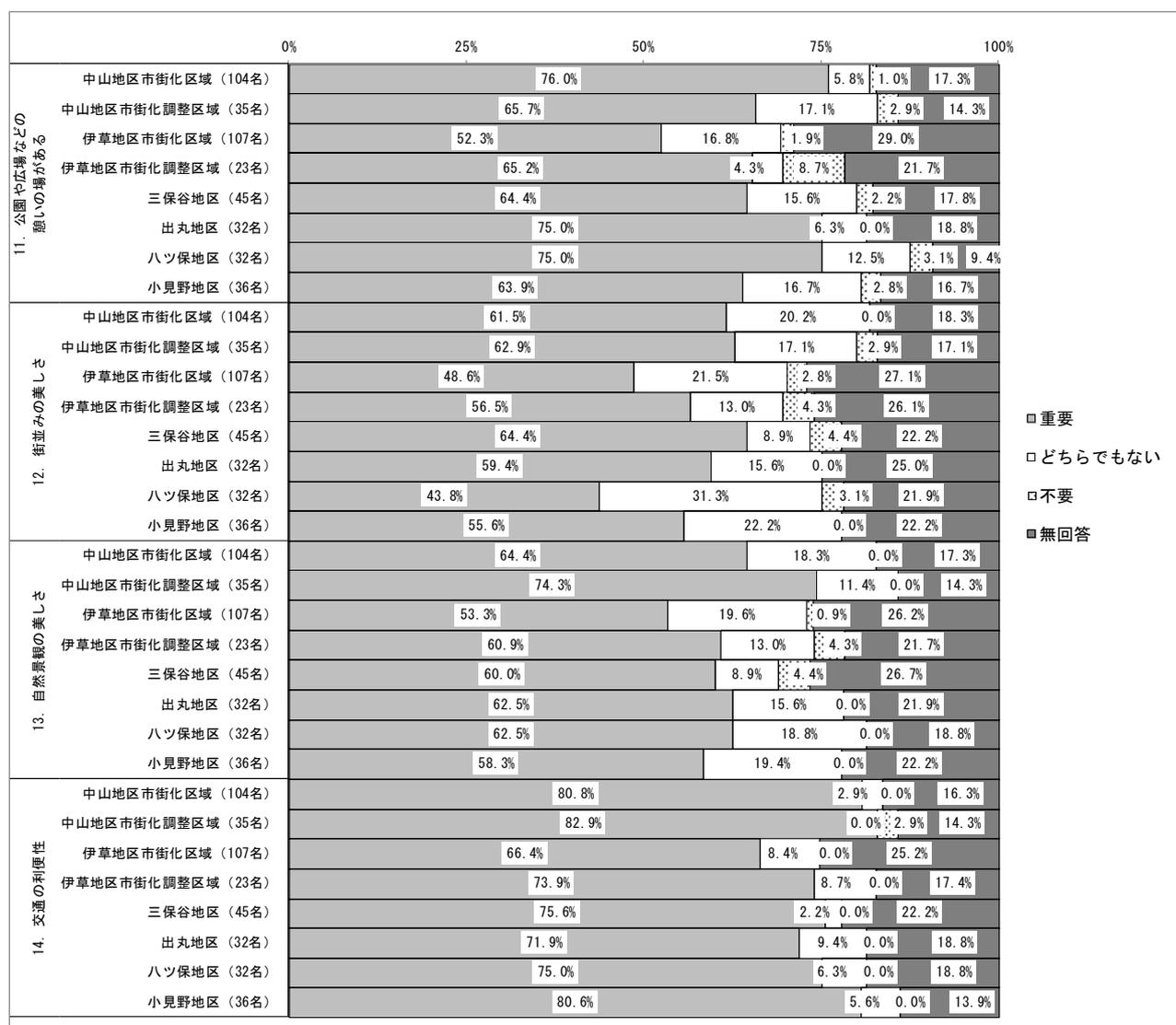


「緑の豊かさ」については、すべての地区で半数以上の回答者が「重要」と考えており、中山地区市街化調整区域（80.0%）や八ツ保地区（78.1%）などで割合が高くなっています。

「水辺のふれあい」と「土とのふれあい」については、中山地区市街化区域、中山地区市街化調整区域、八ツ保地区、小見野地区において「重要」の割合が高く、伊草地区市街化区域が他の地域と比較すると割合が低くなっています。

「自然の生きものとのふれあい」については、「重要」の割合が中山地区市街化調整区域（62.9%）で最も高く、次いで小見野地区（61.1%）、出丸地区（59.4%）の順となっています。

下図は、快適さ（質問項目 11～14）に関する居住地区別の重要度の違いを示した図です。



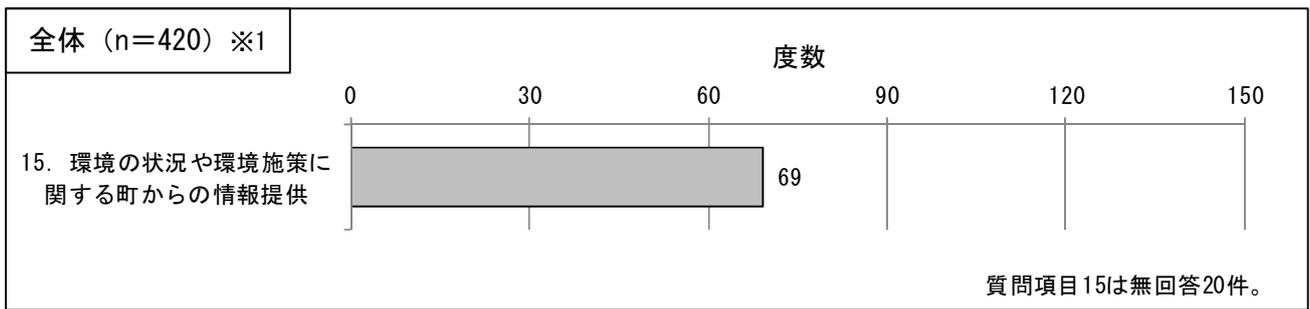
「公園や広場などの憩いの場がある」については、すべての地区で半数以上の回答者が「重要」と答えています。その中でも、中山地区市街化区域（76.0%）、出丸地区・八ツ保地区（75.0%）などで割合が高くなっています。

「街並みの美しさ」については、「重要」の割合は八ツ保地区が64.4%と最も高く、次いで中山地区市街化調整区域（62.9%）、中山地区市街化区域（61.5%）の順となっています。

「自然景観の美しさ」については、すべての地区で「重要」の割合が50%を超えており、中山地区市街化調整区域が74.3%と最も高くなっています。

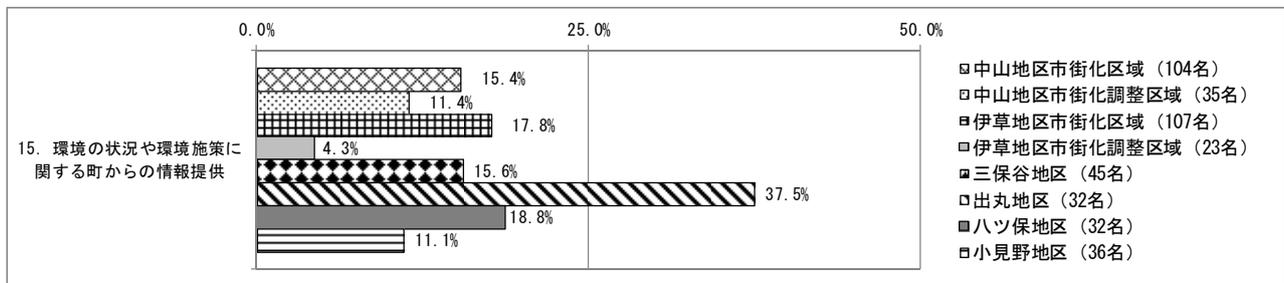
「交通の利便性」については、すべての地区で「重要」の割合が60%を超えています。すべての地区で「交通の利便性」に関する満足度が低かったことから、利便性の向上が望まれていることがうかがえます。

■ 関心度



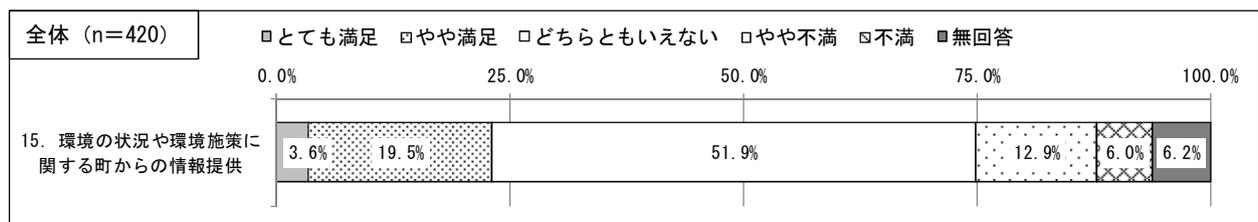
環境情報の提供の関心度については、「環境の状況や環境施策に関する町からの情報提供」が69件となっており、他の項目と比較すると低位にとどまっています。

環境情報の提供の関心度について、回答者の居住地区別の相違を以下に示します（各居住地区の回答者数に占める関心を持っている人の割合）。



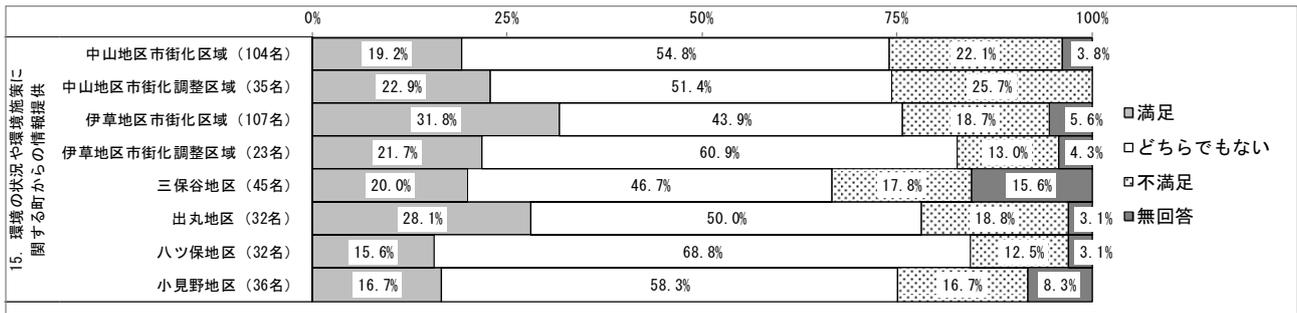
「環境の状況や環境施策に関する町からの情報提供」については、関心を持っている回答者の割合が、出丸地区で37.5%と他の地域と比較して高くなっています。

■ 満足度



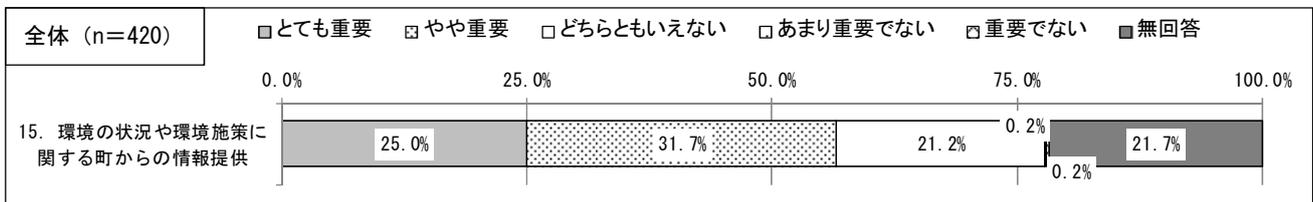
環境情報の提供の満足度に関しては、「とても満足」と「やや満足」の合計が23.1%、「不満」と「やや不満」の合計が18.9%であり、若干、満足度の方が高くなっています。

環境情報の提供の関心度について、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める満足度（「とても満足」と「やや満足」の合計）の割合と不満足度（「不満」と「やや不満」の合計）の割合の相違を示します。



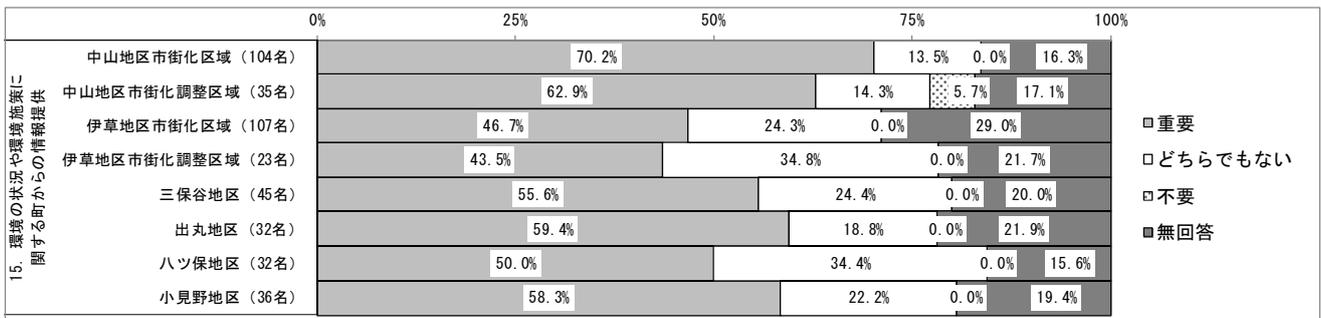
全体的に「どちらでもない」の割合が高くなっていますが、伊草地区市街化区域において「満足」が31.8%と最も高く、次いで出丸地区 (28.1%)、中山地区市街化調整区域 (22.9%) となっています。しかし中山地区市街化調整区域は、「不満足」の割合も25.7%と最も高くなっています。

### ■ 重要度



環境情報の提供の重要度に関しては、「とても重要」と「やや重要」の合計が56.7%となっています。

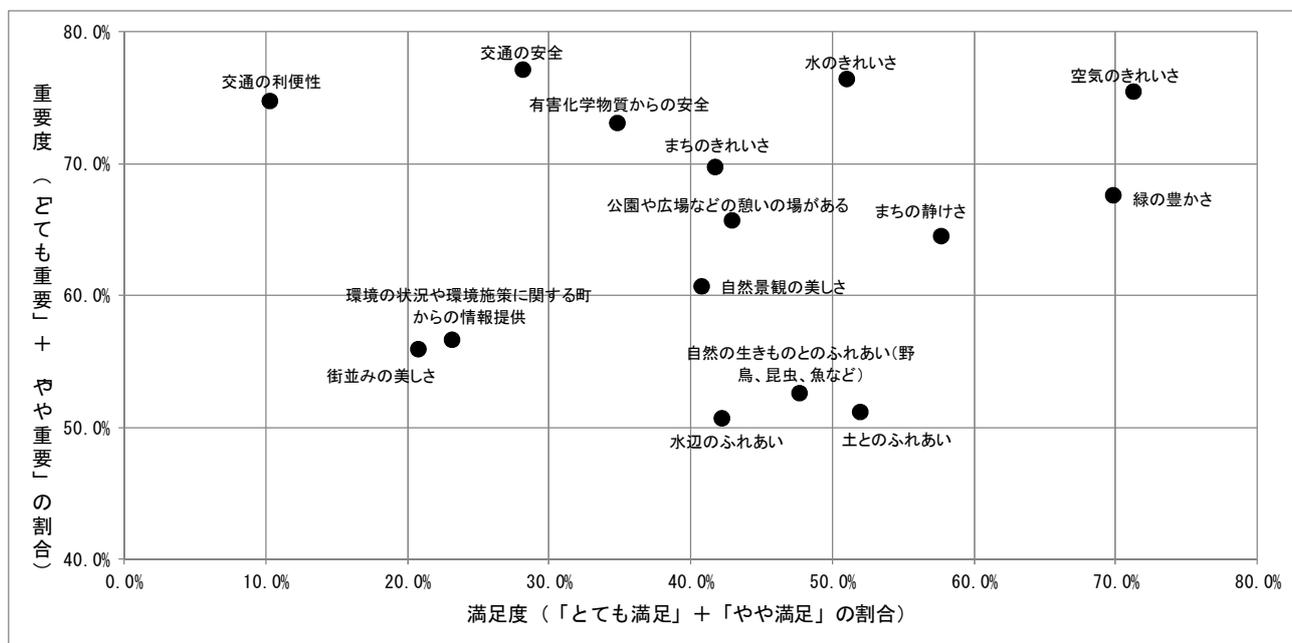
環境情報の提供の重要度について、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める重要度（「とても重要」と「やや重要」の合計）の割合と不要度（「重要ではない」と「あまり重要でない」の合計）の割合の相違を以下に示します。



「重要」の割合は中山地区市街化区域において70.2%と最も高く、次いで中山地区市街化調整区域 (62.9%)、出丸地区 (59.4%) の順となっています。

## ■ 満足度と重要度との相関関係

すべての項目について、満足度（「とても満足」と「やや満足」を合わせた割合）と重要度（「とても重要」と「やや重要」を合わせた割合）の関係を表したものを以下に示します。



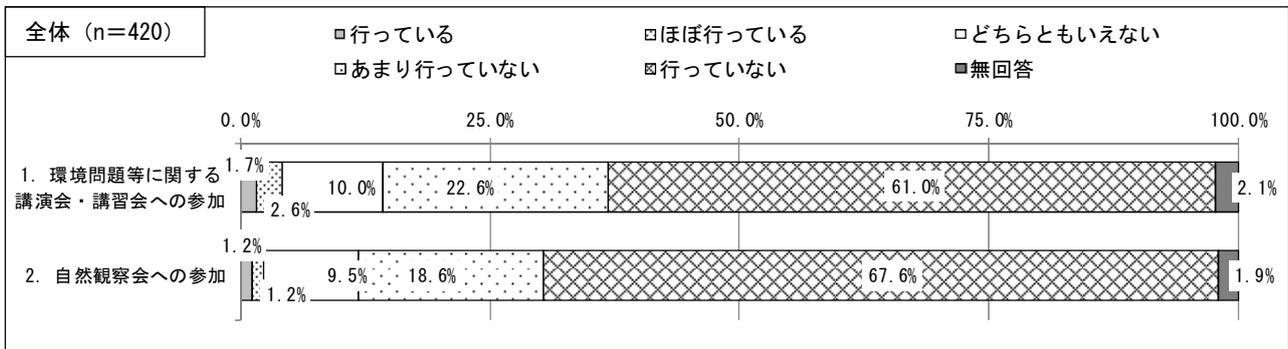
満足度と重要度の関係を見ると、「空気のきれいさ」や「緑の豊かさ」については、満足度も重要度も高く、現状を維持するとともに、さらなる増進の必要性がある項目といえます。

また、交通環境（「交通の利便性」と「交通の安全」）については、重要度が高いにもかかわらず満足度が低くなっており、特に「交通の利便性」はその傾向が顕著に表れています。

### 3. あなたの日頃の環境保全に対する取り組みについて

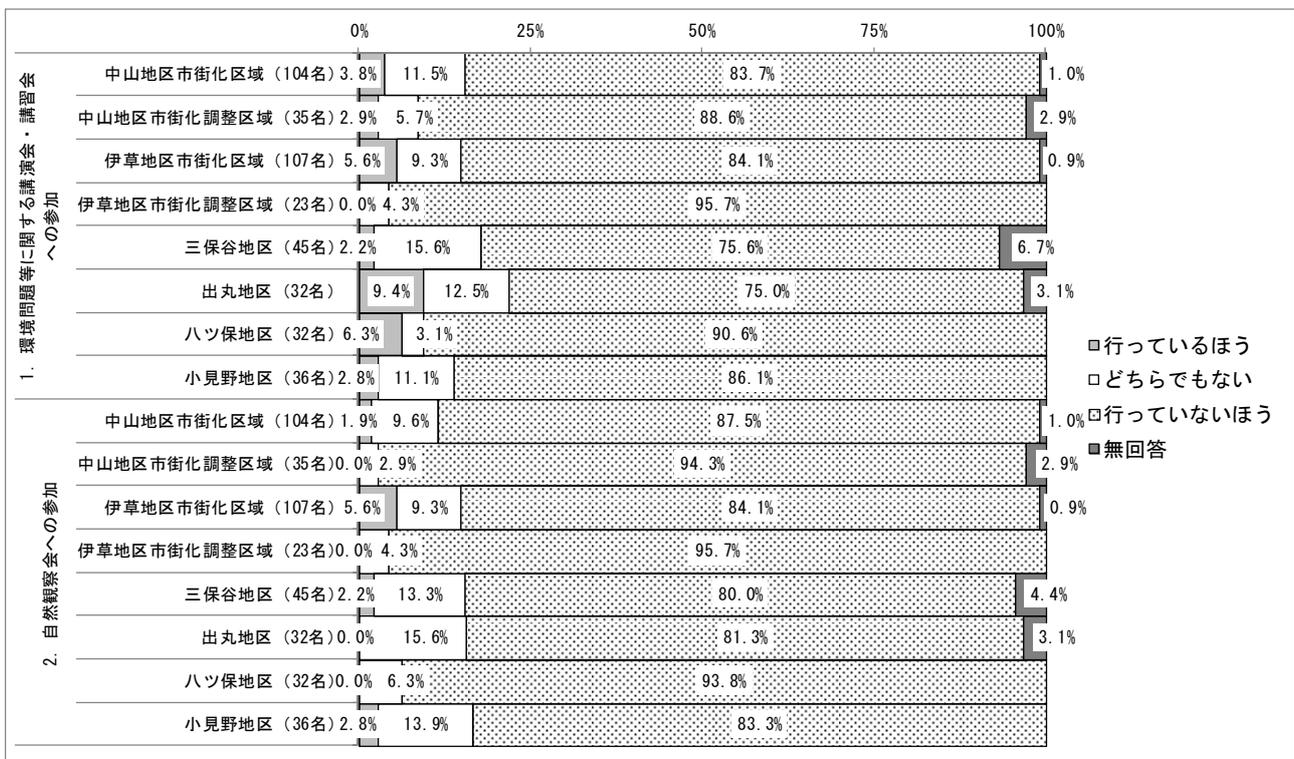
#### 問3-1

##### (1) 講演会・観察会について



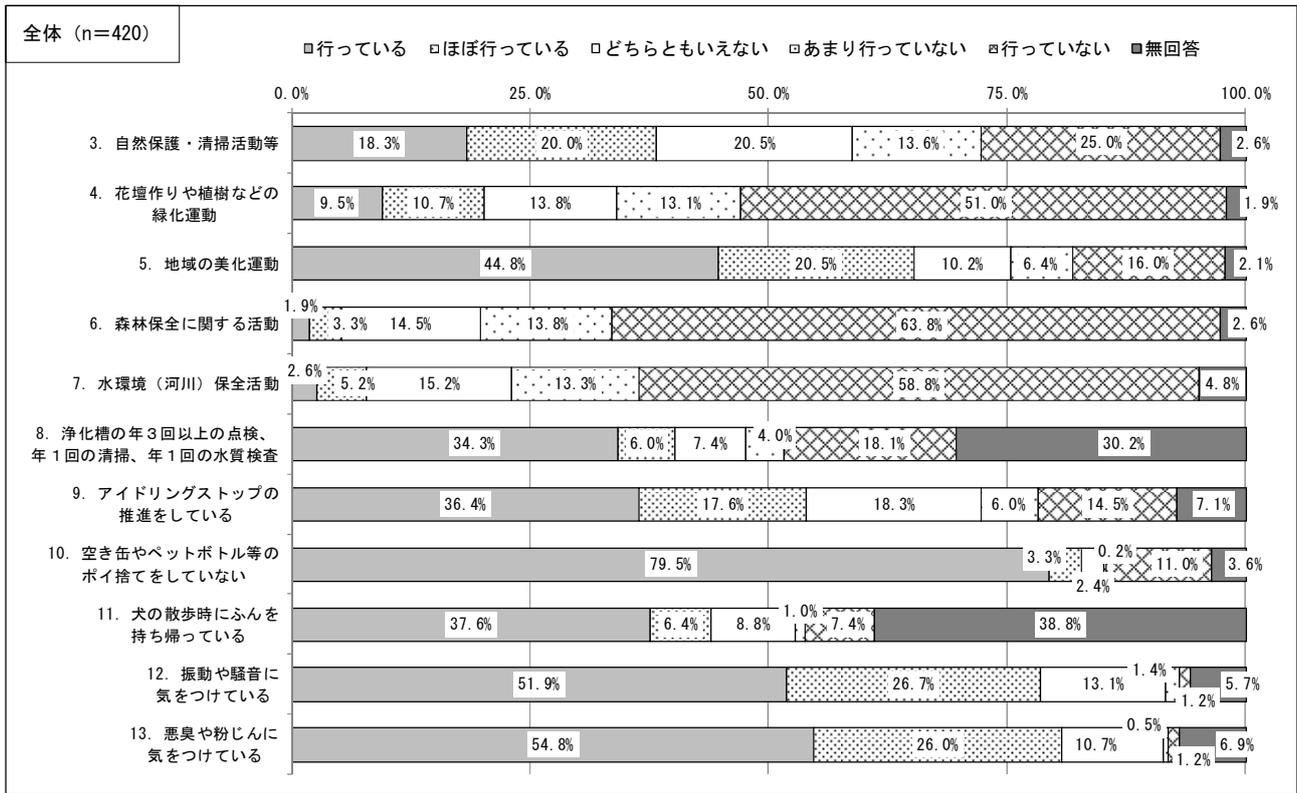
講演会・観察会への取り組みについては、「行っていない」と「あまり行っていない」の合計が、「環境問題等に関する講演会・講習会への参加」は83.6%、「自然観察会への参加」は86.2%となっており、行政等がそのような機会をつくることが重要であると考えられます。

講演会・観察会への取り組みについて、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める取り組み度合いの割合の相違を以下に示します。なお、「行っている」と「ほぼ行っている」の合計の割合を「行っているほう」、「行っていない」と「あまり行っていない」の合計の割合を「行っていないほう」としています。



「環境問題等に関する講演会・講習会への参加」、「自然観察会への参加」ともに、すべての地区で「行っていないほう」の割合が75%以上であり、「行っているほう」の割合が低くなっています。

(2) 自然保護・清掃活動等について



自然保護・清掃活動等への取り組みについては、「行っている」と「ほぼ行っている」の合計が、「空き缶やペットボトル等のポイ捨てをしていない」で82.8%と最も高く、次いで「悪臭や粉じんに気をつけている」（80.8%）、「振動や騒音に気をつけている」（78.6%）の順となっています。日常生活の中で気をつけることで取り組める内容の取り組み度合いが高くなっていることがわかります。

一方、「行っていない」と「あまり行っていない」の合計は、「森林保全に関する活動」（77.6%）や「水環境（河川）保全活動」（72.1%）、「花壇作りや植樹などの緑化運動」（64.1%）が高くなっています。問2では、「空気のきれいさ」や「水のきれいさ」、「緑の豊かさ」の重要度が高くなっています。

自然保護・清掃活動等への取り組みについて、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める取り組み度合いの割合の相違を次ページに示します。

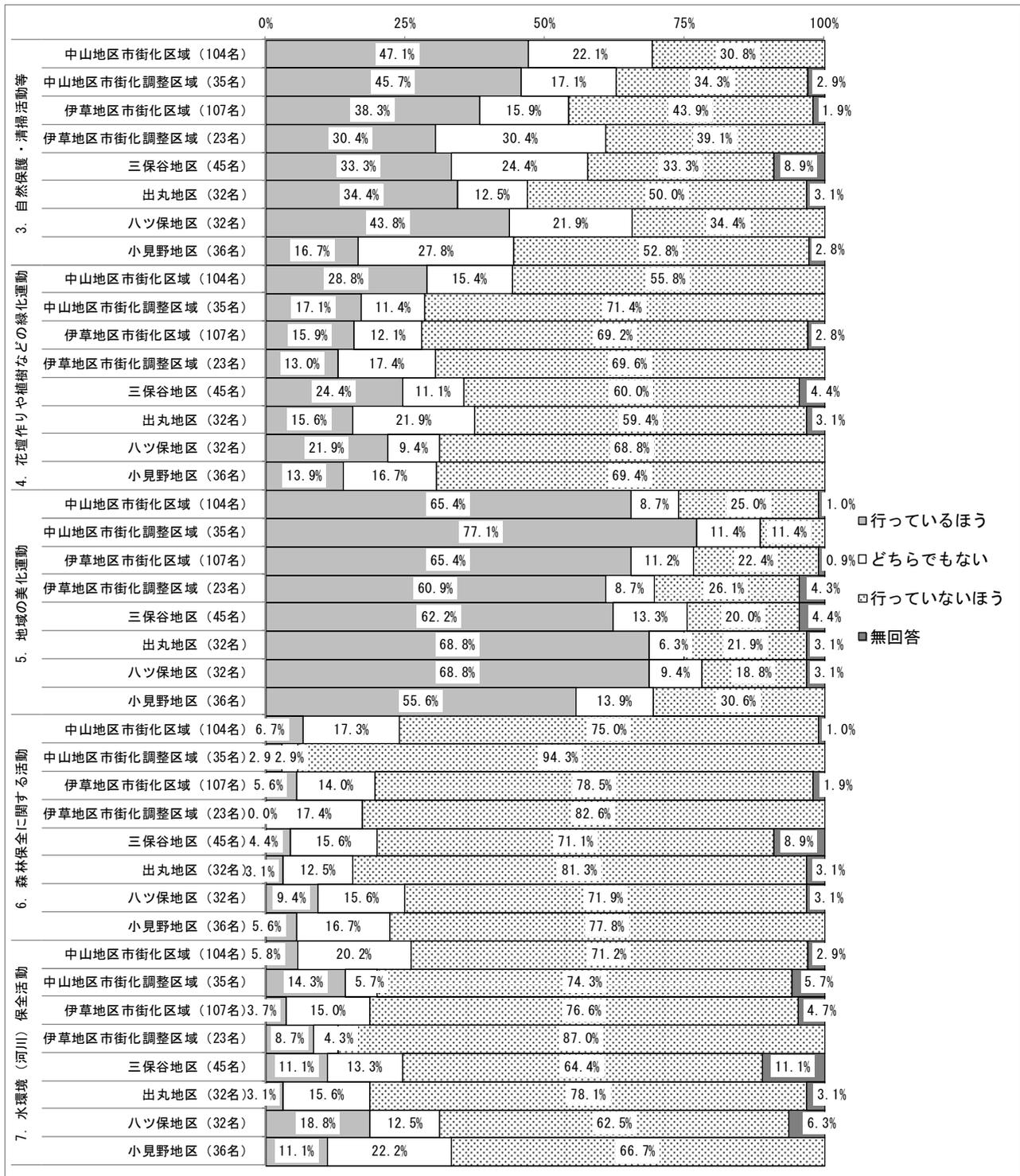
次ページの図は、活動や運動（質問項目3～7）に関する居住地区別の取り組み度合いの違いを示した図です。

「自然保護・清掃活動等」については、各地区において「行っているほう」の割合が30～50%であり、その中で中山地区市街化区域（47.1%）と中山地区市街化調整区域（45.7%）は50%近い割合となっています。小見野地区は、16.7%と他地区に比べ割合が低くなっています。

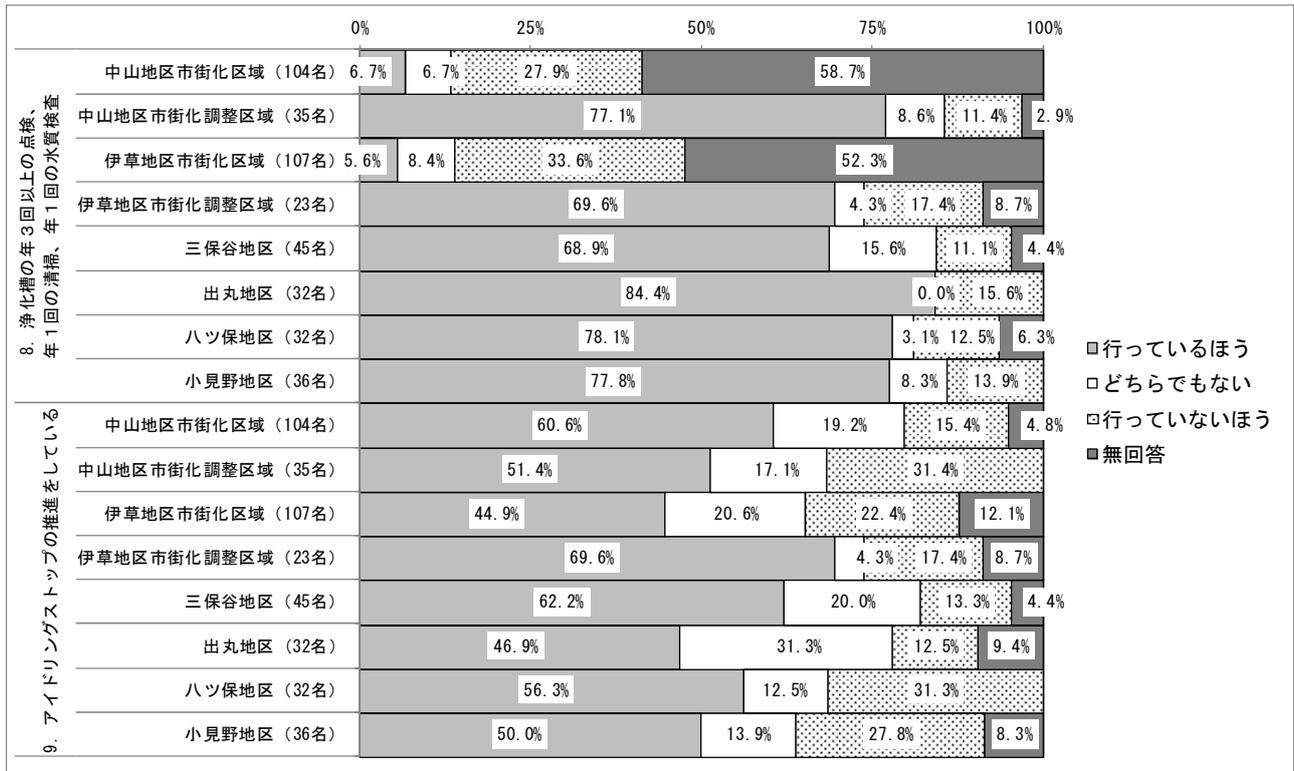
「花壇作りや植樹などの緑化運動」、「森林保全に関する活動」、「水環境（河川）保全活動」については、全体的に「行っているほう」の割合が低くなっていますが、これらの活動の中では「花壇作りや植樹などの緑化運動」に取り組んで割合が若干高くなっています。

「地域の美化運動」については、他の活動や運動と比較して「行っているほう」の割合が高く、すべての地区で50%を超えています。特に中山地区市街化調整区域では、77.1%と80%近い回答者が取り組

んでいます。



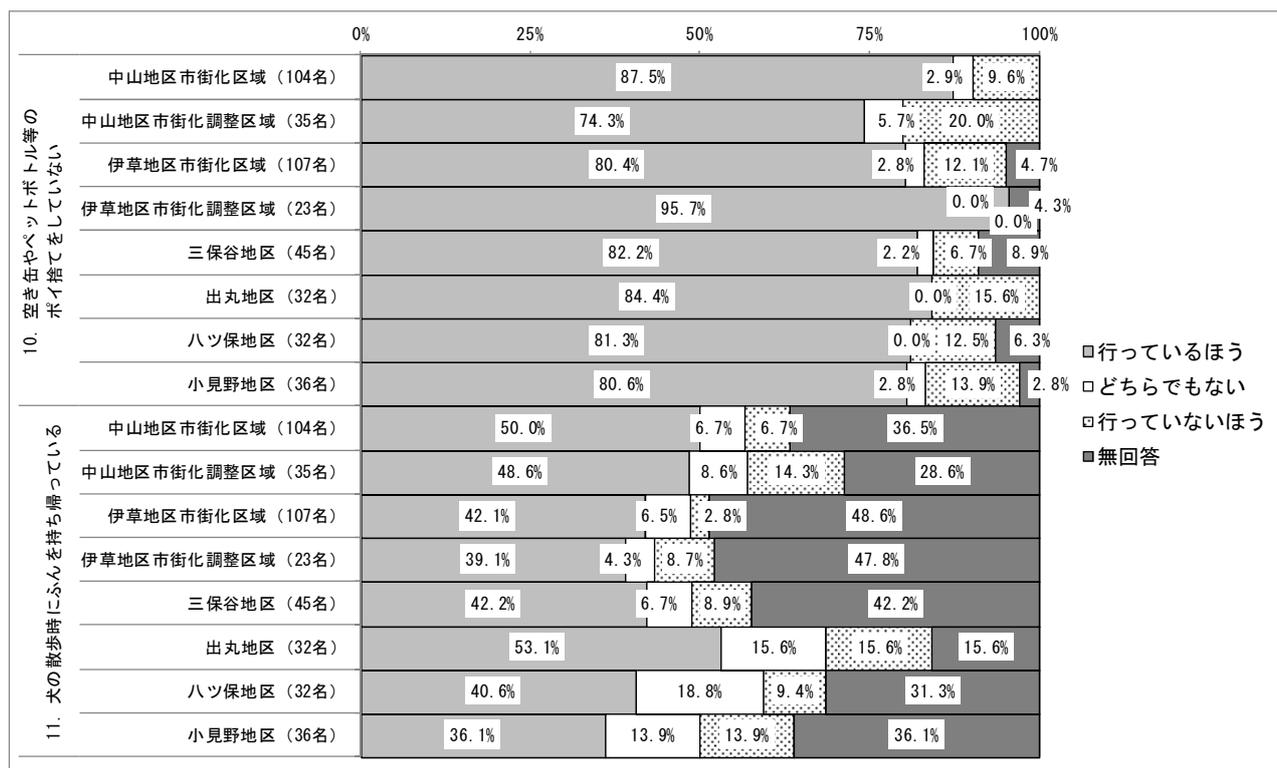
下図は、清掃やアイドリングストップ（質問項目 8～9）に関する居住地区別の取り組み度合いの違いを示した図です。



「浄化槽の年3回以上の点検、年1回の清掃、年1回の水質検査（下水道使用者は除く）」については、中山地区市街化区域と伊草地区市街化区域において「行っているほう」の割合が10%未満と低くなっていますが、その他の地区では60%以上の回答者が取り組んでいます。

「アイドリングストップの推進をしている」については、「行っているほう」の割合は伊草地区市街化調整区域が69.6%と最も高く、次いで三保谷地区（62.2%）、中山地区市街化区域（60.6%）の順となっています。

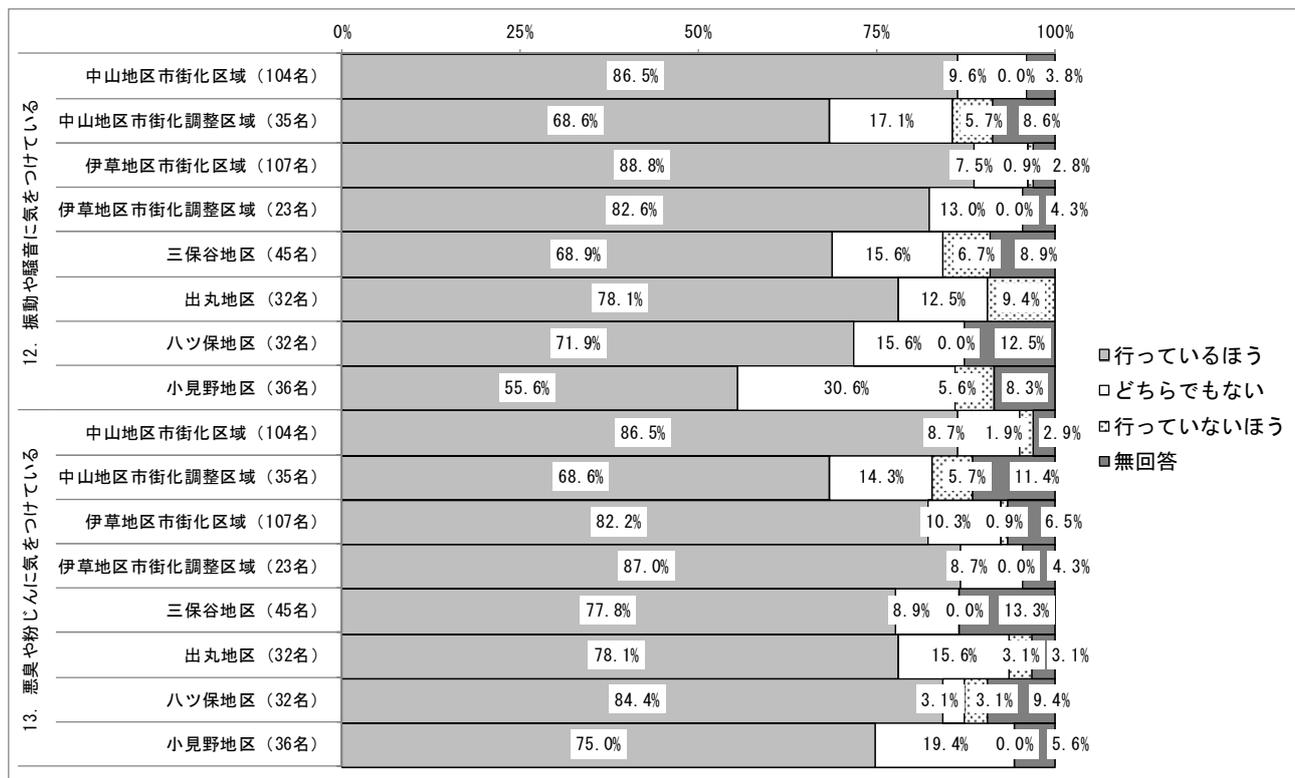
下図は、ごみ（質問項目 10～11）に関する居住地区別の取り組み度合いの違いを示した図です。



「空き缶やペットボトル等のポイ捨てをしていない」については、すべての地区で「行っているほう」の割合が70%を超えています。特に伊草地区市街化調整区域では95.7%とほとんどの回答者が行っています。

「犬の散歩時にふんを持ち帰っている」については、全体的に「行っているほう」の割合が約35%～55%となっており、各地区で3分の1から半数の回答者が行っています。

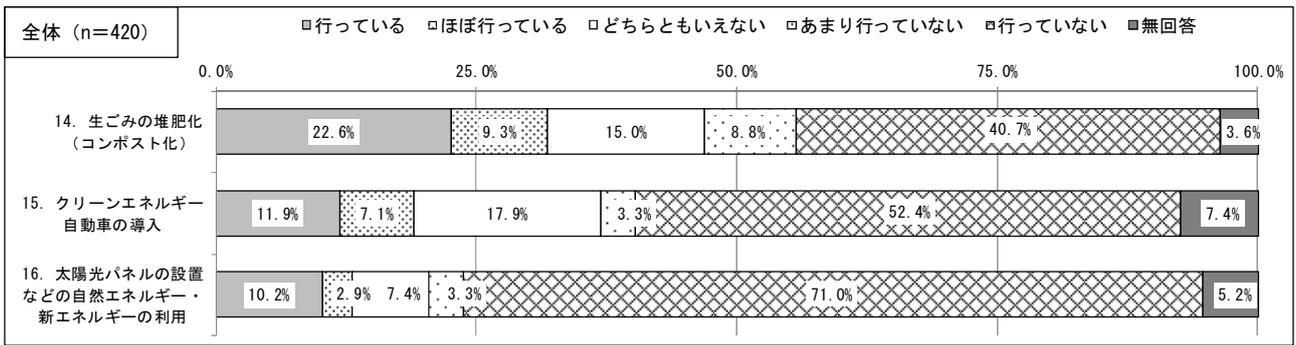
下図は、騒音・悪臭等（質問項目 12～13）に関する居住地区別の取り組み度合いの違いを示した図です。



「振動や騒音に気をつけている」については、すべての地区で「行っているほう」の割合が50%を超えていますが、伊草地区市街化区域（88.8%）、中山地区市街化区域（86.5%）、伊草地区市街化調整区域（82.6%）において80%を超えて特に高くなっています。

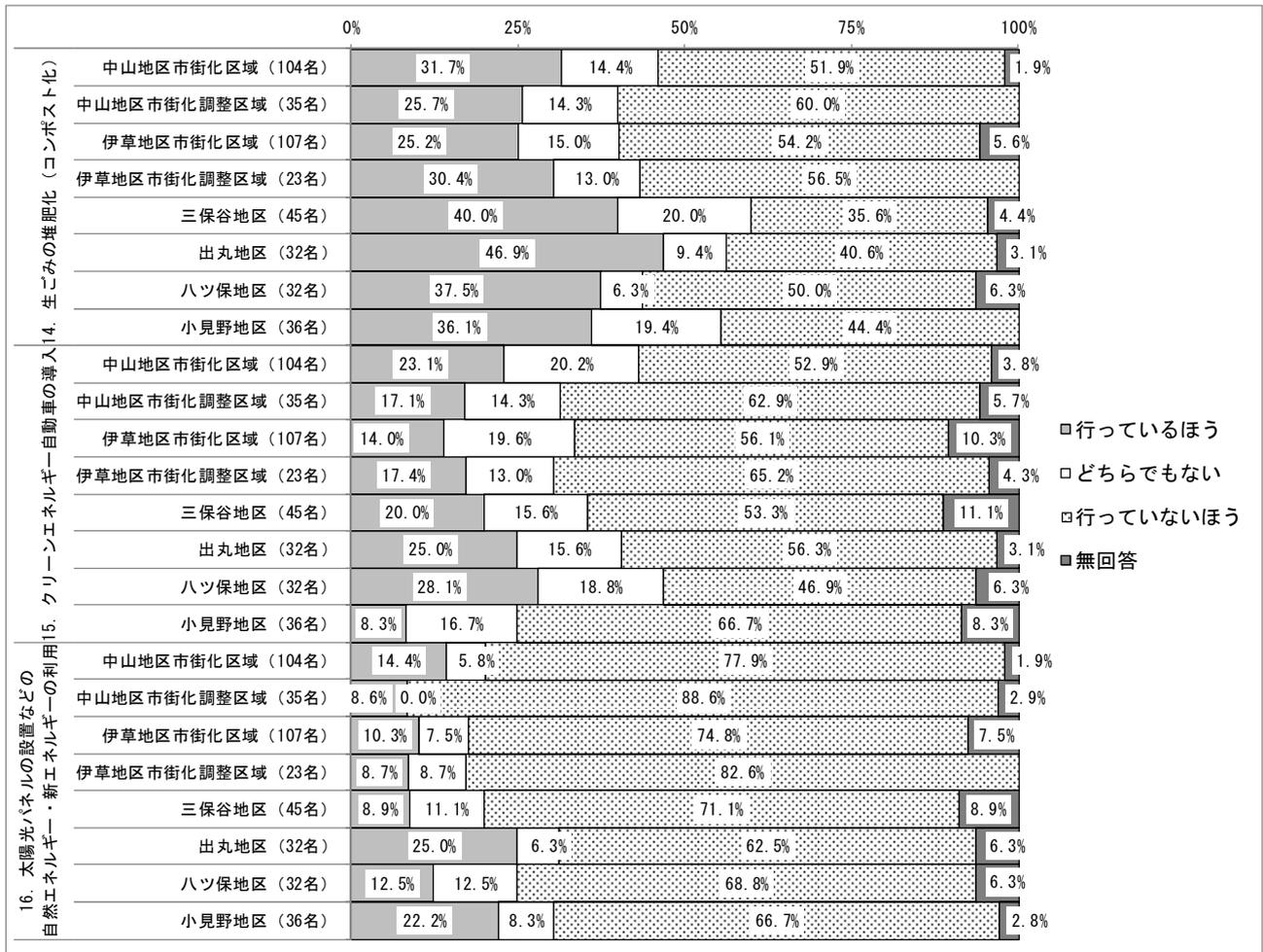
「悪臭や粉じんに気をつけている」についても、「行っているほう」の割合がすべての地区で高くなっています。

(3) リサイクル・省エネルギーについて



リサイクル・省エネルギーへの取り組みについては、「行っている」と「ほぼ行っている」の合計よりも、すべての項目で「行っていない」と「あまり行っていない」の合計の方が高くなっています。

リサイクル・省エネルギーの取り組みについて、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める取り組み度合いの割合の相違を以下に示します。



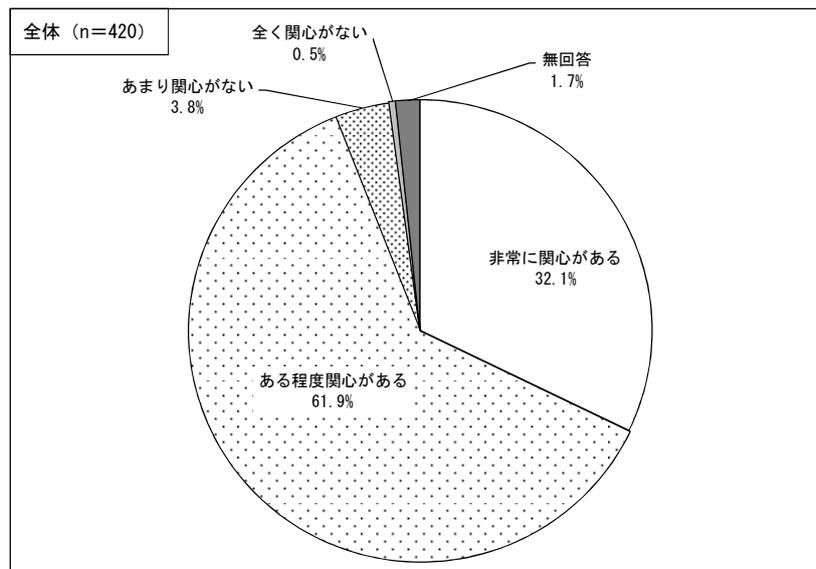
リサイクル・省エネルギーの取り組みについては、すべての質問項目において「行っているほう」の割合が、他の質問項目と比較すると各地区で低い傾向が見られます。これらは、コストや手間がかかる取り組みであることから、「行っているほう」の割合が低くなっているものと考えられます。

「生ごみの堆肥化(コンポスト化)」については、他の2つの質問項目と比較すると「行っているほう」の割合が高く、出丸地区では46.9%と約半数の回答者が行っています。

「クリーンエネルギー自動車の導入」については、八ツ保地区(28.1%)、出丸地区(25.0%)、中山地区市街化区域(23.1%)において、約4分の1の回答者が取り組んでいます。

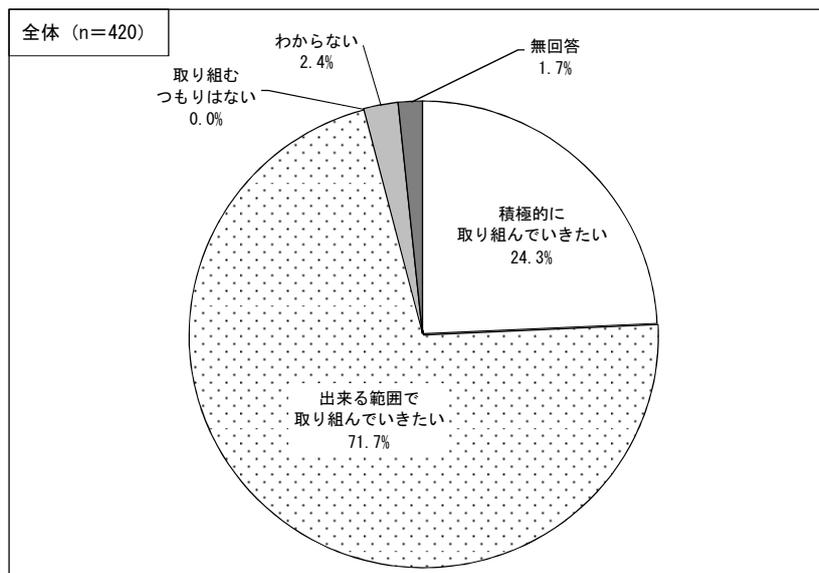
「太陽光パネルの設置などの自然エネルギー・新エネルギーの利用」については、出丸地区(25.0%)と小野見地区(22.2%)において、他の地区と比較して「行っているほう」の割合が高くなっています。

問3-2



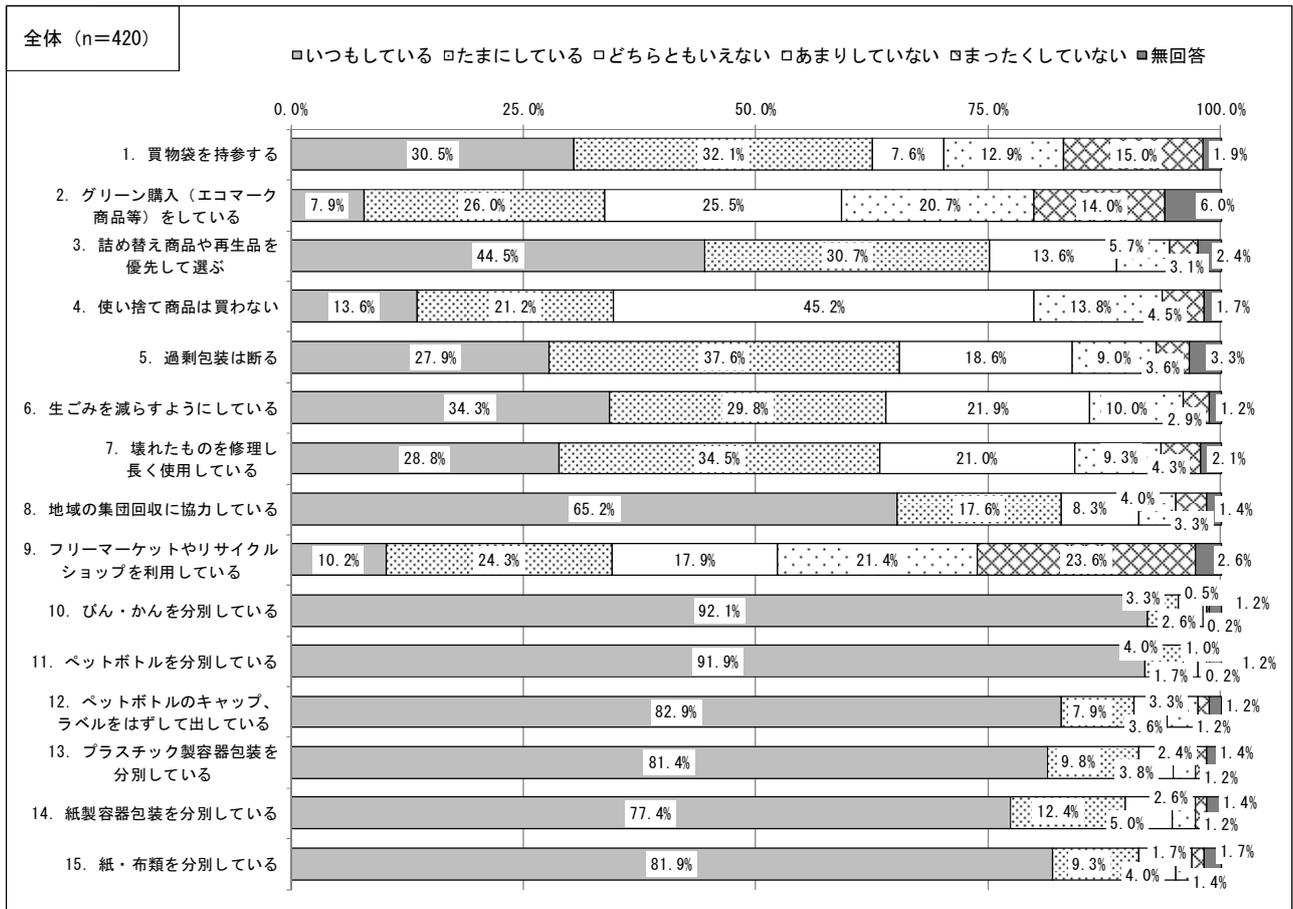
ごみの問題への関心については、「非常に興味がある」と「ある程度は関心がある」の合計が 94.0% となっており、ほとんどの回答者が関心をもっていることがわかります。

問3-3



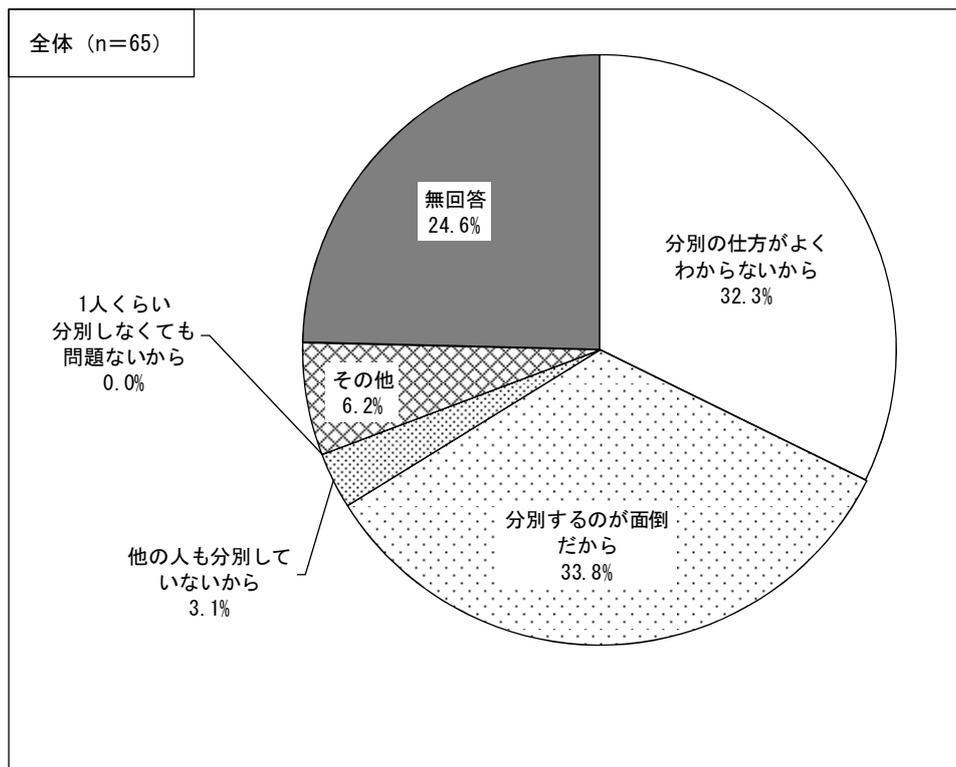
ごみの減量化やリサイクルの取り組みについては、「出来る範囲で取り組んでいきたい」が 71.1%、「積極的に取り組んでいきたい」が 24.3%となっています。また、「取り組むつもりはない」との回答はなく、ごみの減量化やリサイクルの取り組みの今後の推進が期待されます。

問3-4



ごみの減量やリユース・リサイクル、分別については、「いつもしている」と「たまにしている」の合計が、「ペットボトルを分別している」で 95.9%と最も高く、次いで「びん・かんを分別している」(95.4%)、「プラスチック製容器包装を分別している」と「紙・布類を分別している」(91.2%)の順となっています。ほとんどの項目で「いつもしている」と「たまにしている」の合計が60%を超えていますが、特に分別については、すべての項目で「いつも行っている」が70%を超えており、日常的に分別を行っていることがわかります。

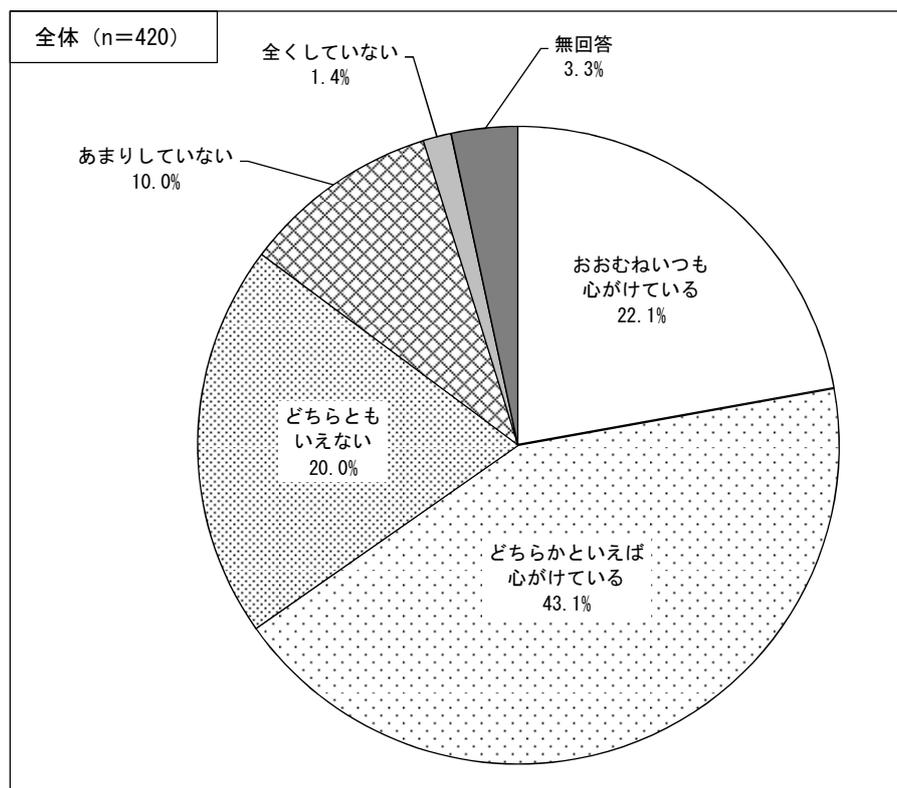
問3-5



ごみの分別を行わない理由については、「分別するのが面倒だから」が33.8%と最も高く、次いで「分別の仕方がよくわからないから」(32.3%)となっています。この2つの理由が高いのは中学生に対するアンケートの結果と同様の傾向です。

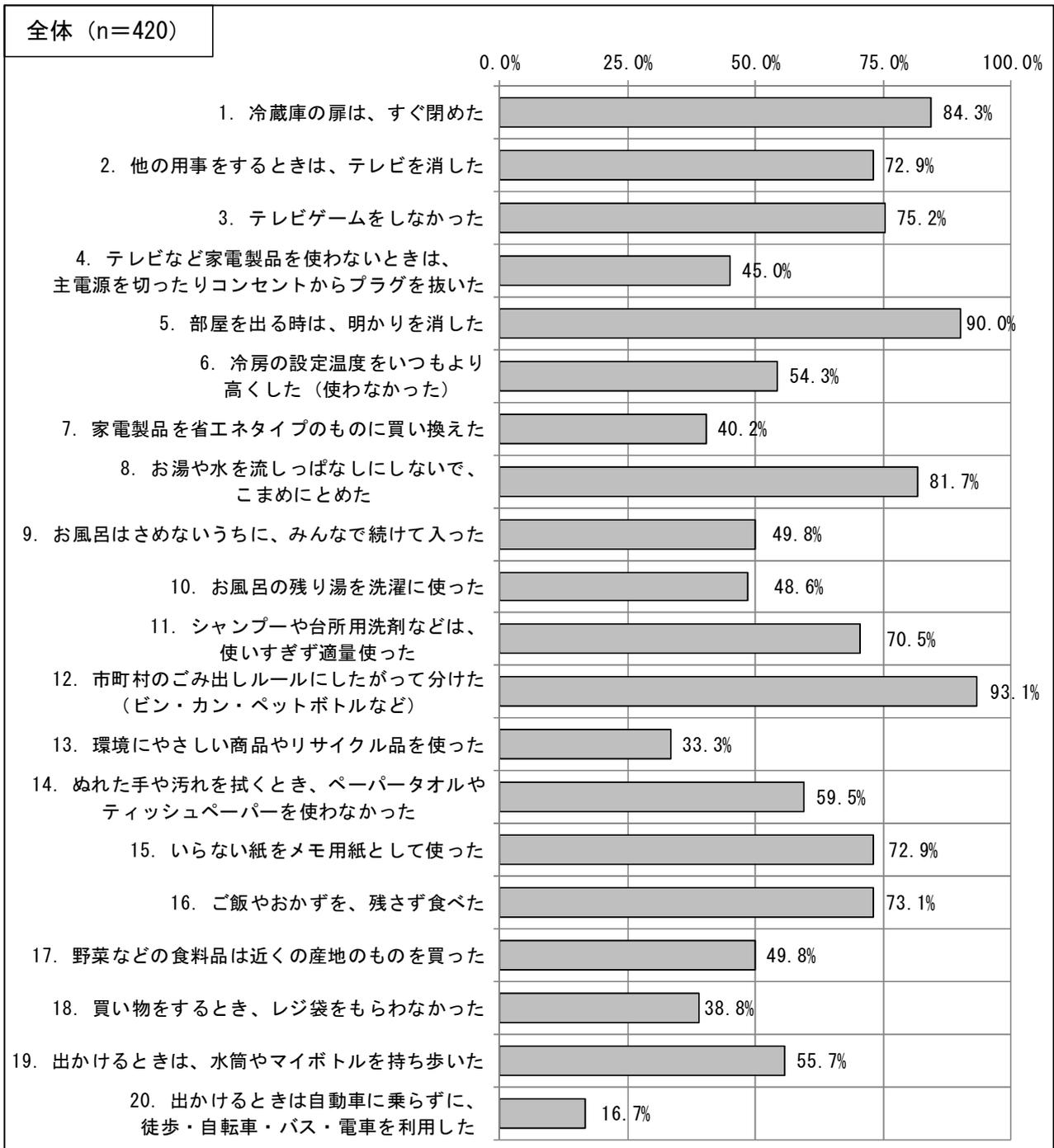
## 4. 地球温暖化防止に関する取り組みについて

### 問4-1



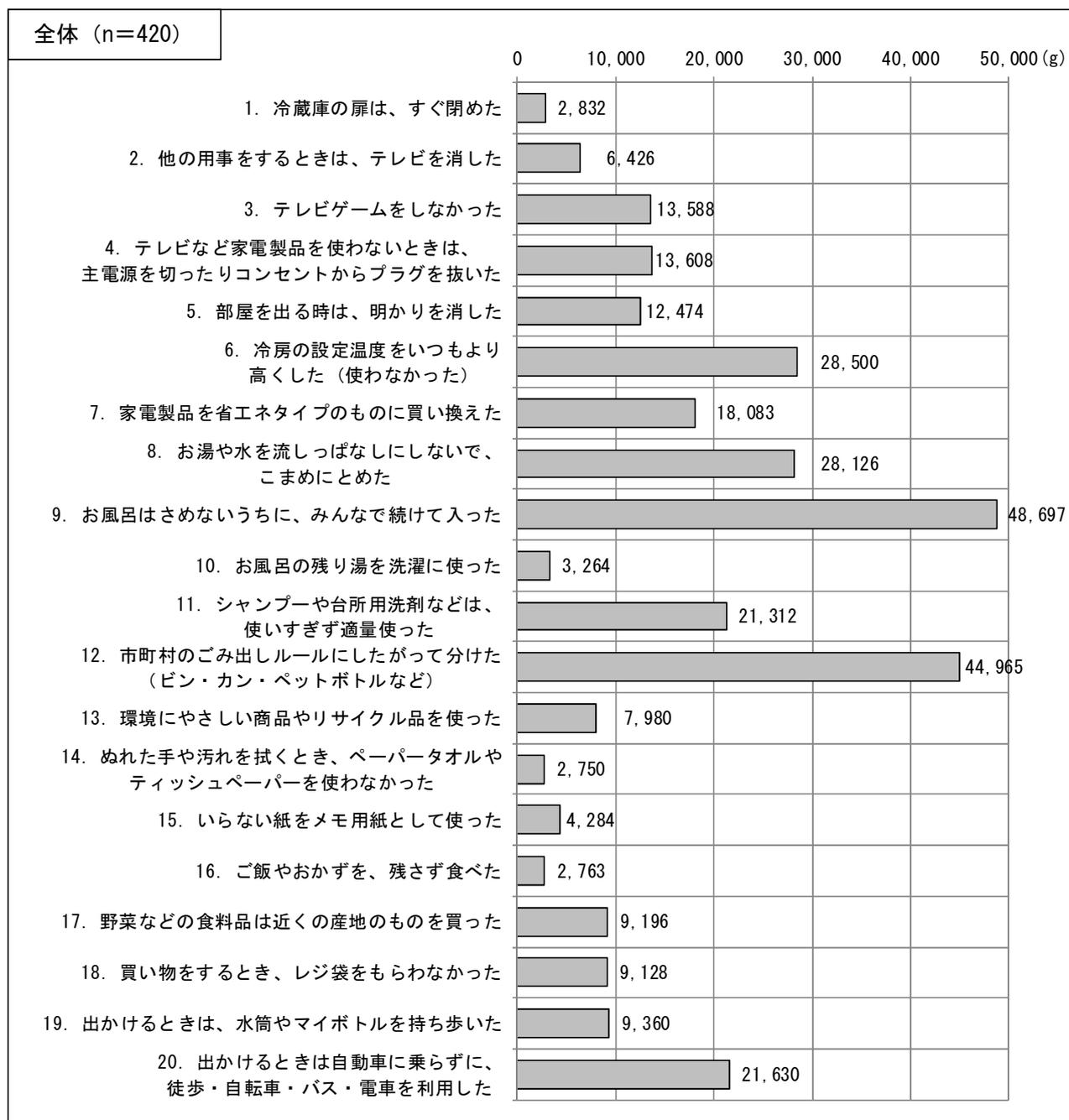
生活の中での地球温暖化防止に配慮した行動の心がけについては、「どちらかといえば心がけている」が43.1%と最も高く、次いで「おおむねいつも心がけている」(22.1%)、「どちらともいえない」(20.0%)の順となっています。「どちらかといえば心がけている」と「おおむねいつも心がけている」を合計すると、回答を得た町民の6割以上が、生活の中で地球温暖化防止に配慮した行動を心がけていることがわかります。

問4-2



地球温暖化防止に配慮した行動について、それぞれの行動を行った人数の割合をみると、「市町村のごみ出しルールにしたがって分けた (ビン・カン・ペットボトルなど)」(93.1%) が最も高くなっており、次いで「部屋を出る時は、明かりを消した」(90.0%)、「冷蔵庫の扉は、すぐ閉めた」(84.3%)、「お湯や水を流しっぱなしにしないで、こまめにとめた」(81.7%) の順となっています。順位は異なるものの、中学生と同様の行動が上位になっています。

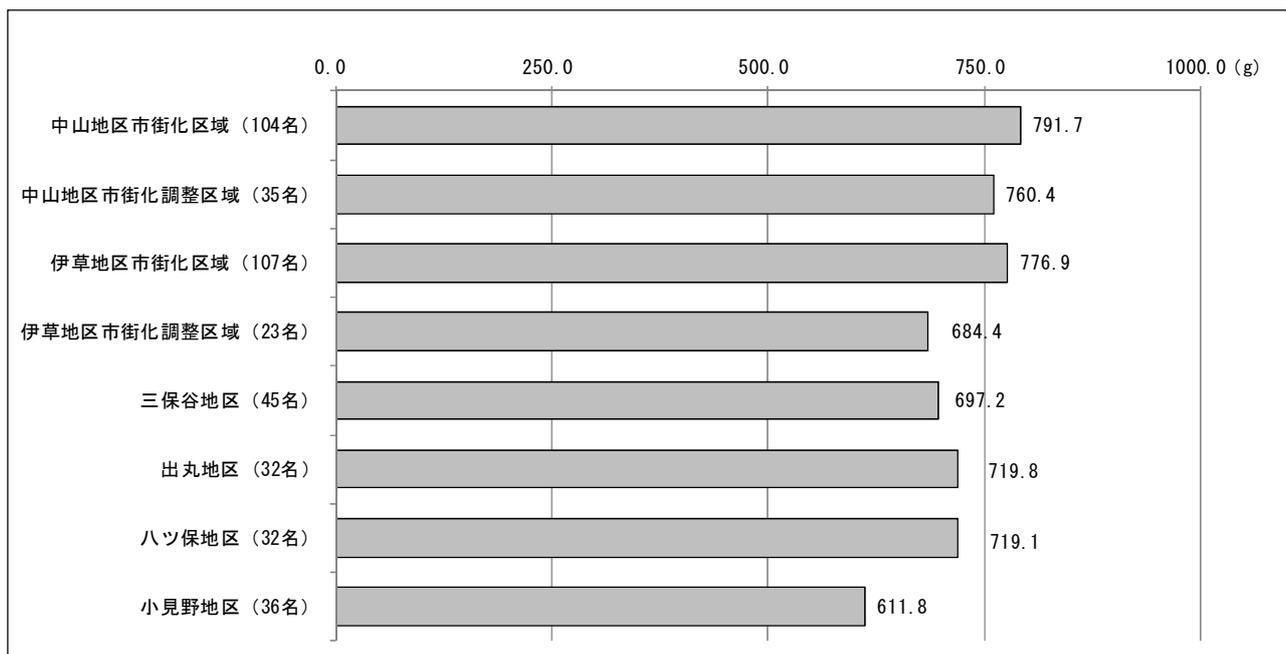
各行動がどの程度のCO<sub>2</sub>排出の抑制につながっているのかを示した図を以下に示します。下図では、各行動によるCO<sub>2</sub>排出の抑制量と行動を取った人数を掛け合わせ、その合計を求めた結果を示しています。



最もCO<sub>2</sub>排出量が抑制された行動は、「お風呂はさめないうちに、みんなで続けて入った」(48,697g)となっています。次いで「市町村のごみ出しルールにしたがって分けた（ビン・カン・ペットボトルなど）」(44,965g)が多くなっています。

中学生は自ら自動車に乗ることができないため単純に比較することはできませんが、中学生の回答では、184名の回答者数で「出かけるときは自動車に乗らずに、徒歩・自転車・バス・電車を利用した」が32,445gであったのに対して、町民は420名の回答者数で21,630gと少なくなっています。問2において町民の「交通の利便性」に対する不満度が高いことから、自動車に変わる交通機関の利便性の低さが、自動車以外の移動手段を利用することを阻害する要因の一つになっていることが考えられます。

居住地区別にみた CO<sub>2</sub> 排出抑制量の平均（一人あたりの CO<sub>2</sub> 排出抑制量）を下図に示します。



居住地区別の CO<sub>2</sub> 排出抑制量の平均は、中山地区市街化区域が 791.7g と最も多く、次いで伊草地区市街化区域（776.9g）、中山地区市街化調整区域（760.4g）の順となっています。

また、地球温暖化防止に配慮した行動について、居住地区別にそれぞれの行動を行った人数の割合を以下に示します。なお、図が大きくなるため、質問項目を 5 つごとに分けて図を掲載しています。

次ページの図は、質問項目 1～5 について、居住地区別の地球温暖化防止行動を行った人数の割合を示しています。

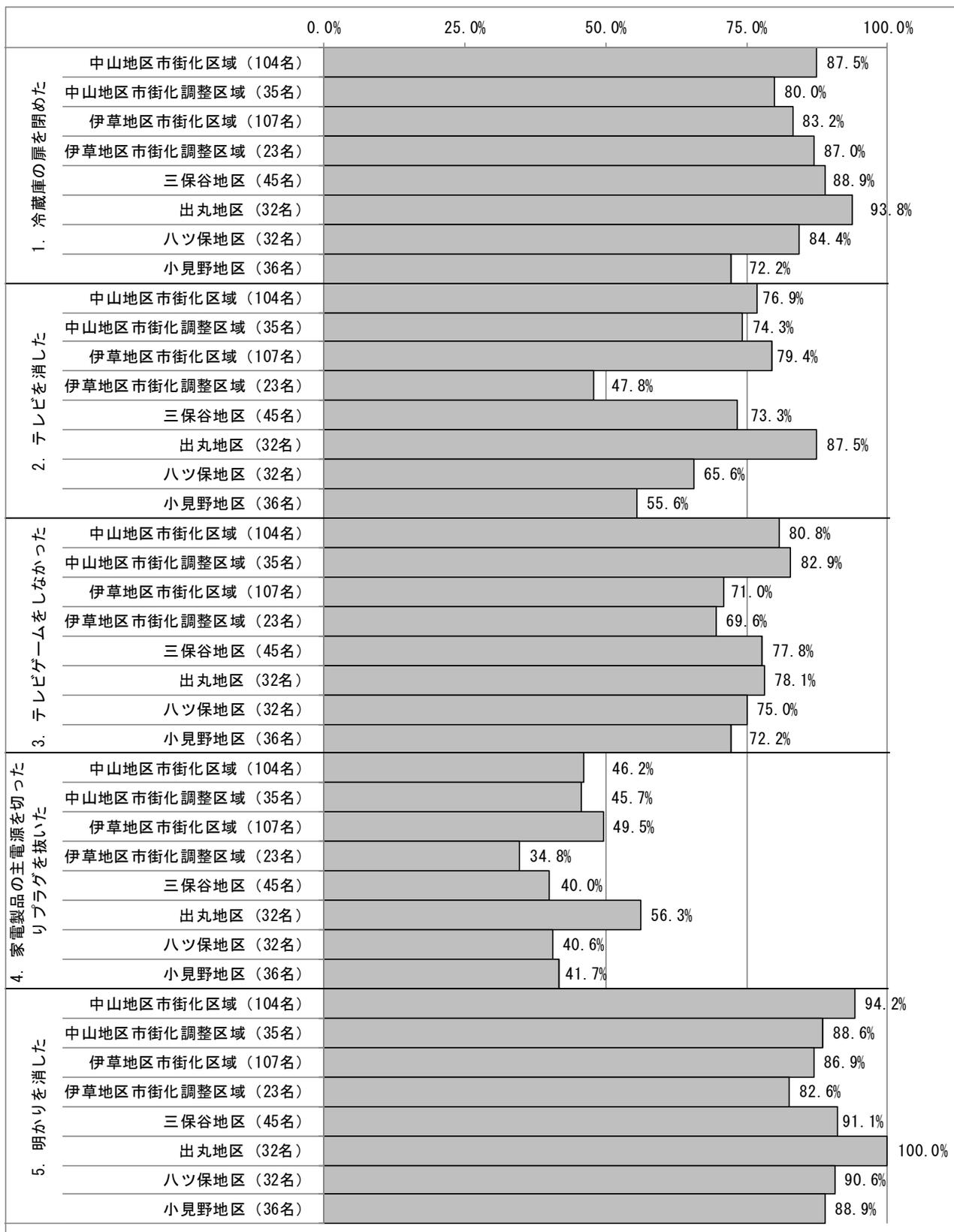
「冷蔵庫の扉は、すぐ閉めた」について、行動を行った人数の割合は、すべての地区で行った人数の割合が 70%を超えています。

「他の用事をするときは、テレビを消した」については、伊草地区市街化調整区域を除いて 50%以上ですが、その中で出丸地区が 87.5%と最も高くなっています。

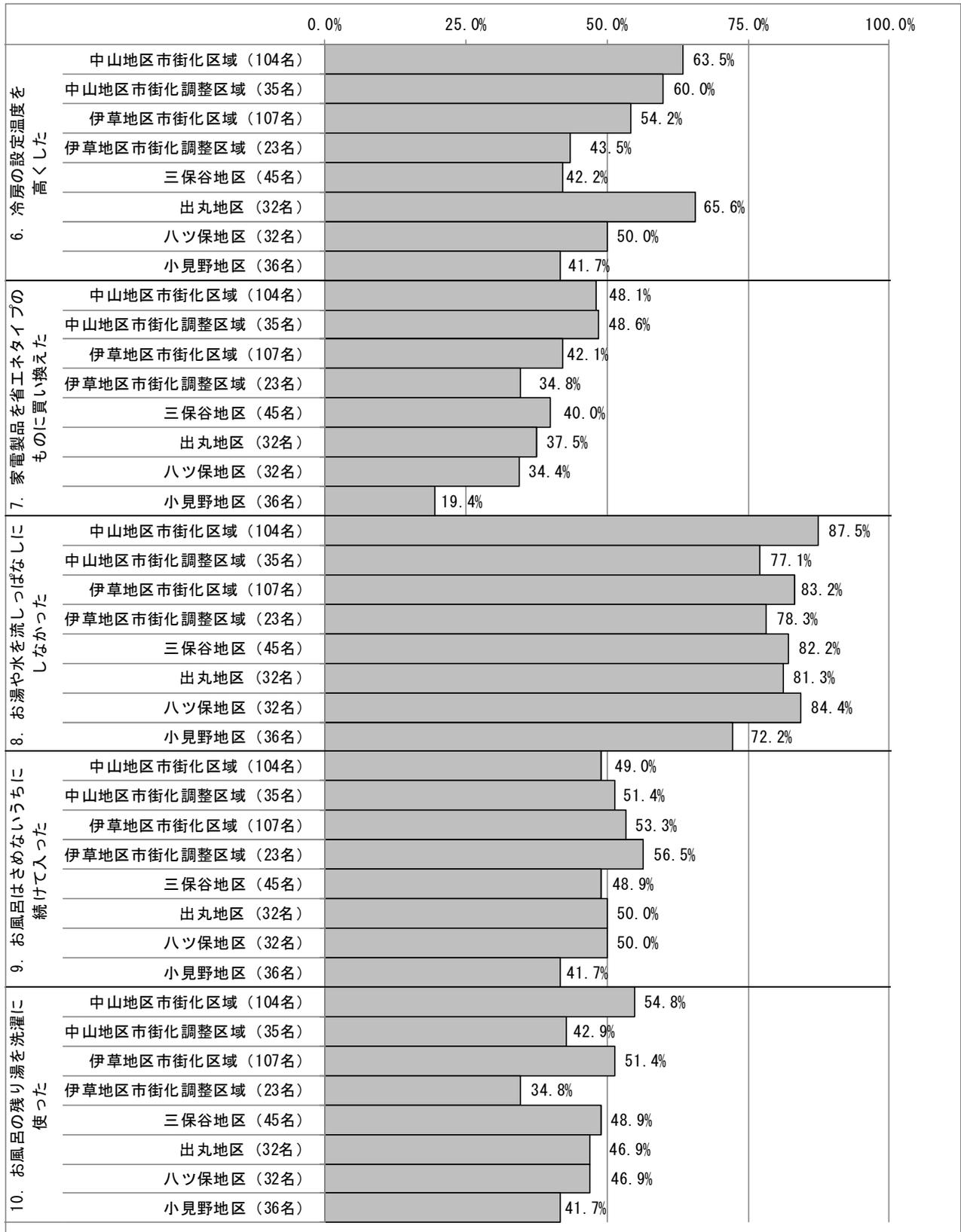
「テレビゲームをしなかった」については、すべての地区で行動を行った人数の割合が約 70～80%と高く割合を示しています。

「テレビなど家電製品を使わないときは、主電源を切ったりコンセントからプラグを抜いた」については、出丸地区では 56.3%と半数以上の回答者が行っていますが、他の地区は半数未満となっています。

「部屋を出る時は、明かりを消した」については、行動を行った人数の割合はすべての地区で 80%以上となっており、出丸地区は 100%と回答者全員が行っています。



下図は、質問項目 6～10 について、居住地区別の地球温暖化防止行動を行った人数の割合を示しています。



「冷房の設定温度をいつもより高くした」については、行動を行った人数の割合は、出丸地区が 65.6%

と最も高く、次いで中山地区市街化区域（63.5%）、中山地区市街化調整区域（60.0%）の順となっています。

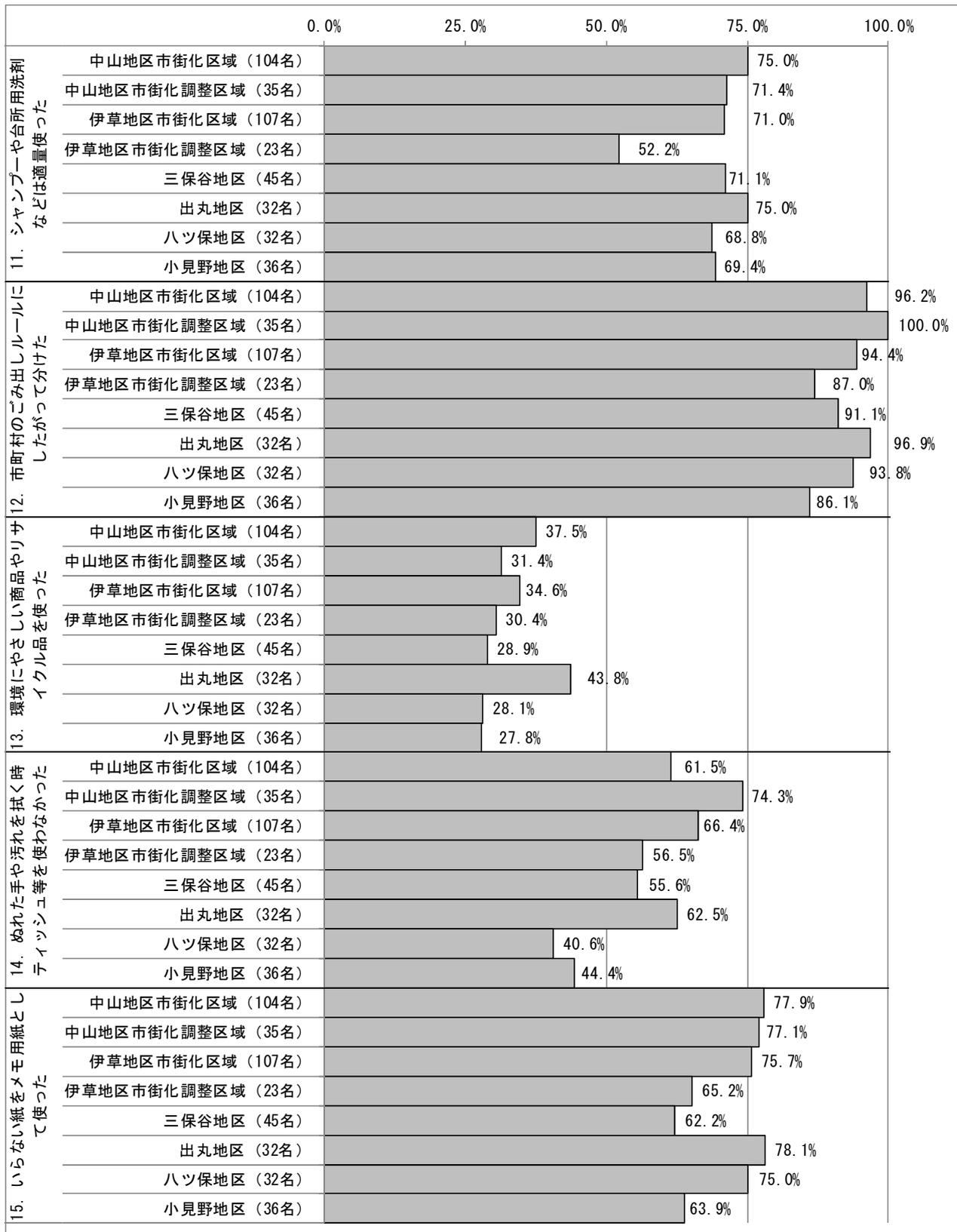
「家電製品を省エネタイプのものに買い換えた」については、行動を行った人数の割合が中山地区市街化区域と中山地区市街化調整区域で約 50%となっていますが、すべての地区で半数以下となっています。

「お湯や水を流しっぱなしにしないで、こまめにとめた」については、行動を行った人数の割合は、すべての地区で 70%以上となっています。

「お風呂はさめないうちに、みんなで続けて入った」について、行動を行った人数の割合は、すべての地区で 50%前後となっています。

「お風呂の残り湯を洗濯に使った」については、行動を行った人数の割合は、中山地区市街化区域（54.8%）と最も高く、次いで伊草地区市街化区域（51.4%）、三保谷地区（48.9%）の順となっています。

下図は、質問項目 11～15 について、居住地区別の地球温暖化防止行動を行った人数の割合を示しています。



「シャンプーや台所用洗剤などは、使いすぎず適量使った」については、すべての地域で行動を行っ

た人数の割合が50%を超えていますが、伊草地区市街化調整区域は52.2%と他の地域よりも若干低くなっています。

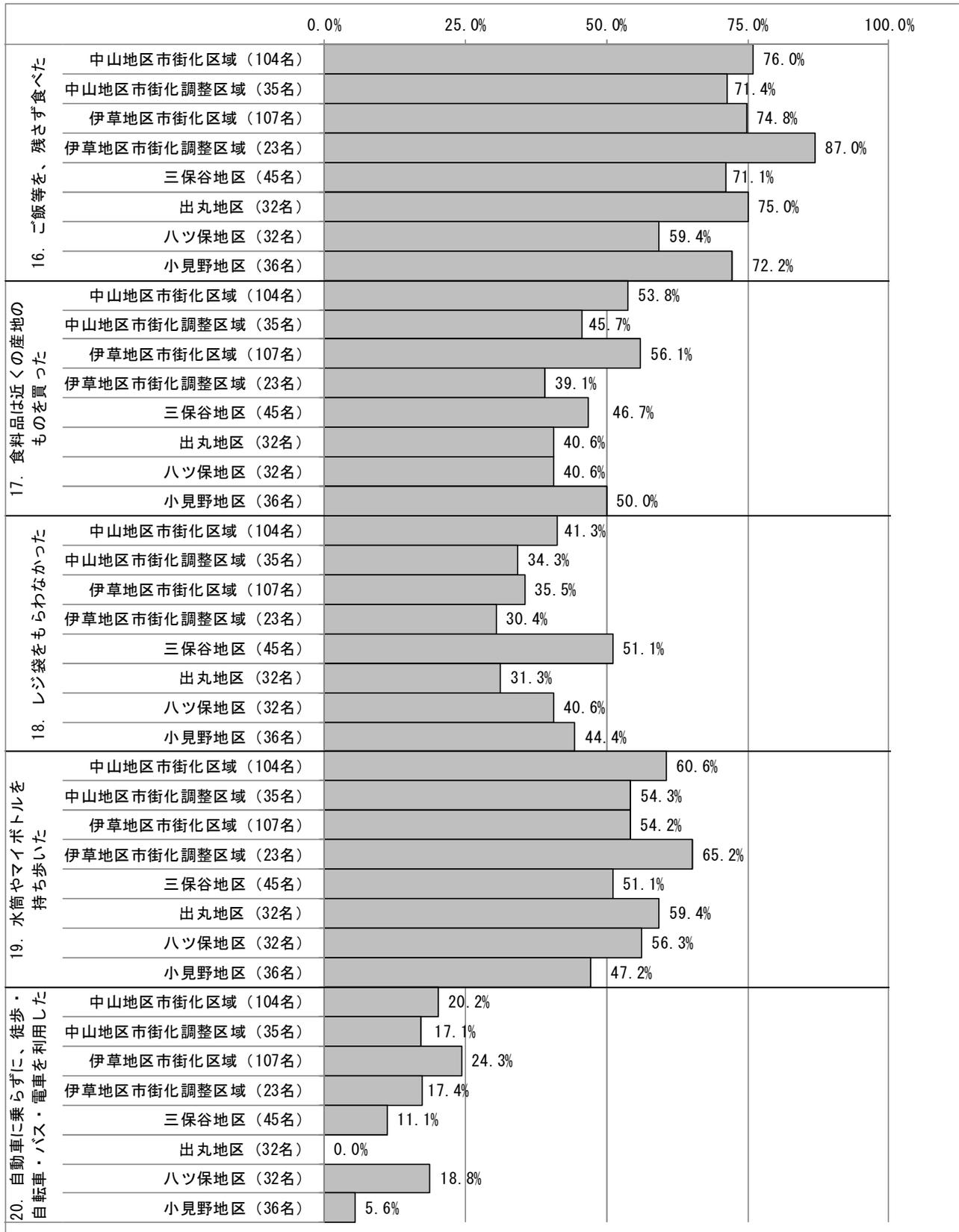
「市町村のごみ出しルールにしたがって分けた」については、行動を行った人数の割合がすべての地域で80%を超えて高くなっており、中山地区市街化調整区域は回答者全員が行っています。

「環境にやさしい商品やリサイクル品を使った」については、すべての地区で行動を行った人数の割合が半数以下となっています。

「ぬれた手や汚れを拭くとき、ペーパータオルやティッシュペーパーを使わなかった」については、行動を行った人数の割合は、中山地区市街化調整区域が74.3%と最も高く、次いで伊草地区市街化区域(66.4%)、出丸地区(62.5%)の順となっています。

「いらぬ紙をメモ用紙として使った」については、行動を行った人数の割合はすべての地域で60%以上の回答者が行っています。

下図は、質問項目 16～20 について、居住地区別の地球温暖化防止行動を行った人数の割合を示しています。



「ご飯やおかずを、残さず食べた」については、すべての地域で行動を行った人数の割合が 50%以上ですが、その中でも伊草地区市街化調整区域は 87.0%と 90%近い回答者が行っています。

「野菜などの食料品は近くの産地のものを買った」については、行動を行った人数の割合は、伊草地区市街化区域（56.1%）が最も高く、次いで中山地区市街化区域（53.8%）、小見野地区（50.0%）の順となっています。

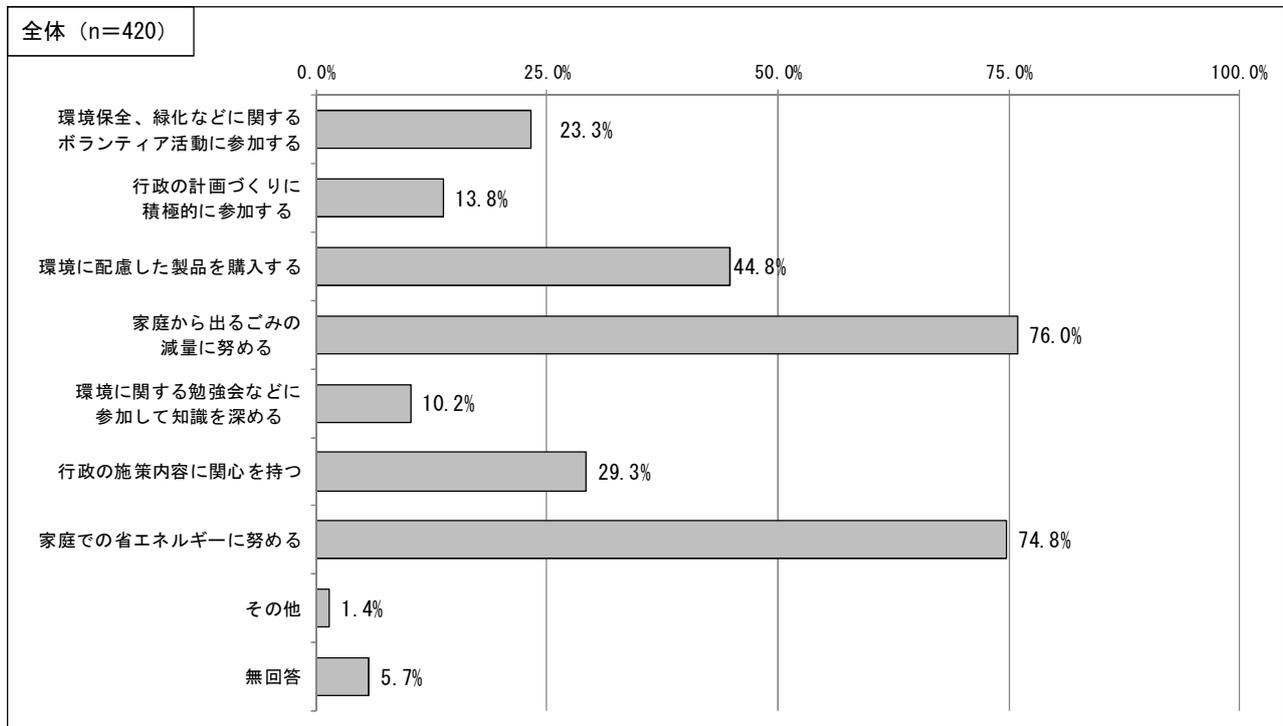
「買い物をするとき、レジ袋をもらわなかった」については、行動を行った人数の割合は、三保谷地区は 51.1%と半数を超えていますが、その他の地域では 50%以下となっています。

「出かけるときは、水筒やマイボトルを持ち歩いた」については、行動を行った人数の割合は、伊草地区市街化調整区域（65.2%）が最も高く、次いで中山地区市街化区域（60.6%）、出丸地区（59.4%）の順となっています。

「出かけるときは自動車に乗らずに、徒歩・自転車・バス・電車を利用した」については、行動を行った人数の割合がすべての地域で 30%以下となっており、最も割合が高い伊草地区市街化区域でも 24.3%となっています。

## 5. あなたが環境保全のために町民・事業所・行政に望むことについて

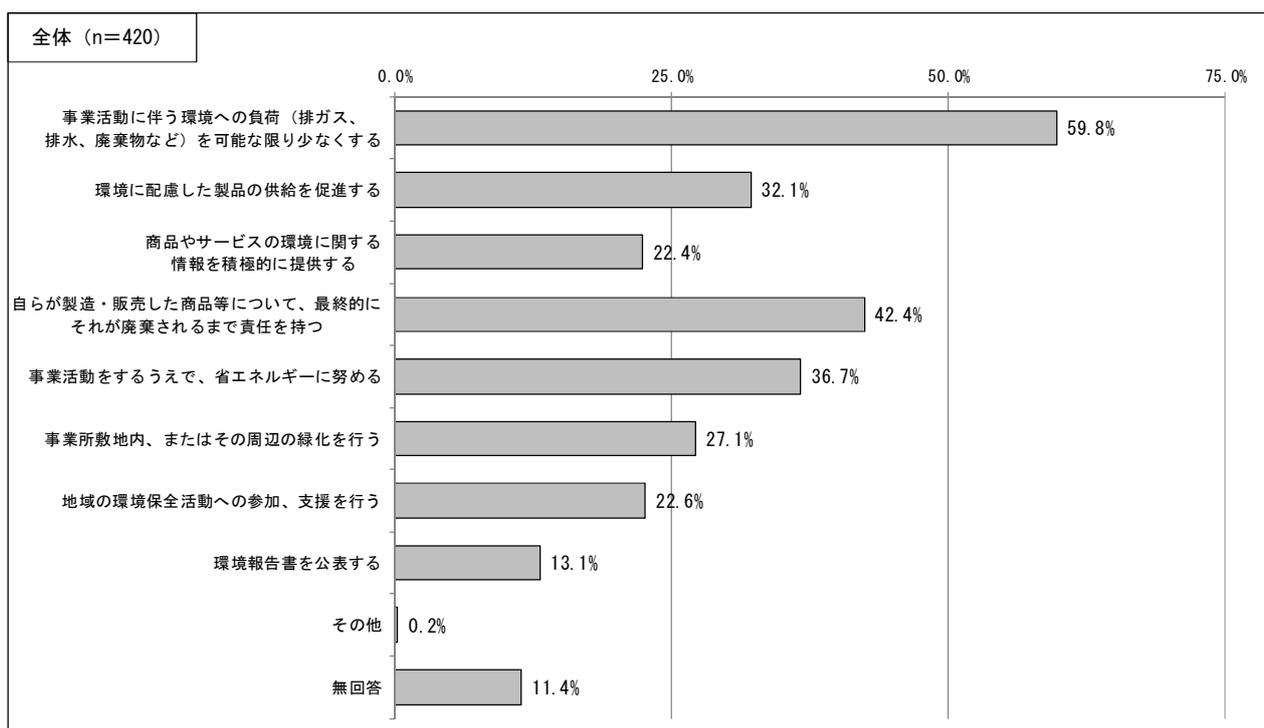
【町民が、今後行った方がよいと思うこと】



環境保全のために町民が今後行った方がよいと思うこととして、「家庭から出るごみの減量に努める」(76.0%)と「家庭での省エネルギーに努める」(74.8%)が7割を超えています。次いで「環境に配慮した製品を購入する」(44.8%)となっており、日常生活の中で取り組むことができる内容の割合が高くなっています。

「その他」の意見として、「エコバックの推進」、「各家庭に庭先敷地に余裕があれば樹木を1本ずつ植える」、「ごみ分別作業を家族の1人だけに押し付けずに協力する」が挙げられていました。

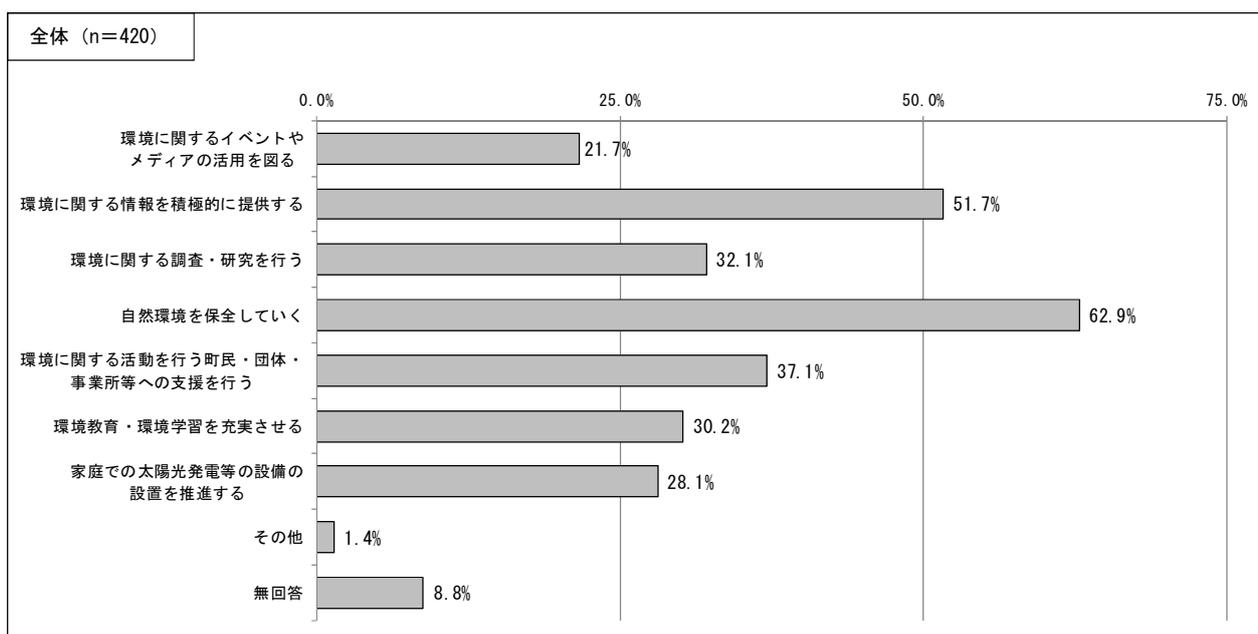
【事業所が、今後行った方がよいと思うこと】



環境保全のために事業所が今後行った方がよいと思うこととして、「事業活動に伴う環境への負荷（排ガス、排水、廃棄物など）を可能な限り少なくする」が 59.8%と最も高く、次いで「自らが製造・販売した商品等について、最終的にそれが廃棄されるまで責任を持つ」（42.4%）、「事業活動をするうえで、省エネルギーに努める」（36.7%）の順となっています。

「その他」の意見として、「業者による過剰包装の廃止」が挙げられていました。

【行政が、今後行った方がよいと思うこと】



環境保全のために行政が今後行った方がよいと思うこととして、「自然環境を保全していく」が62.9%と最も高く、次いで「環境に関する情報を積極的に提供する」(51.7%)、「環境に関する活動を行う町民・団体・事業所等への支援を行う」(37.1%)の順となっています。行政が主体となって環境保全に努めるとともに、町民等に対する情報発信・活動支援を望んでいることがわかります。

「その他」の意見として、「ISO14001を取得する。適用範囲は役所という狭い範囲だけでなく、町民を含めた全員としてダイナミックに活動する。」「電車やモノレール等の排ガスの少ない乗り物を川島町民が利用出来る環境づくりをめざす。」「大規模開発により、川島町の自然環境が大きく崩されている。町の自然を守ってもらいたい。また、廃棄物の処理等は慎重に行なっていただきたい。安易に許可を出さない等。」が挙げられていました。

## 6. 川島町の環境保全に関する取り組みについて

以下の項目につき意見が述べられた。詳細は付録1に示す。

ごみに関する意見

環境に関する意見

道路整備・交通に関する意見

その他

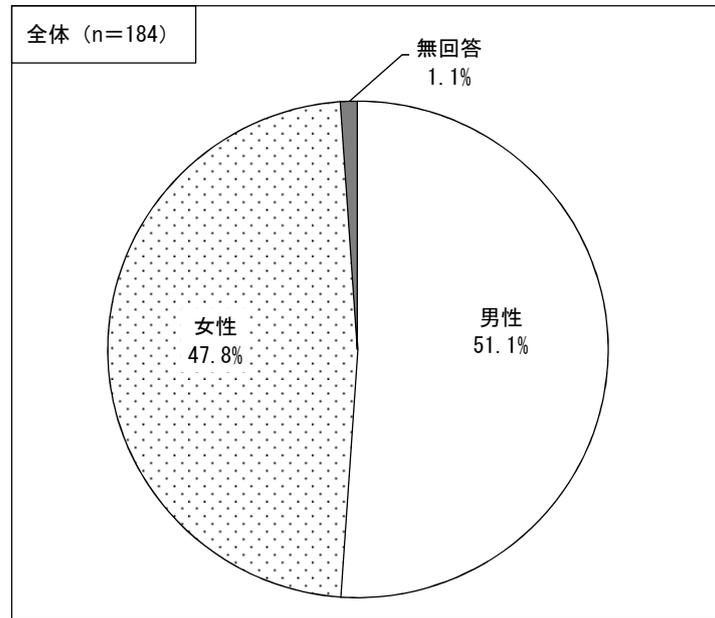
## 中学生アンケート 調査結果

※ アンケートの集計結果における「無回答」には、無効な回答も含めています。



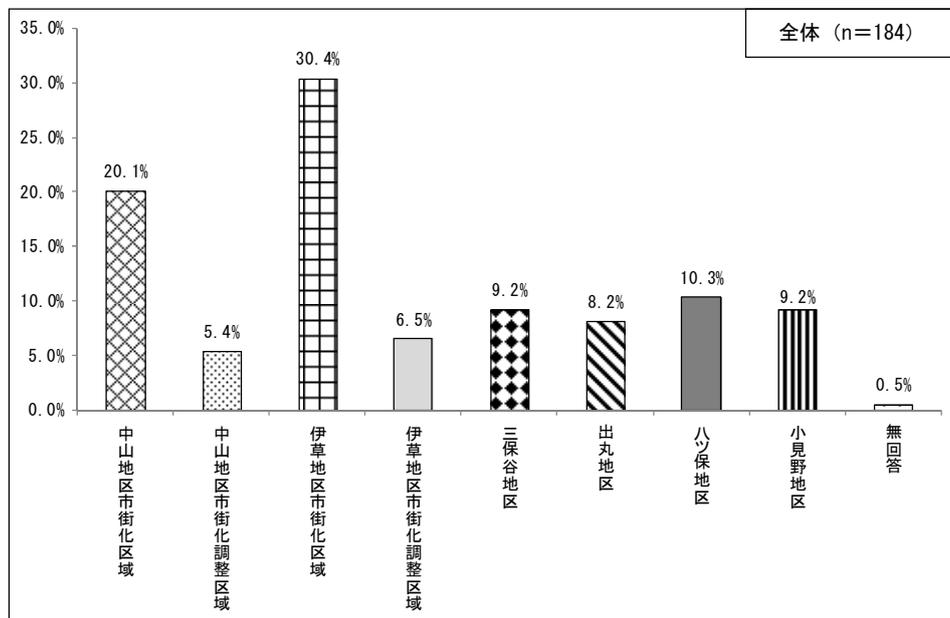
# 1. あなたやあなたのご家族について

## 問 1-1



「男性」が 51.1%、「女性」が 47.8%と、男性の割合が若干多くなっています。

## 問 1-2

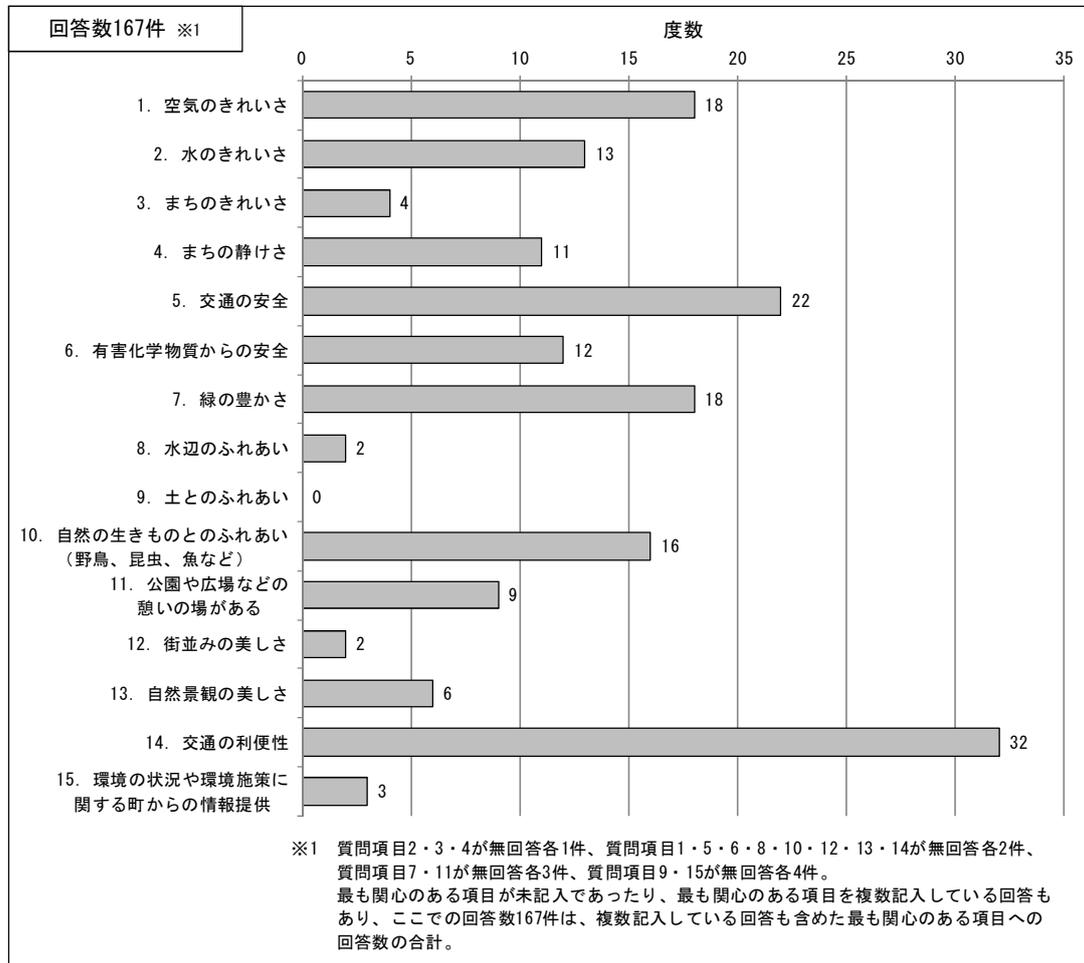


居住地については、「伊草地区市街化区域」が 30.4%と最も多く、次いで「中山地区市街化区域」(20.1%)、「八ッ保地区」(10.3%)の順となっています。

## 2. あなたの身近な環境に対する意識について

### 問2

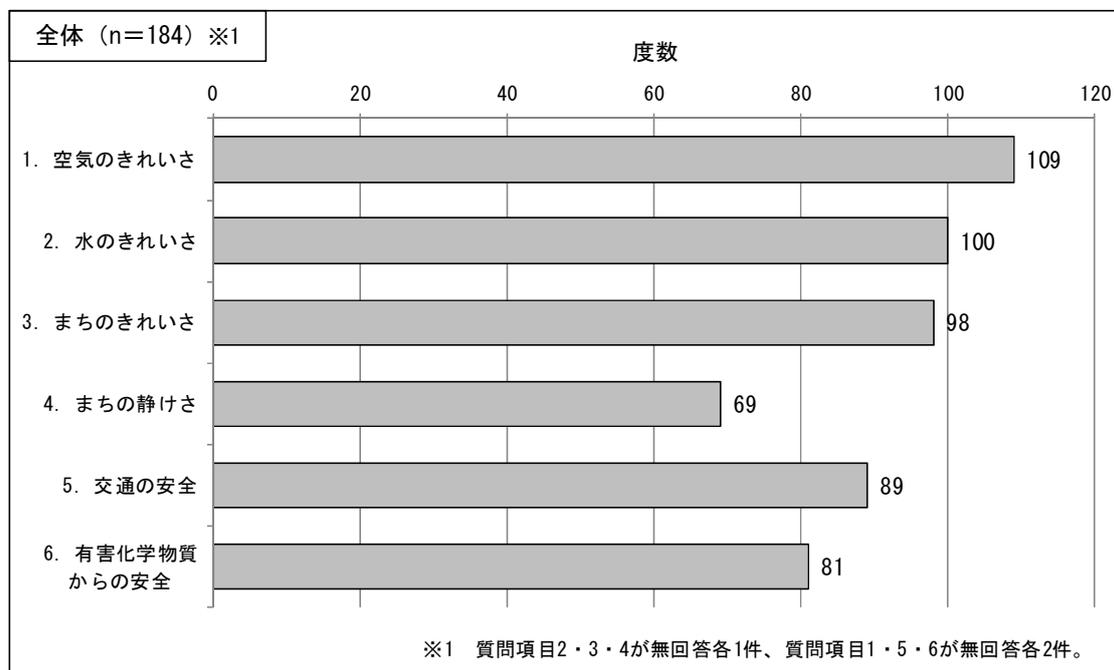
- 最も関心のある環境



すべての項目の中で最も関心のあるものとして、「交通の利便性」が32件と最も多くなっています。次に多い項目が「交通の安全」(22件)であり、交通に関する環境について関心が高くなっています。自然環境とのふれあいの視点で見ると、「自然の生きものとのふれあい(野鳥、昆虫、魚など)」は16件と多くなっています。その一方で、「水辺のふれあい」(2件)や「土とのふれあい」(0件)は少なくなっており、生物とのふれあいに関心が高いことがうかがえます。

(1) 生活環境について

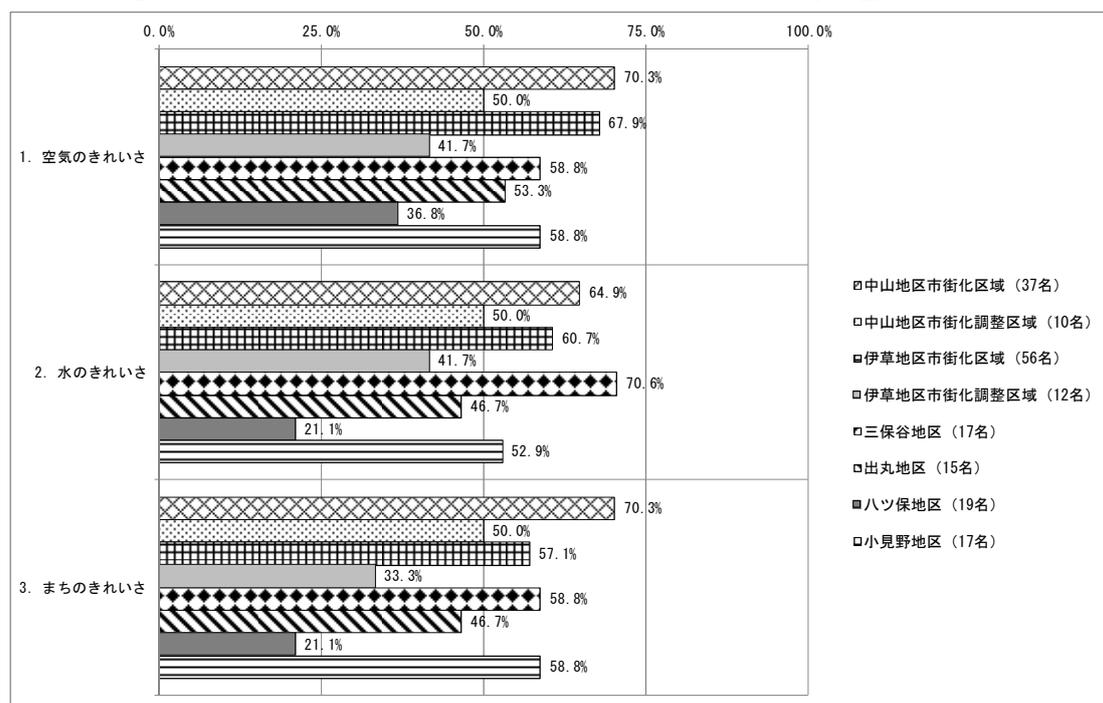
■ 関心度



生活環境の関心度については、「空気のきれいさ」(109件)、「水のきれいさ」(100件)、「まちのきれいさ」(98件)の順に関心度が高くなっています。「まちの静けさ」を除く項目で、関心があるとの回答が80件を超えており、きれいさや安全性に対して関心を持っていることがうかがえます。

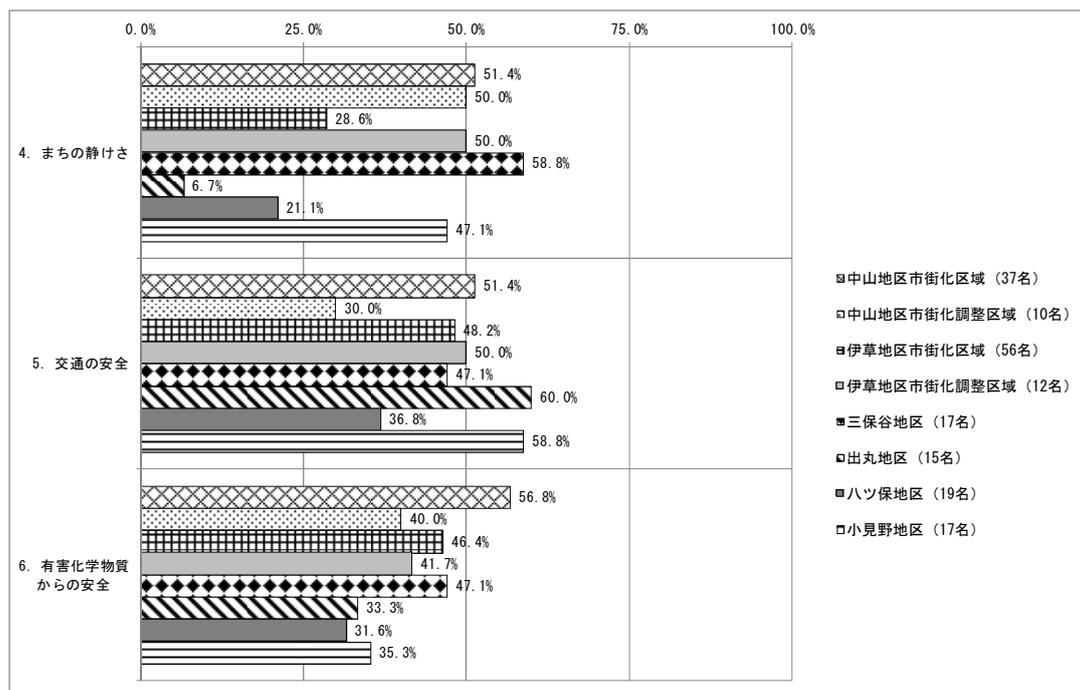
生活環境の関心度について、回答者の居住地区別の相違を以下に示します(各居住地区の回答者数に占める関心を持っている人の割合)。

下図は、きれいさ(質問項目1~3)に関する居住地区別の関心度の違いを示した図です。



中山地区市街化区域は、他の地区と比べて 3 つの項目とも関心を持っている回答者の割合が高くなっています。伊草地区市街化区域、三保谷地区、小見野地区も、3 つの項目で関心を持っている回答者の割合が 50～60% となっています。一方、伊草地区市街化調整区域と八ツ保地区は、他の地区と比べて関心を持っている回答者の割合が低くなっています。

下図は、静けさ・安全（質問項目 4～6）に関する居住地区別の関心度の違いを示した図です。

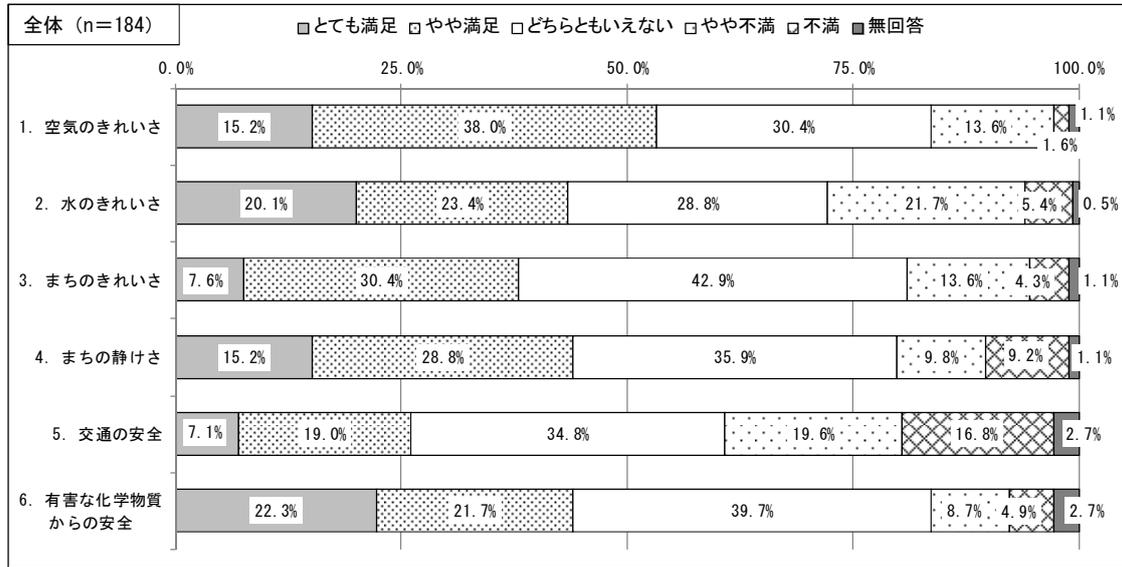


「まちの静けさ」については、三保谷地区において関心を持っている回答者の割合が最も高く、出丸地区において割合が最も低くなっています。

「交通の安全」については、多くの地区で 50% 前後の回答者が関心を持っていますが、出丸地区と小見野地区で約 60% の回答者が関心を持っており、他の地区よりも高い割合を示しています。

「有害化学物質からの安全」については、中山地区市街化区域が 56.8% と、唯一 50% を超える回答者が関心を持っています。

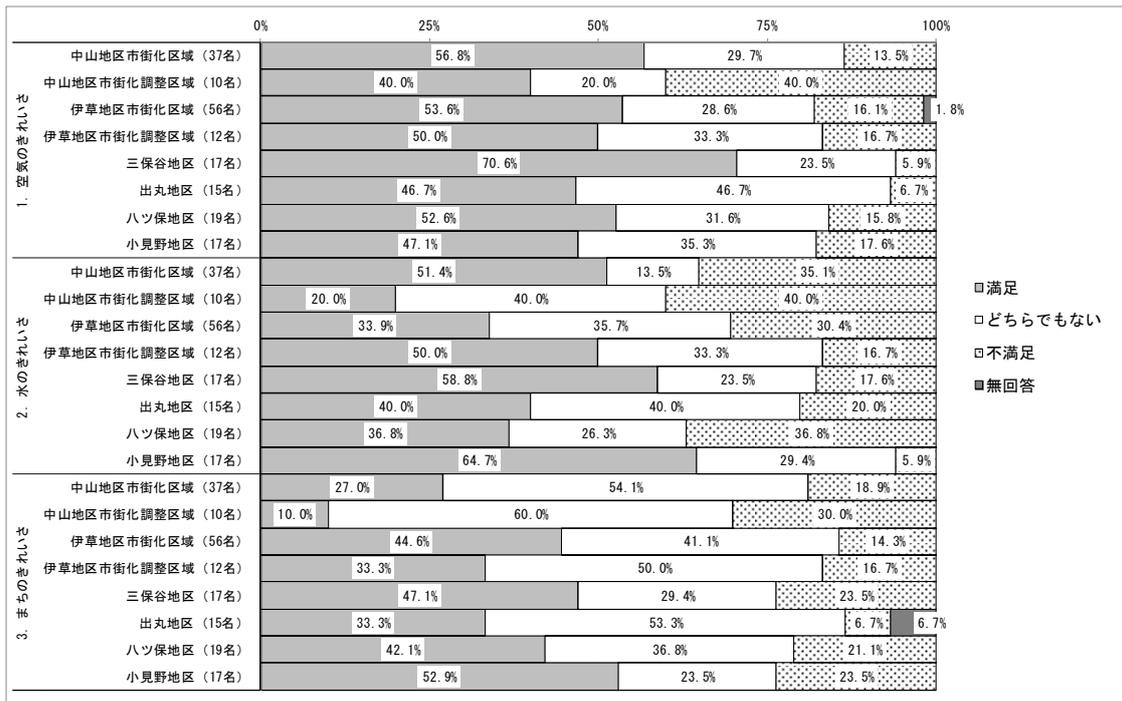
■ 満足度



生活環境の満足度に関しては、「とても満足」と「やや満足」の合計が「空気のきれいさ」(53.3%)、「まちの静けさ」と「有害な化学物質からの安全」(44.0%)、「水のきれいさ」(43.5%)の順で高くなっています。最も関心のある項目で2番目に高かった「交通の安全」については、「不満」と「やや不満」の合計が36.4%と一番高く、交通の安全性の低さから関心が高くなっていると考えられます。

生活環境の満足度について、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める満足度（「とても満足」と「やや満足」の合計）の割合と不満足度（「不満」と「やや不満」の合計）の割合の相違を以下に示します。

下図は、きれいさ（質問項目1～3）に関する居住地区別の満足度の違いを示した図です。

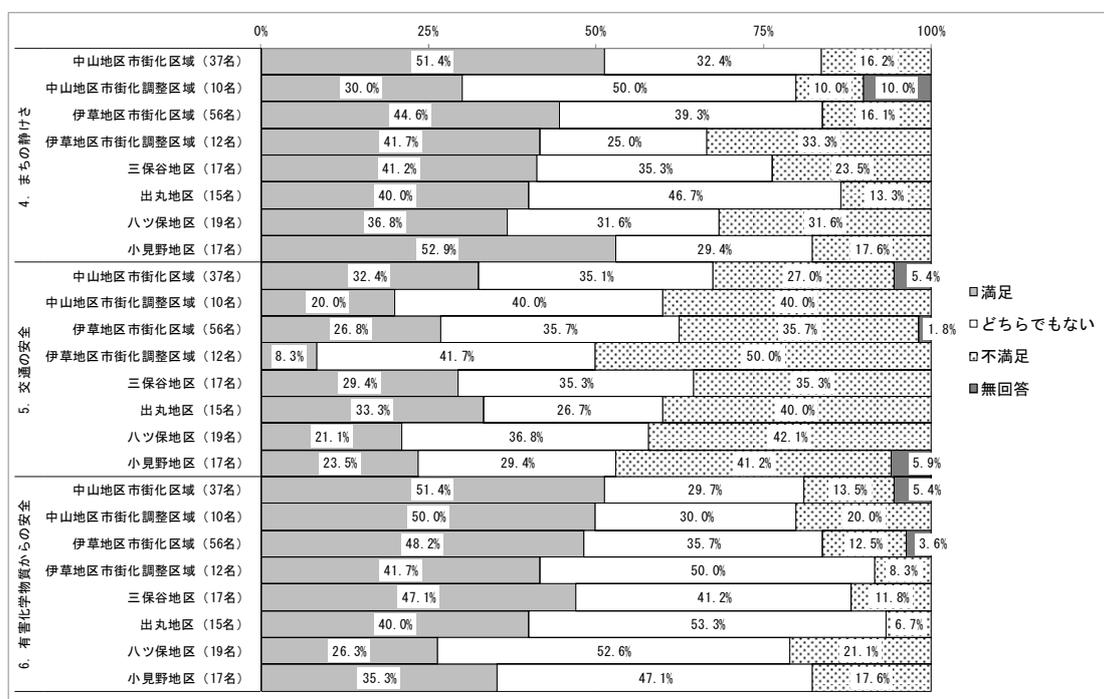


「空気のきれいさ」については、ほとんどの地区で「満足」が 50%前後となっていますが、三保谷地区では「満足」が 70.6%と特に高くなっています。一方、中山地区市街化調整区域は、「満足」も「不満足」も 40.0%と他の地区と比べて満足度が低くなっています。

「水のきれいさ」については、小見野地区において最も満足度が高く（64.7%）、中山地区市街化調整区域において満足度が最も低くなっています（20.0%）。中山地区市街化区域は「満足」が 51.4%と比較的高い一方で、35.1%の回答者が「不満足」と感じています。

「まちのきれいさ」については、小見野地区において最も満足度が高くなっていますが（52.9%）、「不満足」の割合が最も低いのは出丸地区（6.7%）です。

下図は、静けさ・安全（質問項目 4～6）に関する居住地区別の満足度の違いを示した図です。

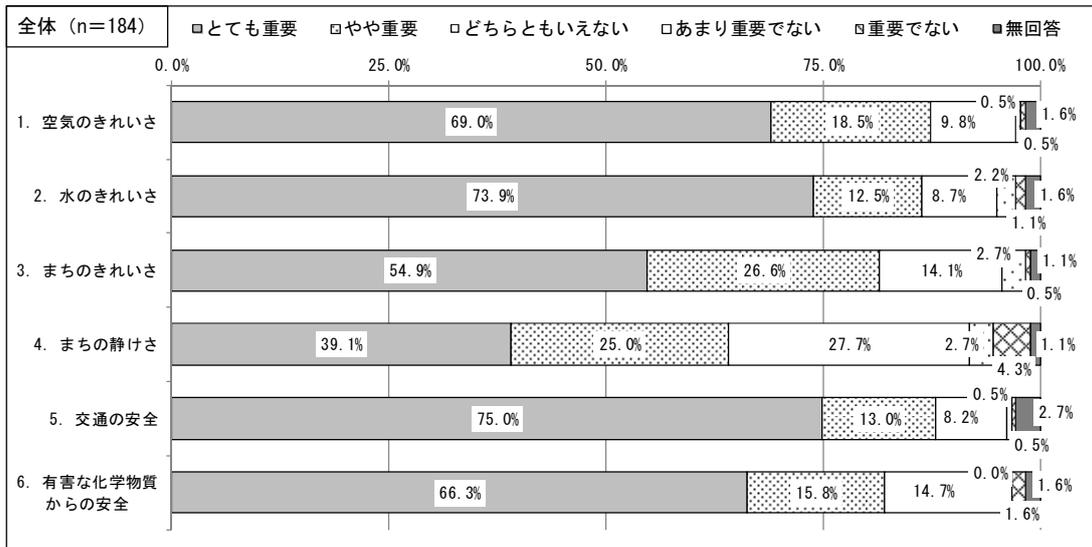


「まちの静けさ」については、「満足」に関しては小見野地区が 52.9%と最も高く、中山地区市街化調整区域が 30%と最も低くなっています。しかし、「不満足」に関しては、伊草地区市街化調整区域（33.3%）と八ツ保地区（31.6%）が他の地区と比べて高くなっています。

「交通の安全」については、中山地区市街化区域を除いて、「満足」よりも「不満足」の割合の方が高くなっており、特に伊草地区市街化調整区域においてその傾向が顕著です。

「有害化学物質からの安全」については、全体的に「不満足」よりも「満足」の割合の方が高くなっていますが、八ツ保地区の「満足」の割合（26.3%）は、他の地域と比較して若干低くなっています。

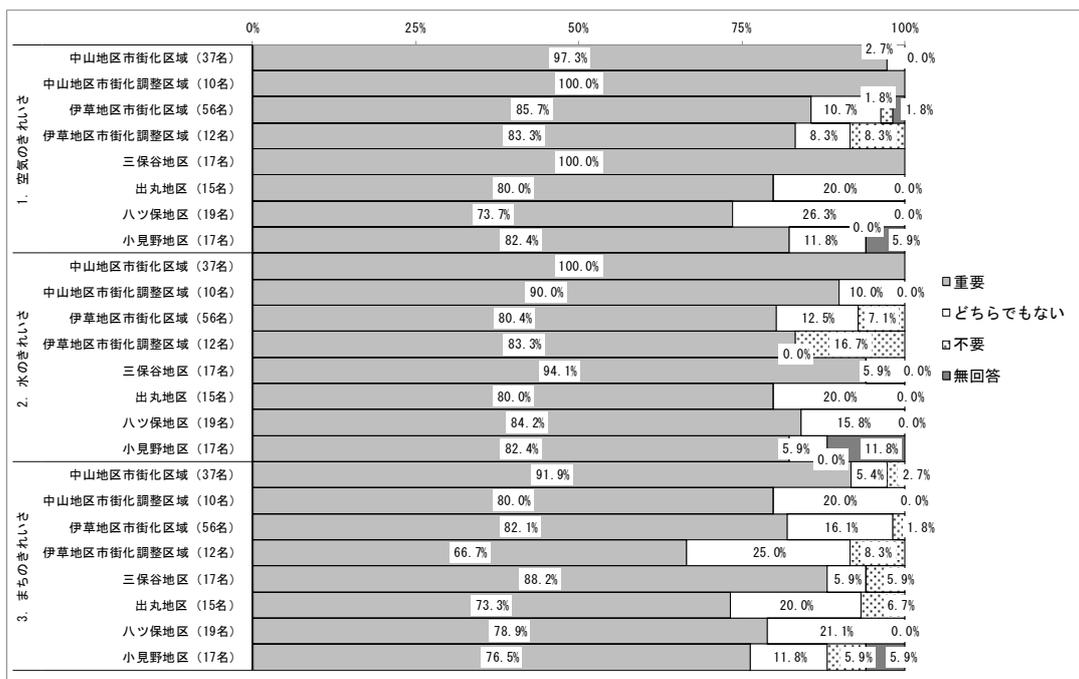
## ■ 重要度



生活環境の重要度に関しては、「とても重要」と「やや重要」の合計が、「まちの静けさ」を除いて 80%を超えています。順位は異なりますが、関心度の高い項目が、重要度も高くなっています。

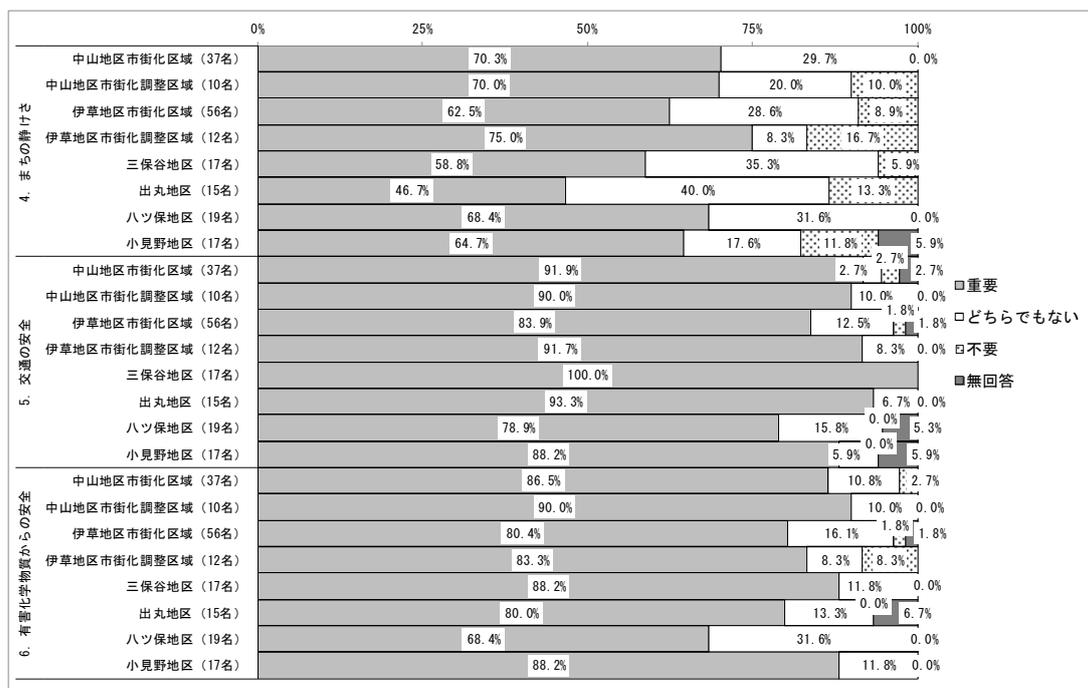
生活環境の重要度について、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める重要度（「とても重要」と「やや重要」の合計）の割合と不要度（「重要ではない」と「あまり重要でない」の合計）の割合の相違を以下に示します。

下図は、きれいさ（質問項目 1～3）に関する居住地区別の重要度の違いを示した図です。



「空気のきれいさ」、「水のきれいさ」、「まちなりのきれいさ」について、重要であるとの回答の割合は、地区ごとに若干の違いがあるもののすべて 60%以上であり、どの地区でも「重要」と考える回答者が大半であることがわかります。

下図は、静けさ・安全（質問項目 4～6）に関する居住地区別の重要度の違いを示した図です。

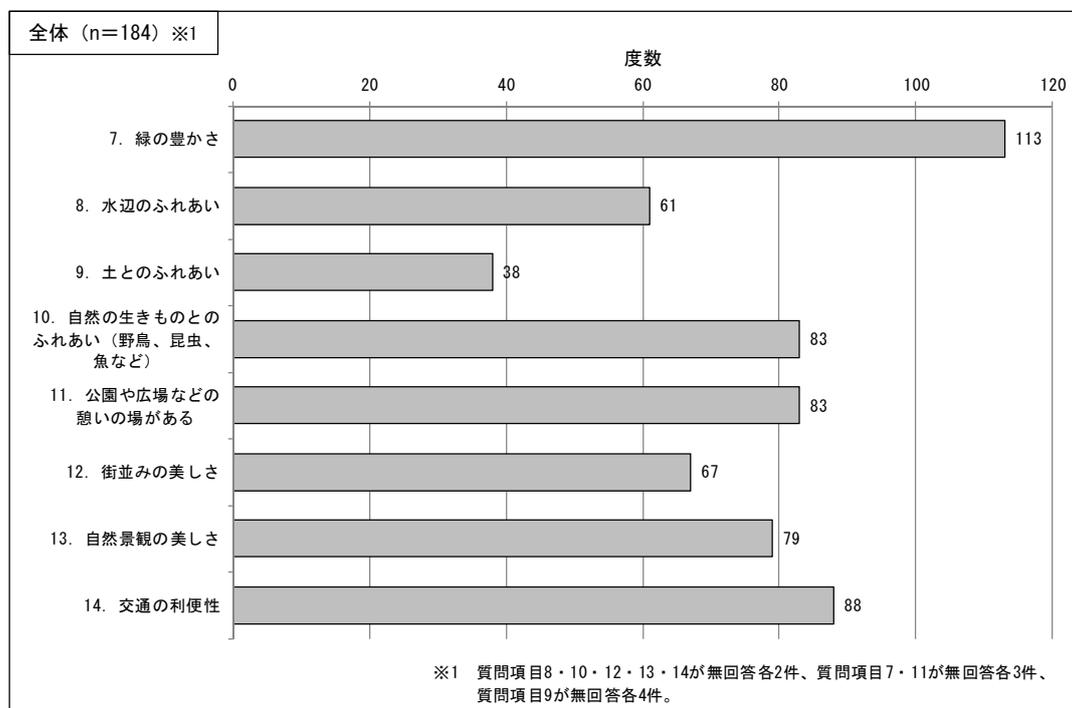


「まちなりの静けさ」については、出丸地区を除く地域で「重要」が 50%を超えています。伊草地区市街化調整区域は、「重要」の割合が 75.0%と最も高い反面、「不要」(16.7%)の割合も最も高くなっています。

「交通の安全」と「有害化学物質からの安全」については、どの地域も「重要」の割合が高くなっています。

## (2) 自然環境や快適環境について

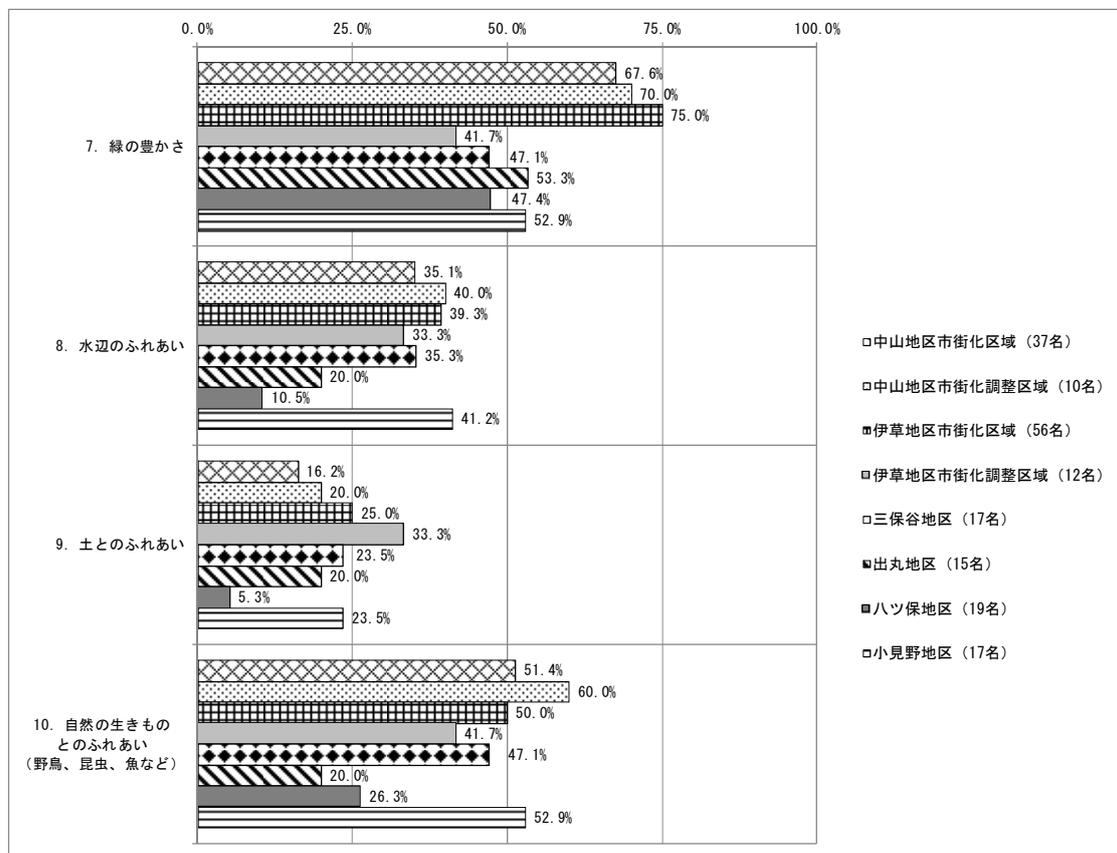
### ■ 関心度



自然環境や快適環境の関心度については、「緑の豊かさ」が 113 件と最も関心度が高く、次いで「交通の利便性」(88 件)、「自然の生きものとのふれあい (野鳥、昆虫、魚など)」と「公園や広場などの憩いの場がある」(83 件)の順となっています。

自然環境や快適環境の関心度について、回答者の居住地区別の相違を以下に示します(各居住地区の回答者数に占める関心を持っている人の割合)。

下図は、自然の豊かさ・ふれあい（質問項目7～10）に関する居住地区別の関心度の違いを示した図です。

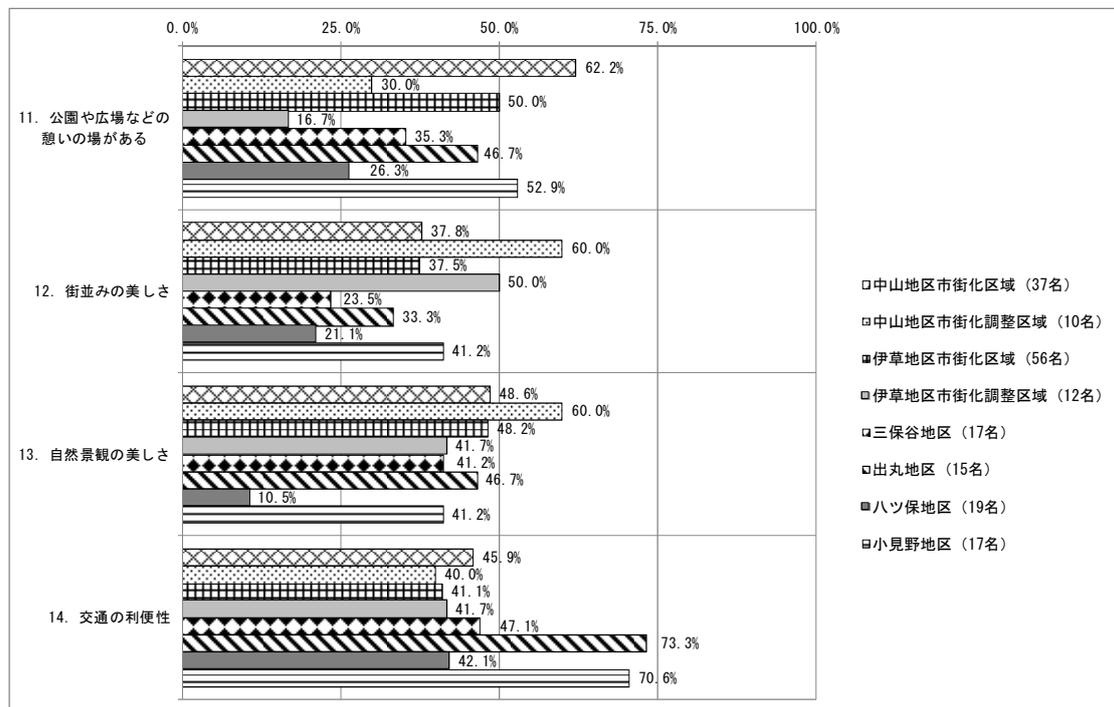


「緑の豊かさ」については、すべての地区で40%以上の回答者が関心を持っています。中山地区市街化区域、中山地区市街化調整区域、伊草地区市街化区域では、約70%の回答者が関心を持っており、高い関心が示されています。

「水辺のふれあい」と「土とのふれあい」については、すべての地区で関心を持っている回答者の割合が50%に満たず、特に八ツ保地区において割合が低くなっています。

「自然の生きものとのふれあい（野鳥、昆虫、魚など）」については、半数の地区で50%前後の回答者が関心を持っていますが、中山地区市街化調整区域が60.0%と若干高くなっています。

下図は、快適さ（質問項目 11～14）に関する居住地区別の関心度の違いを示した図です。



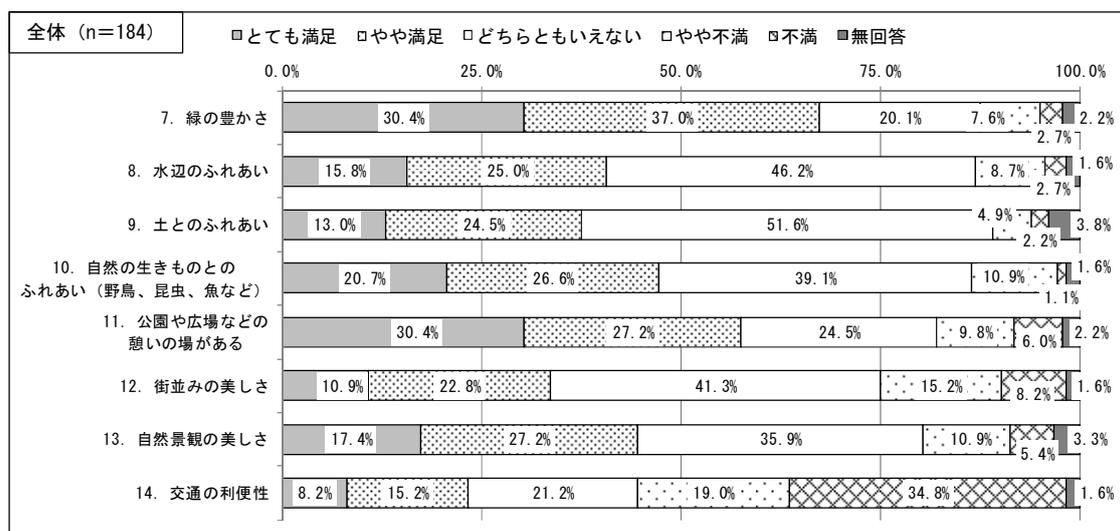
「公園や広場などの憩いの場がある」については、市街化区域（中山地区市街化区域と伊草地区市街化区域）や小見野地区で、他の地区よりも関心を持っている回答者の割合が高くなっています。

「街並みの美しさ」については、市街化調整区域（中山地区市街化調整区域と伊草地区市街化調整区域）において、他の地区よりも関心を持っている回答者の割合が高くなっています。

「自然景観の美しさ」については、八ツ保地区を除く地区で、40%以上の回答者が関心を持っていますが、中山地区市街化調整区域（60.0%）が他の地区よりも高くなっています。

「交通の利便性」については、特に出丸地区（73.3%）と小見野地区（70.6%）が、関心を持っている回答者の割合が高くなっています。

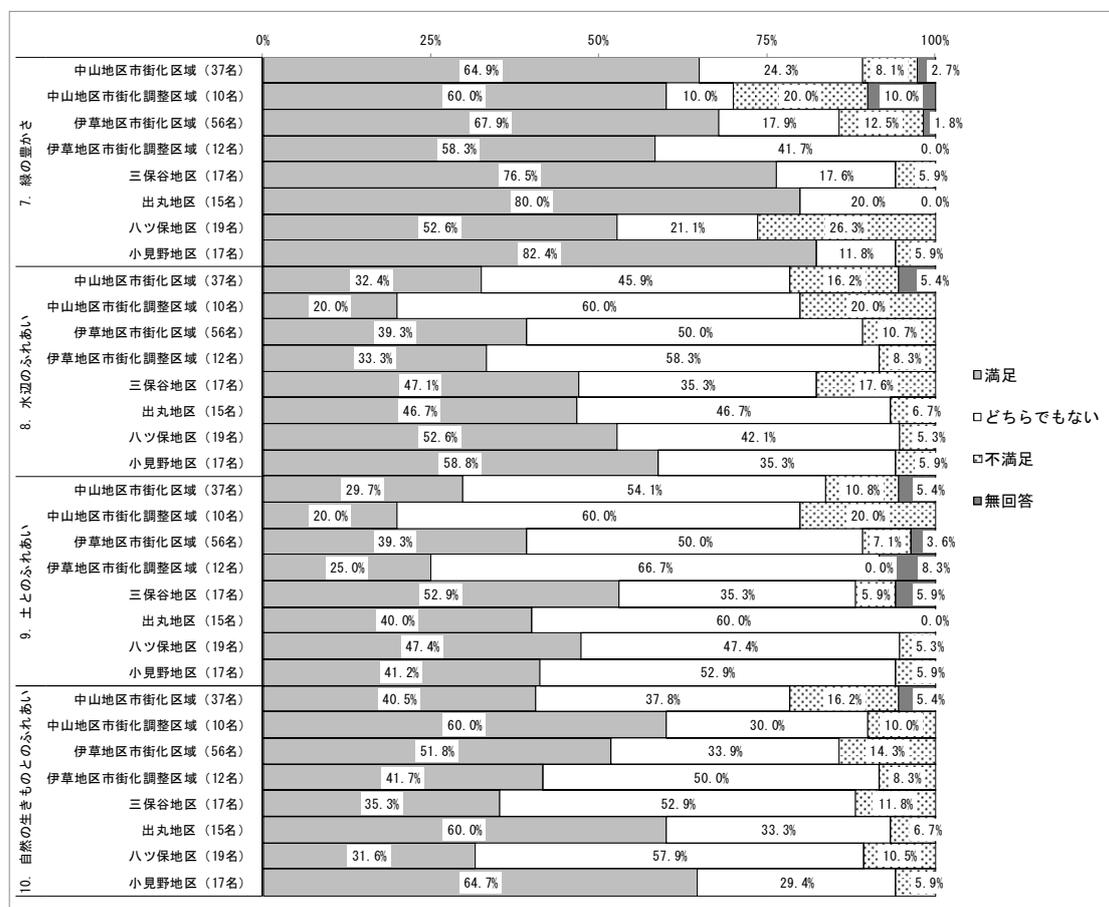
## ■ 満足度



自然環境や快適環境の満足度に関しては、「とても満足」と「やや満足」の合計が「緑の豊かさ」(67.4%)、「公園や広場などの憩いの場がある」(57.6%)、「自然の生きものとのふれあい(野鳥、昆虫、魚など)」(47.3%)の順で高くなっています。「交通の利便性」は、「不満」と「やや不満」の合計が53.8%であり、生活環境の「交通の安全」も他の項目と比較して満足度が低くなっており、交通環境への満足度が低いことがうかがえます。

自然環境や快適環境の満足度について、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める満足度(「とても満足」と「やや満足」の合計)の割合と不満足度(「不満」と「やや不満」の合計)の割合の相違を以下に示します。

下図は、自然の豊かさ・ふれあい（質問項目7～10）に関する居住地区別の満足度の違いを示した図です。



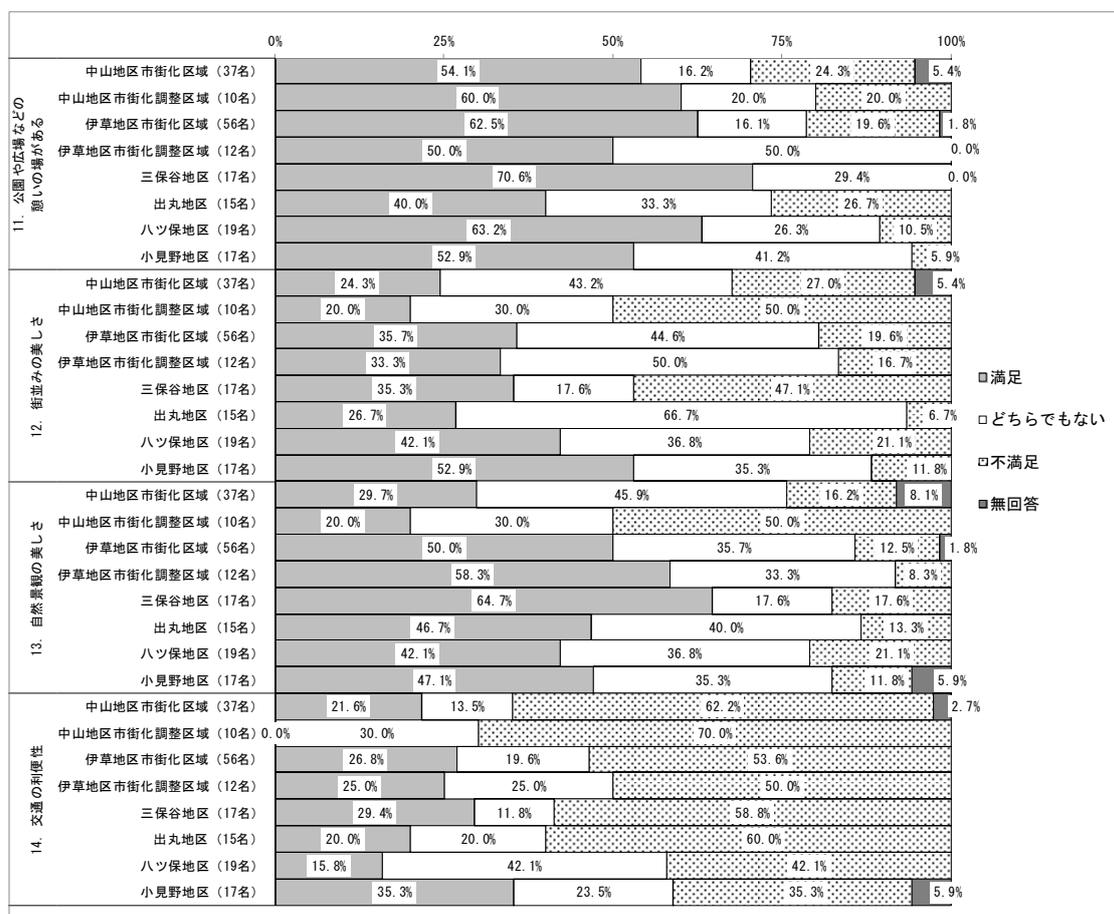
「緑の豊かさ」については、すべての地区で半数以上の回答者が「満足」と感じており、特に小見野地区（82.4%）や出丸地区（80.0%）が特に高くなっています。

「水辺のふれあい」については、小見野地区（58.8%）と八ツ保地区（52.6%）において、半数以上の回答者が「満足」と感じています。

「土とのふれあい」については、全体的に「どちらでもない」の割合が高く、「不満足」の割合が低くなっています。

「自然の生きものとのふれあい」については、小見野地区（64.7%）、中山地区市街化調整区域（60.0%）、出丸地区（60.0%）において「満足」が60%を超えており、全体的に「不満足」の割合が低くなっています。

下図は、快適さ（質問項目 11～14）に関する居住地区別の満足度の違いを示した図です。



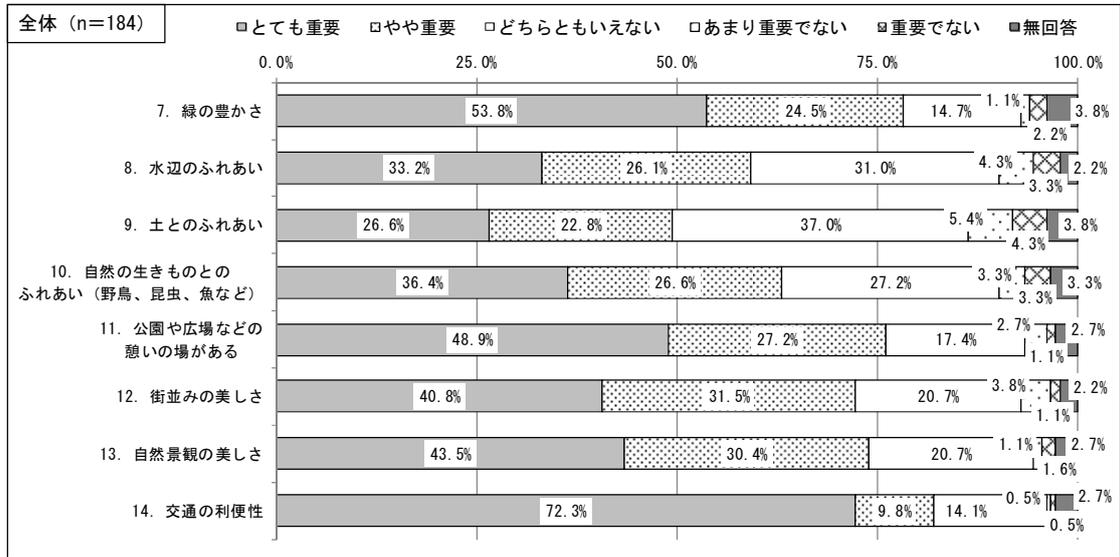
「公園や広場などの憩いの場がある」については、出丸地区を除いて半数以上の回答者が「満足」と感じており、伊草地区市街化調整区域と三保谷地区においては「不満足」の割合が 0.0%となっています。

「街並みの美しさ」については、中山地区市街化調整区域 (50.0%) と三保谷地区 (47.1%) において、約半数の回答者が「不満足」と感じています。

「自然景観の美しさ」については、中山地区（市街化区域・市街化調整区域）において「満足」の割合が他地域よりも低く、特に中山地区市街化調整区域では 50%の回答者が「不満足」と感じています。

「交通の利便性」については、全体的に「不満足」の割合が高く、特に中山地区市街化調整区域では「満足」と感じている回答者は 0.0%となっています。

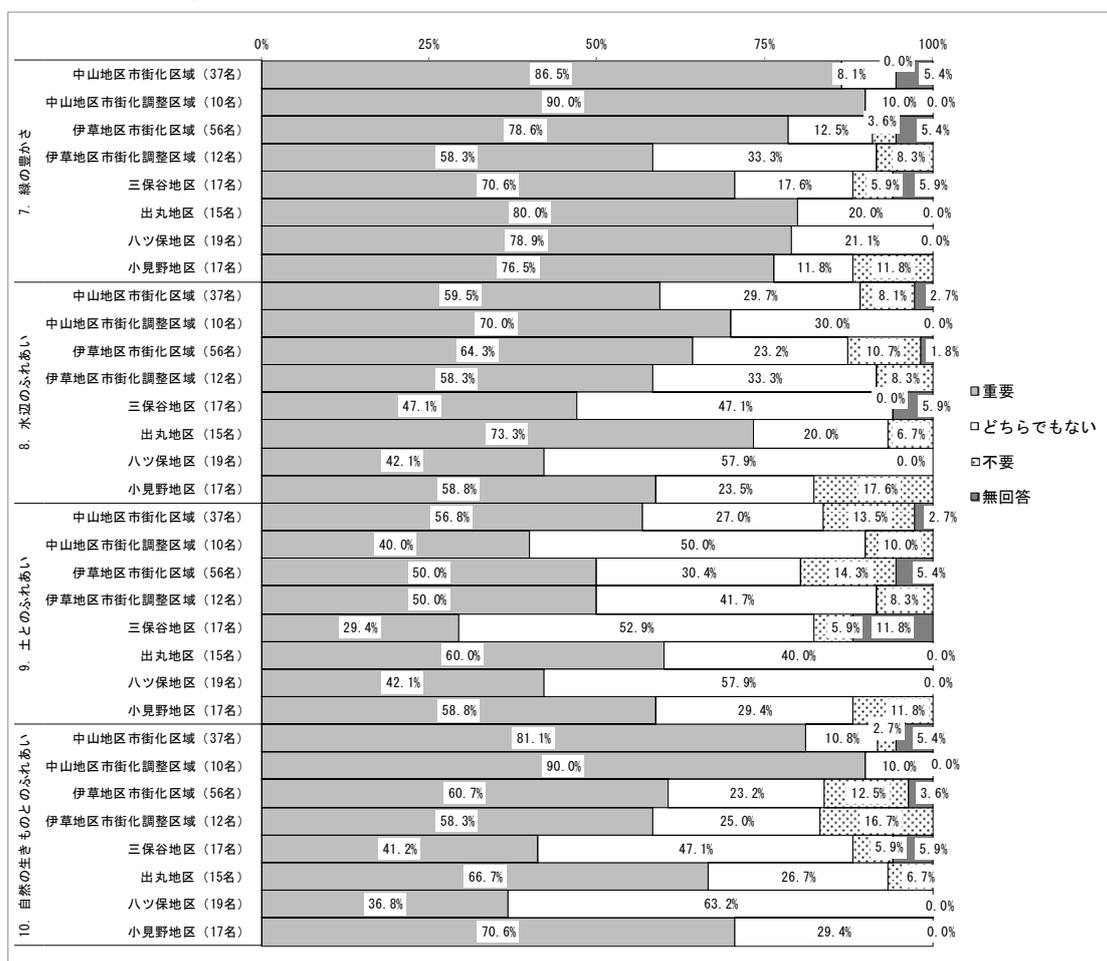
■重要度



自然環境や快適環境の重要度に関しては、「とても重要」と「やや重要」の合計が「交通の利便性」(82.1%)、「緑の豊かさ」(78.3%)、「公園や広場などの憩いの場がある」(76.1%)の順で高くなっています。満足度の低かった「交通の利便性」の重要度が1番高くなっていることから、利便性の向上が期待されていると考えられます。

自然環境や快適環境の重要度について、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める重要度（「とても重要」と「やや重要」の合計）の割合と不要度（「重要ではない」と「あまり重要でない」の合計）の割合の相違を以下に示します。

下図は、自然の豊かさ・ふれあい（質問項目7～10）に関する居住地区別の重要度の違いを示した図です。

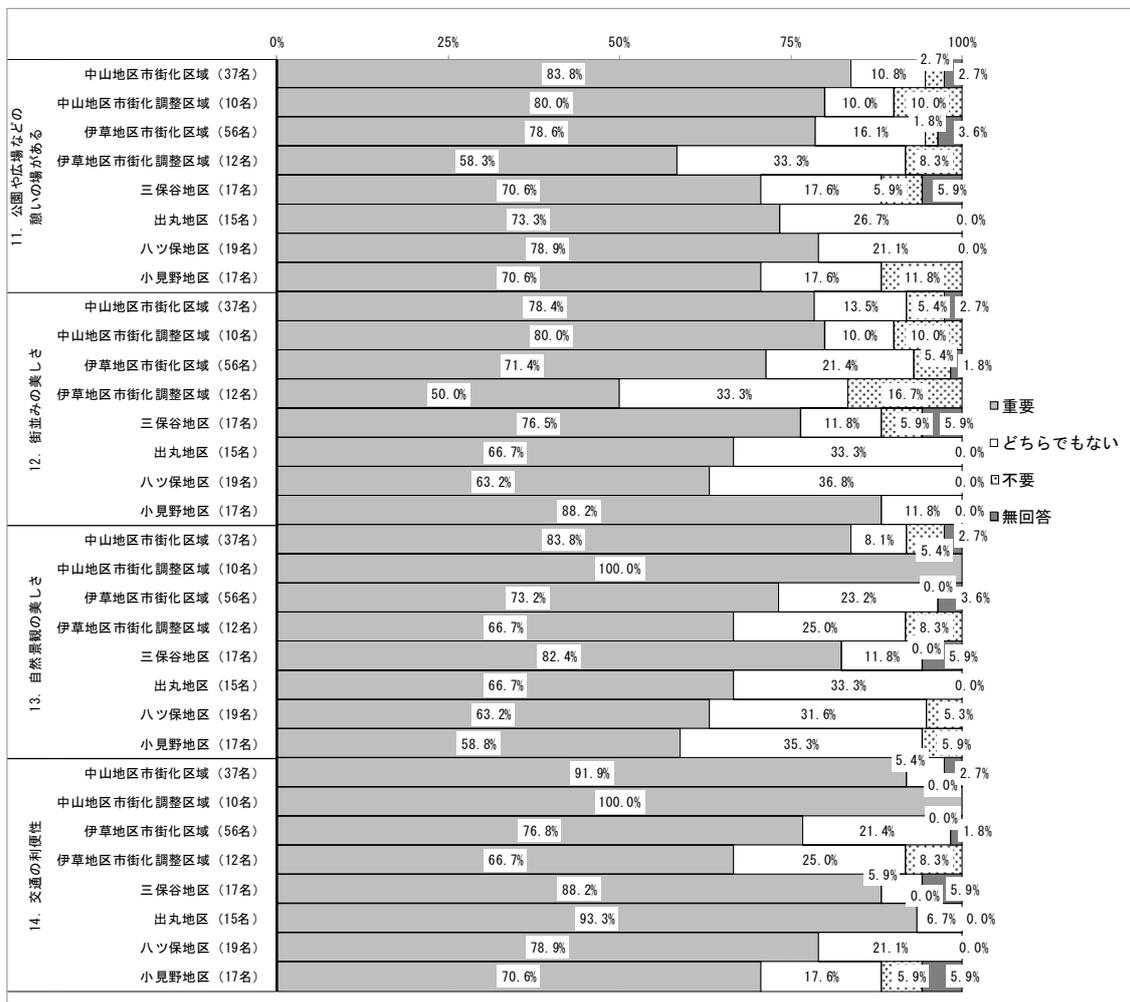


「緑の豊かさ」については、伊草地区市街化調整区域において「重要」の割合が 58.3% と他の地域と比較すると若干低くなっていますが、全地域において高い割合を示しています。

「水辺のふれあい」と「土とのふれあい」については、「重要」の割合は出丸地区で最も高くなっています。（それぞれ 73.3%、60.0%）

「自然の生きものとのふれあい」については、「重要」の割合が中山地区市街化調整区域（90.0%）と中山地区市街化区域（81.1%）で特に高くなっています。

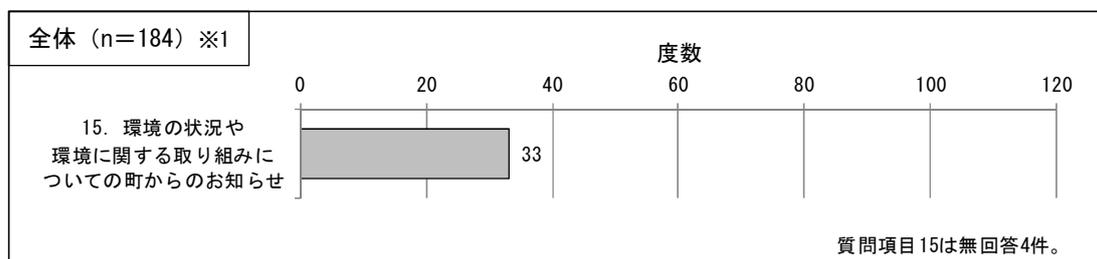
下図は、快適さ（質問項目 11～14）に関する居住地区別の重要度の違いを示した図です。



快適さに関する 4つの項目について、すべての地区において半数以上の回答者が「重要」と感じています。特に中山地区（市街化区域・市街化調整区域）においては、4つの項目とも「重要」の割合が上位になっています。

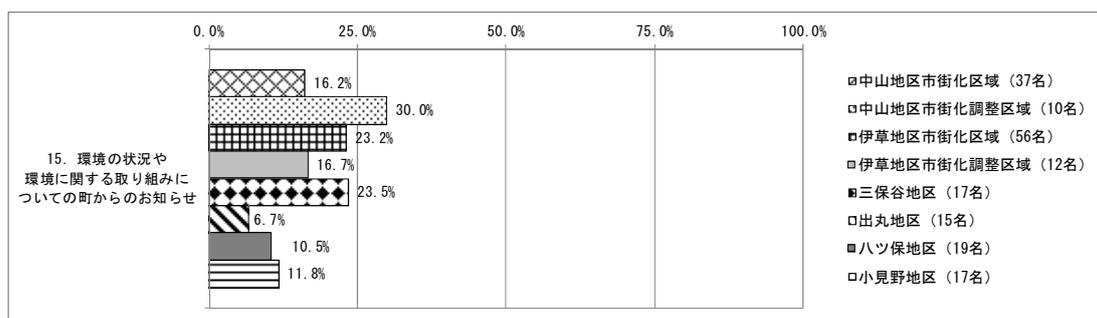
### (3) 環境に関するお知らせについて

#### ■ 関心度



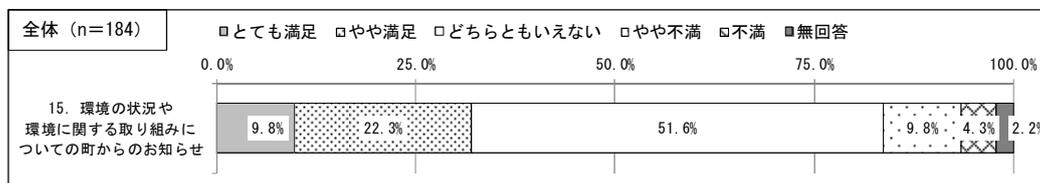
環境に関するお知らせの関心度については、「環境の状況や環境に関する取り組みについての町からのお知らせ」が33件となっており、全体を通して最も関心度が低い項目となっています。

環境に関するお知らせの関心度について、回答者の居住地区別の相違を以下に示します（各居住地区の回答者数に占める関心を持っている人の割合）。



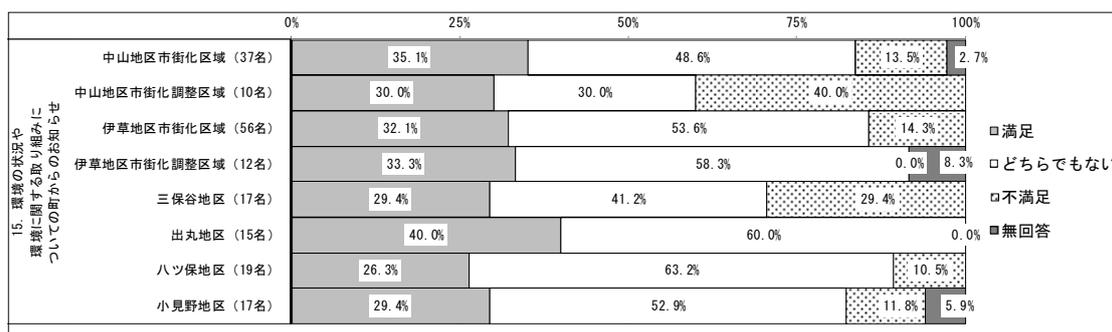
「環境の状況や環境に関する取り組みについての町からのお知らせ」については、中山地区市街化調整区域（30.0%）が関心を持っている回答者の割合が最も高く、次いで三保谷地区（23.5%）、伊草地区市街化区域（23.2%）の順となっています。

#### ■ 満足度



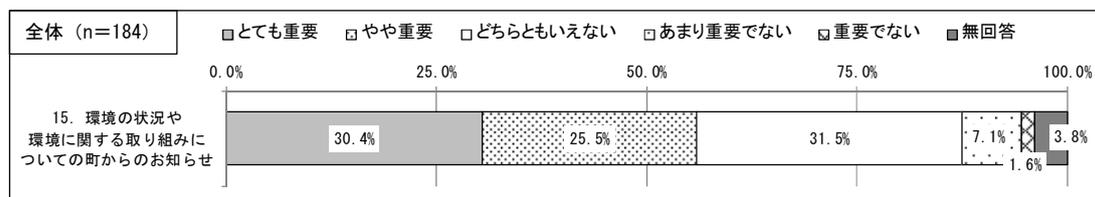
環境に関するお知らせの満足度に関しては、「とても満足」と「やや満足」の合計が32.1%となっています。

環境に関するお知らせについて、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める満足度（「とても満足」と「やや満足」の合計）の割合と不満足度（「不満」と「やや不満」の合計）の割合の相違を次ページに示します。



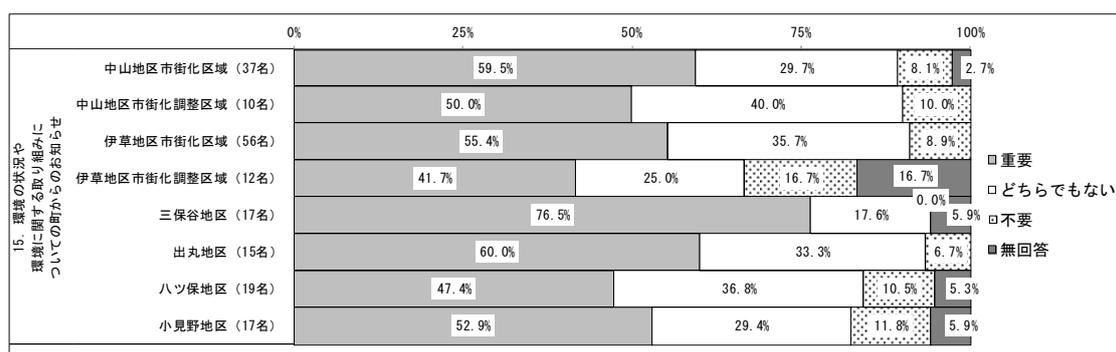
出丸地区において「満足」が40.0%と最も高く、「不満足」も0.0%となっています。中山地区市街化調整区域と三保谷地区において、「不満足」が他の地域よりも若干高くなっています。

### ■重要度



環境に関するお知らせの重要度に関しては、「とても重要」と「やや重要」の合計が56.0%となっており、半数以上の回答者が重要であると考えています。

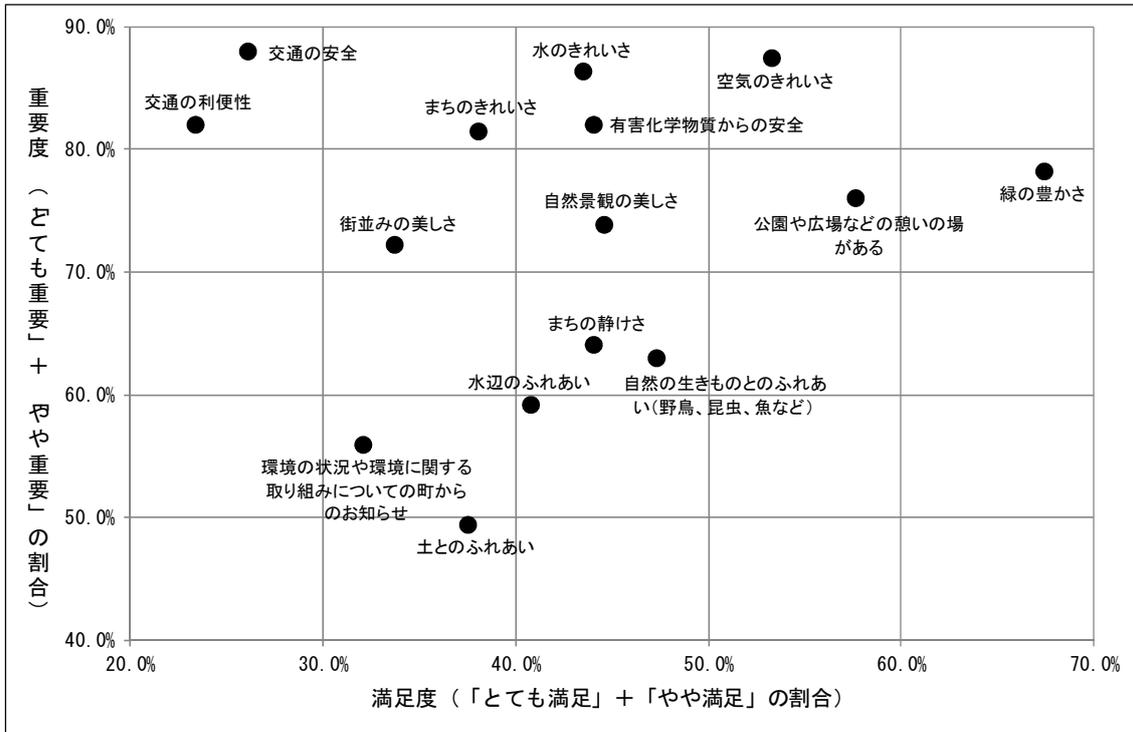
環境に関するお知らせの重要度について、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者に占める重要度（「とても重要」と「やや重要」の合計）の割合と不要（「重要ではない」と「あまり重要でない」の合計）の割合の相違を以下に示します。



「環境の状況や環境に関する取り組みについての町からのお知らせ」の重要度については、「重要」の割合は三保谷地区において76.5%と最も高く、次いで出丸地区（60.0%）、中山地区市街化区域（59.5%）の順となっています。

■ 満足度と重要度の関係

設定した 15 項目について、満足度（「とても満足」と「やや満足」を合わせた割合）と重要度（「とても重要」と「やや重要」を合わせた割合）の相関関係を以下に示します。



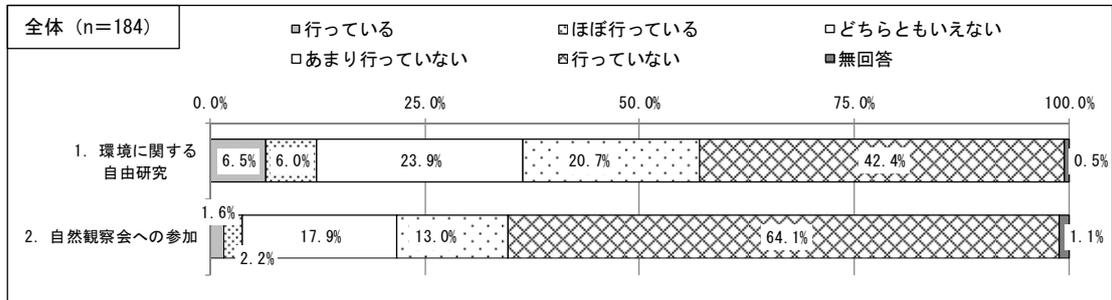
満足度と重要度の関係を見ると、「緑の豊かさ」は満足度も重要度も高く、今後も現状を維持していくべき項目と考えられます。「公園や広場などの憩いの場がある」や「空気きれいさ」については、設定した項目の中では満足度も重要度も高くなっていますが、満足度は 50～60%であり、さらなる増進を検討する項目といえます。

また、「交通の利便性」と「交通の安全」については、重要度が高いにもかかわらず満足度が 30%に満たず低い状況です。

### 3. あなたの日頃の環境保全に対する取り組みについて

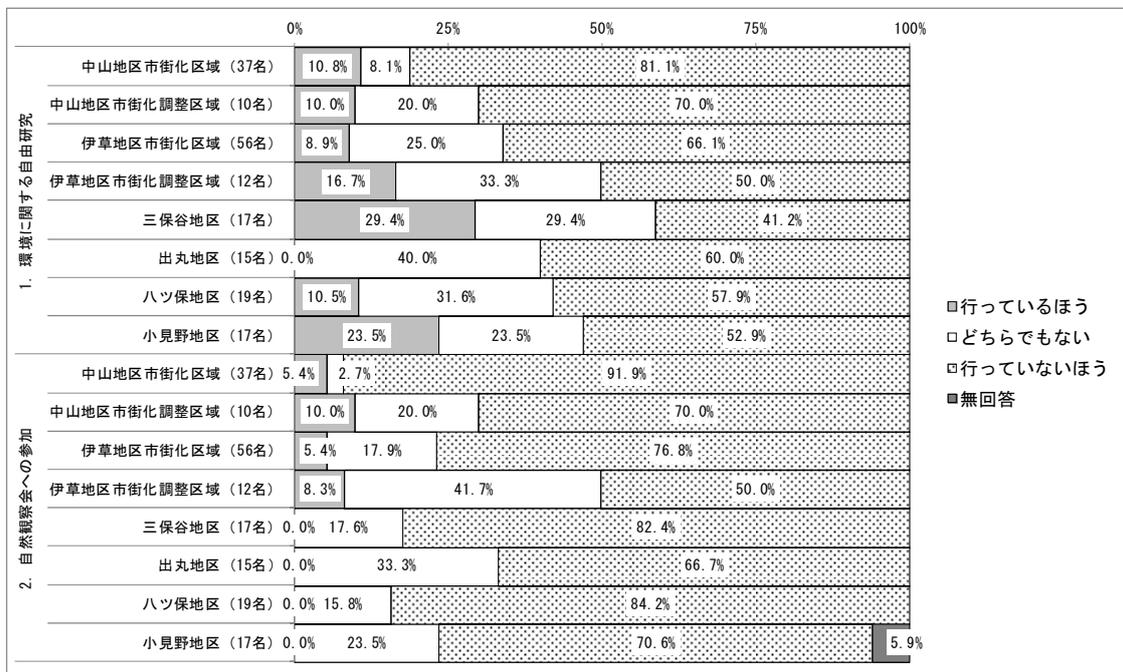
#### 問3-1

##### (1) 自由研究・観察会について



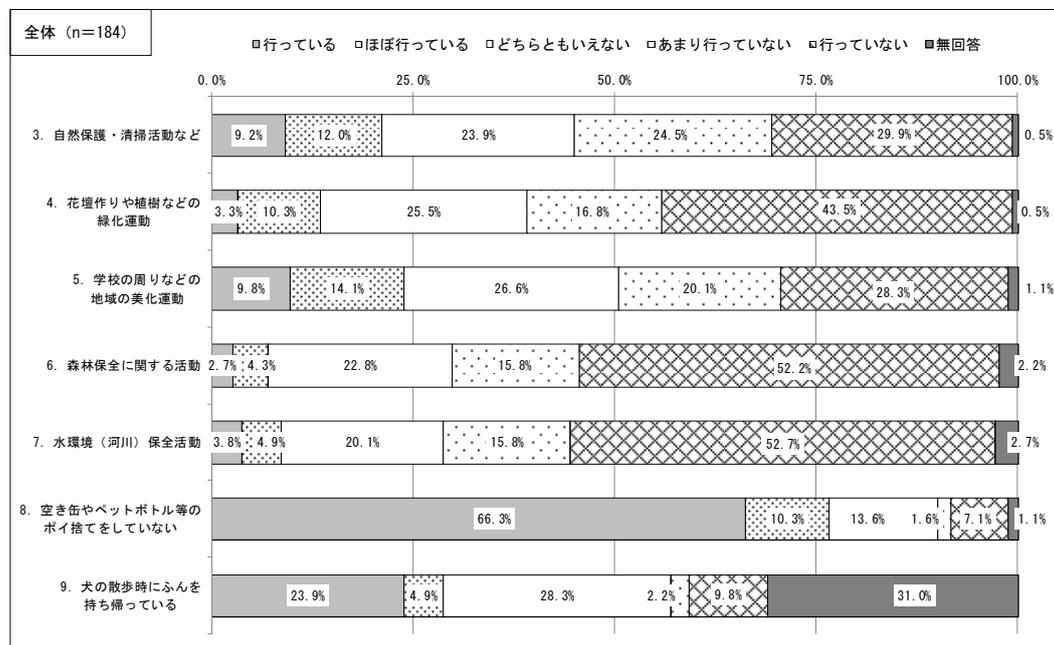
自由研究・観察会への取り組みについては、「行っている」と「ほぼ行っている」の合計が、「環境に関する自由研究」は 12.5%、「自然観察会への参加」は 3.8%となっており、ともに取り組んでいる割合が低くなっています。

自由研究・観察会への取り組みについて、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める取り組み度合いの割合の相違を以下に示します。なお、「行っている」と「ほぼ行っている」の合計の割合を「行っているほう」、「行っていない」と「あまり行っていない」の合計の割合を「行っていないほう」としています。



「環境に関する自由研究」、「自然観察会への参加」とともに、すべての地区で「行っているほう」の割合が低くなっていますが、「環境に関する自由研究」に関して三保谷地区と小見野地区は、他の地域と比較して「行っているほう」の割合が若干高くなっています。

(2) 自然保護・清掃活動等について

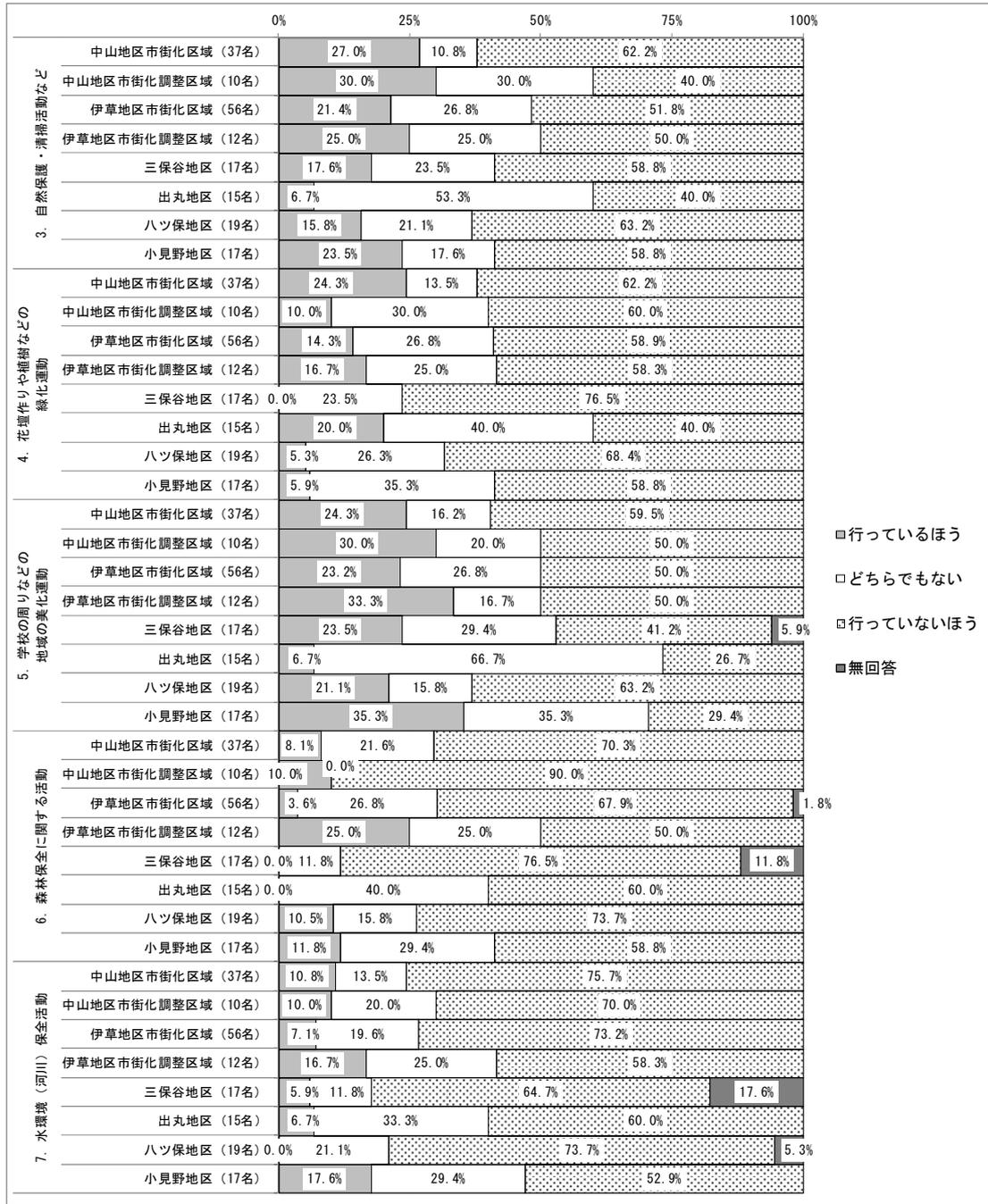


自然保護・清掃活動等への取り組みについては、「行っている」と「ほぼ行っている」の合計が、「空き缶やペットボトル等のポイ捨てをしていない」で76.6%と最も高く、次いで「犬の散歩時にふんを持ち帰っている」（28.8%）、「学校の周りなどの地域の美化運動」（23.9%）の順となっています。

「3. 自然保護・清掃活動など」～「7. 水環境（河川）保全活動」や先の自由研究・観察会への取り組みで挙げられた項目と比較すると、「行っている」との回答は「空き缶やペットボトル等のポイ捨てをしていない」と「犬の散歩時にふんを持ち帰っている」が高くなっています。この2つの取り組みは、日常生活の中で取り組むことができる内容であることから、行っている割合が高くなっていると推察されます。また、「犬の散歩時にふんを持ち帰っている」において無回答の割合が多くなっていますが、これは犬を飼っていない回答者によるものと考えられます。

自然保護・清掃活動等への取り組みについて、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める取り組み度合いの割合の相違を次ページに示します。

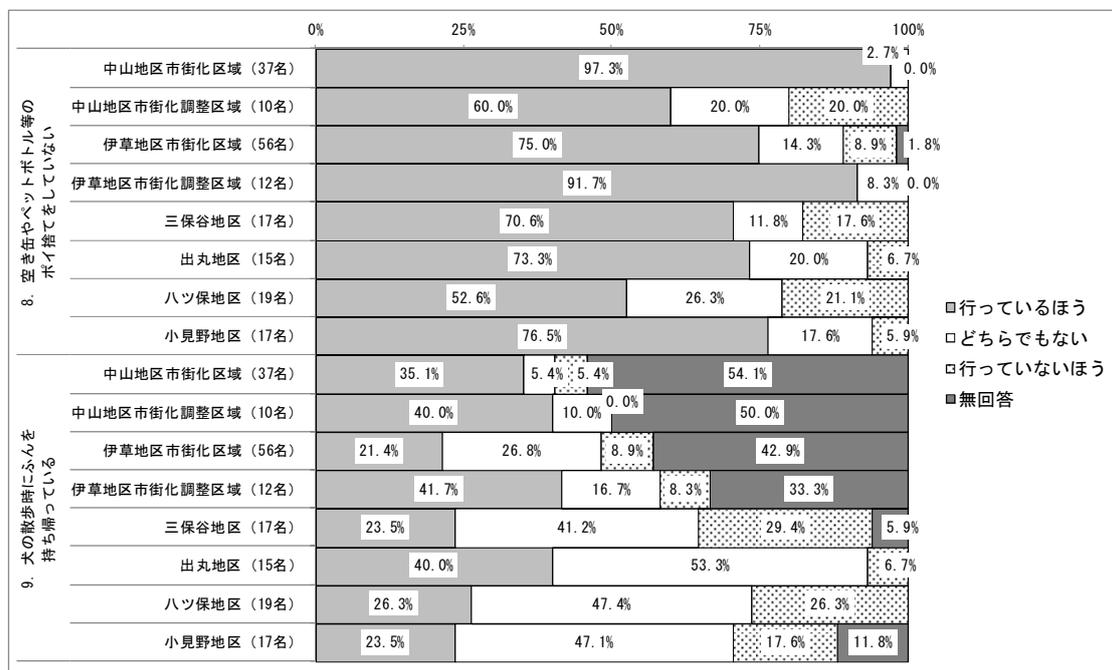
次ページの図は、活動や運動（質問項目 3～7）に関する居住地区別の取り組み度合いの違いを示した図です。



行っているほう  
 どちらでもない  
 行っていないほう  
 無回答

全体的に地区の違いによる大きな差はみられず、「行っているほう」の割合よりも「行っていないほう」の割合の方が高い傾向があります。「行っているほう」の割合は決して高くはありませんが、「学校の周りなどの地域の美化運動」に関しては、多くの地域で20%を超えており、他の活動・運動と比較すると「行っているほう」の割合が高くなっています。

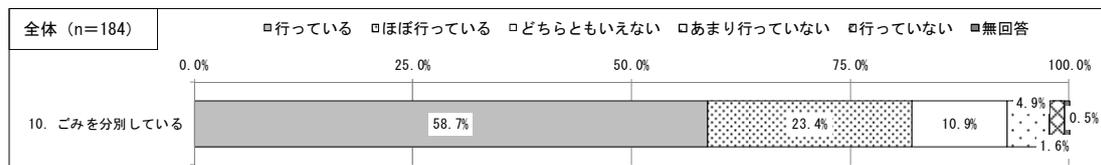
下図は、ごみ（質問項目 8～9）に関する居住地区別の取り組み度合いの違いを示した図です。



「空き缶やペットボトル等のポイ捨てをしていない」については、すべての地区で「行っているほう」の割合が50%を超えており、特に中山地区市街化区域と伊草地区市街化調整区域において90%以上と高い割合を示しています。

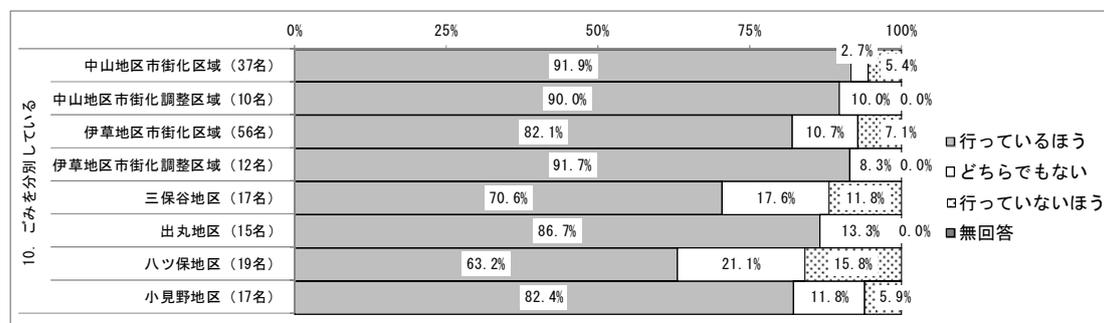
「犬の散歩時にふんを持ち帰っている」ともに、伊草地区市街化調整区域（41.7%）、中山地区市街化調整区域（40.0%）、出丸地区（40.0%）において、「行っているほう」の割合が40%を超えています。

### (3) リサイクル・省エネルギーについて



リサイクル・省エネルギーの取り組みについては、「行っている」と「ほぼ行っている」の合計が 82.1%と高くなっています。ごみの分別も、日常生活の中で取り組むことができる内容であることから、ポイ捨てをしないと様様に、取り組み度合いが高くなっています。

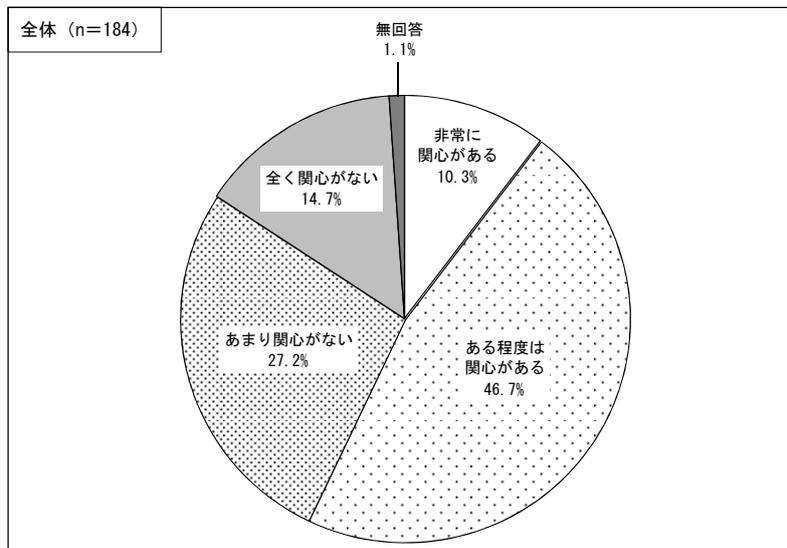
リサイクル・省エネルギーの取り組みについて、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める取り組み度合いの割合の相違を以下に示します。



ごみの分別について、すべての地区において「行っているほう」の割合が高いですが、特に中山地区市街化区域 (91.9%)、伊草地区市街化調整区域 (91.7%)、中山地区市街化調整区域 (90.0%) において 90%を超える高い割合を示しています。

その他の意見として、「犬のふんに関しては、うめている」、「夏は緑のカーテンを作っている」、「家の敷地のまわりに捨てられたゴミを拾っていることがたまにある」、「資源回収」、「油をふいてから洗い物をしている」などが挙げられていました。

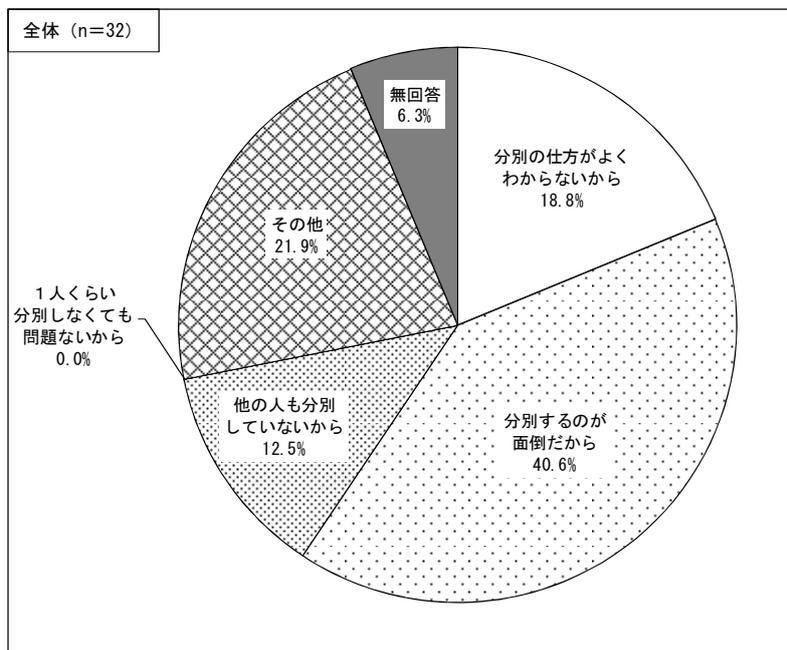
問 3-2



ごみの問題への関心については、「非常に興味がある」と「ある程度は興味がある」の合計が 57.0%と過半数を占めていますが、「あまり興味がない」と「全く興味がない」の合計も 41.9%と 40%を超えています。

ごみの捨て方だけがごみ問題ではありませんが、問 3-1 の「空き缶やペットボトル等のポイ捨てをしていない」や「ごみを分別している」では「行っている」の割合が高くなっていましたが、ごみ問題への関心の高さによる影響だけではなく、生活習慣によるものと考えられます。

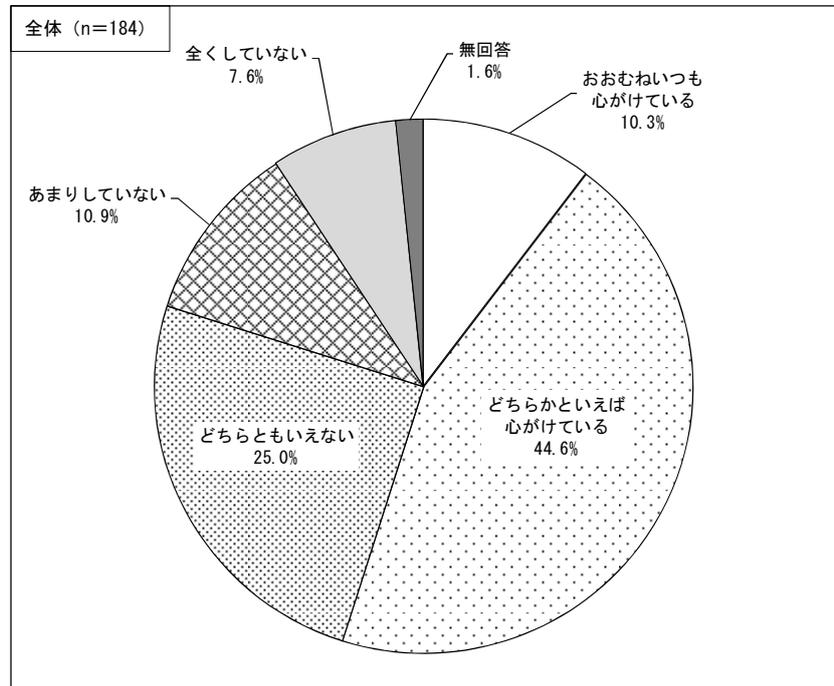
問3-3



ごみの分別を行わない理由については、「分別するのが面倒だから」が40.6%と最も高く、「分別の仕方がよくわからないから」も18.8%となっています。

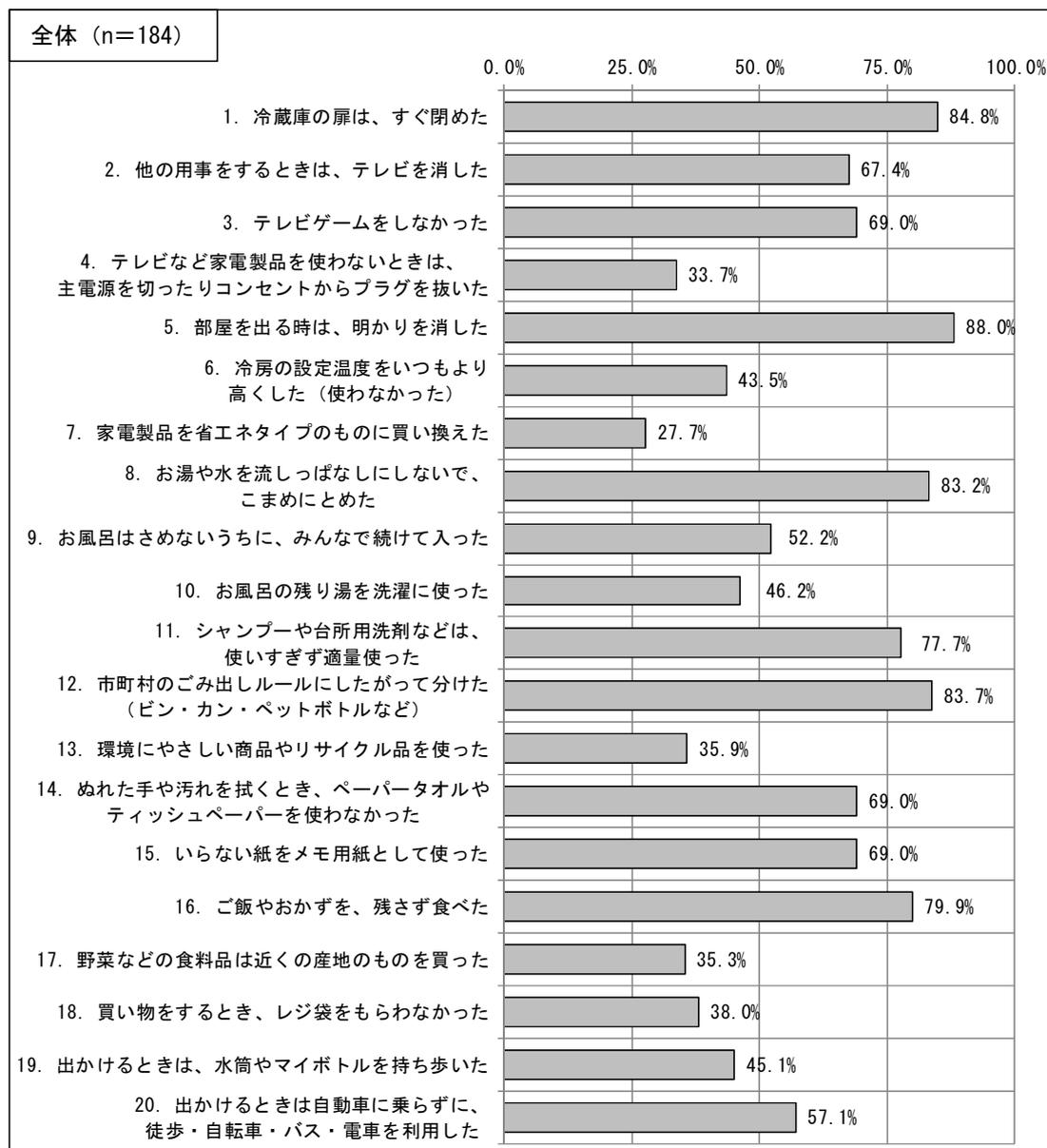
## 4. 地球温暖化防止に関する取り組みについて

### 問4-1



生活の中での地球温暖化防止に配慮した行動の心がけについては、「どちらかといえ心にかけている」が44.6%と最も高く、次いで「どちらかといえ心にかけていない」(25.0%)、「あまりしていない」(10.9%)の順となっています。「どちらかといえ心にかけている」と「おむねいつも心にかけている」を合計すると、過半数が生活の中で地球温暖化防止に配慮した行動を心がけていることがわかります。

問4-2



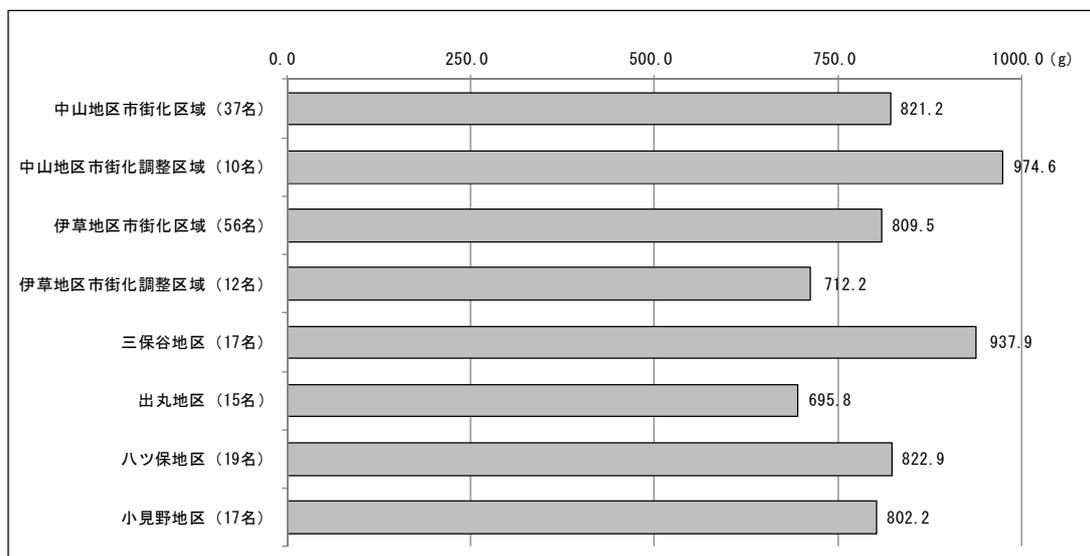
地球温暖化防止に配慮した行動について、それぞれの行動を行った人数の割合に注目すると、「部屋を出る時は、明かりを消した」が88.0%と最も高くなっています。次いで「冷蔵庫の扉は、すぐ閉めた」(84.8%)、「市町村のごみ出しルールにしたがって分けた(ビン・カン・ペットボトルなど)」(83.7%)、「お湯や水を流しっぱなしにしないで、こまめにとめた」(83.2%)の順となっており、基本的な生活習慣に関連する行動の割合が高くなっています。

各行動がどの程度の CO<sub>2</sub> 排出の抑制につながっているのかを示した図を以下に示します。下図では、各行動による CO<sub>2</sub> 排出の抑制量と行動を取った人数を掛け合わせ、その合計を求めた結果を示しています。



最も CO<sub>2</sub> 排出量が抑制された行動は、「出かけるときは自動車に乗らずに、徒歩・自転車・バス・電車を利用した」(32,445g) となっています。この行動を取った回答者の割合の順位は中位程度でしたが、自動車に乗らないことによる CO<sub>2</sub> 排出の抑制量が大きいため、CO<sub>2</sub> 排出の抑制量が最も大きくなっています。

居住地区別にみた CO<sub>2</sub> 排出抑制量の平均（一人あたりの CO<sub>2</sub> 排出抑制量）を下図に示します。



居住地区別の CO<sub>2</sub> 排出抑制量の平均は、中山地区市街化調整区域が 974.6g と最も多く、次いで三保谷地区 (937.9g)、八ツ保地区 (822.9g)、中山地区市街化区域 (821.2g) の順となっています。

また、地球温暖化防止に配慮した行動について、居住地区別にそれぞれの行動を行った人数の割合を次ページの図に示します。なお、図が大きくなるため、質問項目を 5 つごとに分けて図を掲載しています。

次ページの図は、質問項目 1～5 について、居住地区別の地球温暖化防止行動を行った人数の割合を示しています。

「冷蔵庫の扉は、すぐ閉めた」については、行動を行った人数の割合は、三保谷地区 94.1% と最も高く、次いで中山地区市街化調整区域 (90.0%) となっています。すべての地区で行った人数の割合が 75% を超えています。

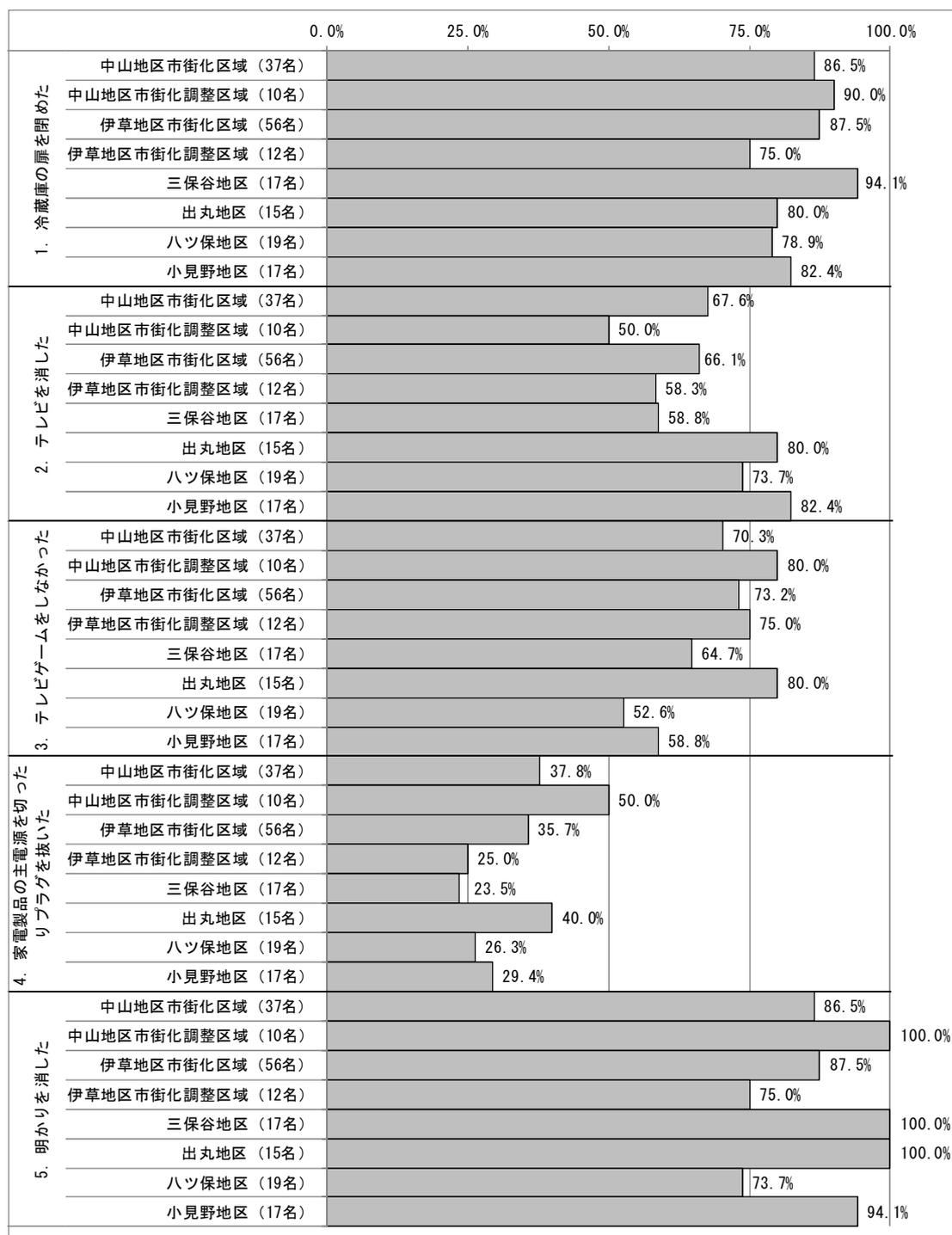
「他の用事をするときは、テレビを消した」については、行動を行った人数の割合はすべての地区で 50% 以上ですが、その中で小見野地区 (82.4%) と出丸地区 (80.0%) で 80% 以上となっています。

「テレビゲームをしなかった」については、行動を行った人数の割合はすべての地区で 50% 以上ですが、その中で中山地区市街化調整区域と出丸地区が 80.0% と最も高くなっています。

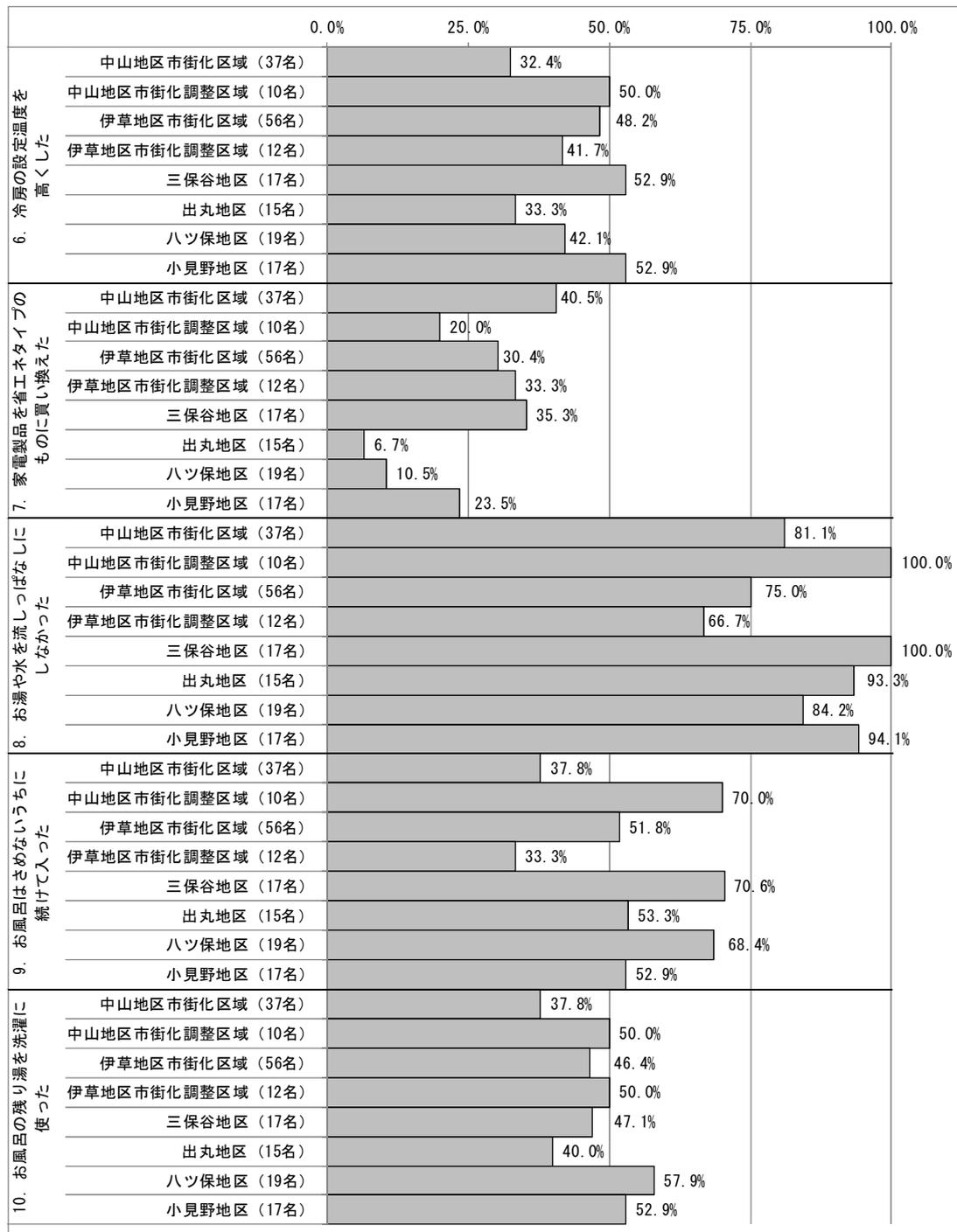
「テレビなど家電製品を使わないときは、主電源を切ったりコンセントからプラグを抜いた」については、中山地区市街化調整区域では半数が行っていますが、他の地区は半数未満であり、この行動を行った人数の割合が低くなっています。

「部屋を出る時は、明かりを消した」については、行動を行った人数の割合はすべての

地区で 70%を超えており、中山地区市街化調整区域、三保谷地区、出丸地区では回答者全員が行っています。



下図は、質問項目 6～10 について、居住地区別の地球温暖化防止行動を行った人数の割合を示しています。



「冷房の設定温度をいつもより高くした」と「お風呂の残り湯を洗濯に使った」について、行動を行った人数の割合は、各地区で約 3 分の 1 から半数となっています。

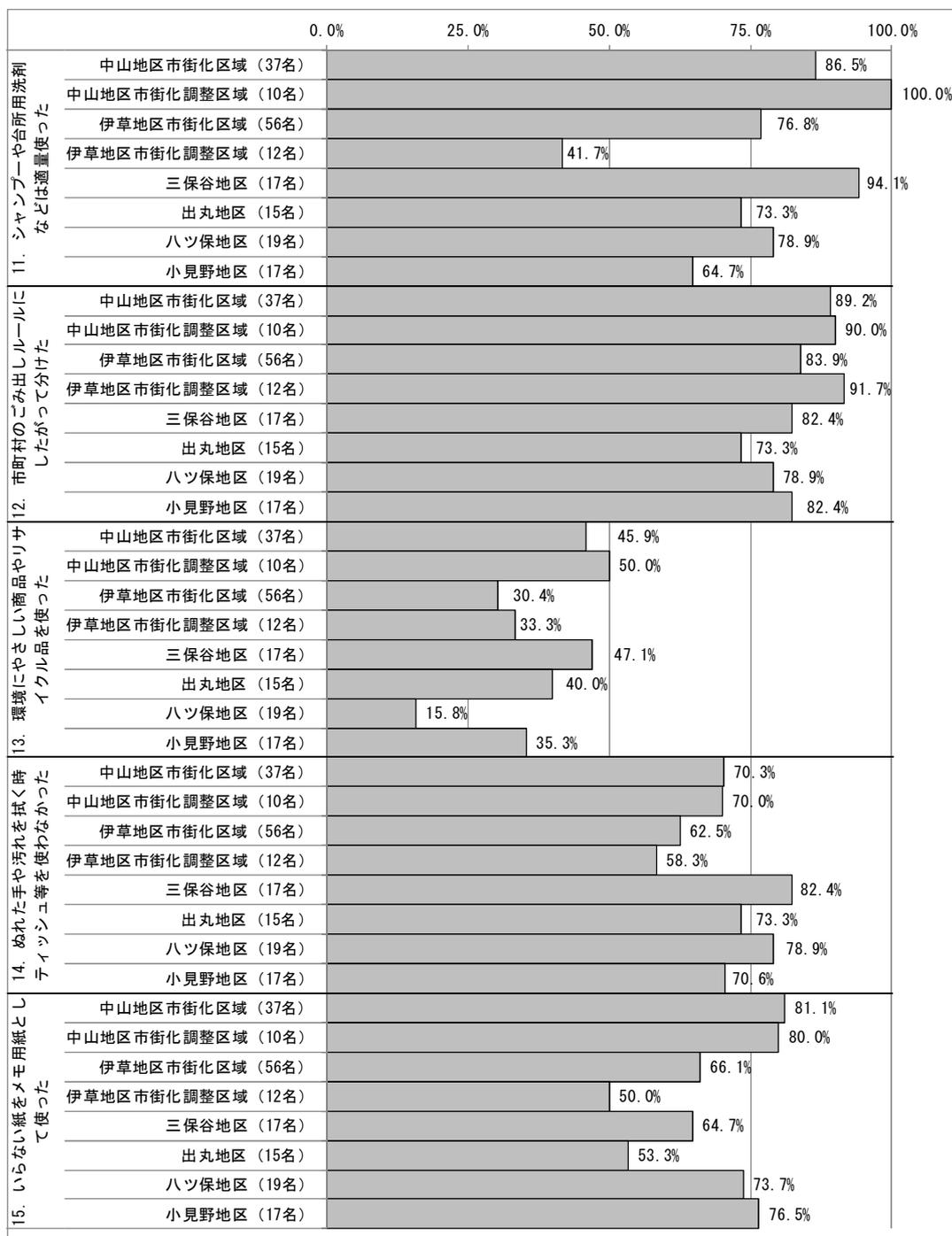
「家電製品を省エネタイプのものに買い換えた」については、行動を行った人数の割合

が最も高い中山地区市街化区域で 40.5%となっていますが、他の質問項目と比較すると、全体的に低い割合となっています。

「お湯や水を流しっぱなしにしないで、こまめにとめた」については、行動を行った人数の割合はすべての地区で高く、特に中山地区市街化調整区域と三保谷地区では回答者全員が行っています。

「お風呂はさめないうちに、みんなで続けて入った」については、行動を行った人数の割合は、三保谷地区（70.6%）や中山地区市街化調整区域（70.0%）では約 7 割の回答者が行っている反面、中山地区市街化区域（37.8%）と伊草地区市街化調整区域（33.3%）は 3 割程度にとどまっています。

下図は、質問項目 11～15 について、居住地区別の地球温暖化防止行動を行った人数の割合を示しています。



「シャンプーや台所用洗剤などは、使いすぎず適量使った」については、ほとんどの地域で行動を行った人数の割合が高くなっていますが、伊草地区市街化調整区域は 41.7%と他の地域よりも低くなっています。

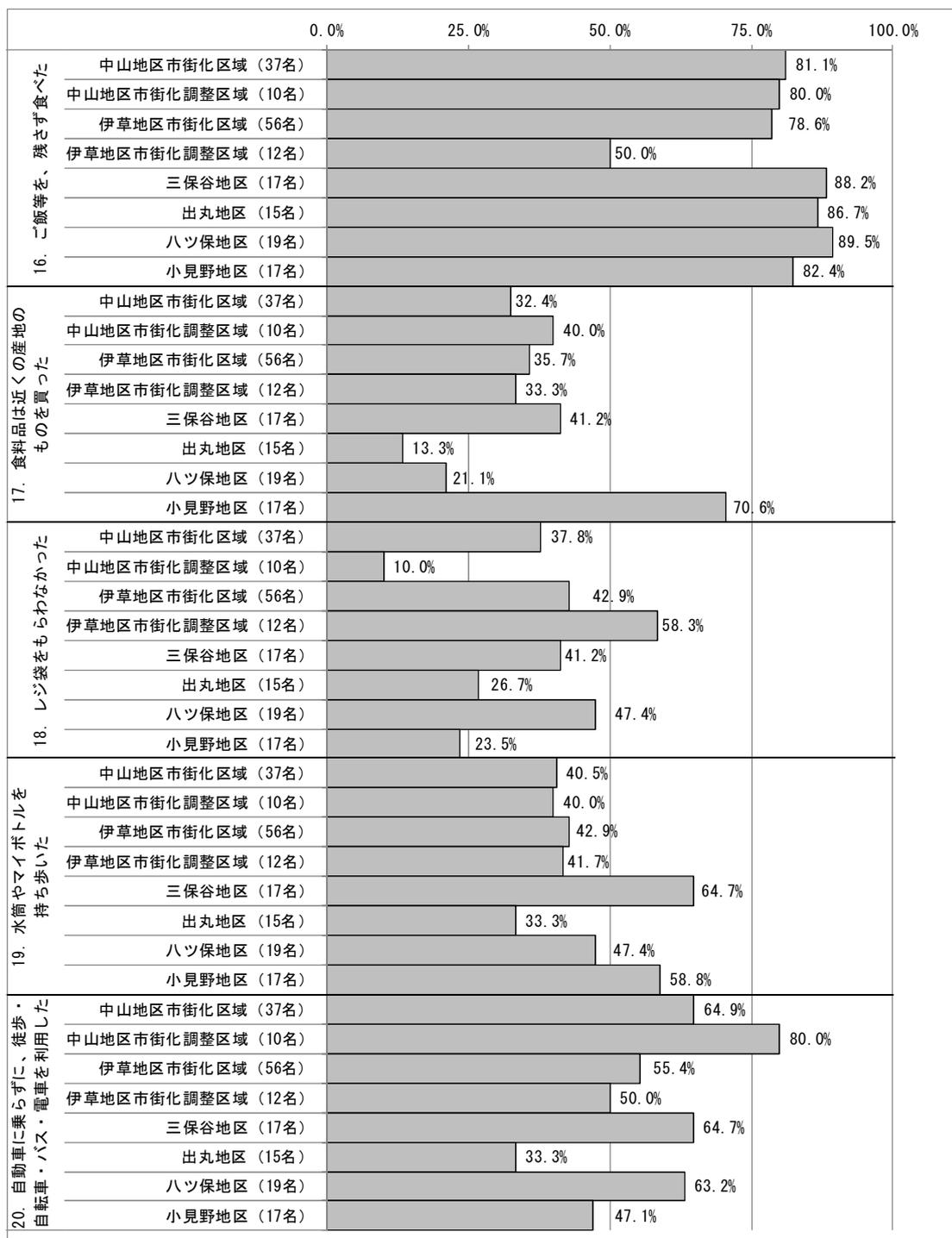
「市町村のごみ出しルールにしたがって分けた」については、行動を行った人数の割合

がすべての地域で70%を超えて高くなっています。

「環境にやさしい商品やリサイクル品を使った」については、行動を行った人数の割合は、中山地区市街化調整区域が50.0%と最も高く、次いで三保谷地区（47.1%）、中山地区市街化区域（45.9%）の順となっています。

「ぬれた手や汚れを拭くとき、ペーパータオルやティッシュペーパーを使わなかった」と「いらぬ紙をメモ用紙として使った」については、行動を行った人数の割合はすべての地域で半数以上の回答者が行っています。

下図は、質問項目 16～20 について、居住地区別の地球温暖化防止行動を行った人数の割合を示しています。



「ご飯やおかずを、残さず食べた」については、すべての地域で行動を行った人数の割合が 50%以上ですが、伊草地区市街化調整区域は 50.0%と他の地域と比較すると割合が低くなっています。

「野菜などの食料品は近くの産地のものを買った」については、行動を行った人数の割

合がほとんどの地域で半数以下である中で、小見野地区は70.6%と高くなっています。

「買い物をするとき、レジ袋をもらわなかった」については、行動を行った人数の割合は、伊草地区市街化調整区域が58.3%と最も高く、次いで八ツ保地区（47.4%）、伊草地区市街化区域（42.9%）の順となっています。

「出かけるときは、水筒やマイボトルを持ち歩いた」については、三保谷地区（64.7%）、小見野地区（58.8%）において、行動を行った人数の割合が半数を超えています。

「出かけるときは自動車に乗らずに、徒歩・自転車・バス・電車を利用した」については、行動を行った人数の割合が中山地区市街化調整区域（80.0%）において特に高くなっています。

## 5. 川島町の環境保全に関する取り組みについて

以下の項目につき意見が述べられた。詳細は付録2に示す。

ごみに関する意見

環境に関する意見

道路整備・交通に関する意見

その他



## 事業所アンケート 調査結果

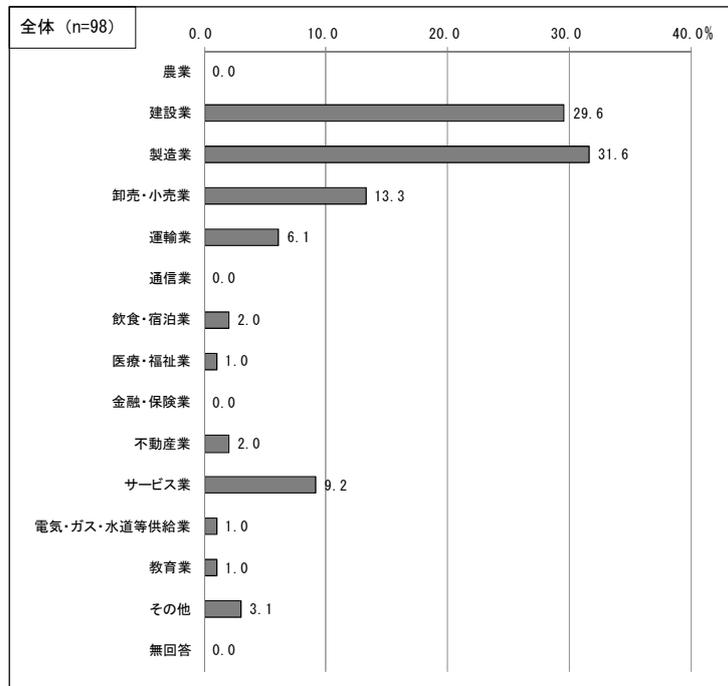
※ アンケートの集計結果における「無回答」には、無効な回答も含めています。



## 1. 貴事業所についてお伺いします

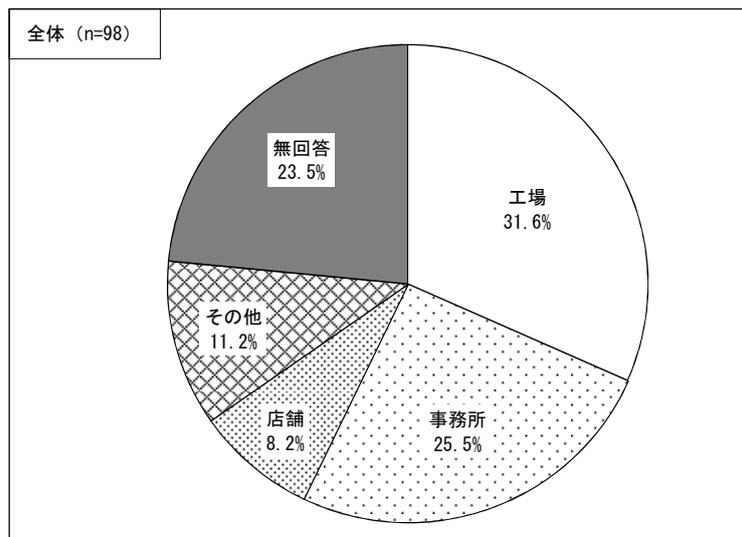
### 問 1-1

- 業種



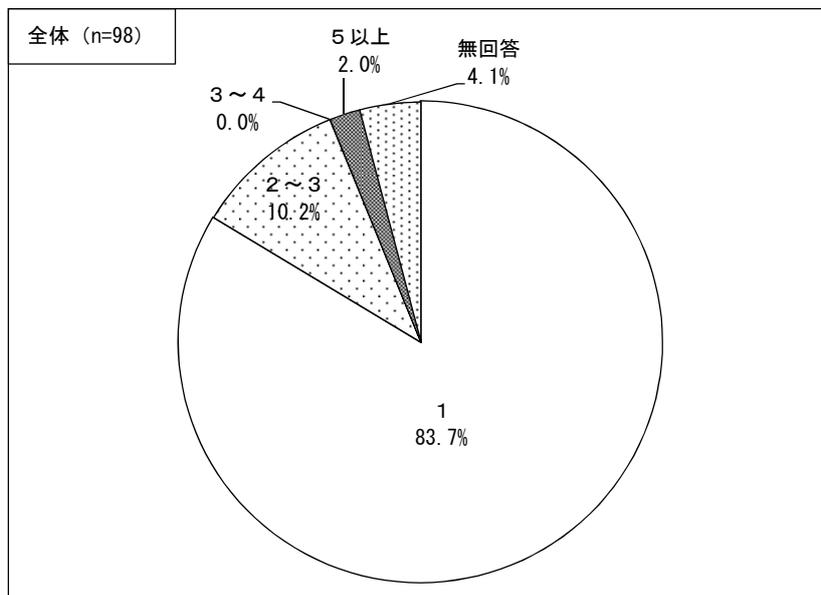
業種については、「製造業」が 31.6%と最も多く、次いで「建設業」が 29.6%、「卸売業・小売業」が 13.3%となっています。

- 事業形態



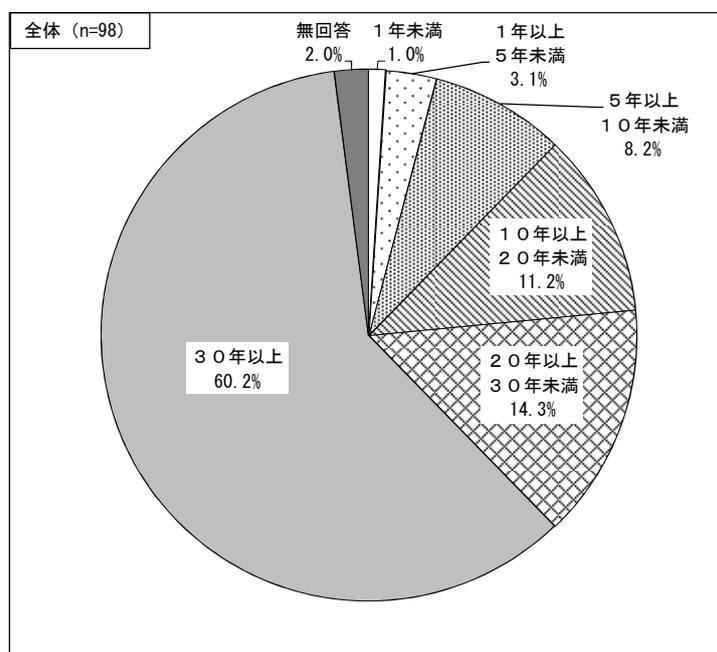
事業形態については、「工場」が 31.6%と最も多くなっています。無回答を除くと、次いで「事務所」(25.5%)、「その他」(11.2%)、「店舗」(8.2%)の順となっています。

・ 町内事業所数



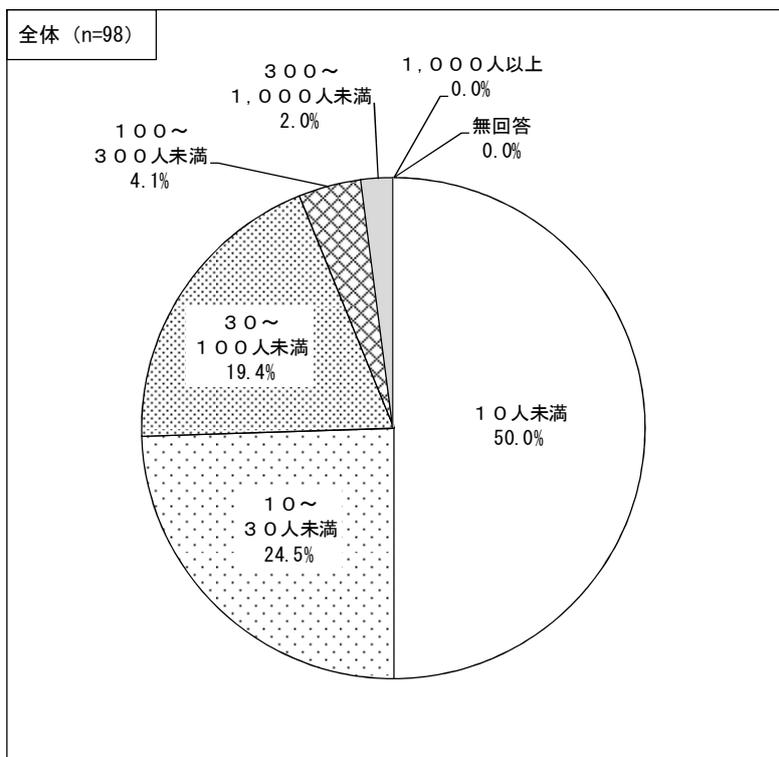
事業所数については、「1」が83.7%と最も多く、全体の8割以上となっています。

・ 川島町在所年数



在所年数については、「30年以上」が60.2%と最も多く、次いで「20年以上30年未満」が14.3%、「10年以上20年未満」が11.2%となっています。

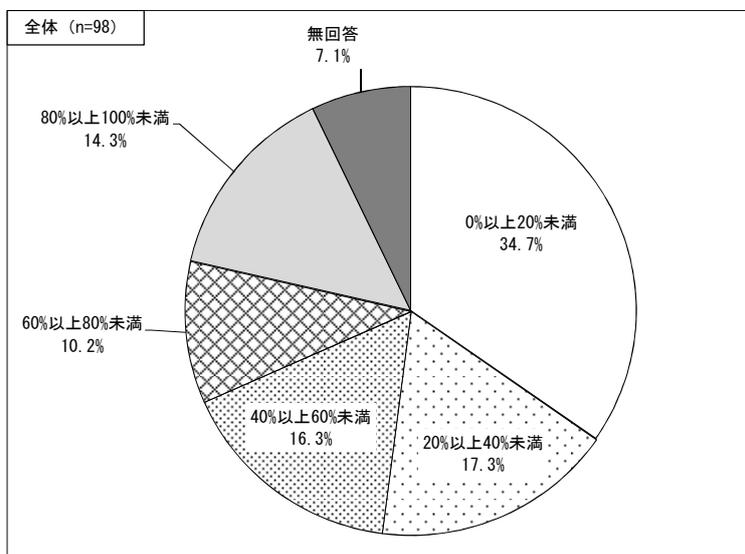
・ 従業員数（パート含む）



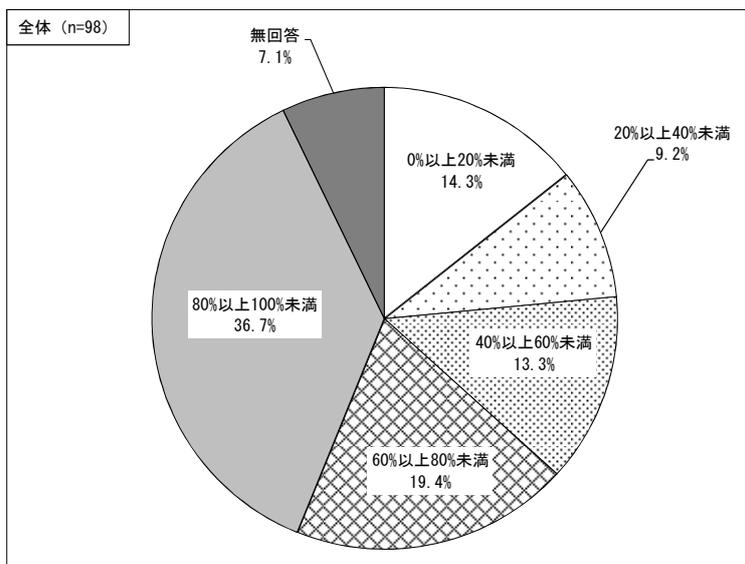
従業員数（パート含む）については、「10人未満」が50.0%と最も多く、次いで「10～30人未満」（24.5%）、「30～100人未満」（19.4%）の回答が多くなっています。回答を得た事業所の中では、比較的、小規模の事業所が多くを占めています。

・ 従業員居住地（自宅）

<川島町内>

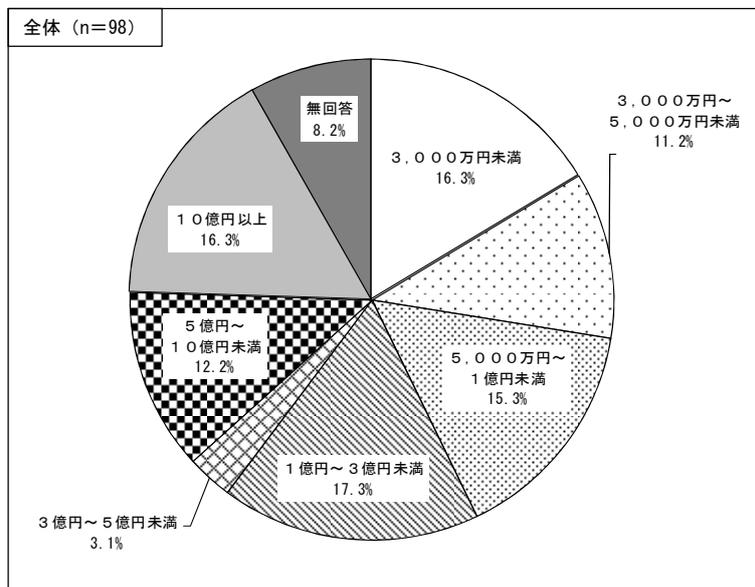


<川島町外>



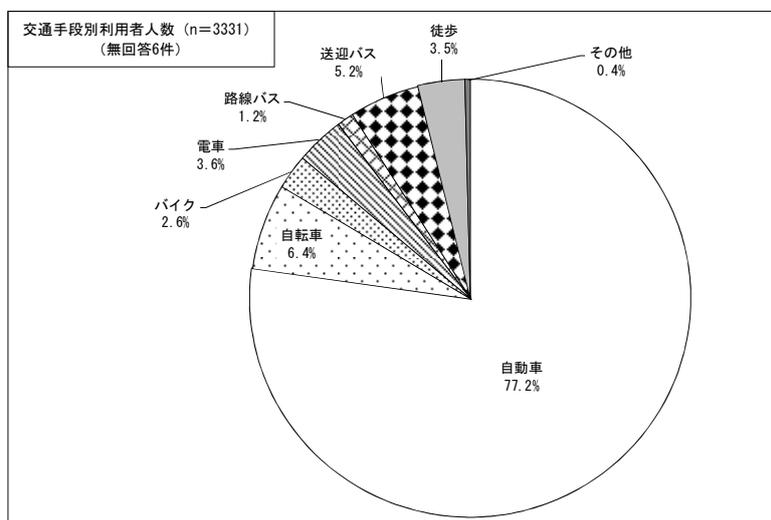
従業員の居住地（自宅）については、回答を得た事業所ごとに川島町内居住者数と町外居住者数の割合を求め、20%間隔で事業所数の割合を集計しました。当然ですが川島町内と町外では逆の傾向となり、川島町内居住者の割合は「0%以上 20%未満」の事業所が最も多く（34.7%）、町外居住者の割合は「80%以上 100%以下」の事業所が最も多くなっています（36.7%）。回答を得た事業所の中では、川島町内に居住している従業員よりも町外に居住している従業員の割合の方が多く比較的多いといえます。

・ 年間売上高または出荷額



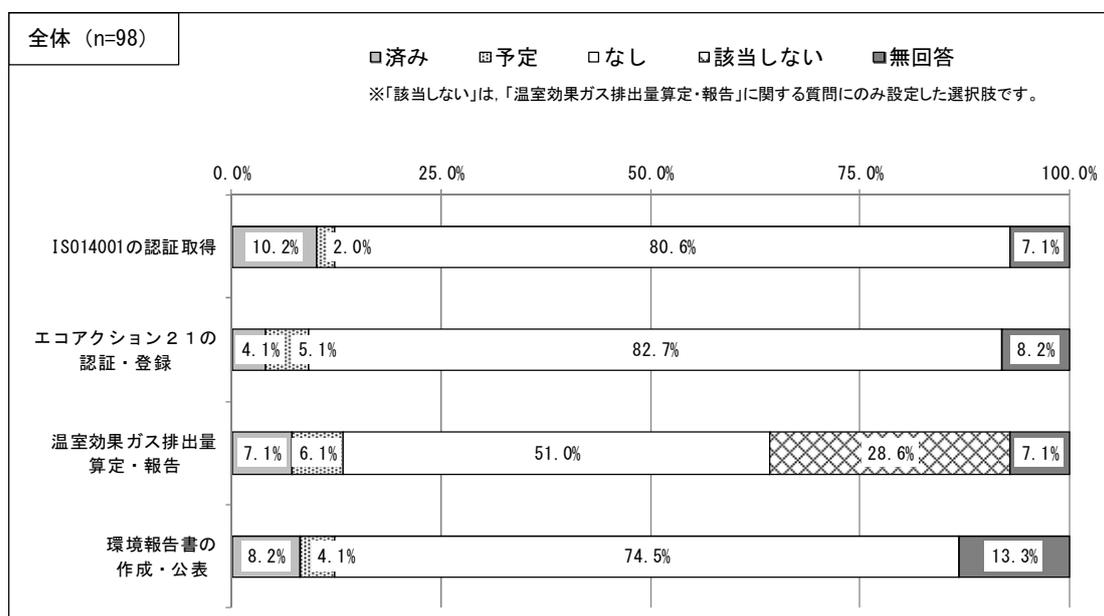
年間売上高あるいは出荷額については、「1億円～3億未満」が17.3%と最も多く、次いで「10億円以上」と「3000万円未満」(16.3%)の回答が多くなっています。回答を得た事業所の中では、1億円以上の年間売上高あるいは出荷額の事業所が約半数を占めています。

・ 交通手段



従業員の交通手段については、回答を得た交通手段別の利用人数を合計し、各交通手段を利用している従業員の割合を集計しました。「自動車」を利用している従業員が77.2%と最も高く、次いで「自転車」(6.4%)、「送迎バス」(5.2%)の回答が多くなっています。回答を得た事業所の中では、マイカー通勤が大半を占めています。

・ 環境に配慮した経営

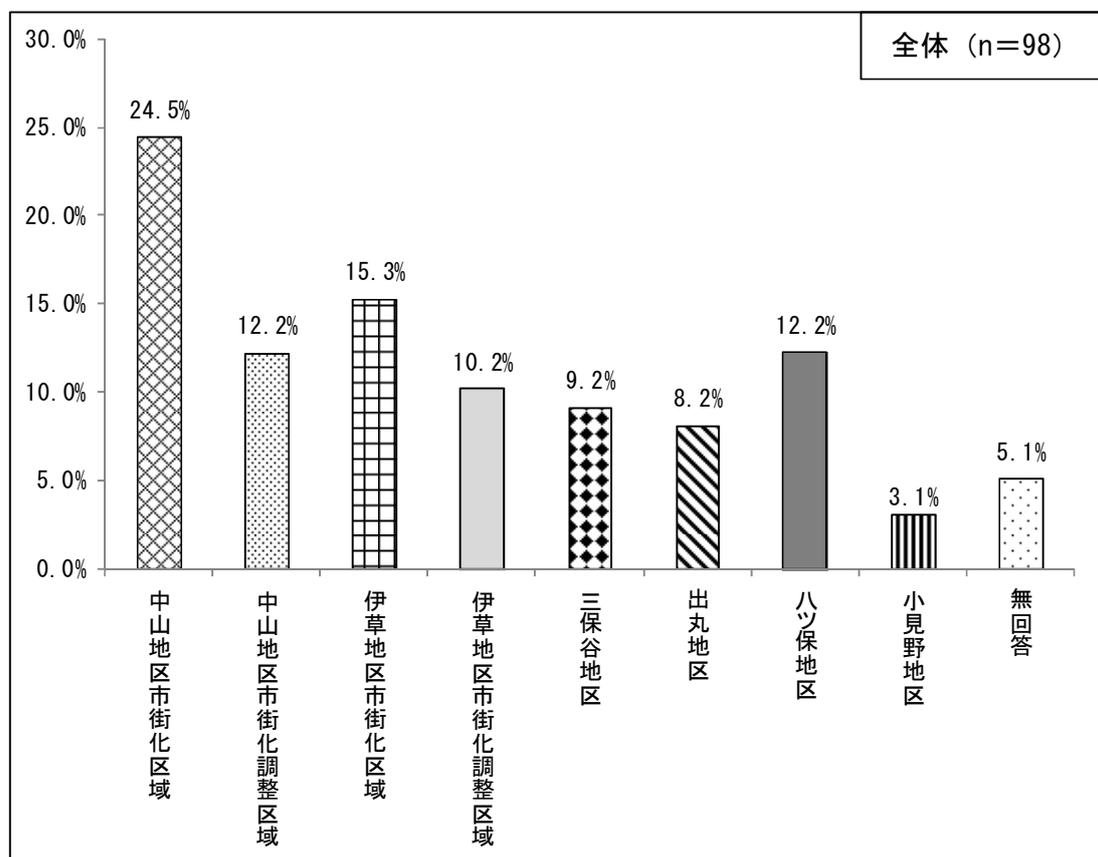


環境に配慮した経営については、すべての項目で「なし」との回答が過半数を占めています。

「その他、環境に関する認証取得や登録内容」として、「容器リサイクル法」との回答がありました。

問 1-2

・事業所の所在地域

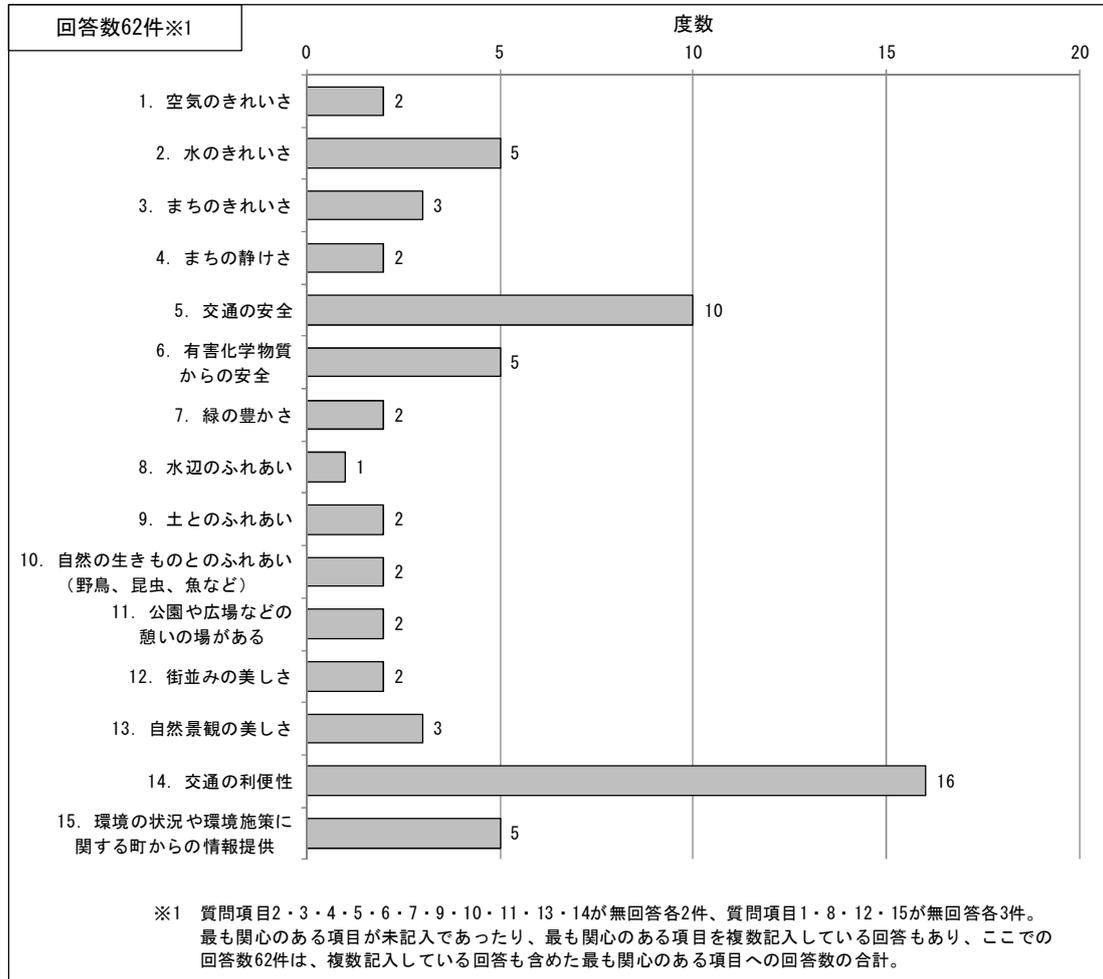


所在地については、「中山地区市街化区域」が24.5%と最も多く、次いで「伊草地区市街化区域」(15.3%)、「中山地区市街化調整区域」と「八ツ保地区」(12.2%)の順となっています。

## 2. 貴事業所の身近な環境に対する意識について

### 問2

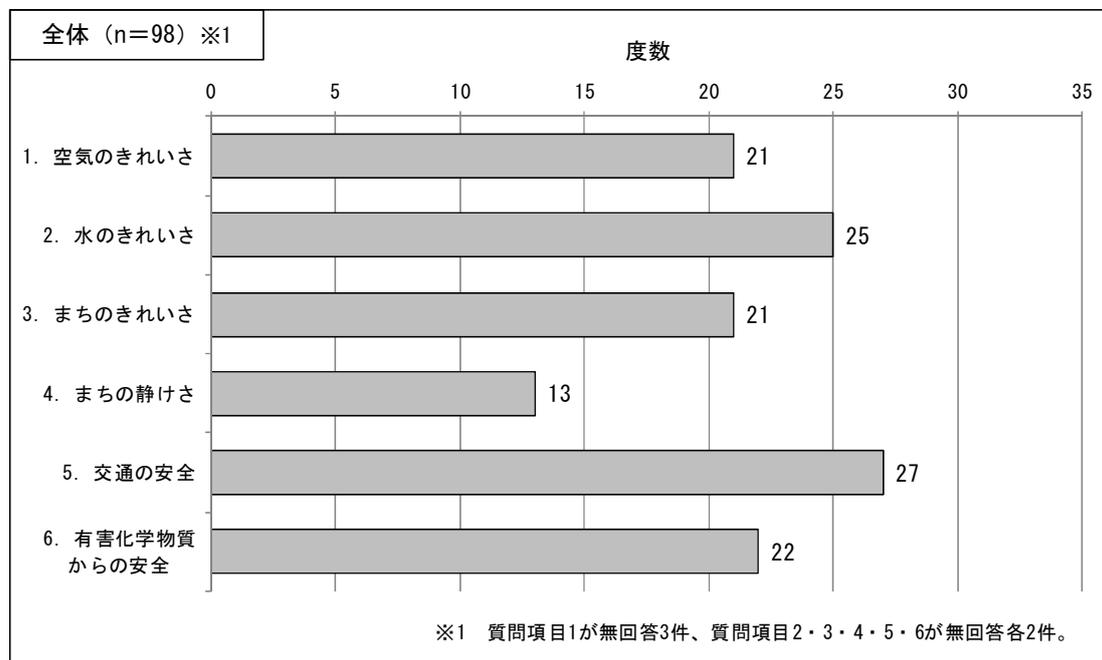
- 最も関心のある環境



すべての項目の中で最も関心のあるものとして、「交通の利便性」が16件と最も多くなっています。次に多い項目が「交通の安全」(10件)であり、回答を得た事業所の中では交通に関する環境について関心が高くなっています。

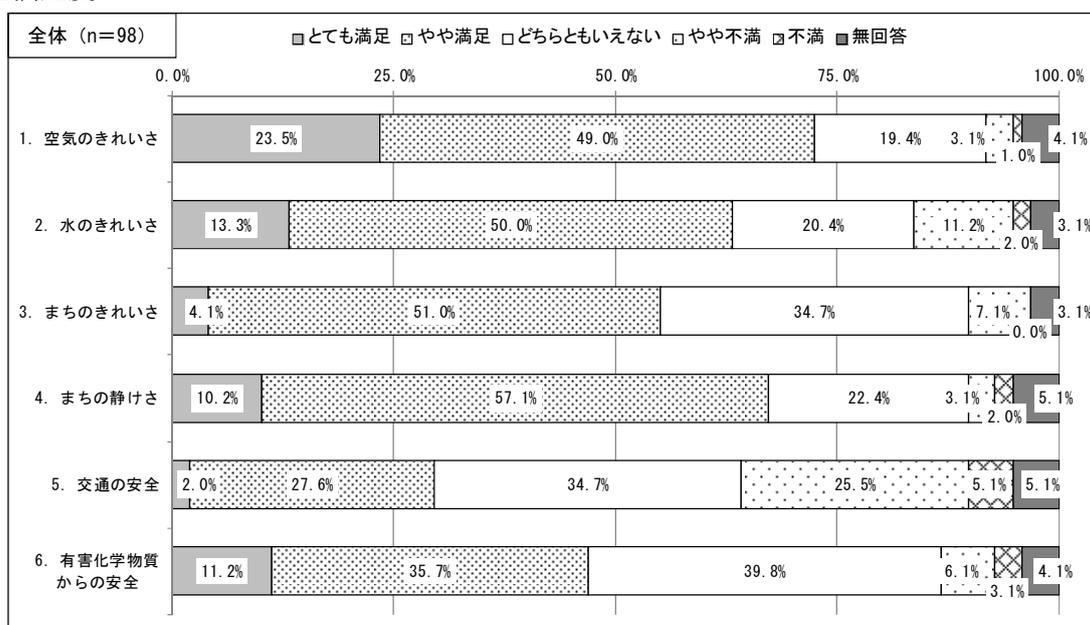
(1) 生活環境について

■ 関心度



生活環境の関心度については、「交通の安全」(27件)、「水のきれいさ」(25件)、「有害化学物質からの安全」(22件)の順に関心度が高くなっています。「まちの静けさ」を除く項目で、関心があるとの回答が20件を超えています。

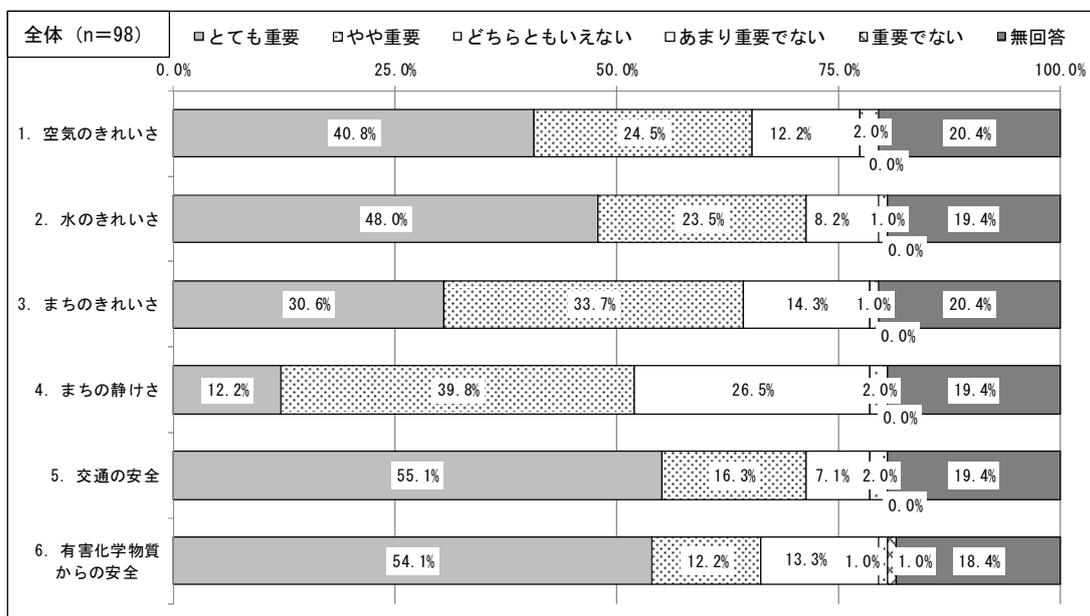
■ 満足度



生活環境の満足度に関しては、「とても満足」と「やや満足」の合計が「空気のきれいさ」(72.5%)、「まちの静けさ」(67.3%)、「水のきれいさ」(63.3%)の順で高くなっています。

す。「交通の安全」については、「とても満足」と「やや満足」の合計が29.6%、「不満」と「やや不満」の合計が30.6%となっており、満足度と不満度が同程度となっています。

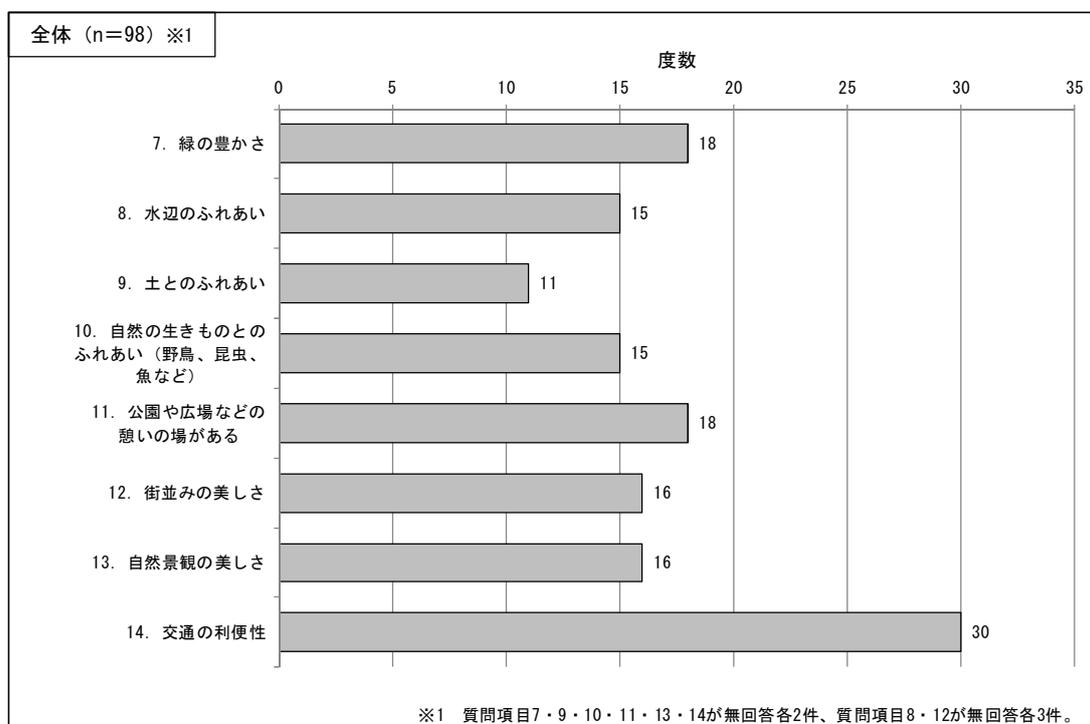
■重要度



生活環境の重要度に関しては、「とても重要」と「やや重要」の合計が「水のきれいさ」が71.5%、「交通の安全」が71.4%と高くなっており、すべての項目で50%を超えています。

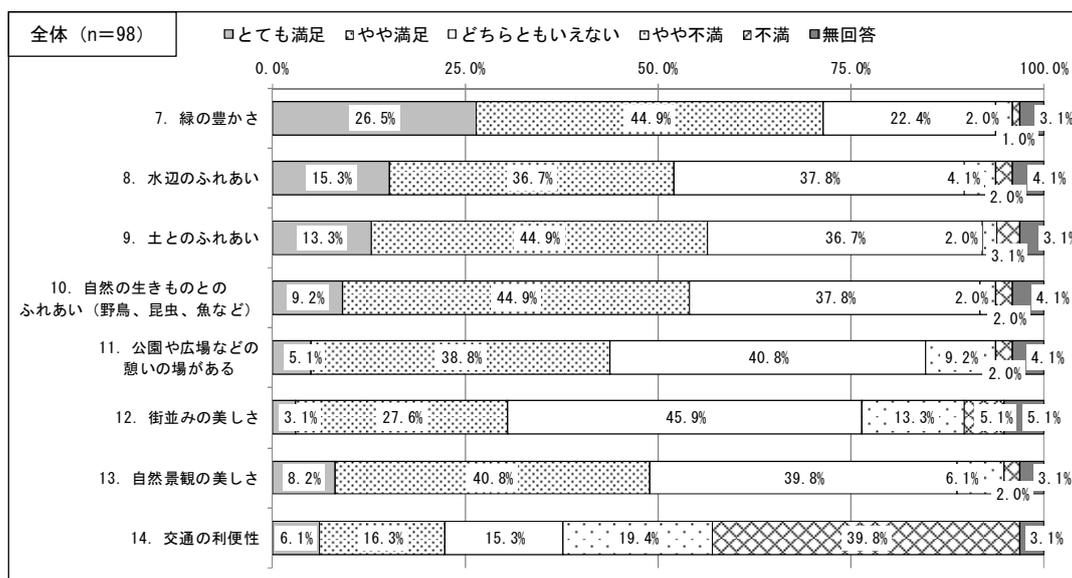
(2) 自然環境や快適環境について

■ 関心度



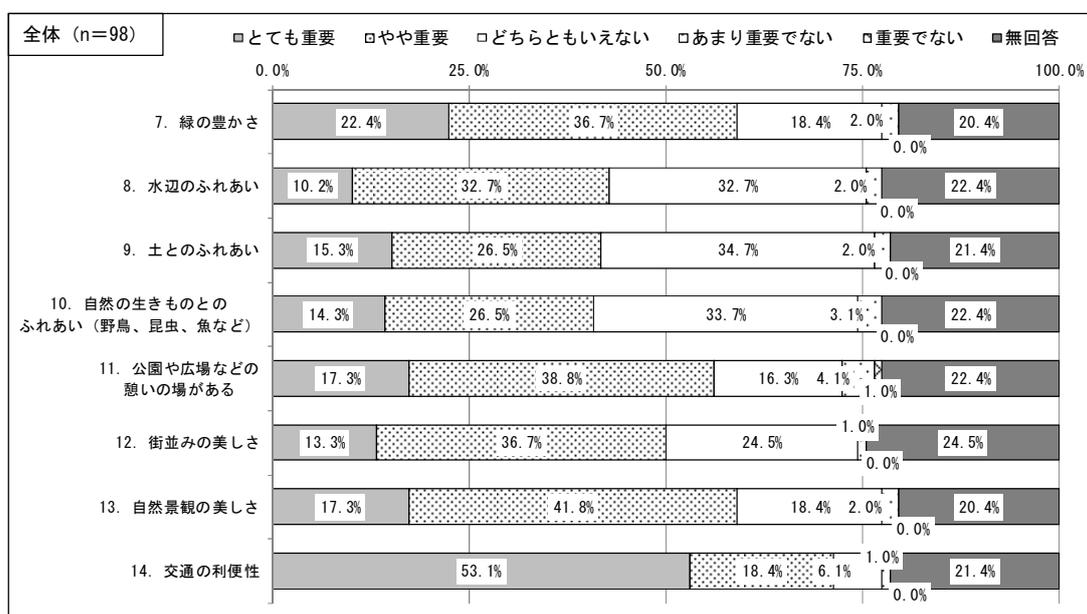
自然環境や快適環境の関心度については、「交通の利便性」が 30 件と最も関心度が高くなっています。生活環境の関心度では、ほとんどの項目で関心があるとの回答が 20 件を超えていましたが、自然環境や快適環境の関心度の項目では、20 件を超える項目は「交通の利便性」だけとなっています。

■ 満足度



自然環境や快適環境の満足度に関しては、「とても満足」と「やや満足」の合計が「緑の豊かさ」(71.4%)、「土とのふれあい」(58.2%)、「自然の生きものとのふれあい(野鳥、昆虫、魚など)」(54.1%)の順で高くなっており、特に「緑の豊かさ」に対する満足度が高くなっています。「交通の利便性」は、「不満」と「やや不満」の合計が59.2%であり、回答を得た事業所の約6割が不満を持っています。生活環境の「交通の安全」も他の項目と比較して満足度が低くなっていたことから、交通に関する環境への満足度が低いことがわかります。

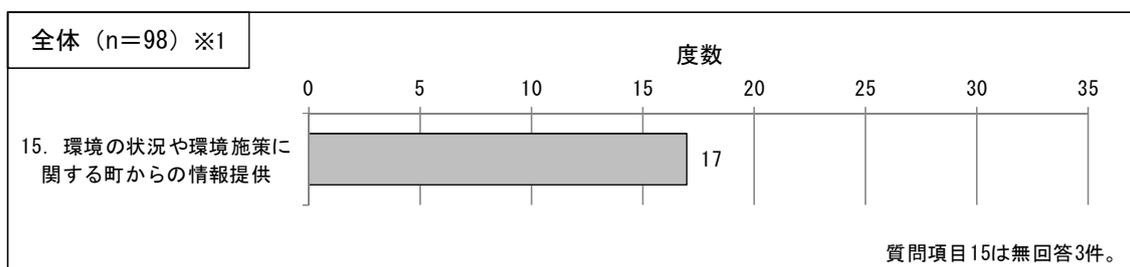
### ■重要度



自然環境や快適環境の重要度に関しては、「とても重要」と「やや重要」の合計が「交通の利便性」(71.5%)、「緑の豊かさ」(59.1%)、「公園や広場などの憩いの場がある」(56.1%)の順で高くなっています。

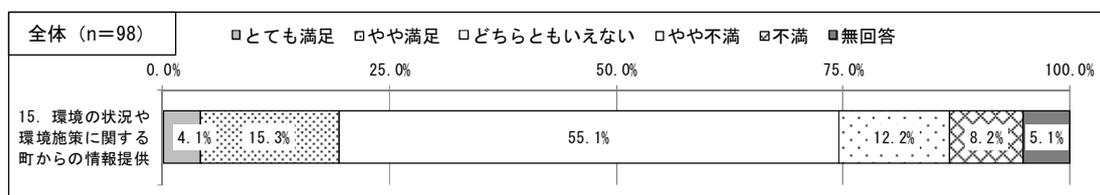
### (3) 環境情報の提供について

#### ■ 関心度



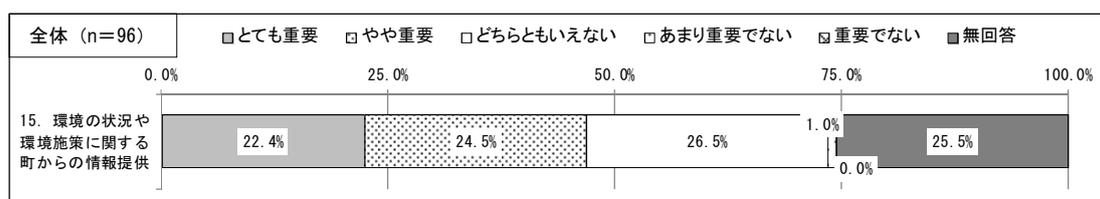
環境情報の提供の関心度については、「環境の状況や環境施策に関する町からの情報提供」が17件となっています。

#### ■ 満足度



環境情報の提供の満足度に関しては、「とても満足」と「やや満足」の合計が19.4%、「不満」と「やや不満」の合計が20.4%であり、若干、満足度の方が低くなっています。

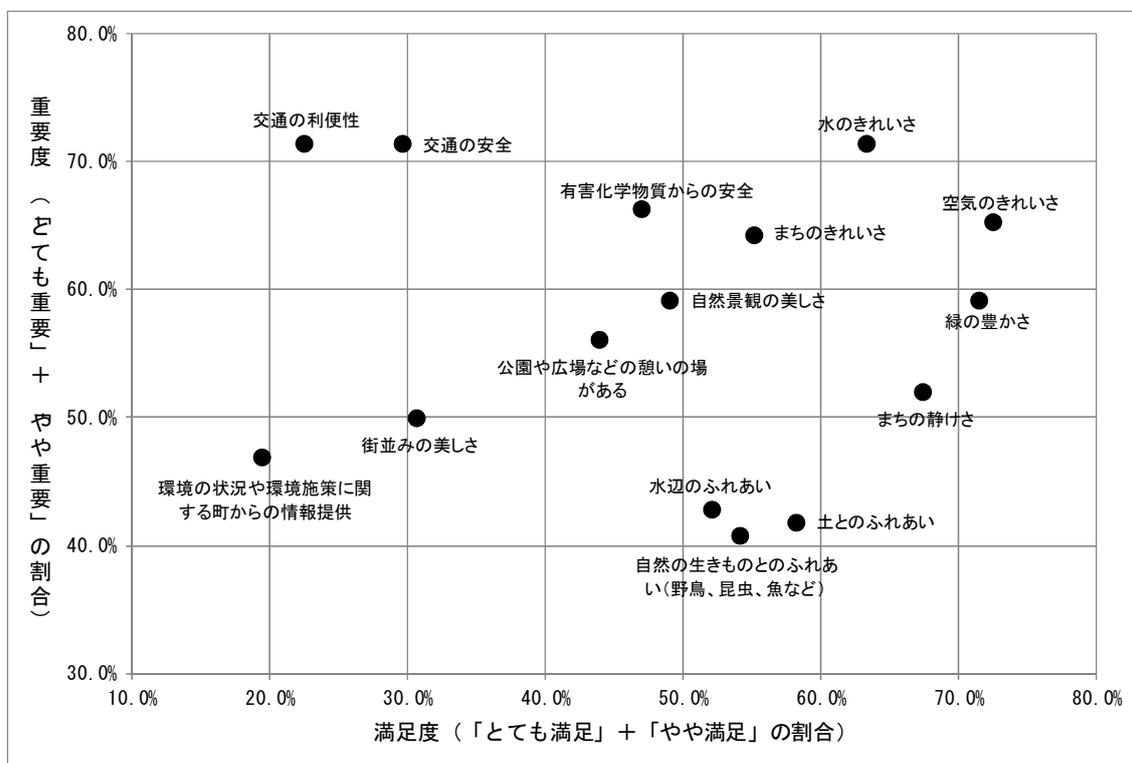
#### ■ 重要度



環境情報の提供の重要度に関しては、「とても重要」と「やや重要」の合計が46.9%となっています。

・ 満足度と重要度との相関関係

すべての項目について、満足度（「とても満足」と「やや満足」を合わせた割合）と重要度（「とても重要」と「やや重要」を合わせた割合）の相関関係を以下に示します。



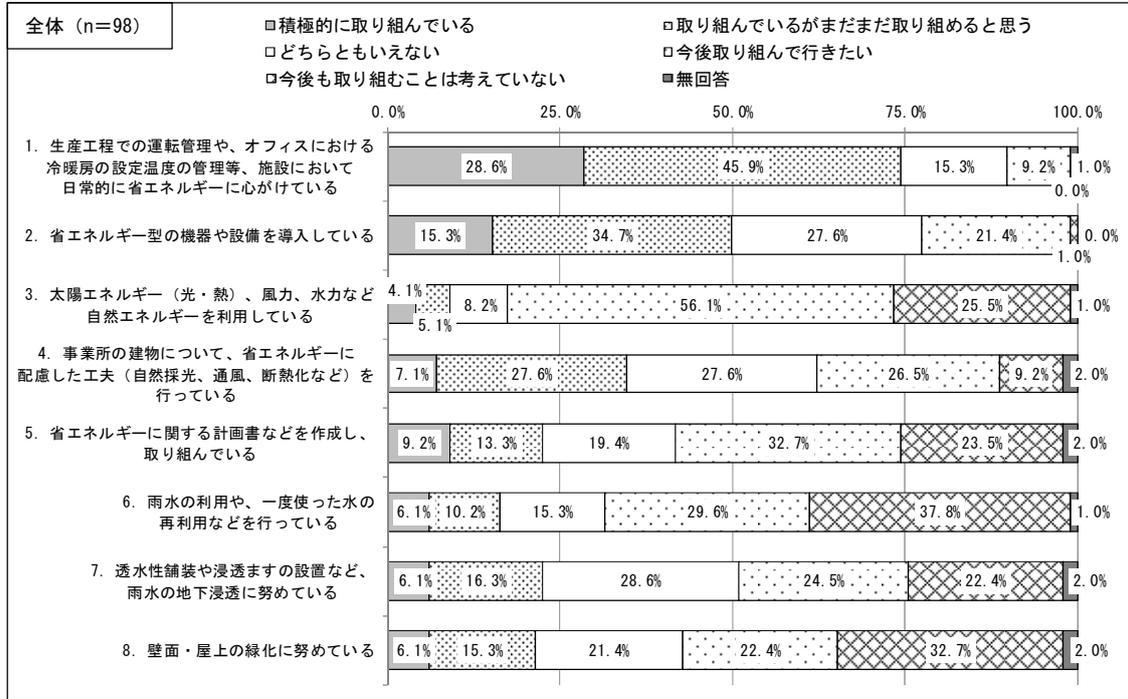
満足度と重要度の関係を見ると、「水のきれいさ」や「空気のきれいさ」については、満足度も重要度も高く、現在維持やさらなる増進の必要性がうかがえます。

また、「交通の利便性」と「交通の安全」については、重要度が高いにもかかわらず満足度が低い状況です。

### 3. 環境保全に対する取り組みについて

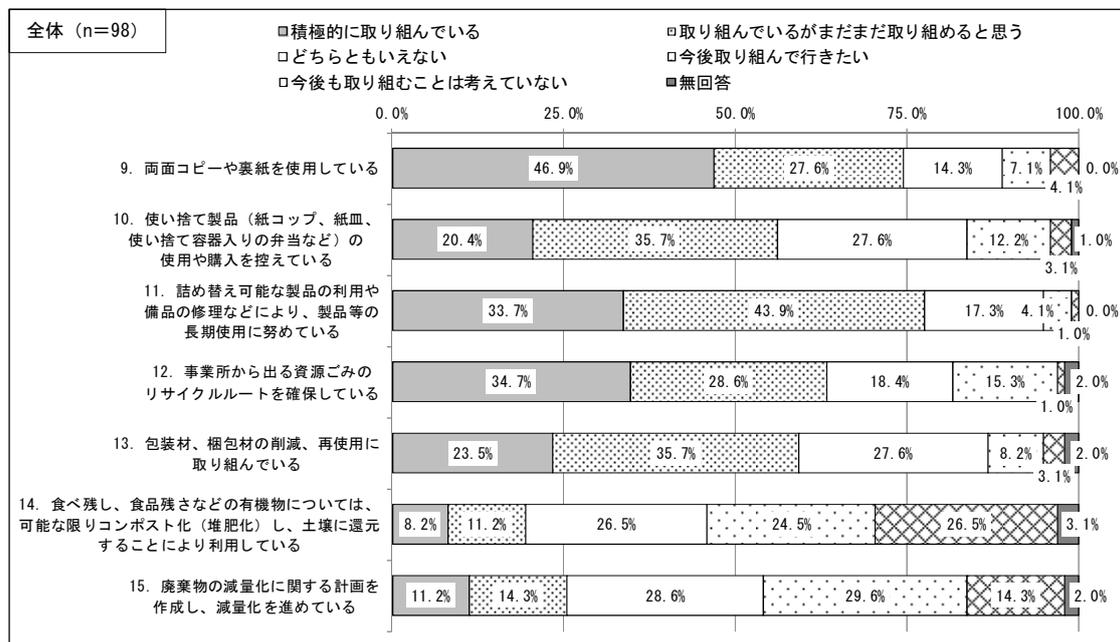
#### 問3-1

##### (1) エネルギーなどについて



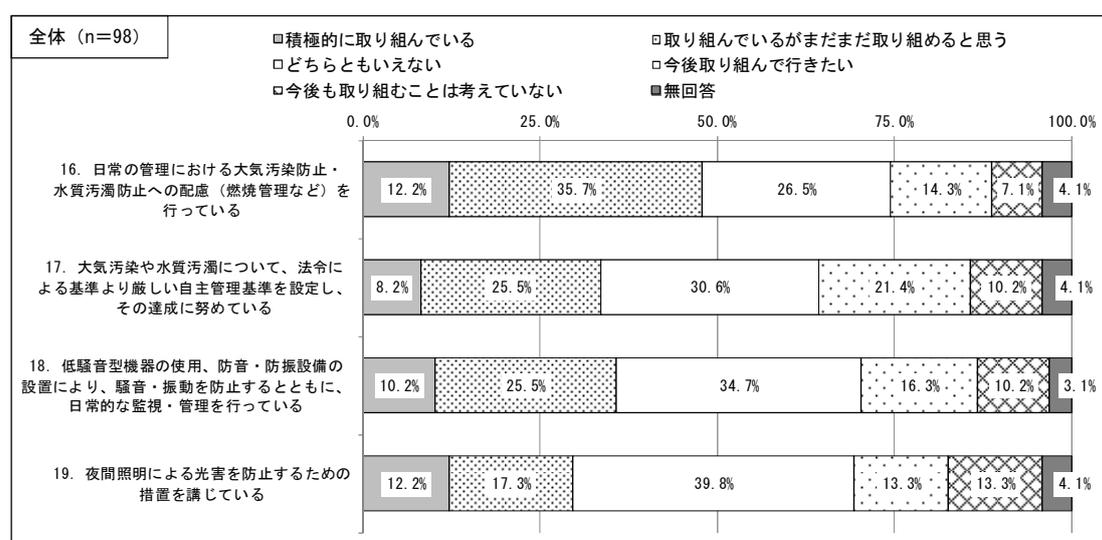
「積極的に取り組んでいる」との回答は、「生産工程での運転管理や、オフィスにおける冷暖房の設定温度の管理等、施設において日常的に省エネルギーに心がけている」(28.6%)が最も高く、次いで「省エネルギー型の機器や設備を導入している」(15.3%)、「省エネルギーに関する計画書などを作成し、取り組んでいる」(9.2%)の順となっています。また、「太陽エネルギー（光・熱）、風力、水力など自然エネルギーを利用している」については、「今後取り組んでいきたい」との回答が56.1%となっており、省エネルギーに関する取り組みへの関心の高さがうかがえます。

## (2) 廃棄物について



「積極的に取り組んでいる」との回答は、「両面コピーや裏紙を使用している」(46.9%)が最も高く、次いで「事業所から出る資源ごみのリサイクルルートを確認している」(34.7%)、「詰め替え可能な製品の利用や備品の修理などにより、製品等の長期使用に努めている」(33.7%)の順となっています。多くの項目で「積極的に取り組んでいる」と「取り組んでいるがまだまだ取り組めると思う」の合計が50%を超えており、廃棄物の再利用や廃棄物が出さない活動に取り組んでいることがわかります。

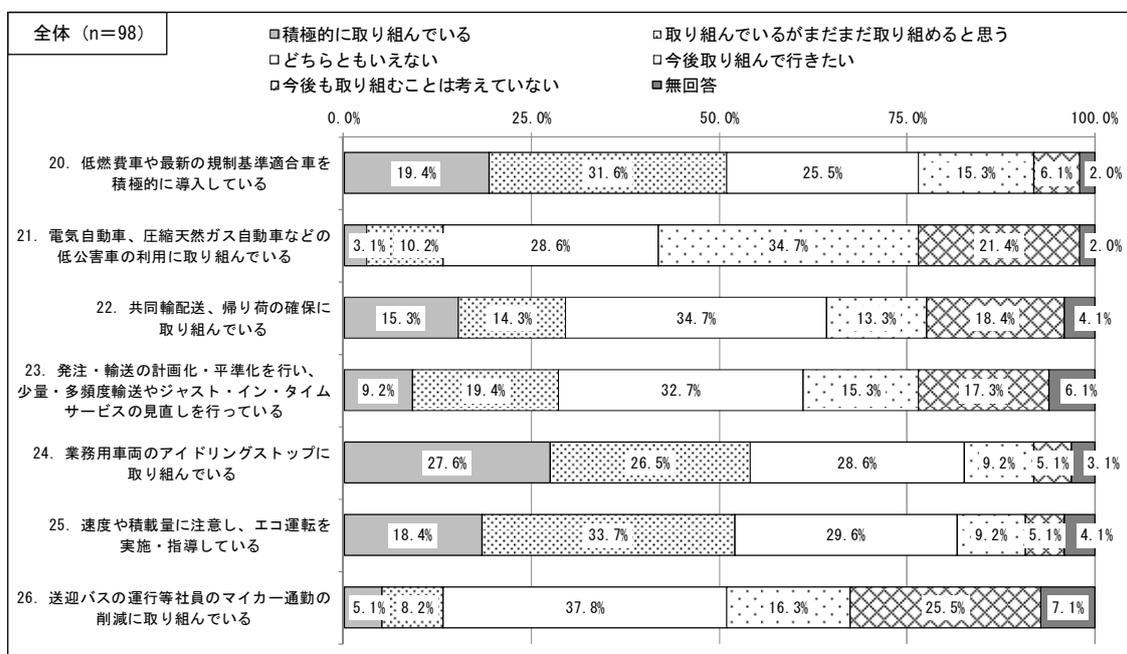
## (3) 大気汚染・水質汚濁など公害防止について



「日常の管理における大気汚染防止・水質汚濁防止への配慮（燃焼管理など）を行って

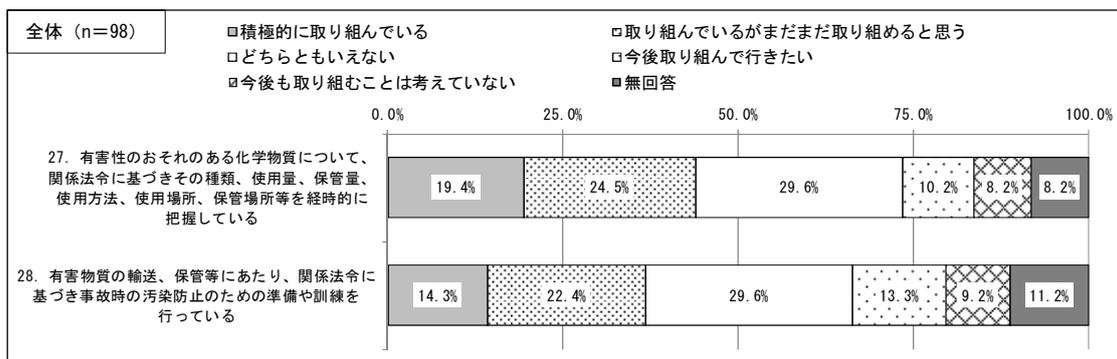
いる」と「夜間照明による光害を防止するための措置を講じている」が、「積極的に取り組んでいる」との回答が12.2%と最も高くなっています。

#### (4) 自動車の利用について



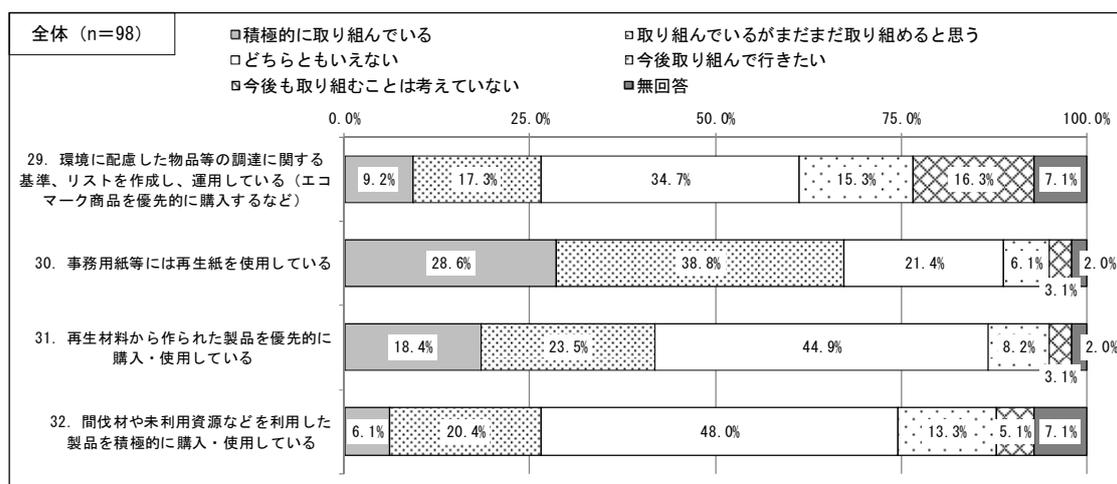
「業務用車両のアイドリングストップに取り組んでいる」(27.6%)、「低燃費車や最新の規制基準適合車を積極的に導入している」(19.4%)、「速度や積載量に注意し、エコ運転を実施・指導している」(18.4%)の順に、「積極的に取り組んでいる」との回答が高くなっています。「電気自動車、圧縮天然ガス自動車などの低公害車の利用に取り組んでいる」については、「今後取り組んで行きたい」との回答が34.7%と最も高くなっていますが、「積極的に取り組んでいる」と「取り組んでいるがまだまだ取り組めると思う」の合計が低く、「今後取り組むことは考えていない」との回答も21.4%であり、導入コストが一つの理由として考えられます。

### (5) 化学物質対策について



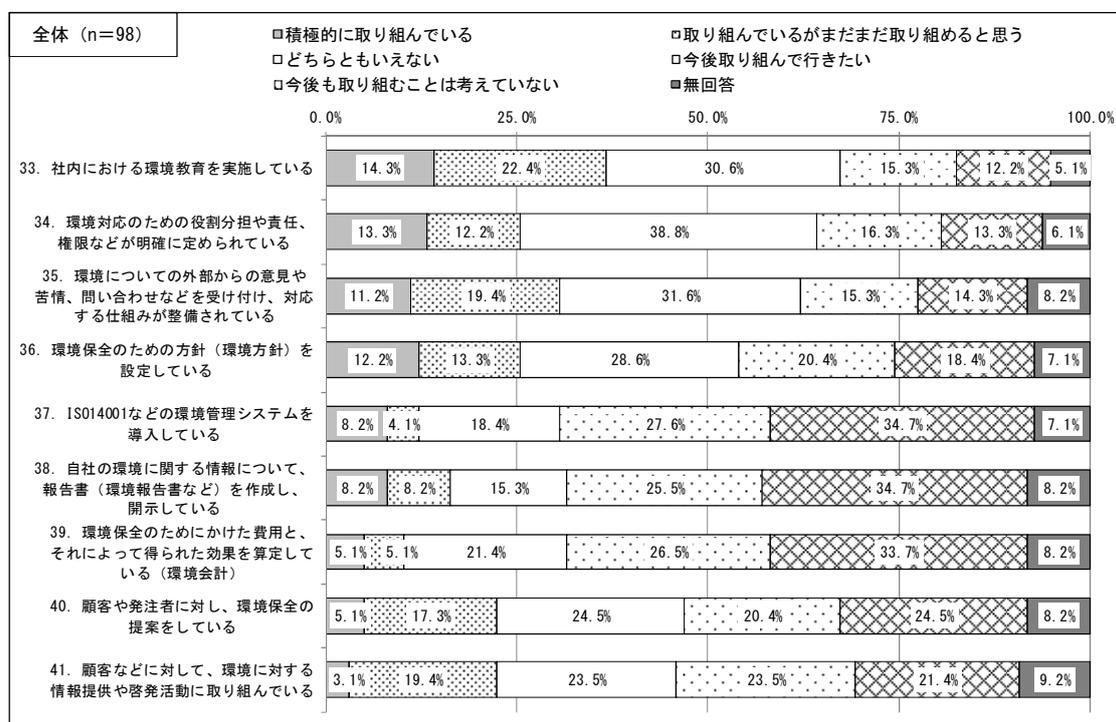
「積極的に取り組んでいる」との回答は、「有害性のおそれのある化学物質について、関係法令に基づきその種類、使用量、保管量、使用方法、使用場所、保管場所等を経時的に把握している」が19.4%、「有害物質の輸送、保管等にあたり、関係法令に基づき事故時の汚染防止のための準備や訓練を行っている」が14.3%となっています。

### (6) グリーン購入について



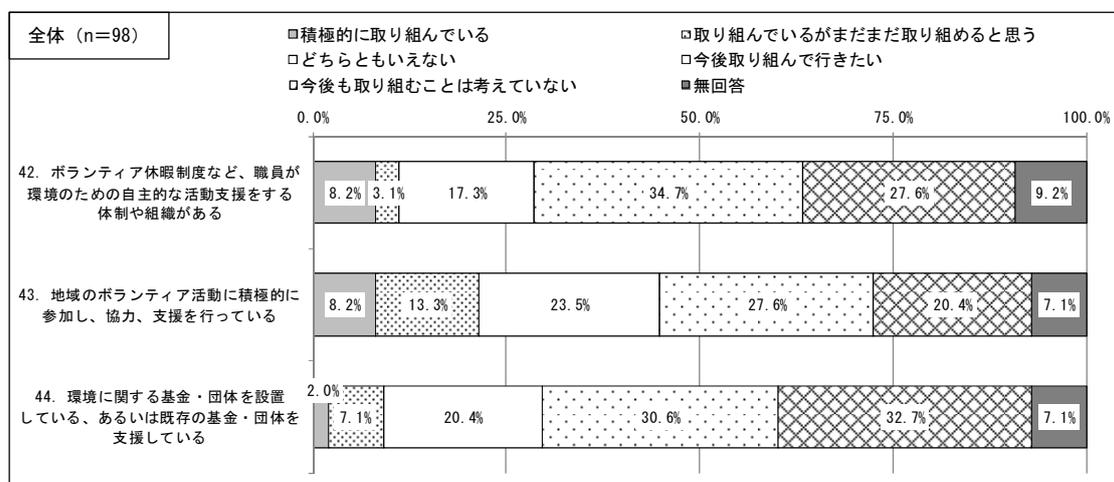
「事務用紙等には再生紙を使用している」については、「積極的に取り組んでいる」との回答が28.6%であり、「取り組んでいるがまだまだ取り組めると思う」と合わせると67.4%となっています。印刷やコピーで日常的に利用する事務用紙等への配慮がうかがえます。

(7) 環境保全のための体制・情報提供などについて



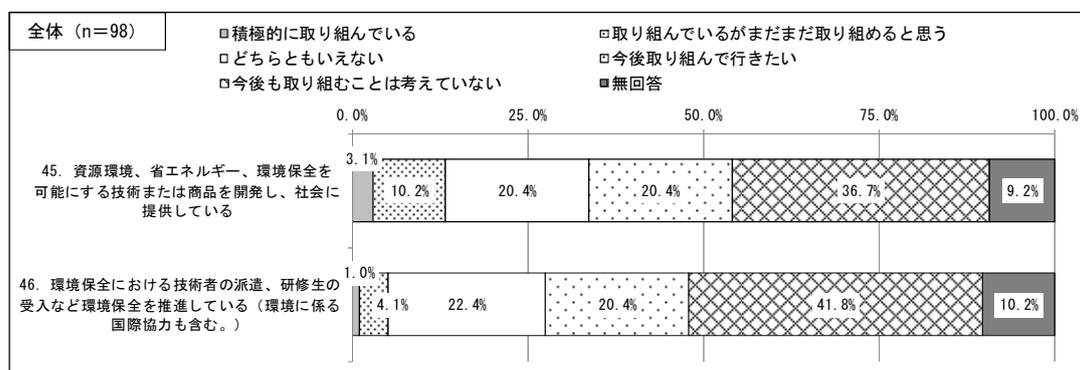
「積極的に取り組んでいる」との回答は、「社内における環境教育を実施している」が14.3%と最も高く、次いで「環境対応のための役割分担や責任、権限などが明確に定められている」(13.3%)となっています。また、「積極的に取り組んでいる」と「取り組んでいるがまだまだ取り組めると思う」の合計をみると、「社内における環境教育を実施している」が36.7%と最も高くなっていますが、「環境についての外部からの意見や苦情、問い合わせなどを受け付け、対応する仕組みが整備されている」(30.6%)、「顧客や発注者に対し、環境保全の提案をしている」(22.4%)、「顧客などに対して、環境に対する情報提供や啓発活動に取り組んでいる」(22.5%)などの、自事業所だけではなく外部へ働きかけを行う活動も、設定した項目の中では比較的高くなっています。

## (8) 社外での環境保全活動の推進について



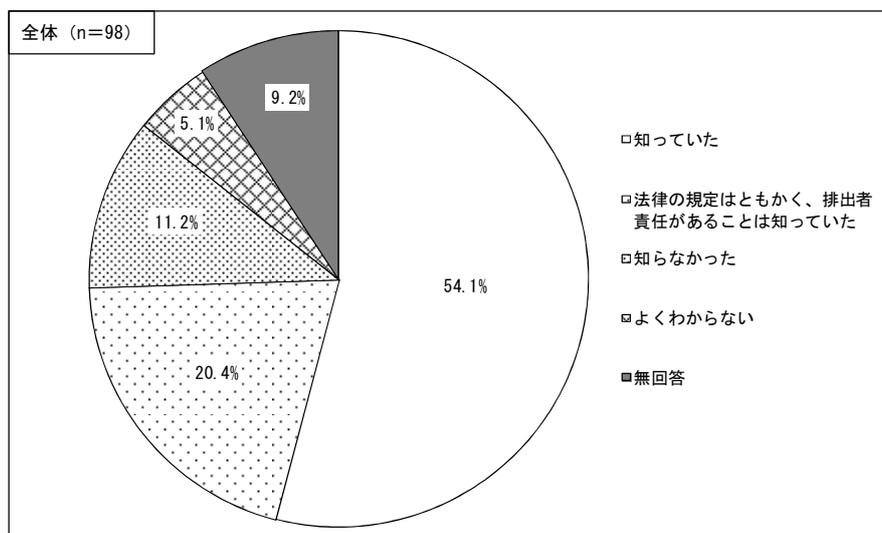
「積極的に取り組んでいる」と「取り組んでいるがまだまだ取り組めると思う」の合計は、「地域のボランティア活動に積極的に参加し、協力、支援を行っている」が21.5%と最も高くなっています。また、すべての項目で「今後取り組んで行きたい」との回答が30%前後となっていますが、「今後取り組むことは考えていない」との回答も同程度みられます。

## (9) エコビジネス、技術開発について



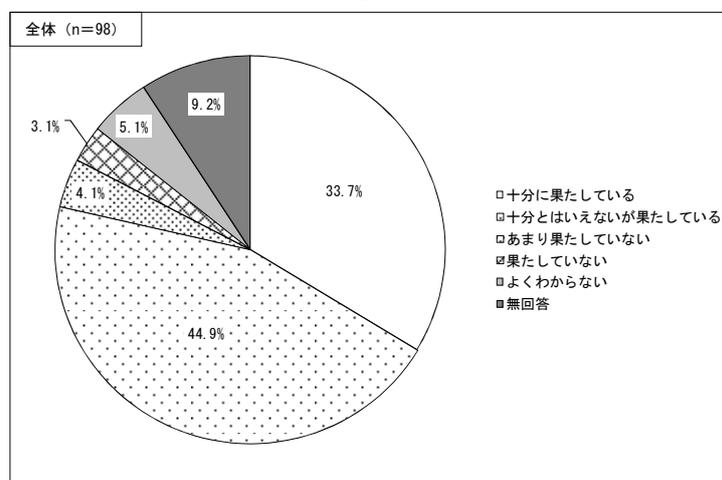
エコビジネス、技術開発については、ともに「今後取り組むことは考えていない」の回答が最も高くなっています。しかし、「どちらともいえない」を除くと、「今後取り組んで行きたい」との回答が2番目に高くなっていることから、行政側から支援やアドバイス等を行うことを検討していく必要があると考えられます。

問3-2 ・事業所の排出者責任について知っていましたか。



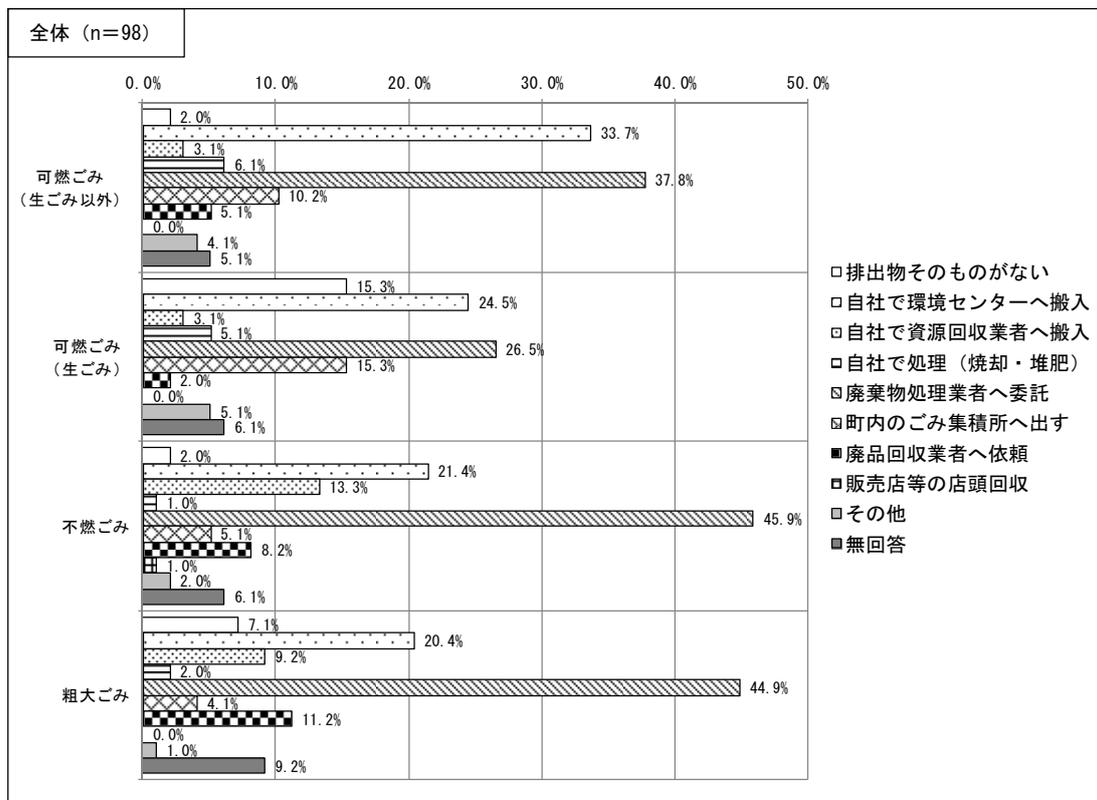
排出者責任については、「知っていた」の回答が 54.1%と最も高くなっています。「知っていた」と「法律の規定はともかく、排出者責任があることは知っていた」を合わせると、7割以上が排出者責任について認知していることになります。

問3-3 ・排出者責任を果たしていると思いますか。

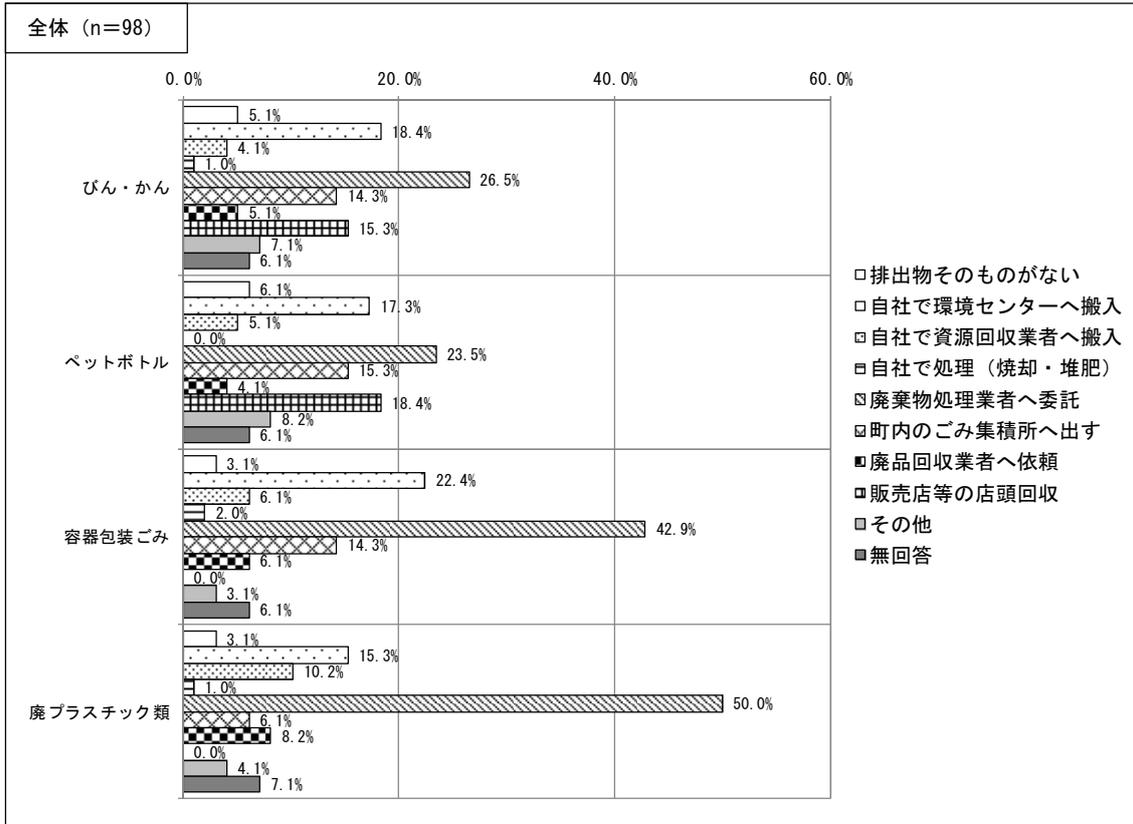


排出者責任を果たしているかどうかについては、「十分に果たしている」が 33.7%、「十分とはいえないが果たしている」が 44.9%となっており、合わせて 8割近くが排出者責任を果たしているとの回答となっています。

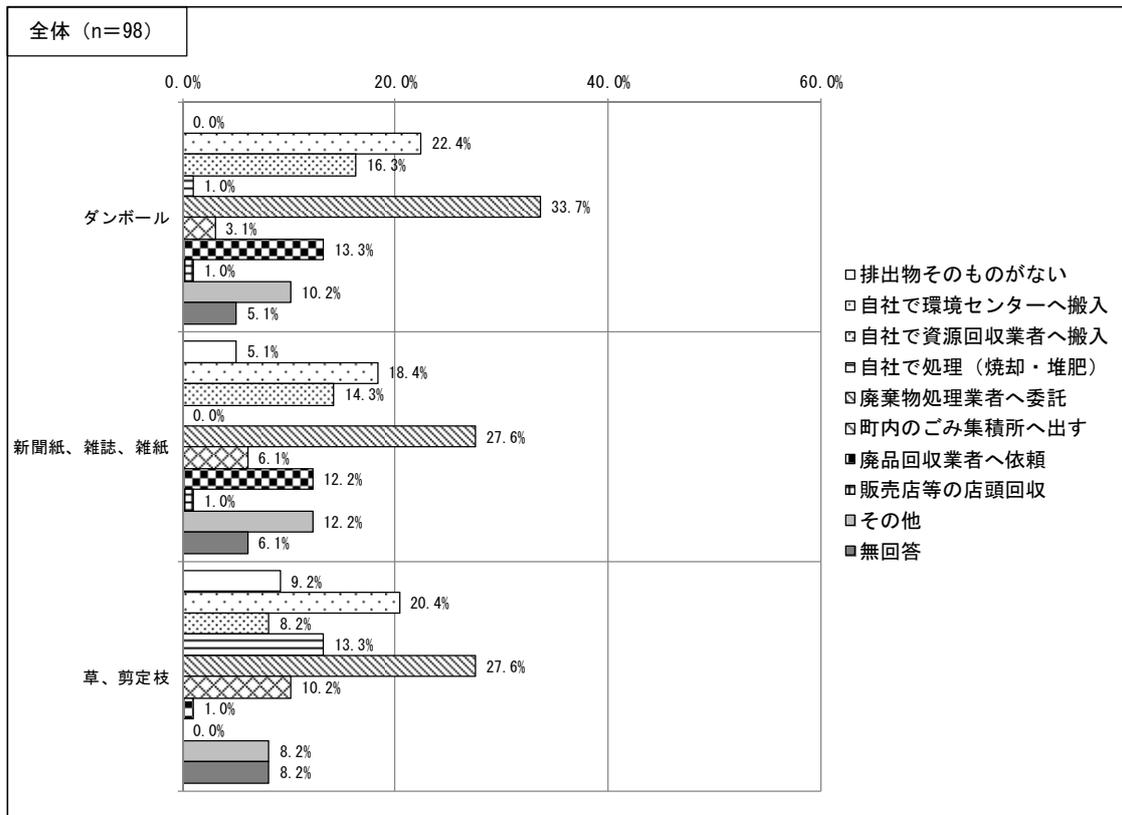
問3-4 ・貴事業所から出る事業系廃棄物の処理方法について



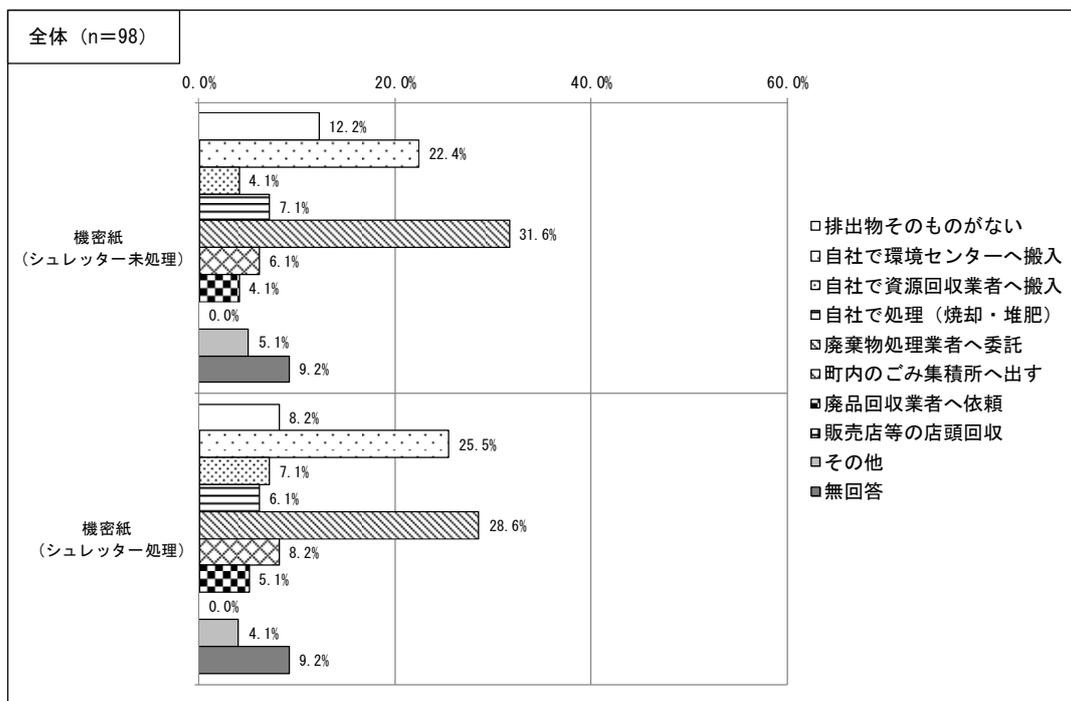
事業所から出る事業系廃棄物の処理方法について可燃・不燃・粗大ごみに注目すると、すべてのごみで「廃棄物処理業者へ委託」が最も高く、次いで「自社で環境センターへ搬入」が高くなっています。



びん・かん・ペットボトル等のごみについては、すべてのごみで「廃棄物処理業者へ委託」が最も高くなっており、ペットボトルを除いて、「自社で環境センターへ搬入」が2番目に高い処理方法となっています。

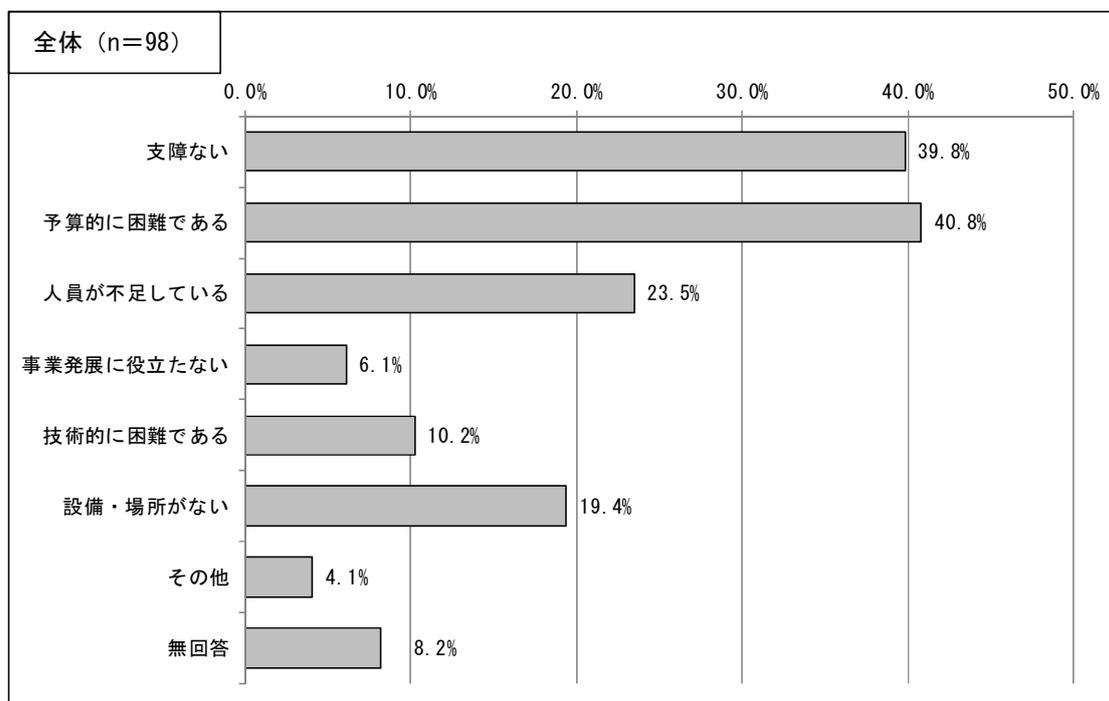


ダンボール・新聞・草等のごみについても、「廃棄物処理業者へ委託」が最も高く、次いで「自社で環境センターへ搬入」が高くなっています。



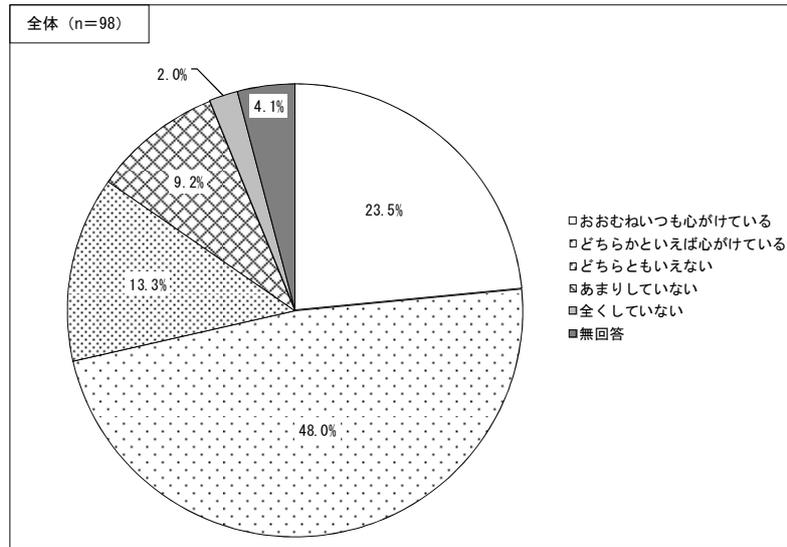
機密紙の処理方法についても、「廃棄物処理業者へ委託」、「自社で環境センターへ搬入」の順で高くなっています。

問3-5 ・環境に配慮した取り組みを実施していくうえで、支障となる原因はありますか。



環境に配慮した取り組みを実施していくうえでの支障については、「予算的に困難である」が 40.8%と最も高く、次いで、「支障ない」(39.8%)、「人員が不足している」(23.5%)、「設備・場所がない」(19.4%)の順となっています。経営面(「予算的に困難である」)やハード・ソフト面(「人員が不足している」、「設備・場所がない」)での問題が、取り組みに対する支障の主な要因であることがわかります。

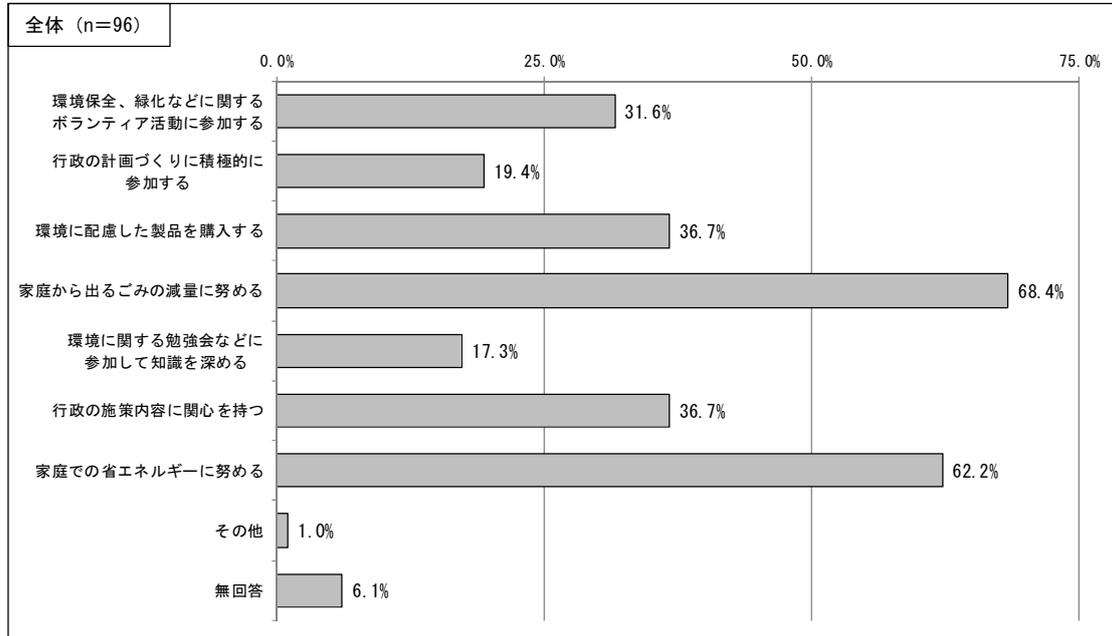
#### 4. 地球温暖化防止に関する取り組みについて



事業活動における地球温暖化防止に配慮した行動の心がけについては、「どちらかといえ  
ば心がけている」が48.0%と最も高く、次いで「おおむねいつも心がけている」(23.5%)、  
「どちらともいえない」(13.3%)の順となっています。回答を得た事業所の中では、7割  
以上の事業所が地球温暖化防止に配慮した行動を心がけていることがわかります(「どちら  
かといえれば心がけている」と「おおむねいつも心がけている」の合計)。

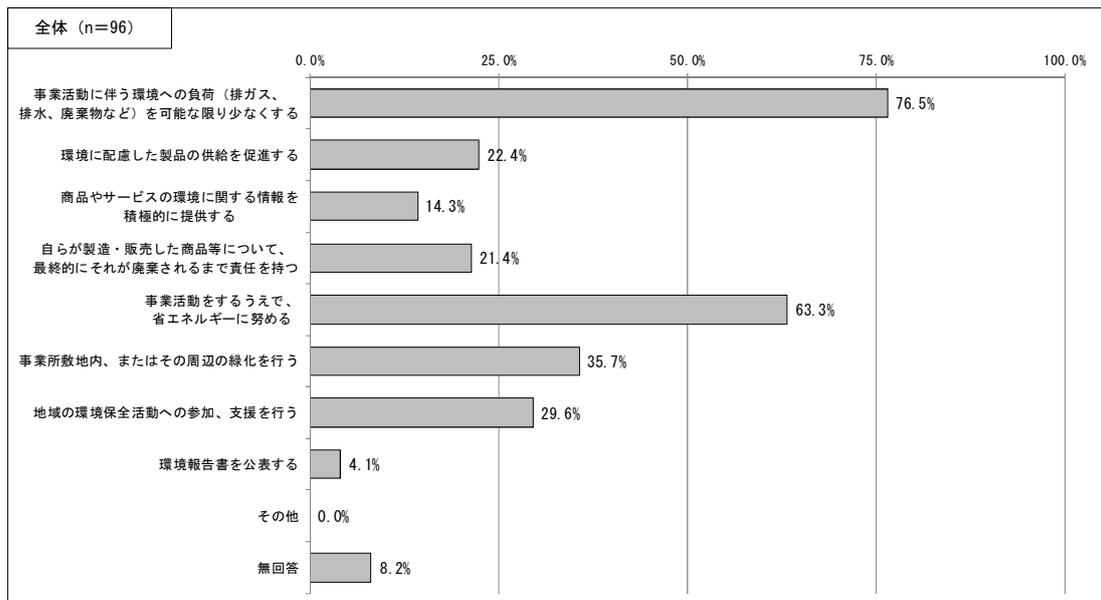
## 5. 貴事業所が環境保全のために町民・事業所・行政に望むことについて

### 【町民が今後行った方がよいと思うこと】



事業所の立場で、環境保全のために町民が今後行った方がよいと思うこととして、6割を占めているのが、「家庭から出るごみの減量に努める」(68.4%)と「家庭での省エネルギーに努める」(62.2%)でした。ともにコストをかける必要がなく、日常の生活の中で取り組むことができる内容といえます。

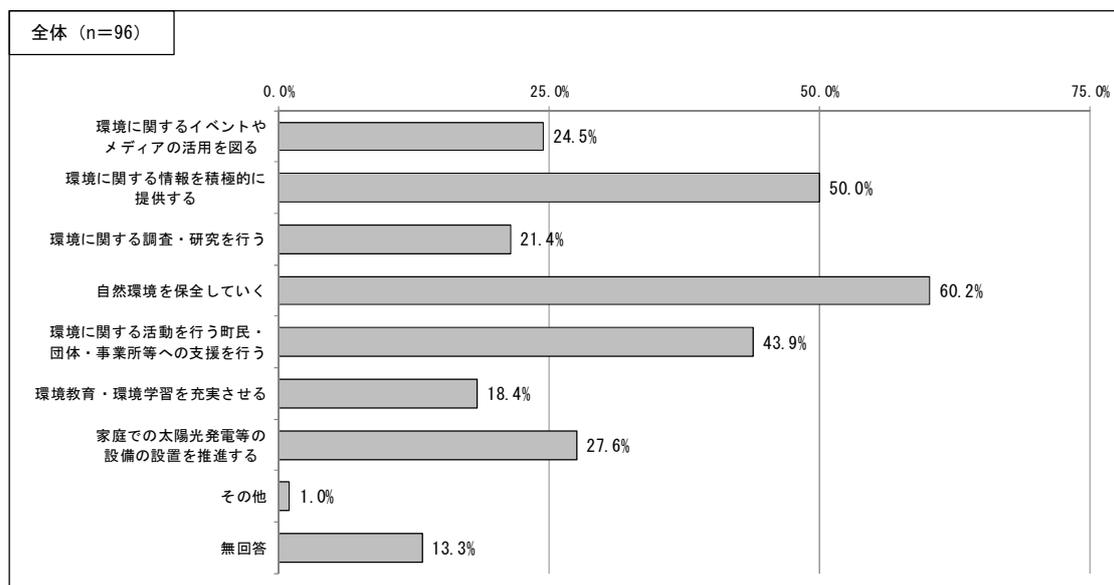
### 【事業所が今後行った方がよいと思うこと】



事業所の立場で、環境保全のために事業所が今後行った方がよいと思うこととして、「事

業活動に伴う環境への負荷(排ガス、排水、廃棄物など)を可能な限り少なくする」が76.5%と最も高く、次いで「事業活動をするうえで、省エネルギーに努める」(63.3%)が高くなっています。「町民が今後行った方がよいと思うこと」と同様に、環境に負荷のかかるものは出さないように心がけることや、エネルギー消費を抑えることが重要であると思われることがうかがえます。

【行政が、今後行った方がよいと思うこと】



事業所の立場で、環境保全のために行政が今後行った方がよいと思うこととして、「自然環境を保全していく」が60.2%と最も高くなっており、行政による直接的な保全活動が望まれていることがうかがえます。また、「環境に関する情報を積極的に提供する」(50.0%)、「環境に関する活動を行う町民・団体・事業所等への支援を行う」(43.9%)が占める割合も高く、直接的な保全活動のほかにも、環境情報の提供や活動支援といった、保全活動が行いやすい環境の整備も望まれていることがうかがえます。

## 6. 川島町の環境保全に関する取り組みについて

以下の項目につき意見が述べられた。詳細は付録3に示す。

ごみに関する意見

環境に関する意見

道路整備・交通に関する意見

その他



付録1．町民向けアンケート問6 コメント一覧

【ごみに関する意見】

- 小見野地区では時々ゴミを燃やしている人がいる黒い煙が出ている時もある注意してほしい。
- 自宅の北側に寺のクヌギの枯葉が飛んでくるので、掃除が大変です。
- ごみを畑などで燃やしている家庭があります。すごく煙いので取り締まって下さい。
- 道路に空カンやゴミなどが捨てられていることが良くある。町民に対する啓発を今以上に行った方が良くと思う。
- ・家庭の生ゴミの堆肥化について、実施可能な方に無償でコンポストまたは EM バケツを制限なしで供給していただきたい。  
・生ゴミだけでも焼却分はかなり減少すると思います。我家では、家庭で生ゴミについては町の収集車に出したことは10年位？（以上）ありません。ちなみに補助がなくなってから止めた方はたくさんいます。  
・ボカシについても、作業所等で大量に作っていただけたら大勢の方が助かると思います。
- ・川釣りの人達の出したゴミが残されている事が多い。  
・私の家の水道は、多雨や台風の後などに茶色の水がしばらく出る事がある。
- ごみの分け方、出し方の手引きが分かりづらく、分別一覧表も少ないので、少し増やしてほしいです。特に紙のごみの分け方は曖昧でいつも悩んでいます。（シュレッター等）
- ごみの分別について、もっと詳しく記載して欲しいです。夜にバイクの音がうるさいので、見回りをして欲しいです。昔はよくあったごみ拾いも今は少なくなったように感じます。（参加者にジュースなどをもらえたやつ）
- ・生ごみをそのまま燃やす家があるので、生臭いのが嫌ですので、生ごみは、ごみは収集所に捨てるか、コンポスト化するかどちらかにして欲しいです。  
・工場ができて、工場の排水がどのようになっているのか？広報ではなく来年あたり、広報の中に排水のしくみのしおりを作ってみんなに分かればいいと思う。  
・環境の全般を伊奈町を見本にバラの公園みたいに整備すれば、人も来て観光にもなるし、人が住む環境になるかもしれないので是非やって欲しい。  
・交通の便悪すぎです。女性、お年寄りにやさしい電車を作ってください。買い物に不便ではありませんが、工場より電車を圏央道より電車を作って欲しかったです。電車について、川越近くまでの町中に電車を作れば良いと思う。そうすれば人口も増えて川島に住みたいと思う。なぜ2010年過ぎているのに東京だけがあんなにさかんで、川島だけは電車もなく交通の便が悪いのかいつも不満に思う。だから、遠くから来た人、川越周りに住んでいる人は「川島に住みたくない」と思ってしまうのではないですか？
- 生ごみリサイクルを進めてください。

## 付録1. 町民向けアンケート問6 コメント一覧

- ごみの収集について
  - ・祝日の収集がある場合と無い場合があるが、予定通り収集してほしい。収集を休んだからといってごみが減る訳ではなく、次回がすごい量になるだけと思う。また、それが分別しないですべて可燃ごみとして出されているのを見かける。
  - ・町民に分別するように求めているが、町では分別したごみをどのように処理しているのか、どの程度リサイクルされているのか、収集後の様子が見えない。もっと広報等で知らせてほしい。そうして自分の出したごみがどのように処理されているのかわかれば、もっと分別が徹底されると思うのですが・・・
- ・私の家の回りでは、可燃ごみを燃やしている人がいます。煙と灰が飛んで来るので、非常に困ります。是非やめてもらいたいです。
  - ・草刈りの回数をもっと多くして頂きたい。
- 生活保護を受けて元気な方に外に出て、川島町の中をキレイにさせていただく（特に川に水が流れる様に）美化運動（ビン・缶拾い、花・草むしり、公園掃除その他）事業所に少しでも税金の支払いを少なくしてもらおう。早急をお願いします。結果を皆様（町民）に知らせて下さい。
- インターチェンジができ、発展していく事は、良いと思いますが、排気ガスや工場ができれば、ごみも出るので、家庭とは違うごみ問題が出てくると思うので、町が良く見ていて欲しい。
- ごみの収集について。日本で、家庭ごみが多いのは、ごみ収集が基本的に無料だからです。日本ではごみ排出量が 1kg/人/日ですが、ヨーロッパでは 0.1～0.2Kg/人/日であり、年 1 万円以上支払っているそうです。ですから、家庭ゴミの収集は①有料とする。②戸別収集する。しかしながら、町民～社会に上記の意識がありません。できていません。ですから、行政には上記の意識を盛り上げる様、社会に意識表示していただきたい。
- ゴミのポイ捨ては絶対やめましょう。
- 川島町のゴミ集積所の現状について町内を見る限り整備したり、現状を把握して改善している様子がみえない。旧都幾川町、現ときがわ町などは町内全地域にゴミ累積施設が完了している様です。他の行政機関の良いところ等、視察を行って是非川島町でも実施していただきたい。（カラス、猫等動物の食べ荒しで生ゴミが散乱しています。身近な問題から改善してほしいものです!）
- 犬、猫の糞被害に悩まされています。効果的な対策や具体的な対策とその結果など知りたいです。田畑などでゴミを燃やしているところをよく見かけますが、以前住んでいた所にはなかった光景なので疑問を感じています。ゴミの分け方、出し方の手引きをもう少し詳しくしてほしいです。
- アンケートの問 3 にあったゴミの分別。家を出している集積所のごみを見ると、きちんと分別できていないのがとても多い。また、容器・包装ごみと可燃ごみを分けられ

## 付録1. 町民向けアンケート問6 コメント一覧

ない（どう分けてよいのかわかっていない）人が多いようだ。特に高齢者（うちの親がそうなので）10年以上前に”ごみの分け方、出し方の手引き”が発行されて以来、新しいのは出ましたか？私のうちには配られていないし、無くしてしまった人もいるのでは……。新しい詳しい”手引き”を作った方が良いと思う。

- 生ごみの堆肥化。水分を多く含む生ごみを燃料を使って焼却することに不合理、無駄を感じる。各家庭での減量もさることながら、コンポストの利用推進と、町のシステムとしての堆肥化が考えられないか。
- 犬のフンの持ち帰りを徹底して欲しいです。  
用水路の溝蓋をして頂きたいです。
- ごみのポイ捨てが多すぎる。特にベイシア西側のフェンス内は、ごみ箱のように捨てられている。店員がごみ拾いしたらどうか？（週1でも）フェンス中の木も、もうもうとしていて犯罪があっても仕方ないと思わせる感じがする。視界が悪く暗い。水路もフタをしてきれいにするべき。せつかくカモ等いるのに、きたなくては残念に思う。水路の中もごみだらけ。周辺の住民の掃除だけでは、限界があると思う。きれいな水路ならごみを捨てようと思わないはず。きたないから、いいだろうと思わせてごみ捨てが増える。台風の時や大雨の時は水が溢れるのも整備すべき。  
ぐるっとバスは無駄。駅に行くバスなど考えたら良いと思う。
- 川島が住み良い町づくりの為、誰が見ても、道路や公共等にごみや雑草等の無い環境を、又、産廃業者が非常に目立つ様になりましたが、行政で強い指導の上、見立目の環境も宜しく。
- 地元の人だけに限らず、新しい住民にも広く情報が行き渡り、情報交換や清掃活動などの参加できる体制作りを希望する。  
清掃活動、ごみの分別など、きちんとやらない人に対する指導方法の改善が必要と思う。
- 自然環境の一貫として、家庭ゴミ、木、枝などまだ田、畑で焼いている人がいます。  
自分さえよければという思いでやっている事でしょうね。喘息などで苦しんでいる人は、洗たく物ににおいが付いたり、灰が付いたり。せつかく自然が多い「まち」に住んでいる意味が無い。
- 環境センターにゴミを捨てに行った際、紙類とビニール（容器・包装）が同じ炉で焼却されていました。分別の必要性はあるのでしょうか？何かしら理由があるのであれば、必要な情報を流すようにしたら良いと思われれます。
- 環境保全、特に緑化運動、事業所及び公園道路の花を植える活動など、幼児から大人まで、家族単位で参加することにより、ゴミのポイ捨てなどできなくなると思います。  
花いっぱい運動、住民全員の参加ができれば最高だと思います。行政ばかりに押し付けてしまう（一部の団体）ので町を愛しく思えなくなりやすいのではないのでしょうか。  
町を愛するという事は、自分の手できれいな環境を作っているという意識を持てる

## 付録1. 町民向けアンケート問6 コメント一覧

かどうかということだと思います。

町民全員で取り組む活動があっても良いと思います。

- ・U字溝の清掃をしようとしたが、フタを上げられなかった。  
・道路の草刈をするとヘビがいたりで、よわった。包・ビンが思ったより捨ててある。  
タバコも犬のフンもある。  
・鳥小屋のニオイどうにかして。  
・病人家族なので、役場職員のみなさんよろしくおねがいします。  
3-3-⑩の所にエネルギーが出ていますが、シェールガス革命で、太陽光、原発などのエネルギーはどうなるかわからないのではと思います。
- (1)以前にもアンケートが来て回答しましたが、集計結果は発表されたのでしょうか。このアンケートも計画の資料にするとのことですが、(どう生かすかはあまりにも難しいと思うので、それは結構ですから)集計結果を何らかの形で知らせて下さい。  
(2)資源ごみの紙製容器等のリサイクルがきちんとされているのか不安です。情報をきちんと出して下さい。情報を頂けたなら、分別したり、きれいに洗ったりして出すといったことがもっと協力的に増えると思います。
- 行政に望むこと、犬の散歩時のフンの始末ができないことが多い。堤防あたりは特に多い。行政の広報で定期的に注意をうながしてほしい。
- 又、ゴミの分別もいかげんな人もみかける。これも定期的お願いします。ゴミ収集所が自分の所にあるので気がつくことが多々あります。
- ゴミ集積所で畑の雑草、不良の作物等を廃棄する袋が時々見受けられます。堆肥として活用すればゴミの減量になります。依って町民への啓発をする必要があります。
- 町民のひとりとしてゴミの分別に関心があります。高齢者でも解る分別一覧表を細かく表にしてほしい。
- 八幡団地に住んで1年半になります。団地の中はとてもきれいです。ただ町全体を見ますと、道路(特に農道)に、ポイ捨てのゴミが多く残念です。カン、ビン、スーパーの袋入りのゴミ等です。  
人としてのモラルの低下と思われませんが、何か良い方法があれば・・・と思います。

### 【環境に関する意見】

- 用水、小川などの整備、水質を美化  
川島町の税金が高い  
※国民健康保険  
※年金に関する税金
- 川島町も老人が増えています。今後、増々多くなってきます。  
町が発展しない為、若い人が県外へ出るようですね。大きいレストラン、大学、高校と増やすべきです。

## 付録1. 町民向けアンケート問6 コメント一覧

川越、東松山に囲まれて本当にいなかですね。田畑がたくさんあるのもっともっと発展さすべきです。町が泣いていますよ。川越、東松山のように発展させていただきたい。税金ばかり高くて発展のない川島ですよ。

環境は、田畑ばかりで空気はどこにも負けませんよ。町が発展することにより、税金も多くなり人口も増すことと思います。ぜひ町長さんによろしくお願いして下さい。

- 私が川島町にお世話になったころは、水路周辺は元より水質がとてもきれいでした。夏はホタルが乱舞していたくらいです。今は生活排水でとてもよごれ見るかげもありません。あのころにもどるのは無理ですが、水路整備を進め少しでも水質をきれいにして頂きたいですね。できれば全戸合併槽を望みます。行政も何かと大変ですが、町民の一人としての御願いです。

- 美化運動も現状必要あるが、「捨てさせない」方に力を注いだほうが良いと思う。根本をなんとかしないと意味がない。

旧道沿等の側溝を下水道に（地下に埋める）出来ないのか。一部網状になっていたり、すき間があったりで、悪臭がたまたま時期がある。側溝である意味は何なのでしょう。

- 町民：行政に何も望まず、自ら環境学習をし、実践する。地域環境についての理想像を自ら描き、協働により実現をはかる。

環境団体：町造りに関する世界の先進事例を収集し、町民、事業所、行政に対して、川島町に最適なプランを提案する。持続可能な活動を続ける。

事業所：事業内の組織として、環境委員会を作る。自主的に環境影響評価を行ない、環境負荷を低減させ、併せて環境の質の向上をはかる。環境教育の分野においても専門技能や知識を活用して貢献する。

行政：川島町の環境は農業により著しくそこなわれている。大気にしる水質にしる騒音、塵埃、悪臭、野生動物の生息状況などを改善するには、農業者への環境教育が欠かせない。新住民を中心とする非農業者は町を縁取る堤外地の復元しつつある自然環境を見て、自然が豊かだと錯覚している。町は環境面で手本を示すことはできるが、町の環境は住民と事業所が自ら環境について学び、実践しなければ良くはならない。環境基本計画の策定にあたって重要なのは、現状維持や悪化の低減ではなく、この町が実現しうる理想的な環境とは何かを調査し、科学的な根拠に立脚した理想的な環境コミュニティを描き、その行程を示すことだ。百年前には本町にはトキもカワウソも生息していたのだ。希望はある。

- 買い物へ行く時は、みんなが買物袋（エコバック）を持参する事で、ゴミは少しでも減らせると思います。電気はこまめに消す。水を出しっぱなしにしない。見ないテレビは消すなど出来る事からやっていくしかない。
- 町として平成の森公園がありますが、中山、伊草地区には多くの住宅が建設されています。そのような状況の中で、公園の造成は必要でないかと思われまます。市街地では、これからも住宅が建設されると思いますが、小さな公園でも造成していただければ生

## 付録1. 町民向けアンケート問6 コメント一覧

活環境も良くなる気がします。

- 緑を大切にしたい。
- 川島町全体を見れば、未だ環境が整っていない様に思われる。道路、川（水路）案内標識等ももっと美化して町以外の人々からも川島町はよく整備され、気持が良い風景のある町と思われる事。先日比企郡内のある町へ行った時、すごく道路、川も全体の景色が良くて、以前よく通っていた時は余り感じなかった里山、美しさ環境について再発見した。最後に行政が指導力を持って実行して頂きたい。
- 1.市街化調整区域内における環境保全の指導を徹底してもらいたい。自動車の修理を行っているため、騒音がうるさい。（法的には修理工場としての営業はできないと思います）  
2.浄化槽の補助金をもっと引上げていただきたい。下水を生放流している地区に比べて負担が大きいのので不平等となっています。  
3.歴史的に地区の用水の清掃・除草を毎年行っています。地区住民が全員で3回対応しているが、サラリーマンで農業に従事していない人達も義務的に参加しているが、これは住民としては不平等であるので、将来的には町で対応願いたい。  
4.経費削減のため、平成の森の落葉拾い等の作業は広くボランティアを募ったらと思います。役所の予算は限られているので知恵を出す事が求められています。環境意識の向上にもつながると思われます。
- 地域が発展する為の条件（交通利便性の向上、産業誘致等）は、一般的な緑化や環境保全とは矛盾する側面があると思います。自然豊かな場所に行ってリフレッシュしたい気持はあっても、そこに住みたいのかと言ったら話は別だというのが大方の考えだと思います。  
緑化、環境保全が必要ないとは言えませんが、生活環境を悪化させる要因、原因を分析し、その改善を進めることが、単に緑化、環境保全をするよりより効果的で且つ活性化に向けた地域づくりに有効ではないのかと考えます。  
私は、八幡団地の川沿いに住んでいます。昨今の集中豪雨などは、正に地球温暖化の影響が現実化している一つの変化だと素人ながら感じています。だからこそ緑化、環境保全が重要というのは理解出来ますが、それにより河川氾濫対策が後手に回ることを懸念しています。残念ながら、温暖化による悪影響は現実のものとなっています。これ等災害による環境被害リスク軽減の為の保全にも力を入れて頂きたいとお願いする次第です。
- 我が家でも犬を飼っていますが、町内を散歩していて、飼い主のマナーの悪さに悲しくなるばかりです。一部の人達が、犬のフンを持ち帰らないばかりに、きちんとマナーを守って散歩していても、嫌な目で見られる事もあります。何か対策があれば良いのでしょうか、例えば、罰金制にするとか・・・  
あと夕方遅くまで、近所の子供達が外で騒ぎ本当に困っています。公園が遠いから、

## 付録1. 町民向けアンケート問6 コメント一覧

家の前で遊ばせるしかないと親は言っていますが、子供のいない家族や年寄りをかかえている家もあります。もっと公園を多く増やして欲しいです。小学校でも遊べないと聞きましたが、少しは開放してもらえないでしょうか。

- 川島に来て6年ほどですが、その他は大変住みやすく、大好きな町です。
- ・生活排水に対する整備推進を図る、具体的には、生活排水（一般家庭から流れるもの）について、きちんとした計画を立て、きれいな水路、用水？の整備を図っていただきたい。  
・川島町の名のごとく”川”（用水路を含む）の環境美化推進に積極的に取り組んでいただきたい。
- 野焼きをしている家庭があるので、やめて欲しい。（煙がでる）
- 田んぼ、畑の多い地域に住んでいる以上、言ってもしょうがないと思うのですが、焚火が非常に多いのがつらいです。せつかく良い空気なのでですから少し考えてもらえればなと思います。
- 中山地区の市街化調整区域に住んでいますが、2階より高い大きな木による日照不良に悩まされております。自然を保全する為には、木は大切だと思いますが、ある程度の高さ制限はないのですか？  
また、田舎ならではの、ごみを燃やす事が周辺で多く、喘息がおこる事があります。  
下水も浄化槽から流れた水は土にしみ込ませる様な下水で虫がたくさんわき、何年か前に町に薬をまいて下さる様お願いしたら、1回だけ少しまいてくれただけです。  
子供は公園など遊ぶ所も近くにはなく、なぜ川島に住み始めたのか今となっては後悔しております。  
交通も不便で、自然環境だけでなくもっと住みやすい町づくりを行政にお願いします。
- 積極的に緑化運動をすすめる。
- サイクリングロードの整備をするのは、良いのですが、草刈りを年2回しかしていないので、いこいの場になるどころか真夏には歩けない状況です。特に、交通量の多い道路と交わる道路は通学路にもなっているので、大変危険です。5月からかなり雑草が生えてくるので、もっと頻繁に草刈りをして頂きたいと思います。（4～5回位）草刈りの依頼も、役場に問い合わせしたら、県の管轄なので、個人で依頼して下さいとのことでしたが、町と県で整備しているので、町で依頼すべきなのではと思います。
- 下水道未整備地区の（排）水路のU字溝の設置。
- 静かな子育てにすばらしい環境と思ってこの土地に住んで、高速道路が出来、大型スーパーが増え、建物がどんどん造築され、30年のこの変化に喜んでばかりいる人達はどれ位いるのでしょうか？このために町の温暖化はずいぶん増えているばかりで良いとは言えないと思います。土手すらアスファルトにしてしまって、残念な限りです。今まで自然の多かった川島が変りつつあることは確かです。この自然をあまり変えない

## 付録1. 町民向けアンケート問6 コメント一覧

でほしい。

- 自然も大事だが、ある程度の開発は必要がある。自然があるから美しい町とはいえない、むしろきたない。
- 町民が美化運動を進んでしたくなる、しょうと思うエリアを身近な環境を持つことで、人の輪ができ繋がりができお互いを思いやる気持ちが持ち合える時間に環境保全を通じて作れたら良いのではないのでしょうか。
- 川島町の郵便局のドブ川が臭います。フタをしてください。
- 環境対策については積極的に協力します。
- 環境とひとくちに言っても、あまりにも大きくて、すぐに意見とかまとめられませんが、町として、川島町としては・・・というはっきりしたコンセプトの下に進めて行くことが大事だと思います。コンセプトを明らかにすることが先決ですね。

思いつくままに

・細かいことかかかもしれませんが、「桜通り」というのがありますね。桜の木が植えてあるので、何十年かたったらいい桜並木ができるなあと期待しています。歩道とかベンチとか駐車場・駐輪場など作る予定はあるのでしょうか？是非先を見通して、進めて行ってほしいと思います。よろしくお願いします。

・このことなら他の町に負けない！特徴ある政策を期待します。

・この頃、競技自転車の方が今日よく町内を走っています。町の環境が良いのだと思いますが。あの方たちがもっと練習しやすく環境（トイレとか）を整えていくのも一つの方法ではないでしょうか。これをきっかけにさらに来町者が増え、口こみで川島の良さが広がるはずと思います。

・町の花菖蒲、もっとあちこちにミニ菖蒲園があったら良いなといつも思います。又、町民に株を分けたりして、町中に菖蒲が増えたら本当に町花と認識されることでしょう。こんなふうに川島ならではの取り組みを工夫していったら良いと思います。

- 下水道をお願いします。きたなすぎます。

夜電柱に電気をつけてほしい。

- 町がどのような取り組みをしているのか、今まで知ることがありませんでした。これから勉強してみたいと思います。希望としては、自然エネルギー、新エネルギーがどんどん開発され、行政にも取り入れていってもらえると嬉しい。

- 若い世帯が住みたい街にする施政が重要と思う。川島町は若い人達の魅力に欠けているようだ。

・税制優遇

・子供の政策

公園・・・現在はワンパターンの施設で魅力に欠ける。冒険できる又は、創造できる公園、周辺地域からも遊びに来たくなる公園

保育

## 付録1. 町民向けアンケート問6 コメント一覧

学費・・・スポーツ教育等又は有名校創りによる川島町の魅力

- 川島町の大自然には大変満足しております。生まれ育った町として愛着があります。しかし、私の住んでいる地区は、交通の便が悪く最寄りの駅やバス停に行くまで、車で10-15分程かかってしまいます。できることなら、バスの路線変更やバス停の追加等を望みますが、利用者数やコスト面を考えるととても難しいことだと理解しております。今後の川島町の発展、人口増加を願います。  
ここ最近では、県外の方に川島町の魅力を紹介しました。緑豊かな田園風景やお米のおいしさチョウゲンボウの生息等話をしたら、大変興味を持って頂けました。いつまでもこの自然を大切にしていきたいと思います。
- 現状発展の為とはいい、川島の良さであった自然が失われて、夜は排気ガス臭く、車の騒音もうるさくなりました。  
町を発展させて行くのは大事ですが、町で自然を守る取り組みをして欲しい。  
町で何かをやっている（イベント等）のが分かりづらいので、掲示板などをもっと設置したり、ベイシア等でアピールしないとやっているのかすら分からず協力もできません。
- 今の状態は川島町が具体的に何に対して（例えば、工業団地の拡張に対応した景観保全、越辺川の水質及び周辺の景観保全、三つ又沼ビオトープの自然観光資源としての積極的な活用）、何を行いたいのか、広報力の弱さかもしれないが町の事業としてのロードマップが全くわからない。  
アンケートから環境基本計画策定へどのように繋げるのか、町としての意思是伝わってこない。単にアンケートの集計から何かテーマを探すというのであれば、想いが無いのと同じです。  
川島町が基本計画を策定し、環境保全活動に真剣に取り組み、町のイメージアップ、活性化に繋がりたいと真剣に考えているのなら、提案として環境マネジメントシステム(ISO14001)を、川島町の事業マネジメントに取り込むことが必要だと思う。そのため専門家町民から探すこと、もしくは町として専門家を育成することが重要だと思う。  
今回のアンケートの質問項目に対する質問事項の大半がこれによって具体的なミッションとしてより具体化され、町民、NPOなどを含むステークホルダーとのコミュニケーションも活性化され、更に積極的に第三者評価を受け、環境保全への取り組みを町民のモチベーションアップに利用すべきです。
- 環境整備は行政だけに頼るものではなく、町民一人一人が取り組んでいかなければならないことですので、個人でできることをして参りたいと思います。今後も川島町の環境を守ってくださいますようお願い申し上げます。
- 川島に越して来た頃、平成の森に孫をつれて行った頃、中央に有る噴水の所の水がきれいで子供達が入って遊びました。(夏) こんなきれいな場所が出来たと喜んでい

## 付録1. 町民向けアンケート問6 コメント一覧

ました。20年過ぎた今年の夏、散歩に行きましたら、余りきたないので驚きました。水が有るので、きれいに掃除をしたほうが良いと思います。(夏)だけでも、バラで人々を喜ばせているのですから。

- バイクなどの騒音がとても気になる。  
夜などベシア付近など特にうるさいです。
- 都会に一番近い農村川島町。不便なところもあるけれど、田舎っぽいところが川島の良さでもあると思います。その良さが失われないような環境づくりがされることを望みます。
- 町の小さめの川にも常時水を流しておく＝農業に水が不用のときは上流のセキを止めてしまったりして、都市部地域のために農村部の水流を止めてしまっているのだろうか？川のヘドロが多くなってきている。火災等も役立たなくなっている越辺川等の水が大都市中心のためにのみ利用されてしまっているのではないだろうか？
- 子供がおおきくなくても川島町に住みたいと思う気持ちが持てるようなまちづくり。環境整備に取り組んで下さい。
- 私の家の近所では自分達で、ゴミや木などを燃やしている家がたくさんあるので、自分達で燃やす事はいけない事なんだと通達してほしい。本人達はけむりが有害と気付いていないので、もしくはわかっているのに燃やしているので、あと環境づくりも大切なのはわかるが、子供達の小学校についてはどうなっているのでしょうか？私は小学生を持つ父親ですが、学校の少子化が大変気になります。三保谷や小見野なども1クラスの人数が1ケタしかないのに町の行政はこの事について考えているのですか？話を聞くと小学校の合併もあると聞きますが、いつ頃になるのか知りたいし、この話があるのも遅いぐらいだと思います。小学校の人数が100人もいない所がいくつもあるのに、どうして早く合併しないのか、不思議です。いろいろ問題があるのはわかっていますが、以前からこの問題がわかっているながら、なんで早く解決しないのでしょうか？今どのくらい話が進んでいるのでしょうか？川島町は交通が大変不便です。みんなちがう地域に住んでいます。その気持がわかります。子供達の事を思うと交通の不便な所でしかも友達も少ないと大変悲しいです。
- 田畑が多いので、なかなか道路に大きい木は植えにくいと思います。だからせめて学校など公共施設には大きくなる木が欲しいです。本当は、けやきなど、大きくなる木の並木道があると夏気持ちいい道路になると思うのですが・・・川越に住んでいるママ友から「子育てには良い所だね」と言われたことがあります。他の街に住んでいる人からうらやましがられる様なステキな川島町になっていくと嬉しいです。
- 各課ごとに環境問題に取り組んでいると思いますが、横の連携をもっと密にしていたほうがよいと思います。例えば、町民生活課では、「コスモス」は、外来種として認識されているようですが、農政産業課では、「コスモス」を景観作物として、助成金を出しているようです。担当者は、まじめに一生懸命事務を遂行しているだけで、

## 付録1. 町民向けアンケート問6 コメント一覧

攻めているつもりはありません。上層部の方をお願いしているのです。統一のとれた町の方針を示してください。そうすれば、町民は迷う事なく協力できると思います。

- 色々ありますが例えば用水路、田んぼに水を引く大切な水路ですが、20年以上何もしていないので（土を掘った水路なので）水路が浅くなり、狭くなっている。木や葉のゴミは落ち、大量の水が流れた時にはあふれまわりに被害がおよぶ。他の地域を見ると、用水路をコンクリートでなくても木板でしっかりと水路づくりをしているのを見ます。少しずつでも考えてほしい。まずは住宅地を流れる水路を重点的に見直していただけたらと切に願います。
- 図書館はいちいち靴をぬがなければならないのはなぜですか？また手を洗う所がトイレだけなのも不便です。  
駅と遠山記念館を結ぶバスがあるといいと思います。
- 平成の森の近くを通るだけで幸せな気分になります。私が自分で一番怖いのは水害です。上伊草の方も現在大きな水害のための工事を行って下さって有り難いです。
- 私は荒川土手の散歩を日課としていますが、河川敷のゴミの不法投棄の多さには閉口しています。国交省のパトロールカーが度々通っていますが、一向にへりません。罰則を強める等、何か強い対策を望みます。
- 環境の良い川島でも最近国道などができたので、もっと環境を壊さないように努めてほしいと思います。住宅の分譲も伊草では増えたので、もっと住みよい家の環境を作って欲しいと思います。
- 民家のよりよい環境づくりについて意見があります。近所との距離があまりない、住宅密接地に薪ストーブを住宅に設置した家があります。薪ストーブなので煙が出ます。当然の事煙のにおいもあり、近所に排煙しているわけですから、部屋の換気をしたくても、窓を開けられない状態が、冬の時期は続きます。洗濯物も煙のにおいがつき不快です。布団に関して、ほとんど干す事ができない状況が冬の間続きます。住宅が離れている北海道のような土地で使用するのは、分かりますが、住宅地に関しては行政側で規制をしてほしい。とても迷惑しているし困り果てています。助けてほしい。
- 月に1回美化運動の日を定め、町民、環境団体、事業所、行政全員で取り組んでいったらどうでしょうか？
- 省エネのためにコンセントを抜くことは機器の故障につながりかえって悪くなると思います。省エネ車の購入も、バッテリーの交換等、環境負荷が高いと思いますが、緑が少ないので努力を、ガーデニングの支援など
- 太陽光パネルなどの補助金を増やして欲しい  
ゴミ袋を提供して欲しい
- 川島町は緑豊かで大好きです。しかし交通の便が悪く、町民は車に依存しなければならないことが現実です。  
行政には、交通の便を良くして頂き、車に乗らなくても仕事へ行けるようにしていた

## 付録1. 町民向けアンケート問6 コメント一覧

だけると思っております。

- 環境づくりはいいことですが、やりすぎると壊してしまいそうです。自然が一番いいことではないでしょうか。
- 久保地区に住んでいます。
  - ・野良猫（飼い猫？）の多さに困っています。外でエサをあげている家があり、猫が集まっているようです。
  - ・カラスにエサをあげている家があります。本人は「エコ」と言い、残った野菜をあげていますが、カラスがよりつき迷惑しています。
  - ・小学校近隣で、川に落ちそうな危ない所がいくつかあります。
- 環境保全とは関係ないのですが、行政に望みます。

現在二人暮らし、年金生活です（持家ですが）。今はほぼ健康ですが、この先気を付けていても不安です。

グループホーム、ケアハウス等、入所金等高くても入れません。

順番待ちとか聞きます。町で安い費用で利用できるよう考えてほしいです。
- ”都会に一番近い農村”は良いことばだと思えます。便利になると何かが失われると思うし、今あるものを無くさない様にしてほしいです。ひとりひとりが自分の生活を。そしてもう少しだけまわりのことを大切にしていけたならと願っています。
- 夜になると、八幡の工場内からの煙がとてもニオイがきつく、調べてもらった方がいいと思います。よろしくお願いします。

### 【道路整備・交通に関する意見】

- 川島ICからおりて254に合流する車線のところに時々大型トラックが止まっていて危険です。対策して欲しいです。いつか事故が起きます。
- 県道212号（早俣橋付近）の歩道・植え込み管理が不十分（枝が伸びっぱなしで見通し悪い!!雑草が伸び放題で、雨降の時は、歩行が困難!!)通学路としては最低!!どこへ連絡したら良いのか。子供達（学童）が、かわいそうと思う毎日です。

放射線量!!川島町はどうなのか?新聞（雑誌）に近隣の原木”しいたけ”から放射線量の数値が出たとあるが・・・・。
- 急に雨が降ったり、普通より多めの雨の時は、水が車庫に溢れ家に入れられない状態です。再三再四役場に願いを出していますが解決策が見つからず困っています。
- ベイシアなど人が多い所では、道路など整備されていますが、住宅地、過疎地化している処は道路が砂利など。高齢者の方々が多そうな場所を舗装を進めた方が良いでしょう。小中学校の近くでも車と歩行者が接近する処を改めて見直して欲しいです。
- カインズホームとガソリンスタンドの間の信号機に右折信号をつけて下さい。前々から事故等多く、未だに改善されないのは何故ですか。いつも車で通る度に危険を感じ

## 付録1. 町民向けアンケート問6 コメント一覧

ています。早急な改善をよろしくお願い致します。

土、日の終バス（川越駅発）の時間ももっと延ばして欲しい。23時台にもバスを走らせて欲しいです。

- 私共は旧 254 の道のそばに住家が有ります。交通の規制など騒音などの音や事故などが有り心配ですので、交通の緩和に協力願います。

- 私は 25 年前にこの川島に移住しました。静かな田園の町。若い子育て世代には、とても良い町だと思いました。しかしそれは子供の小さい時。高校や大学、社会へと出て行く時代になると交通の不便さの為、また越してしまう人が多くなってきました。移転して来た当時にくらべれば、インターができ、周辺の開発が進み、だいぶ町が変りましたが、交通の不便さは、何の進歩もないように思います。どうか今の自然環境を保ちつつ、交通の利便さも計られた住みよい町にしていきたいと思います。

- 行政に望むこと

①小中学校の通学路の安全確保（信号の設置・調査含む）特に圏央道の下の通学路。書道と歩道の区分が狭いところ。

②農道から公道に入る十字路部分の見通しが悪い。休耕の畑や田に草木が繁茂している危険である。明確なルールを作り解決して頂きたい。

町民の方に望むこと（私を含む全ての町民の皆様に）

川島町民憲章をもう一度いや何度も見て理解して欲しい。

かわじまの宝だ 伸ばせ子供たち

悪いことを見たらその場で正す。注意や声かけ、時にはしかる。自分の子供はもちろん、他人の子供であっても大切な事だと思う。昔は近所のおんちゃんにしかられた事が今でも心にあります。

地域住民の結束 地域の子供は、地域住民が守る活字を読んで見るだけでなく、実践して頂きたい。地域住民の結束は、地域の子供を守る私達大人の役目であり、その結果は互いに心と心で結ばれている「深い心の絆」であると思います。

何かを通じて（スポーツ等）子供達に対しては、この様な育成をして行きたいと思っています。

「忍耐・心棒・我慢・気骨・克己・服従」等を育成し、この厳しい世の中を乗り越えて行ける子供に育てたいと心から思っています。

- 交通の便が悪いので、もう少し何とかしてほしい。
- 交通事故が減るよう、危険個所の見直しをして欲しいです。また、子供達が安心して学校に通えるように、行政からも指導をお願いします。
- ・道路やその周辺の整備をきちんとしてほしい。  
・高齢者の方や車に乗らない人の為に交通の便が良くなれば良いと思います。
- 朝の R254 落合橋川越側から上井草交差点までの渋滞緩和をしてほしい、これも環境問題の1つだと思う。

## 付録1. 町民向けアンケート問6 コメント一覧

- ・晴天時ではなく、雨上がり後の「道路（みずたまり）／水路（ごみ）等」を確認し、適切な処置を実行する。
  - ・行政からの情報提供も大切であるが、それ以上に行政自らが「行動」する事が重要。（机上の作業のみでは環境は1つも改善されない。）
  - ・平成25年4月に保全条例を施行したのに、この時期（7～8カ月後に「町民アンケート」は遅すぎる。「課題」を見出すためには、施行と同時に実行すべき。「基本理念」を定めるには不可欠と思う。
- 国道254バイパスの植込み・路肩などのポイ捨て（ペットボトル・缶・その他色々なごみ）がひどいです。美化運動で収集していますが、行政でも何か出来ませんか？立て看板をたてるなど、お願いします。
- 「どぶ板」（水路の上にある歩道）の蓋と蓋との間に出来た段差をなくして欲しい。「どぶ板」の幅が狭いため、”ゆばみ”が出来てあるきづらく、自転車も歩きづらい。改善をよろしくお願いします。
- 駅のない川島町にとって、川島ICの開通は素晴らしいことと思います。いろいろな事情の方が利用できる町内バス、個人の車を保険有料のボランティアとして（川島町は車がないと生活できないので、日中車は家に多数あると思います。）退職した方、子育て中の方 etc.町内の送迎（病院・保育所・学童保育 etc.）に短時間でも助けてもらえる人と働いている人、急な怪我や病気の時、とても助かります。怪我などで、運転できない時、近くで病院に行くのにタクシーを往復使って毎日通いましたが、治療費より、タクシー代が高く、家族で送迎できる人がいない場合、大きな負担です。
- 圏央道ができた事で町は発展したが、車が増えて、排ガスによる空気の汚れや交通事故が目立つようになった。公共の交通手段が少なく、1人1台車を持たないといけないのが現状です。電車が通り駅が出来る様になったら便利で個人の車利用も減ると思う。公園が少な過ぎて、子供が安心して遊べる場所がない。子供が歩いて行ける場所公園を作って欲しい。
- 鉄道が無い。
- 子どもが高校に通っているのですが、東松山方面へのバスが少なく途中の時間調節や部活帰り塾帰りに丁度良いバスが無く、若葉経由で帰ったりと苦労しています。高齢者の話を聞いても、若いうちは住みやすいかもしれないけれど、交通が不便なので引越す人も多いという事です。

子供～大人～高齢者になっても住みやすい町だったらいいと思う。

私も20年前くらいに九州から来たのですが、交通、子育てなど不便なことも多くありあました。子供たちにとって、生まれ育った川島町が良い（住みやすい）と思えるようになって欲しいと思います。
- 交通の利便性を高くしてください。現状ではバスの本数は非常に少なく近所に電車もなく、どこへ行くにも車を使うほかありません。

## 付録1. 町民向けアンケート問6 コメント一覧

- 交差点のある場所に住んでいるので、時々車の燃料の悪臭で洗濯物も干せない状態です。毎日の事なので、朝夕の時間は特に苦痛です。住んでいる人間でないとうかからなうと思ひますが。
- 釘無橋を通勤で使っているのですが、歩道が狭いので、自転車がとても危ないので、広くして欲しいです。車も渋滞するので、二車線にして欲しいです。
- - ・駅がないので絶対つくるべき!! (だから若い人が出ていくと思う)
  - ・コンビニが少なすぎ! (コンビニ同士の間隔が広すぎる)
  - ・東松山駅ゆきバスが遅刻しすぎ!! (駅がないんだから、バスが遅刻したらダメでしょう!!)
  - ・住宅街を通勤の車が堂々と通りぬけて行くのはどうなのか……。(とくにほかの市や町の間!!) (川島町に住んでいる人にとってはかなり迷惑!!) (小学生の登校時間は通らないで欲しいと思ひた!!) (※下伊草のあたりはとくに!!)
- 安全な歩道。
- 便利になつていくのは良いのですが、近年圏央道や倉庫などの建設によって景観から川島らしさが少なくなつていくのが、悲しいです。ただ交通が不便なので色々な用事が町内で済ませられるのは良いことだとも思うので、戸惑っています。どちらも良い所で頃合いを見て欲しいです。
- 川島町ってどういふ町なの? と友人にたずねたら都会にかこまれた過疎の町だそうです。  
私もその様に思ひます。  
よくこの様なアンケートがたびたびありますが、交通が不便でまわりにお店がなく、その為川越に行つたり、坂戸、東松山に行かないと用事がたりません。町が本当にくらしやすい町づくりを望んでいるならば、心のそこから考えていただきたいと思ひております。  
そして、町にあかりがなく、車を運転していても、この先道がつながっているのか、暗いため、とても怖い思ひをします。バスをおりて自宅まで帰るのにまっくらです。いろいろな所へ行きますが、こんな暗い町はありません。税金を支払っている私としては、川島町に何をしていたいただいたのか? よくわかりません。そのお金で電灯「くらいつけていただきたいと切に思ひます。  
体育館があるかも知れない! コンサートホールがあるかも知れない! だけれど身近にもっと大切なものがあります。この思ひが行政に届きますか? ただ町民は「しかたがない」と思ひてしまっているのです。(ただ読んで済ませないで下さい。) このアンケートが無駄にならない様よろしくお願ひ致します。
- 車で運転していると、思わぬ所に道路が新しくできていて思わぬ目にあう。道路をわかりやすく整備してほしい。計画のない道路が多いのでは……  
交通事故が多いのがうかがいます。

## 付録1. 町民向けアンケート問6 コメント一覧

- 圏央道川島 IC が開通してから、商業施設等が立ち並び始めましたが、川島町に高層の建築物は建ててほしくない！川島の景観に高層建築物は合わない。もし、高さ制限の条例がないのなら、早期に条例を作ってほしい。
- 道路  
舗道・車道の確保、並木道、公園 平地を生かして高所な場所（公園）を作りそこからながめる夕日（朝日）が見たい。  
川島町物産を広めるために  
JA には、飲食するスペースが現在ないので、もう少し広いスペースの JA があり、町民だけでなく、他県市民等が憩う休憩スペースや販売、特に飲食できる場、すったて 500 円で食べられる店（JA 内とか）出店させて、活気を呼び込む。  
宣伝も足りてない。  
かわべえの印刷入り袋など、他県への PR  
広報？なんでも鑑定団の印刷物を作成した方がとても上手でよかったので、いろいろな案を出来る限り用紙で PR 必要。  
圏央道も出来、カインズやベイシア等よそから川島町に来られる方も増え、よいチャンスなので、周辺をもっと活気づける。  
R254 沿い道路で病院がなく救急車が行き交う度、東松山→川越の川島に救急病院があれば（R254 沿いに）たくさんの命が助かり社会貢献が出来る。自己の事もそうだが、埼玉県全体を考えることで、川島が活気づくと思う。予算が必要な事だが、町民の協力を集めてさまざまな取り組みにこれからも励んで欲しい。
- 幼稚園、小学校における交通安全教室等による子供達への交通安全の指導が今以上に必要であると感じる
- 小見野地区にも本下水道を通してもらいたい
- 近年川島インターができたと同時にいろいろ工場も増えました。私たちが学生だった頃はよく光化学スモッグ警報の放送を聞いた記憶がありますが、最近は大丈夫なんでしょうか？  
緑化につきましては、川島は田んぼも畑もたくさんありますし、よく狸なども見かけます。大きな山があるわけでもないのにこのような動物たちがいることはそれなりの自然があるからなのかなといいふうに思っています。町の花は菖蒲ですが、平成の森だけでなくもっとたくさん植えて菖蒲のイメージを強くすればどうでしょうか？夏に広がるひまわりや秋にみる秋桜など数多く咲いているスポットを見ると、立ち止まって見たいと思うほどのきれいさです。緑は充分なのでお花ももう少し増やしてみたいかがでしょうか？
- 川島町も工業団地が増え、大型トラックが多くなり、環境は良くなっていない。よくエンジンをかけたまま駐車している。対策は考えているのでしょうか？  
また近所の車が朝 5 時ごろから 30 分ほどアイドリングをして毎日出勤をしている。良

## 付録1. 町民向けアンケート問6 コメント一覧

い対策が浮かばない。

- 子供達（小学・中学）の通学路の安全を徹底して下さい。スクールゾーンのガードレールの整備等
- ・近所の自動車屋さんの所で車のタイヤを燃やしてとても臭い（頭痛がする）。

### 【その他】

- 町として、良くしてくれていると思いますので、これからも町民の1人として自分にできる事をはしていきたいと思います。
- いつもお世話様です。この場でお話しする事ではないかもしれませんが  
①町の緊急放送がほとんど聞こえない!!ましてやお年寄りなどまったく聞く事が出来ないでしょう。（我家では仕方なくラジオを購入しましたが・・・）  
②場所によって（同地区でも）街路灯の設置に差が有る。当地区でも何故ここだけ街路灯が多いのかと不思議に思う程です。これでは町民平等の行為とは思えないのですが・・・。やはり均等な設置をお願いしたいし、調査の上変更及び改善して頂きたいと思います。  
③1年に2回程激しい異臭がする時があります。地区は下伊草です。窓を開けておく事も出来ない程です。  
以上、通勤電の中で記入させて頂きましたので、乱筆乱文にて失礼致します。  
今後も川島町発展の為、よろしくお願い致します。
- 環境も大事ですけれど、お年寄りは足腰が弱って遠くへ行けないので、お年寄りが集まれる交流の場があると良いと思います。
- 川島町は南北の人々の往来、車の交通は多いのではないかと。それに比べて東西の幹線道路が無い為、往来が少なく、通り過ぎるだけでも苦勞する。人が行き来してこそ町の発展も有ろうかと。道が有るから人々が集まる。人のうわさも良くなるのではないのでしょうか。とにかく十字に交わる道の一つでも多く造っていただきたいと思う。
- ①川島中学校のすぐ東側の道路で～川島病院～県道間、病院が出来る前は車輛の通過も少なく、カン、ペットボトルのポイ捨てもなかったですが、病院が出来て交通量も多くなり、上記のポイ捨てが多くなって来た様です。②耕作放棄地の除草、冬場民家の近くで草が茂り、もし火が付いたら大変な事になると思う所が有ります。③田畑の回りの除草の件、特に道路に面した場所、この場所は耕作している人の責任で除草すべきだと思いますが、草が茂り、道幅が半分位になっている場所が有ります。上記①②③、行政で指導をお願いします。
- マンションなどの集合住宅の誘致や企業の誘致を進める。
- 町内放送が流れていますが、我が家の方には何を言っているのか、聞こえません。近所にスピーカーがありますが、向きが悪いみたいで聞き取れません。スピーカーの数や向きを確認していただきたいです。

## 付録1. 町民向けアンケート問6 コメント一覧

- 雑草がものすごく大きくなっています。自転車や歩行者が見えない所もあり危険です。草刈りの回数を増やしてほしいです。
- 中山、伊草地区の方が店が多いので、中心部にもスーパーを建てていただきたい。外灯が少ないので、外灯を多めにしてほしい。  
近くに便利で、買い物しやすい所を作っていただきたい。  
より良い町作りを期待したい。  
地震を防ぐために建物を建てていただきたい。いつどこで何が起こるか分かりませんので、安全で丈夫な建物を建てていただきたい。それぞれ耐震補強を早めにして欲しい。
- 環境保全とは関係ないが、自警団が廃止になる事は、賛成である。地域によっては、やる人がいなくて困っていると良く聞きます。  
役場を新設する事は反対で、今の役場を耐震補強してバリアフリーのリフォームをする程度が良いと思う。それよりも、少子高齢化が進んでいるので、少子化対策が必要で、川島町立幼稚園は復帰を強く望みます。  
これから生まれてくる子供が、川島町に住み続けたいと思える町づくりをして頂きたいものです。  
郷土食「すったて」の看板は良く見かけるので、良いと思うが今後はもう少しセンスの良いデザイナーと話し合い、看板や web デザインを考えた方が良いと思う。官民企業が連携を取ればもっと良くなり、町が良くなると思う。そのような事は、川越市に少し学んだ方が良いと思う。とにかく血税を使うわけですからしっかりやって頂きたいです。
- 要望ですが、広報「かわじま」「議会だより」かわしまガイド自主防災組織の手引き等々、川島町の重要な書類等、年齢が高くなると忘れやすくなりますので、年間保存できるファイルを各家庭に配られれば有り難いです。是非ご検討下さい。
- 1.首都圏にあつて緑豊かで空気がきれいな自然環境には今後もぜひ取り組んで欲しい。  
2.本町は少子高齢化が進んでいるだけでなく、人口減少も進んでいる。どこに問題があるのか、多方面から分析し、これ以上過疎化が進むことのないようにして欲しい。  
3.本町の一番の根本的な課題は、交通手段（鉄道バス問題）にあると誰もが考えているのではないだろうか。この課題に対して、短期的だけでなく中・長期的に取り組んで欲しい。圏央道による利便性は大きいがあるが、通勤・通学ではあまりプラス効果はない。鉄道・バスによる他市町への移動手段の方法の検討を本気に取り組んで欲しい。たとえば、圏央道を利用したモノレールの敷設やバス路線の設置、役場の新庁舎を中心としたマイクロバス路線の設置など、考えはいろいろ考えられると思う。  
4.本町は土地は広い。農業の振興も大切であるが、住んでいる人々が自動車以外の交通手段で行ききできる環境を整備して欲しい。自転車道の整備は今後交通手段として、エコでもあり重要である。道路には自動車用道路だけでなく、安全な自転車道の整備

## 付録1. 町民向けアンケート問6 コメント一覧

を他市町にさきがけ進めて欲しい。高齢者が安心安全に利用できる自転車道の建設をお願いしたい。歩道の整備もまた重要である。平成の森へは、本町のどこからでも時間があれば安心・安全に歩いていける歩道があれば、これもエコであり、健康的である。整備をして欲しい。鉄道・バスでは遅れている、あるいは望めないならば、逆に、自転車や歩く人のための道を整備し、緑とエコと健康を売りにした住みよい町づくりのような夢のある計画を日本中に発信して欲しい。

思っていることを書かせていただきました。ぜひできるところから取組んでください。よろしくをお願いします。

”住みたくなる町、川島”のため行政当局の取組みに期待しています。

- ・役場が行きづらいので、もう少し発展している場所にあったら便利だなと思います。  
(カインズモールの近くとか・・・) 郵便局も  
・夜にウォーキングを行っているのですが、西中学校の辺は、整備されていて歩きやすく、いいと思います。もっと公園とか道を整備してウォーキングコースをふやしてほしいです。  
・広い土地があるから、大きいフラワーパークが欲しいです。(バラ園とか、有料のテーマパークみたいな・・・)  
・平成の森公園を狭山の智光山公園みたいにもっと緑豊にしてほしいです。  
・アメリカでは、ネズミ対策と話題作りで図書館にネコを飼っているらしいですが、川島でもいやしと話題作りに・・・
- 良いと思うこと一つでも実行する意欲をもつ事を促進する様に個人にもたせる事  
個人に自覚させる対策を考え実行する事  
一つの例で電気の領収書を提示し節約の度合いにより商品(ティッシュ)を贈呈する等
- 道路に歩道部分の設置の推進 2. 耕作放棄地の減少 3. 堤外の環境維持のため荒川上流事務所と連携したクリーン作戦 4. 平成の森公園を中心とした周辺の整備(水とのふれあい) 5. 無居住住宅の把握と定期的確認
- いつも八幡団地周辺を犬の散歩をしています。八幡団地の街並みはきれいな方だと思います。公園もシルバーの方が定期的に除草、きれいにして頂き感謝しております。会社周辺も清掃の方がいつもきれいにしています。それなのに犬の「フン」後始末出来ないのには残念です。三井精機、圏央道の間、越辺川の土手をウォーキングしています。八幡橋周辺から眺める自然が癒されます。いつまでも守って行きたいです。今年白鳥の姿が見えなくて寂しいです。  
三井精機と土手の間の道路、夏になると背丈ほど雑草が伸び道路、歩道側に倒れています。ウォーキングの人も多く通るのでどうにかならないでしょうか?  
川島は自然に恵まれ住みよい町です。
- ・駅をつくってほしい。

## 付録1. 町民向けアンケート問6 コメント一覧

- ・新しくきた人を大事にしてほしい。
- ・老人、子供にはよい町なので、40、50代のサークル等、楽しめる事をしてほしい。
- ①住宅でプラスチック、ペットボトル、発泡スチロール、機械掃除時油で汚れたウエス等道路端で燃やしているの、悪臭、煙りが出ているだけの燃やし方の為、長時間臭い煙りが住宅に入り込み咳、呼吸するのが苦しく成り、体調を悪くしている人が居ます。  
②田畑で収穫後の木、他の物を燃やしていますが、無人で煙りだけ出して居る様な所を多く見ますが、色々な障害発生すると思います。健康、交通等。  
※町内での回覧等で注意を呼びかけて欲しいです。
- ・上伊草周辺の水路（川？どぶ？）ゴミやヘドロであまりきれいではない。その水路で子供がザリガニ取りで遊ぶ程度なら良いが、中国人？らしき大人が数人でアミいっぱいザリガニを多量に取っていた。食べる為？  
・愛犬家として迷惑だし残念だと思うが、他の方のふんの始末がとても悪い  
・管轄が町なのか警察なのかわかりませんが、冬場のカーブミラーが特に朝方曇って見えない。曇らない様にして欲しい  
・すでにあつたら申し訳ないですが、町民が利用出来るプールや運動ジムがあればうれしい。出来れば働いている人も仕事帰りにでも利用時間であれば・・・
- 道端にお花を植えてきれいな場所がある。見てとてもきれいなのでゴミのポイ捨てもなくなると思うので、どんどん増やしてほしい。  
土手の道に犬のふんが多い。もっと注意標識を設置した方がよい。  
圏央道が開通し、便利になったが、トラックや自動車の交通量が増えるので排気ガスや交通事故が気になる。  
色々あるが、町民が楽しく参加・協力出来るような仕組みを作ってほしい。
- 公園が少ない。児童館を作ってほしい。

付録1. 町民向けアンケート問6 コメント一覧

## 付録2. 中学生向けアンケート問5コメント一覧

【ごみに関する意見】

- ・ゴミが多い
- ・皆ゴミの分別ができていないので全員が出来るようにした方がいいと思いました。
  - ・ポイ捨てが多いのでやめてほしい。
  - ・皆がムダをなくす。
- ゴミを燃やす人が多いから燃やさないようにきまりをつくってほしい。
- ゴミをもやしたりしないようにする。ほとんどがごみを分別するようにする。きたない水を川に流さないように努力する。
- "ゴミが帰り道にちらばっていたり、しっかりゴミ箱に捨てていない所があります。なので、私はもう少しゴミの捨て方について皆に知って欲しいと思った。松以外にも、落ちていたらあぶないゴミ。ガラスなどは自転車でふんだらあぶない。だから私はゴミは不満だった。
- 公園が少ないので、たくさんつくってほしいです。道路にゴミが捨ててあったりして、環境に悪いと思うので、改善方法を考えてほしいです。
- ゴミをポイ捨てしないように呼びかけてほしい。
- とりあえず外に捨てられているゴミを集めたらいいと思う。
- 土手のゴミ拾い。川のそうじ。
- ゴミ拾い活動を活発におこなってほしい。
  - 水をきれいにして、魚達が住みやすいようにしてほしい。
- ゴみの分別は簡単にできるので、その呼びかけをすると良いと思います。
- 川とかにゴミとかがたまにあるから、そういう所をきれいにしたい。

【環境に関する意見】

- 自然をもっと増やしてほしい
  - 自然をこわしてまで家などをたてなくてもいいと思う
- ・川をきれいにして、緑をもっと増やしてほしい。
- ぼくは、今日環境についても一度考えさせられました。久しぶりに、客観的に自分を見つめ直して見て、いかに自分が環境に対して何もしていないか分かったので良かったです。
- 前までは、ぼくの近くの川にコイとかフナとかがたくさんいたけど今では全然なくなりました。なので人間が小さい事でもいいから守る。そうすればいいと思う。
- きれいな川を流してほしい
- 資源回収を増やす
- ・工事の時、なるべく生き物達のことと考えて行ってほしい。
  - ・もう少し家族でいられるところを作ってほしい。
  - ・川島町の自然アピールをするために、小さなツアーなどを行うと良いと思う。

## 付録2. 中学生向けアンケート問5コメント一覧

また、このツアーをやることによって、たくさんの人達に自然を大切にしてほしい。  
捕獲禁止の生き物達を目につく所にポスターをはるといい。

- 川をコンクリートとかにきれいにするのはいいけれど、その分魚とか生き物がきえてしまうってことなのに、「工事をしよう」としきっている人の気持ちがわからない。その金があるのならもっと交通をよくするか、ちがうのにうまく使えばいいと思った。
- 小さなことでもみんなが気をつければ大きなものになるので、少しずつ節電できればよいと思いました。
- 毒性の生き物を駆除してほしいです。  
このまま緑を残して、自然環境を豊かにしてほしいです。
- このまま緑を残し続けてほしいです。  
ただ緑を増やすだけでなく、景観も美しくなるように工夫してほしいです。
- 夏の間は、水を外に出して高温になった物をふる水として使いました。そのほか生ごみは、可燃ゴミにはしていません。それから今年の夏の間は、三ツ又沼ビオトープの環境保全などに参加しました。このように様々な工夫をしました。あと望むことがあります。住宅や人々の治安を修正し、交通の利便性を願います。
- ・水道管工事を何回もされると赤水が出て困るので、新しいものにしてほしい。  
・町を発展させるのはいいけど、緑をあるていど残してほしい。(田んぼを含め)
- ・もっと花壇とか公園を増やしてほしいです。  
・田んぼを減らさないようにしてほしいです。  
・昔からいる生き物が減っていかないようにしてほしいです。(メダカ、カエルなど)  
・きれいな空気、水、景色がこのままずっと続くといいです。
- 落ち葉とか家の近くや畑で燃やしている時、臭いもするし危ないと思う。
- もう少し用水路の水をキレイにしてもらえるとありがたいです。
- 田んぼの中に工場を作らないでほしい。
- ・緑は多いけど花が少ないと思うので、道路のわきなどに植えるといいと思います。  
・田んぼや畑で物を燃やす人が多いため、きたないけむりがたくさん出ます。そういうのはやめてほしいと思っています。  
・また、いこいの場、休憩場は、平成の森公園だけでなく、各地区に小さくていいので設置してほしいです。
- もう少し自然に
- 緑を増やしたり、自然を大切にすることも大事だけど、あまりにも交通の便が悪すぎると思っています。このままじゃこの町はどんどん少子高齢化・過疎化していき自然がどうこうなどそれどころじゃなくなると思っています。そうなる前にまず、自然や環境とかじゃなくてやるべきことを考えた方がいいと思います。
- "深谷市では落ち葉銀行というものをつくったらしいが、川島でもやってほしい。ICのまわりには倉庫とかがあってもいいけれど、これ以上ふやさないでほしい。

## 付録2. 中学生向けアンケート問5コメント一覧

町民バスの運転を始めるらしいが、これからもずっと無料で続けて、1人1人がクルマを使わなくても町の中を行き出来るようにしてほしい。

水田の肥料がくさい。

ザリガニやカブトムシ、クワガタがたくさんとれていいと思う。

これからもたくさん虫がいて自然豊かで水がきれいな町であってほしい。"

- 川島町は自然がゆたかで良い所ですが、もう少し発展してくれたらいいなと思います。あと、大きな公園をもう一つほしいです。

最近、川もよごれてきているので、キレイにしてほしいです。

- ・あんまり工場を増やさない
- 環境問題について気を付けたい
- 下校する時に流れている水がきたなくゴミがたまっていたので、川などの水をきれいにしたい。
- 空気をもっときれいにしてほしい。  
交通の安全整備をもっとしてほしい。
- 空気をきれいにする。公園を作る。外灯を増やす。
- 町民の一部は環境問題に取り組んでいるが、その他の人、又町以外の人町を利用する時に、環境に対しての意識がとても薄いので、町の条例を作るなどして対策をしていかないといけないと思う。

また、交通の便が悪く、どこに行くにも基本的に車を使う生活をどうにか対応しないといけないと思う。

とにかく町の声聞き入れるべきである。

- 川島町に環境がよくなるものと木と自然がほしい。  
リサイクルショップがほしい。
- 工場からの排気ガスが空気をよごしている。水もよごしている。なおしてほしい。
- ・木を植えたり、緑を増やす運動をする。  
・交通手段を増やす。
- たまに変なにおいの空気が流れてくるので、工場などを作るのをやめてほしいです。  
水辺をもっと作りたいです。
- ・工場を作ったので、そこにあった田んぼのかわりに、なにか緑を増やしてほしいです。  
・あんまり工場を増やさないでほしいです。  
・まだ信号が無くて危ないところがあるのでつけてほしいです。
- ・学校にいる時とかに、変なにおいがするんですけど、すごく環境に悪そうなおいなので、どこからきているのか分からないですが、なくなるといいです。  
・学校帰りに通るペットショップ（西中の近くの）が、すごくにおいがくさくてきついのでどうにかしてほしいです。

## 付録2. 中学生向けアンケート問5コメント一覧

- ・たまに教室とかがくさくなる時があります。何の臭いかわからないけど、ゆで卵みたいな臭いで。すごく臭くて気持ち悪くなる時があります。  
・西中の前にあるペットショップみたいな所がいつもすごく臭いです。帰る時なんかは、西中の内まで臭いです。"
- 少なくなってしまう魚などを守るために川をキレイにして、魚がよりよくすごせる川をつくってほしい。
- 子どもでも参加しやすい、資源回収や花うえの刈る活動がもっとあるといいなと思います。
- 西中の前の犬をかつている（売っている）所が、くさい。環境に悪いと思います。
- たまに外に出た時に空気が汚くてくさい時がある。  
駅がほしい。"
- どぶがきたない。
- とてもよくできていると思います。これからも環境をだいにしたいです。
- 川がきたないからきれいがいいと思う。
- 川のよごれをなくしてほしい。
- 川などが汚い所があるので、きれいになっていったらいいなと思います。
- 川がきれいな所がないので、景色的に変えてほしいです。
- 川の水をもうちょっときれいにしてほしいです。  
ポイ捨てをなくすように呼び掛けてほしいです。
- もう少し木を増やして工業を減らす。
- もう少し緑がふえてほしいです。
- 川と空気をもっとキレイにしたい。  
静かな所があって、秘密基地のような落ちつける所があったらいいなと思う。
- 町がきたない。公園をふやしてほしい。川がきたない。ごみ箱を自動販売機の近くにおけばいいと思う。
- 木をもっとたくさん増やしてほしい。新しい建物を増やさないでほしい。ねことかを大切にすてないでほしい。川をきれいにしてほしい。都会にしないでほしい。
- 憩いの場所をちらばせてほしいです。
- 川の水を綺麗にしたい
- 水質汚染にならないようにポイ捨てをさせないように呼びかける。
- ・赤水がでないようにしてほしい。
- ・もっとお花を増やしてほしい。"

### 【道路整備・交通に関する意見】

- ・バス停をふやしてほしい。  
・スーパーなどで分別を意識させる方法を考えてほしい。

## 付録2. 中学生向けアンケート問5コメント一覧

- 駅を作ってほしい
- 川島に駅があると移動に便利だと思います。そして小さい道路を広くし歩行者や自転車よのところをもっと作ったほうがよい。平成の森だけでなくもう何か所か公園などを作ったり、お店やデパートなどを作ったほうがより発展すると思います。老人や子供たちのために近くに作れるといいからです。デパートならイオンがいいと思っています。それならようふくなどがどこでも買えるし移動が自転車などになっていいと思います。
- もっとバスとか乗れる時間をふやしてほしい。  
不便。  
業務時間が少ないと不便。
- 事故がたくさんおきているところがあるのにその道路を改善しないのはおかしいと思う。
- 自然環境を守りつつ、交通の便もよくした方がいい。
- 交通の便をよくしてほしい。バスももっと通してほしい。
- 川島には駅がなく、バスも1時間に1本程しか出ていないので、もっと交通の便をよくしてほしいです。  
事故死亡率が川島は埼玉県の中で1番高いので改善策などを出して、1つでも事故を減らしてほしいです。
- 駅を作ってください
- 駅を作ってください
- 駅がほしい。外灯をきちんと付けてほしい。
- 川島町に駅が無いから電車が通ったらもっと交通の便が良くなると思うし、便利だから駅を作ってほしい。
- 交通を良くするために川島町に電車を通したい。
- バスの本数を増やしたら車に乗る人が減ると思います。
- ・もっと道路の工事を減らして下さい。  
・もう少し近いベイシアなどの店を増やして下さい。  
・もう少し川島の水をきれいにして下さい。
- 交通についてもう一度見直した方がいいと思った。
- もう少し交通を便利にしてほしい（電車）  
動物のふれあい（動物園）のようなところを作って、川島町でいなくなりそうな動物を保護してほしい。（犬とか猫なども）  
川島町以外の暴走族を入れないでほしい。
- 交通が不便だから電車を開通してほしいです。
- 夜のバイクの音がうるさい。  
駅をつくってほしい。

## 付録2. 中学生向けアンケート問5コメント一覧

- 交通を便利にしてほしい（電車）
- 川島町は駅がないから、早く駅を作ってほしい。
- 交通が少し不便なので、少し便利にしてもらいたいです。
- 駅がないから自動車をたくさん利用しています。なので駅を作って電車を通らせてください。
- 川島町には駅がないので、早く駅を作ってほしい。若葉まで行くのは大変だ。
- 駅がなくて不便なので、駅を作ってほしい。
- 事故が多い
- 駅（電車）を作ってほしい。
- 道路の数を減らしてほしい。（車の排出量を防ぐ）
- 交通をよくするため電車
- 道もデコボコしていたり、狭い所や危険な道があるので、どうにかしてほしいです。

### 【その他】

- 祭りの量を多くしてほしい。お店やバスの量を増やしてほしい。
- 一定の位置だけでなく色々な所に店を建ててほしい。
- 今川中の近くでやっている工事もしっかりとしているので大丈夫だと思います。
- 川島には店が少なくとても不便なので、ふやしてほしい。
- ゲームセンターとかカラオケとかの娯楽施設を作ってほしい。
- イベントをもっと増やしてほしい。
- 公園などにスポーツができる場所を作ってほしい。
- 一つ有名な物をつくる。
- 空気がたまに臭かったり、自動車の排気ガスとかが何かすごいので、そういうものもきれいに出来たらいいなと思ったりします。  
学校の帰りとかよく犬のフンを見るけど、飼い主にしっかり後始末してもらいたい。  
あと、交通事故が結構多いから、気を付けられたらいいと思った。

付録2. 中学生向けアンケート問5コメント一覧

## 付録3. 事業所向けアンケート問6コメント一覧

### 【環境に関する意見】

- 川島町として、環境活動（ISO、エコアクション）を積極的に実施している事業所に補助金などの支援を行ってほしい。
- 下水側溝の整備及び対策
- 町全体を見て、未だ道路側溝が完全に整備されていません。道路わきの土がくずれて掘っただけの溝が埋まっています。又、側溝が整備されておりますが、上に蓋がありません。非常に危険な個所が多くあります。（圏央道下側道側溝が深く危険です。）
- 豊かな自然に恵まれた環境を維持し、町民にとって住みやすい町づくり、安心・安全な町づくりを目指して取り組んでいただけたらと願っております。

### 【道路整備・交通に関する意見】

- 212号線 戸守の信号からが少しの雨で道路が冠水し歩行者にとってとても危険です。排水溝の清掃をお願いしたいです。
- 地域の発展に伴い、交通量も増えてきましたが、マイペース運転等（軽トラックや自家用車）により後続の運転車がうまっていたり、追い抜きが見うけられます。立哨活動や警備の強化をすべきと考えます。
- 豪雨時に当センターは排水オーバーフローをおこし、先日の台風時も構内が湖となりました。排水整備とインフラ増強を望みます。
- 川島町は交通の利便性がものすごく悪い。町内バス（町内循環バス等）を出してほしい。
- 農作物を何も作っていない荒地が多い。町で耕作出来ると良い。住宅地に出来ると良いと思います。
- 道路が少しずつ良くなって来たのは有りがたい。
- 交通の利便性について
  - ・バス路線の充実（桶川駅－八幡団地）
  - ・既存バス路線、本数の増発

### 【その他】

- 環境センターへ搬入はいつも利用させて頂いていますが、出来れば土、日の受け入れがあると大変助かります。電化製品も大物（例、洗濯機、テレビ等）も受け入れ可能になるとありがたいです。
- - ・情報がオープンで無い
  - ・個々で調査されないとだめです。
  - ・各家庭向きのアンケートなのか、事業所向けアンケートか大変曖昧だと思います。